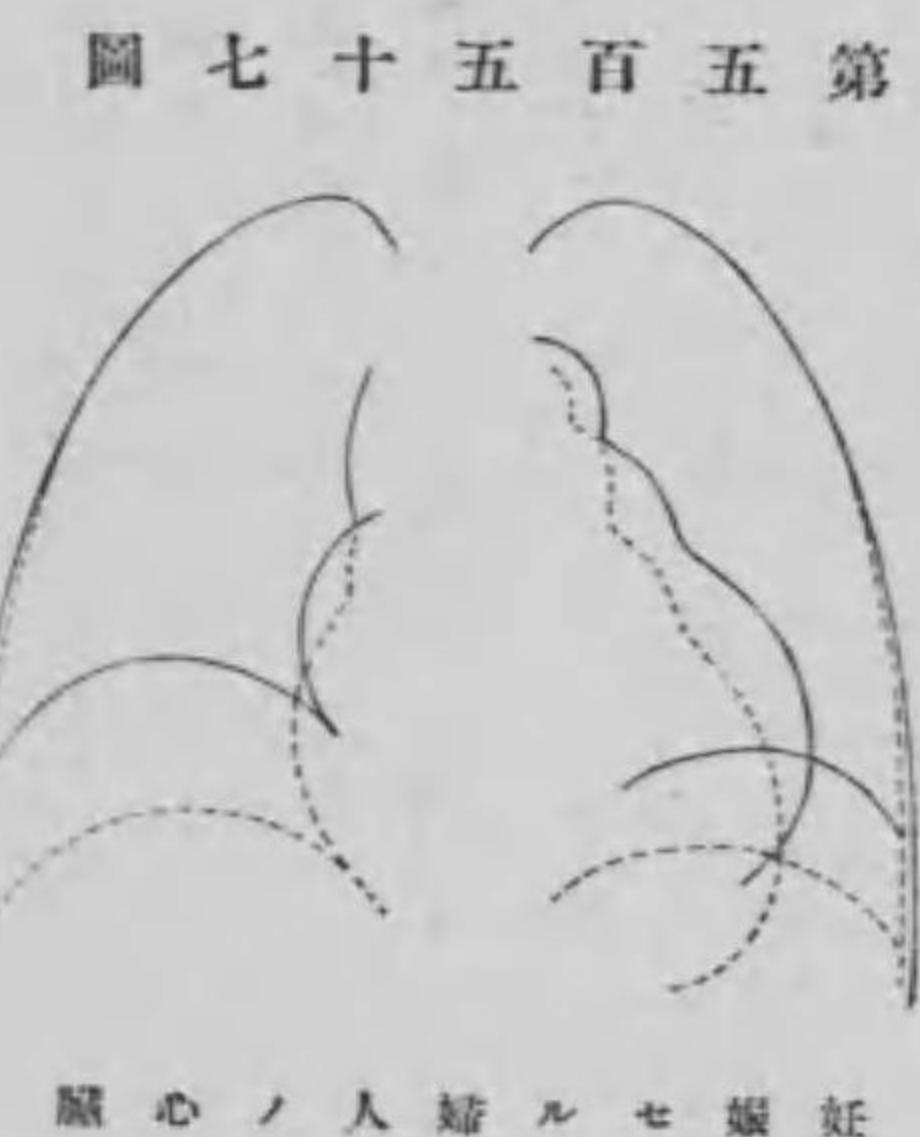


腹ノ關與セルコトノ多キヲ知ルニ足レリ。然レドモ此關係ニハ尙明カナラザル所多シ、將來ノ研究すべき所ナリ。

健康ナル胸廓ニ於ケル横隔膜ノ位置、呼吸運動狀態ハ既ニ叙述セリ、心臟陰影ガ吸氣時及ビ呼氣時ニヨリテ異ナレルハ、横隔膜ノ位置ノ影響スルコト大ナリ。横隔膜ノ異常位置ガ持久セバ、心臟ノ位置ハ其影響ヲ受ケ、横隔膜ノ低キトキハ滴狀心臟型ヲ呈スルハ既ニ知レル所ナリ、又横隔膜ノ高位ヲ呈スル場合、即チ腹腔内ノ大腫瘍、妊娠、腹水等ナリ。横隔膜ノ高上セシ爲メ、往々心臟ニ堪ヘ難キ苦悶ヲ訴フコトアリ。中年頃ニ至リ、腹壁、腹膜腔ニ脂肪ガ沈著シ、又ハ外見上左程肥満セザルニ、心囊内若クハ心囊ノ周圍ニ脂肪ガ沈著シテ、心臟ノ運動ヲ制限セラレタル場合ニハ、横隔膜ノ舉上セラルコト多シ。



第五百五十七圖

脂肪沈著  
れんごん

シユワルツハ心臟周圍ニ附著セル脂肪ヲ、れんごん證明セリ、即チ心尖ト左側横隔膜穹隆トノ交叉セル隅角ニ於テ之ヲ見ルコト多ク、又右側ニモ視ルコトアリト謂ヘリ。真ノ脂肪心臟ハ心臟瞬間撮影像ニ於テ、左側下弓ノ上部ニ淡キ周線トシテ現出セリ、是ハ酒客ニ往々見ル所ナリ。シユワルツハ特ニ注意シテ曰ク、吾人ガ心臟ノ検査ヲ行フニ當リテ、脂肪沈著ノ陰影ニハ、常ニ慎重ナラザル可ラズ、然ラザレバ往々之ヲ看過シ、或ハ右側、若クハ意ヲ拂ヒタリ。

左側ニ於ケル脂肪陰影ヲ、心臟筋肉陰影ト誤リ、心臟ノ大サヲ誤認スルコトアリ。但シ此脂肪影像ハ獨り寫眞板上ニ視ルノミ。横隔膜舉上セバ、心臟ハ主トシテ左側方ニ轉ジ、胸壁ヨリ壓迫セラル、又横隔膜ノ舉上ハ、高度ノ鼓腸ニ基クモノニシテ、患者ハ心臟部ノ壓重、胸迫ノ感、呼吸促迫ヲ訴ヘリ。れんごん検査ニヨリテ、此等ノ心臟症狀ノ原因ヲ明ニセバ、主トシテ攝生ヲ命ジ、又適當ナル療法ヲ施シ、便通ノ調整ヲ計リ、鼓腸ヲ排除シ、患者ノ苦痛ヲ減退セシムベシ、殊ニユルゲンセンハ、胃泡ト心臟トノ關係ニ注意ヲ拂ヒタリ。

英醫ハ胃泡ノ大ナルコトヲ消化不良心臟ト稱セリ、主トシテ食餌攝取後ニ於ケル心臟部ノ壓重、疼痛ヲ訴フモノナリ。ユルゲンセンニヨレバ、胃泡ガ心臟ヲ壓迫セルハ、左室ノ肥大セル時ノミニ起リ、小心臟ニ於テハ之ヲ起サザルノミナリト、而シテ左室ノ肥大ハ、横隔膜、胃ニ重荷ヲ加ヘテ、此症候ヲ呈スト謂ヘリ。

既往ニ經過セル肺膜炎、肺炎其他ノ原因ニ基ケル横隔膜不全麻痺ハ、心臟苦悶ノ原因トナレリ、肝臓、脾臓、腎臓ノ腫大、横隔膜へるにや、横隔膜弛緩症等ニ於テモ之ヲ發スルナリ。

## 心囊炎

心囊ノ陰影ハ通常之ヲ見ズ

通常、心囊ハ寫眞板上ニ於テ心囊陰影ト明ニ區別スルヲ得ズ、是レ蓋シ、常態ニ於テハ、其陰影ヲ失ヒ、透明ナル肺部ニ没スルガ故ナリ。ムンクハ、治療ノ目的ニ人工氣胸ヲ施シタル少女ガ、氣胸以前ニ於テハ、左肺下葉部ノ健全ナリシニ拘ラズ、心囊ヲ認メザリシガ、氣胸ニヨリテ左肺下葉ガ牽縮スルニ至リ

テ、左側心臓横隔膜角ニ於テ、心囊ノ淡キ陰影ヲ呈セルヲ見タリ、陳舊性心囊炎後ニ心囊ノ横隔膜ト瘻著スレバ、心囊ハ屢々喇叭状ニ牽引セラル。心囊ノ陰影ハ、一ハ炎性作用ニヨリテ肥厚シ、他ニハ瘻著部ノ陰翳ト相合シテ陰影ノ現出ヲ好適ナラシムルモノナリ、心囊周圍ノ瘻著ハ日常屢々遭遇スル所ナリ。

心臓ト心囊トノ瘻著ヲれんごん證明シ得ルハ容易ナラズト雖、若シ同時ニ心囊ガ、其周圍殊ニ横隔膜トノ瘻著アルヲ證明シ得ルガ如キ場合ニ、心臓ニ收縮期的牽引ヲ認ムレバ、之レニ據リテ心囊ト心臓トノ間ニハ、廣大ナル瘻著ノ存在ヲ斷定シ得ベシ。

滲出性心囊炎ハ多少特有ナルれんごん像ヲ呈スモノナリ、チートレンニヨレバ恰モ横隔膜上ニ廣キ基底ヲ置キタル短頸ノ財囊狀ヲ呈スト、ブラウン、グルンマッハ、滲出性心囊炎ノ陰影ハ、恰モ三角形ヲ呈スト、ショワルツノ所說ニヨレバ、心囊ニ多量ノ滲出液蓄溜セシモノヲ財囊狀ト稱スルハ不可ニシテ、又三角形ト稱スルモ未だ當ヲ得ズ、心囊ニ滲出液蓄溜セバ兩側ニ突隆シテ鍼狀トナレリト稱スルヲ適當トス、三角形ヲ呈スルハ、一般ニ心臓衰弱ノ特有ナルれんごん像ナリト、然レドモ、ショワルツノ說ハ必ずシモ、何レノ場合ニモ適當ナリトハ稱シ得ズ、此三角形ノ陰影ハ、臨床的ニ量早滲出液ノ現存ヲ認メ得ザルニ至レルモ長ク存セルモノナリ。

極テ稀有ニシテ且興味アルれんごん所見ヲ呈セルハ、陳舊性心囊炎性肥厚形成内ニ於ケル石灰沈著ナリ。ジーモンハスル心囊ヲ屍體ノ心臓ニ就テ初メテれんごんニテ證明シ、生證ニ於テ觀察シタルハ。ショワルツ、グレー、デル、リー、デル等ナリ、所謂甲胃心ナル名ノ下ニ一般ニ普ク知ラレタル者ナリ、小林幹モ亦一例ヲ醫學雜誌上ニ發表セラレタリ、是レ邦文ニ於ケルれんごん報告ノ第一例ナリトス。

### 第六十三章 肺、氣管支、肋膜并ニ胸内腫瘍ノれんごん検査

肺ノ疾患ハ、多種多様ナルガ故ニ、其れんごん診断ノ範囲モ廣シ、而シテ其診断ノ困難ナルハ固ヨリ心臓諸疾患ノ診断ト同日ノ比ニ非ズ、蓋シ肺臓疾患ニテハ、病的變化ノ極メテ僅小ナルコトアリテ、之ヲ探索スルニハ、技術ノ熟練ト良好ナルれんごん器械ヲ要ス、肺ノれんごん診断、就中初期結核ニ於ケル微細ナル變化ヲ診断スベキ技術ノ進歩ハ、心臓ニ於ケルガ如ク長足ノ發達ヲ遂ゲザリシニ、漸ク今日ニ至リ、肺ノ病的變化ノ検査法、其陰影ノ意義ニ就キ、益々攻究セラレ、胸腔疾患ノれんごん検査ハ臨床上

缺タベカラザル診断法トナレリ。

#### 健在ノ肺臓



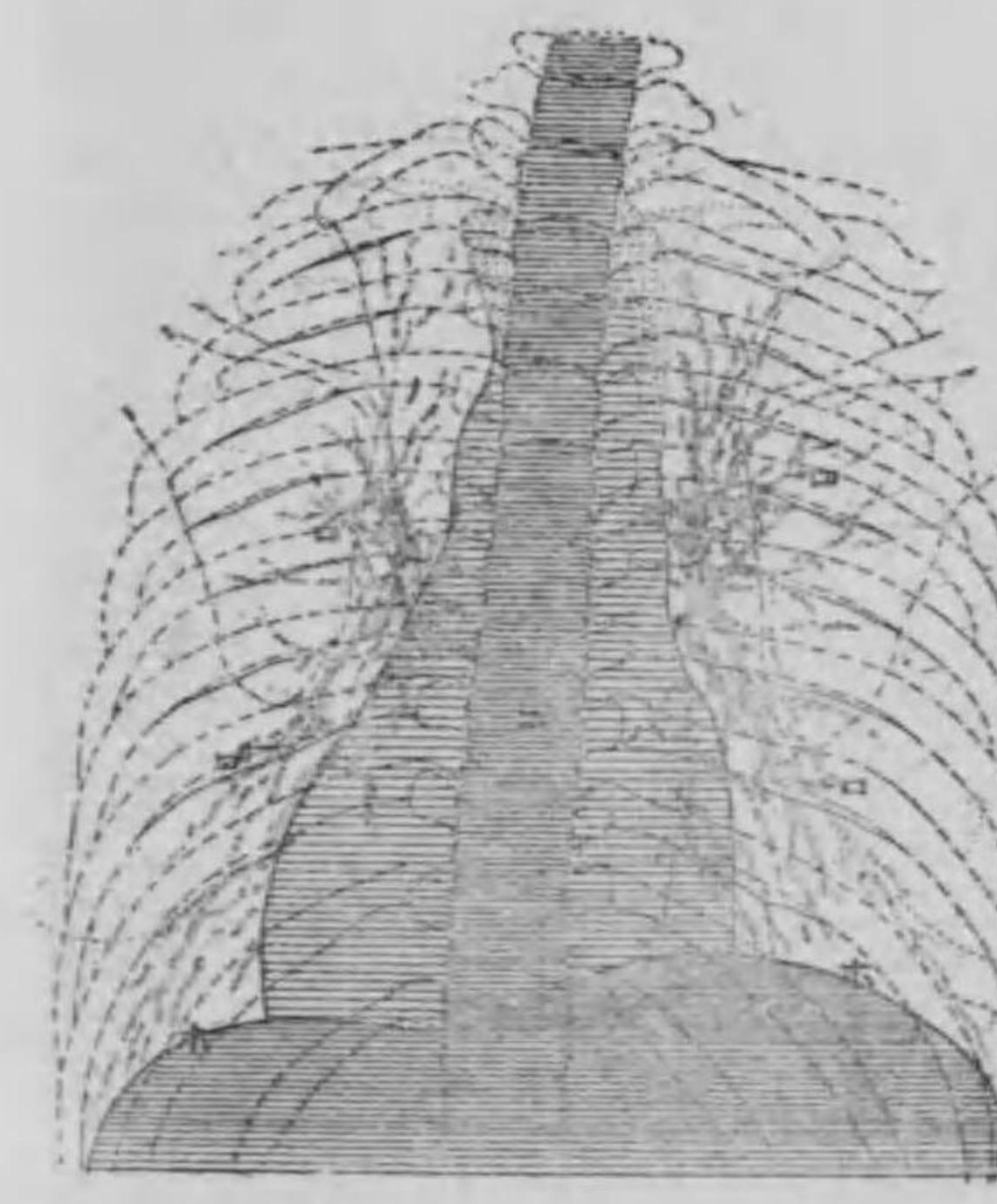
健在ノ肺臓

#### 第五百五十八圖

健在ノ肺臓

影ハ、脊柱、心臓、血管、胸骨等ノ陰影ヨリ成レリ。微細ナル肺臓組織ヲ現セル寫真撮影（五百五十八圖及ビ五百五十九圖）ニハ、脊柱陰影ノ著シカラザル度合ヲ可良トス、放射時間ノ多寡ナク、管球硬度ノ強キニ過ギザル如クニ注意スベシ、適宜ニ撮影シタル寫真板ニ於テハ、肋骨ノ上部ハ、後上方ニ凸彎シ、以下ハ漸次下方ニ凹曲ス、後肋骨弓ノ陰影ハ前肋骨弓ヨリモ濃厚ナリ、軟骨部ハ陰影ヲ生ズ。肺ハ肋骨ノ交叉陰影ニヨリテ、大サヲ異ニセル不正菱形ニ區分セラル、而シテ兩上肢ヲ垂下セバ、左右ノ肩胛骨ノ陰影ハ淡ク、脊柱ノ兩側ヲ並行ニ走レリ、肩胛骨ハ

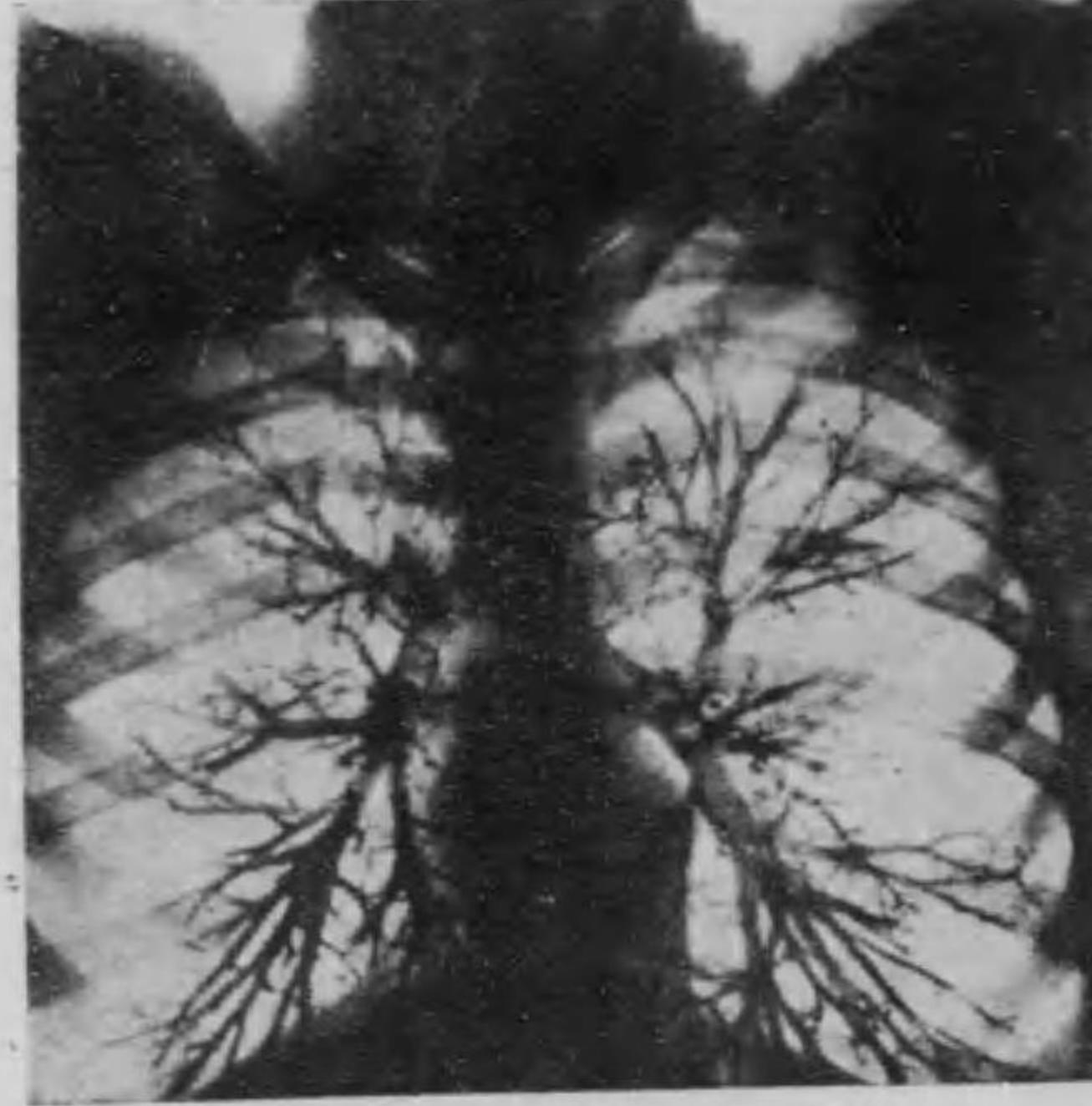
## 第五百五十九圖



肺臓組織ヲ窺知スルニハ差シタル障碍ナシト雖、其寫真像ヲ縮小シタルモノニ於テハ其陰影ノ濃クナレル爲ニ、肺臓ノ陰影ヲ蔽覆スルノ缺點アリ、兩鎖骨ハ内下方ヨリ外上方ニ斜ニ走行セル 稍々濃キ陰影ヲ呈ス、脊柱ニハ横突起、肋骨關節ヲ認ム可シ、胸椎體ハ胸骨陰影ニ蔽ハレテ僅ニ二ノ肋骨關節ノ附著部ヲ見ルニ過キズ、肺臓ノ下線ハ橫隔膜穹窿ヲ以テ區割ス、右橫隔膜ハ左者ニ比シテ高

ク位スルヲ常トス。第五百五十八圖及

ビ五百五十九圖ヲ參照セヨ。



像ルタシ入注ヲ鉛蓋(死體)肺

## 第五百六十圖



像ルタシ入注ヲ鉛蓋(死體)肺

内臓器ヲ検査スルニハ通常背腹位透視方向ヲ擇ブヲ可トス。

通常肺影像ニ於テ、兩側肺門部ヨリ恰モ蝶翼狀ノ如キ陰影索ノ射出セルヲ見ル、即チ大理石斑紋様陰影ト稱ス、此斑紋様ニ就テハ、從來其所說固ニシテ一定セズ、甲ハ血管ノ陰影ニ歸セントシ、乙ハ之ヲ氣管支ナリト説ケリ、此問題ヲ解決スベク屍體ノ氣管支及ヒ肺血管内ニ、れ線ノ不透過性物質ヲ充實シタル實驗ハ、生體ト屍體ト異ナルヲ以テ、屍體ニ於ケル結果ヲ以テ直ニ生體ニ於ケル關係ヲ推断シ得ザルモ、之

ニヨリテ生體ノ病的状態ニ於ケル肺ノ種々ノ状態ヲ攻究スルニハ頗ル好適ノ方法ナリ。而シテ肺臓血管ノ病的充實ニ於ケル搏動現象、肺動脈硬化症、氣管支ノ病變(氣管支周圍炎、氣管支擴張、肺氣腫等)ノ種々ナル病的變化ニ微スルニ、既述ノ肺門陰影ニハ氣管支、血管ノ共ニ之ニ關與セルモノナリ、今日ニ於テハ血管、氣管支ノ陰翳ガ共ニ現ルナリト認メラル、唯場合ニヨリテハ血管陰影ノ多キコトアリ、或ハ氣管支ノ特ニ著シキコトアリ、又肺門部ニ於テハ氣管支淋巴腺ノ陰翳ガ現レリ。

血管、氣管支ノ局所的解剖ハ第五百六十圖ニ示スガ如ク、血管及ビ氣管支内ニ不透過性物質ヲ充實セルコトニヨリテ知ルベシ、即チ肺門部ヨリ胸周圍ニ向ヒ微細ナル網狀陰翳ガ放出シテ、恰モ大理石ノ紋理ノ觀アリ、即チ大理石斑紋様陰影(單ニ肺紋理)ト謂ヒ、肺組織ノ陰影ナリ。

此肺紋理ヲ寫真板上ニ明確ニ撮影シ得ルハ、一二ハ技術ノ巧ナルト、他ニハ管球ノ硬度、放射時間ノ適當ナルヲ要ス。硬キ管球、舊キレンゴン器械ニテハ、明ニ撮影シ得ズ。病的肺門陰影ノ診斷ニハ、細心ノ注意ヲ要ス、肺臓ノ所々ニハ半圓形若クハ卵圓形ヲ呈シ、其境界ノ割然タル濃キ陰影ヲ見ルコトアリ、此ハ血管、氣管支ノ横断面陰翳(往々圓形ノ内腔ヲ呈セルコトアリ)ニシテ、生理的既ニ存在ス、此等ノ陰影ノ形狀ノ多様ナルハ投射線ノ各該當部ニ切線シテ落下シ、或然ラザルニヨリテ生ジタルナリ、斯ノ如キ陰翳ヲ乾酪化シタル淋巴腺ト誤認セルコトアリ。

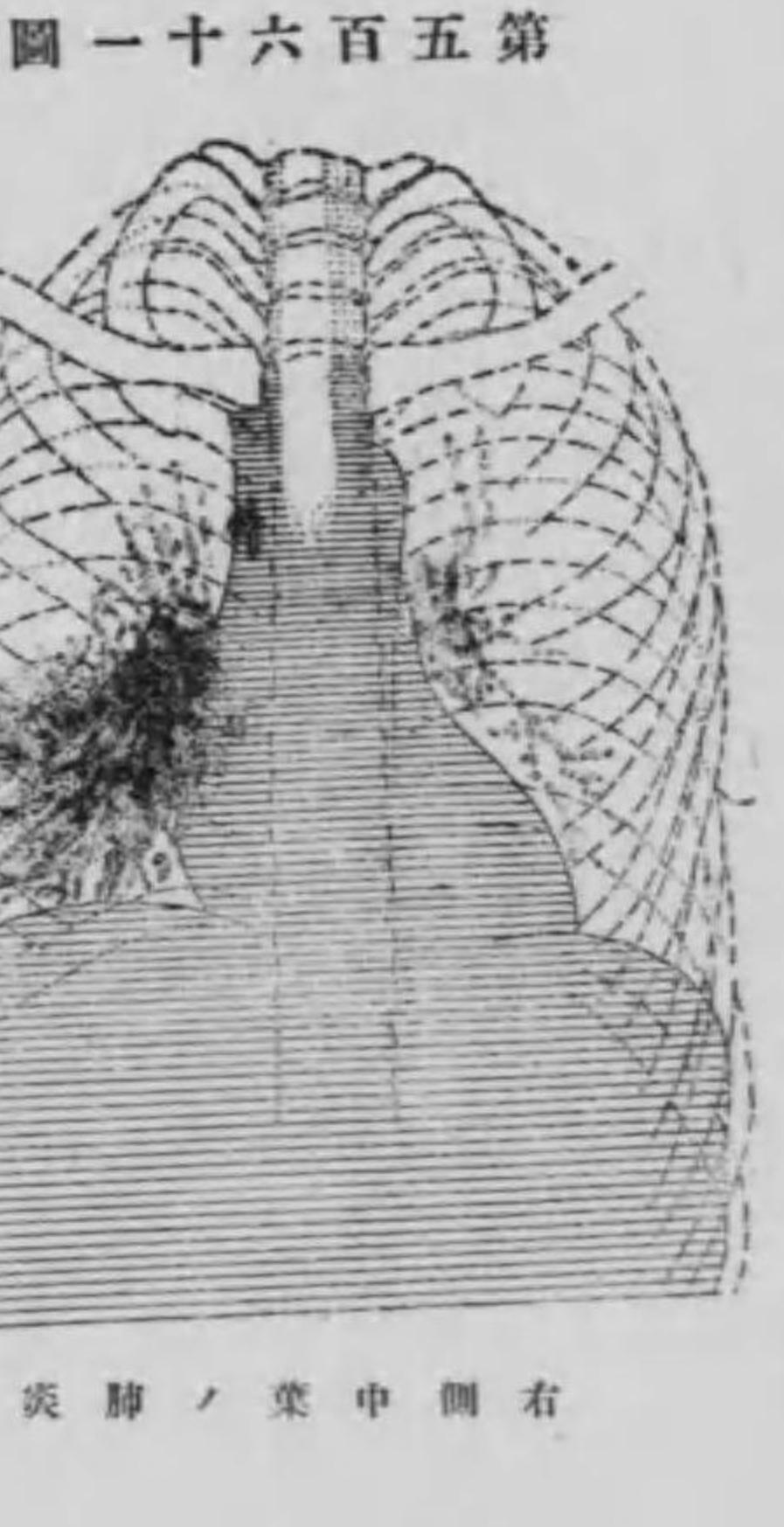
肺影像ノ明暗ハ、既ニ述タル如ク、或ハ胸部ノ軟組織ノ厚薄ニ關シ、又生理的(呼氣時、吸氣時)及病的狀態(齶血、硬變氣腫)ニモ亦關係セリ、肺臓ノ下方ハ、上方筋肉ニ富メル肩胛部ニ比スレバ、概シテ一層透明度ニ富メリ、兩側腋窩線ニテハ、肋骨陰影ノ相重疊セルヲ以テ暗シ、特ニ注意スベキハ、肺臓撮影ノ技術、

管球ノ位置、正中線ノ方向ハ、肺臓影像ノ明度ニ影響ヲ及ボスコト多シ、左右肺葉ヲ比較對照細心注意スベシ、常態トハ單ニ比較的ノ意ニシテ何レノ胸部撮影ニテモ皆一樣ニハ非ズ、骨骼ノ構造ノ異ナレルニ從ヒ各人ニヨリ肺臓ノ陰翳モ亦多少差異アルハ明ナリ。

肺臓若クハ、胸廓ノ病竈ノ存在ヲ知ルコトハ、必ズシモ至難ニ非ザルモ、生理的ニ既ニ現存セル現象(肺門陰翳、肺紋理、透明度)ノ濃淡、明暗ヲ以テ診斷ヲ判知センコトハ極メテ至難ナリ、コハ元ヨリ一定ノ經驗ト熟練ニ俟タザル可ラズ。大氣管支ヲ探索セシニハ、矢狀透視方向、殊ニ第一斜位方向ニ於テ行ヘバ、多クハ大動脈ノ上縁マデ、時トシテ猶更ニ下部マデモ知リ得ベシ。

## 肺尖

れんごん診断

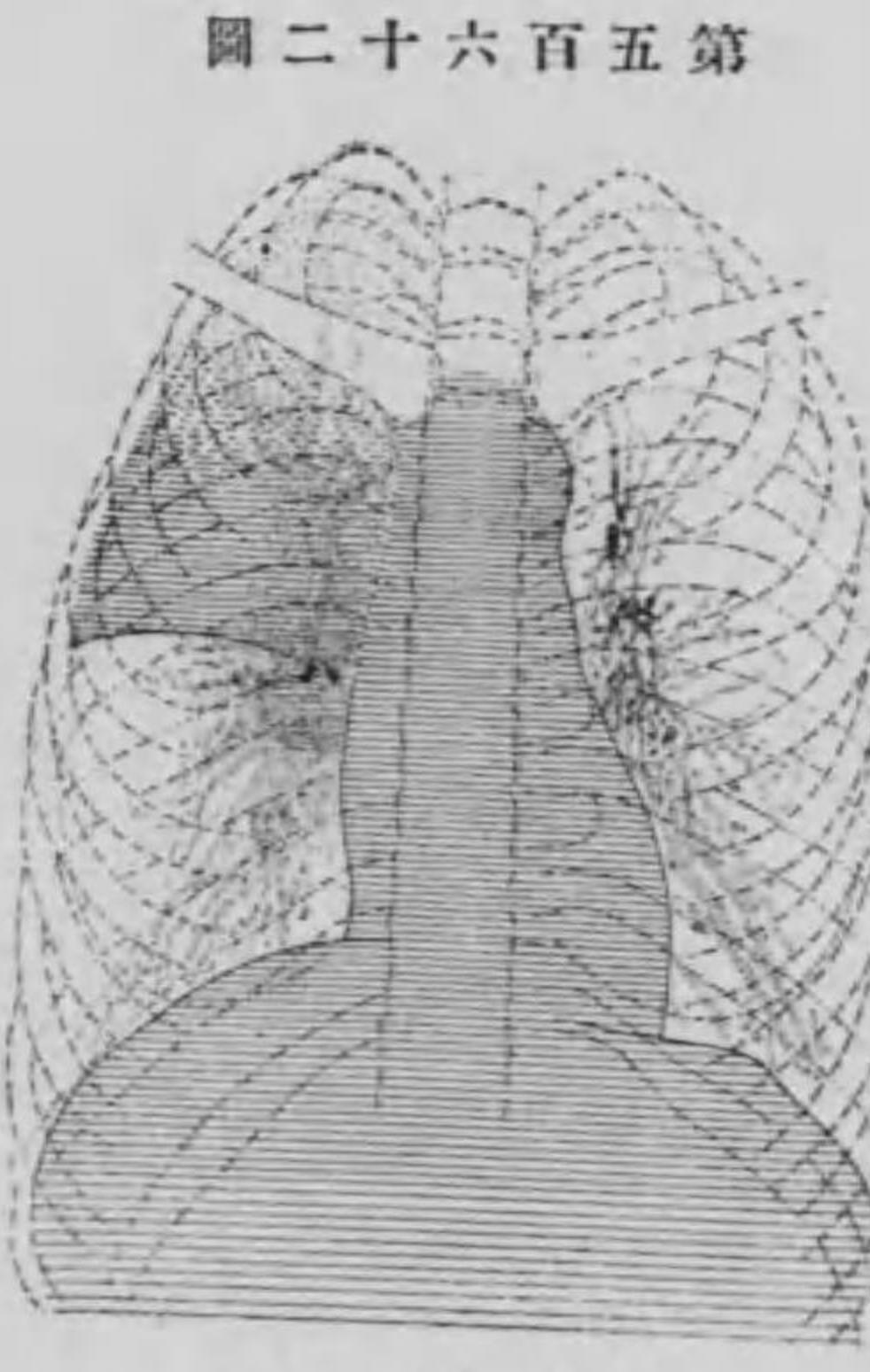


第五百六十一圖

## 肺炎

充血期ノ肺炎ハ、組織稠密トナレルヲ以テ透視スレバ、之ニ適應シタル陰翳ヲ認ム、然レドモ各時期ニ於ケル變化ノ差別ハレンゴン陰影ニハ現レズ(スタイル)。

肺炎ノ診斷ハ、他ノ臨床的症候ト相俟テ判知シ得ルモノナレドモ、レンゴン検査ニテハ、肺炎ノ



右肺ノ葉上肺

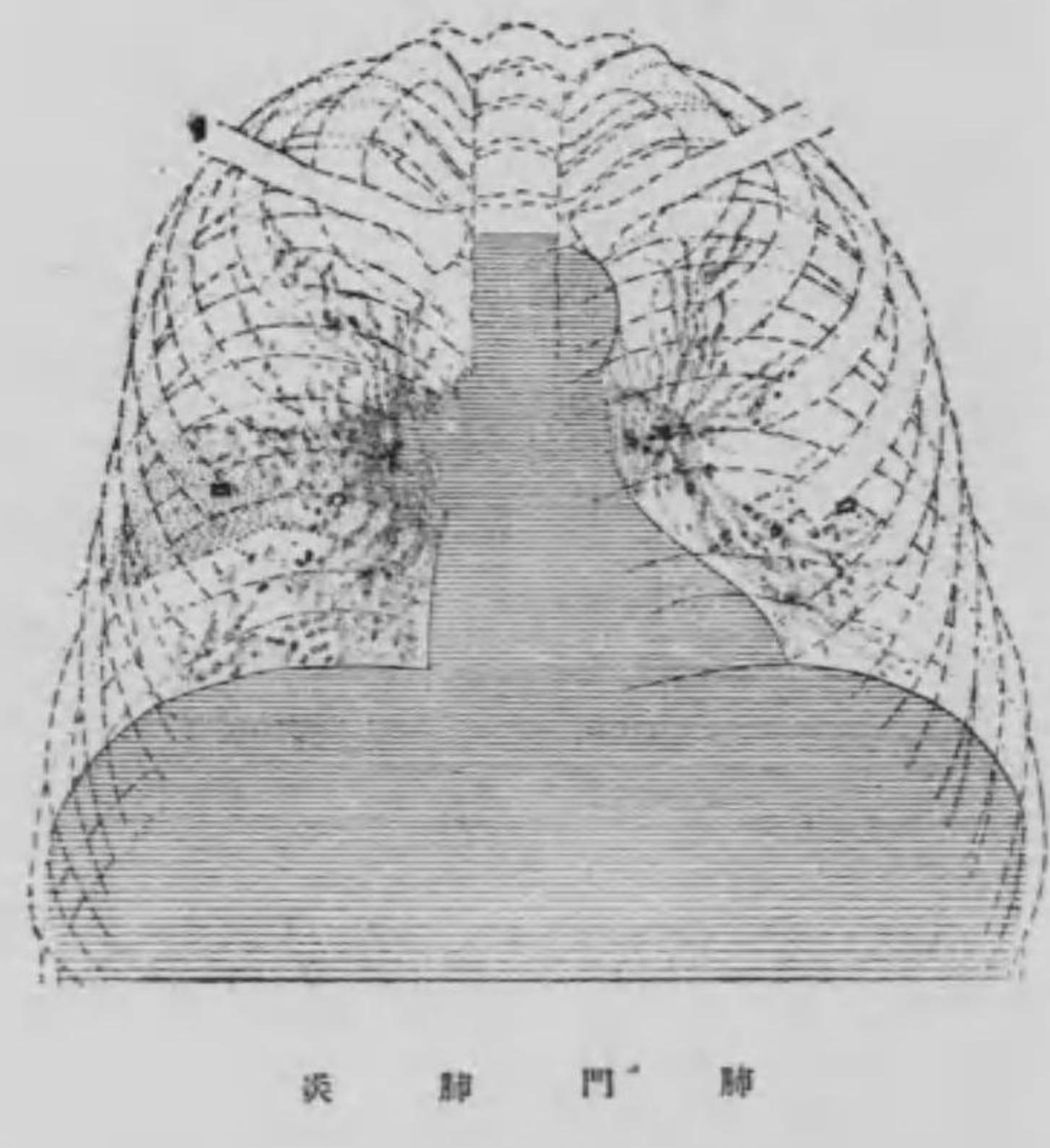
所在ヲ仔細ニ知ルノ妙アリ、又病竈ノ範囲、進行、或ハ退行ノ状態ヲ知レリ。又理學的診斷ノ到底及

バザル中心性肺炎（第五百六十三圖）ヲ發見シ、又粟粒結核、腦膜炎、室扶斯ト類症鑑別シ得ベシ。臨床的既ニ肺炎ノ疑ナキ場合、れんごん検査ニヨリテ裨益スルコト少カラズ。肺炎分利ガ豫想ノ經過ヲ取ラザル場合ニ、合併症（内質變性、肋膜炎等）ノ有無れんごん検

査ニテ始テ判定シ得ベシ。

肺炎ノ多數ハ、例へ經過可良ナルモ、分利後尙數日間ハ當該部位ニ於テ、輕度ノ陰影ヲ殘セルコト多シ（ヅーラカンブ）、れんごん検査ニヨリテ、肺炎初期ニ於ケル部位、病竈蔓延、吸收ノ状態ヲ知リ得ベシ（フォンヤクシユロットキー）。種々ノ透視方向ヨリシテ病竈部ヲ探索スベシ（通常ハ透視板検査ニテ可ナリ）、透視板ニ映ズル陰影ハ實際ヨリモヤ、増大セリ、病竈ノ透視板ヲ隔ツニ從ヒ陰影ハ益々増大ス、陰影ノ境界ハ必ズシモ肺葉トハ一致セズ、肺門陰影ハ多クハ患側ニ於テ濃キモ時トシテ健側ニ於テモ濃キコ

第百五十六圖



右肺ノ葉上肺

トアリ。第五百六十二圖ハ右肺上葉ノ肺炎ニシテ楔狀ノ陰影ヲ呈シ其基底ハ側方ニアリ、上中兩肺葉界ハ劃然タリ、上葉ノ内側ニハ未ダ病竈波及セズ、肺門腺殊ニ右側ノモノハ著シク腫大セリ。

肺炎病竈ト類似セルハ、出血性梗塞、就下性肺炎、擴張不全ナリ、然レドモ此等ハ眞性肺炎ノ如ク大葉性若クハ小葉性ニ起ラザルモノナリ。氣管支及ビ肺ノ異物ノ検

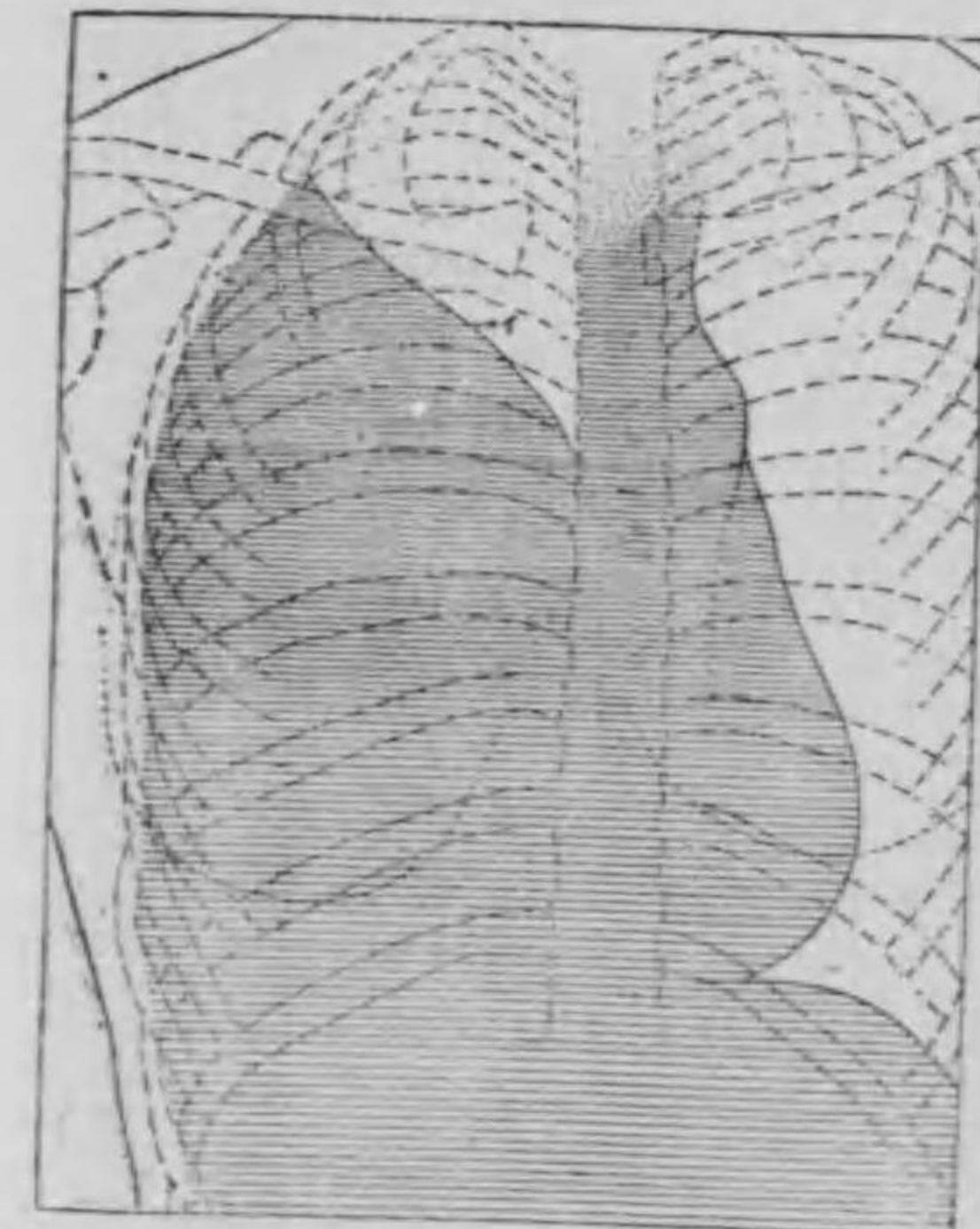
査ハ茲ニ詳述セズ。

漏出性肋膜炎ニ於ケル漏出物ノ陰影ト、其濃度、周圍ノ状況ノ相酷似セル肺炎竈ノ陰影ト對照比較セル

ニ、大葉性肺炎ヲ除外スレバ、肺炎竈ノ陰影ノ形狀ニハ一定ノ標準ナキモ、多量ノ滲出液ノ陰影ハ、極メテ一樣ニ陰影ヲ呈セリ。

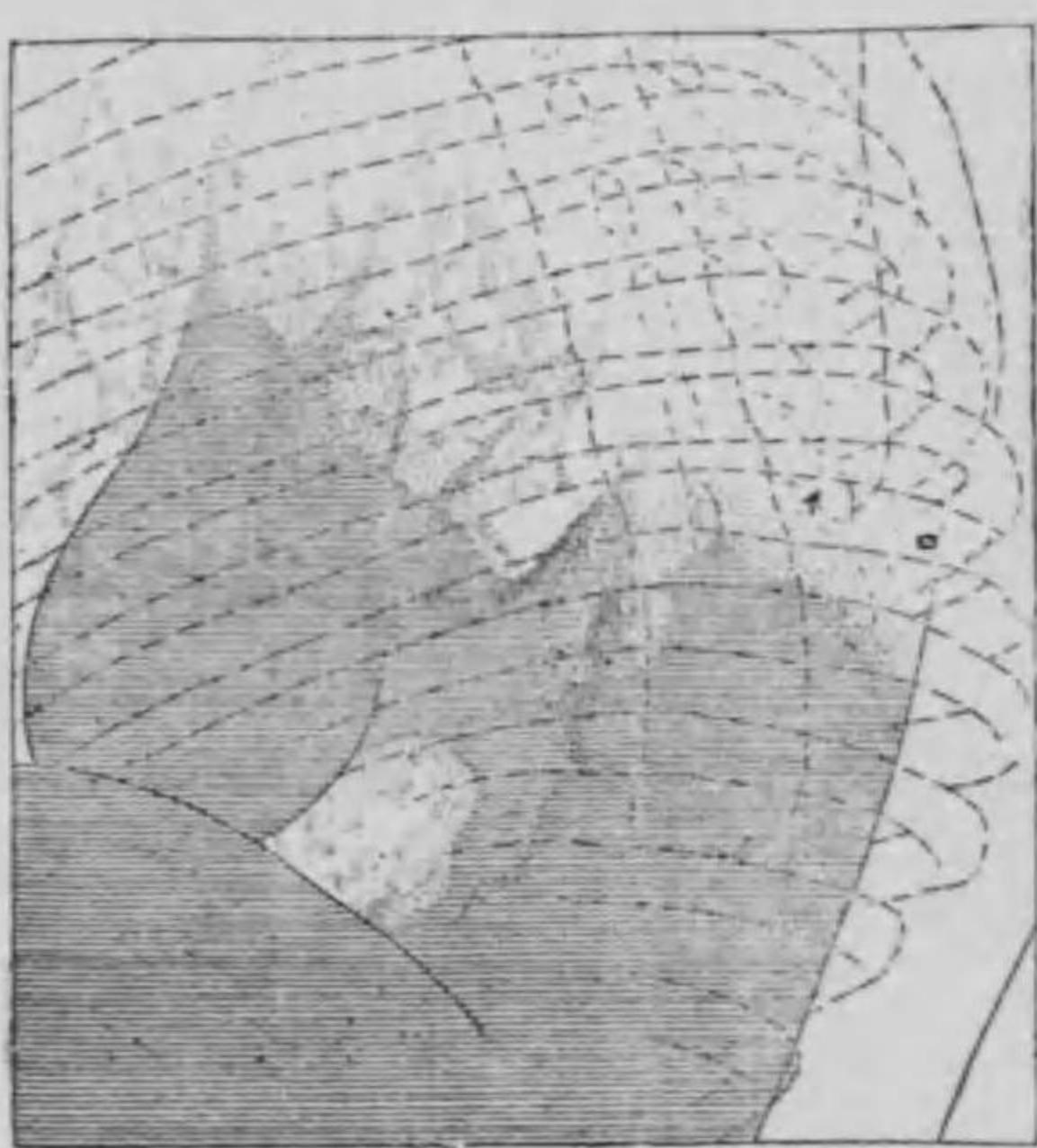
肋膜炎性滲出液ノ陰影ノ強サハ、亦肺炎ト同ジク淡濃アレドモ、滲出液ノ性質(漿液性、出血性、膿性)ヲ辨別シ得ズ、滲出液陰影ニ特有ナルハ、當該側ノ下部ハ多クハ横隔膜陰影ニ、或ハ臟部臟器ノ陰影ニ連接移行セリ、其陰影ノ上界ハ水平線ヲ畫セズシテ第五百六十四圖ノ如ク、上外方ヨリ下内方ニ走行シ、時トシテハS字狀ノ曲線ヲ描ケルコトアリ、新タニ液ガ滲出セバ、其陰影線ハ透明ナル肺部ト明瞭ニ分界シ、且其上際ノ肺部ハ他ノ肺部ニ比シテ一層透明度強シ(クラウス)、滲出液ノ上境線、脊柱及ビ滲出液陰影ノ

第五百六十四圖



尖端ト脊柱トヲ連結セル水平線ニヨリテ形成セル三角部ハ所謂がる  
らんご三角部ニ大略一致ス、往々  
左側滲出液ニ於テ、健側(右側)ニ  
脊柱ヨリ斜ニ下走セル境界線及ビ  
此陰影ノ横隔膜部ヨリ形成セル三  
角部ハ、滲出液ガ健側ニ及ボシ、縱  
隔竇ヲ壓迫シタルモノナリ、此三  
角部ハ打診ノ所謂くろっこらうふ  
ふーす三角部ニ該當セルモノナ

第五百六十五圖



(炎膜向性位助方)

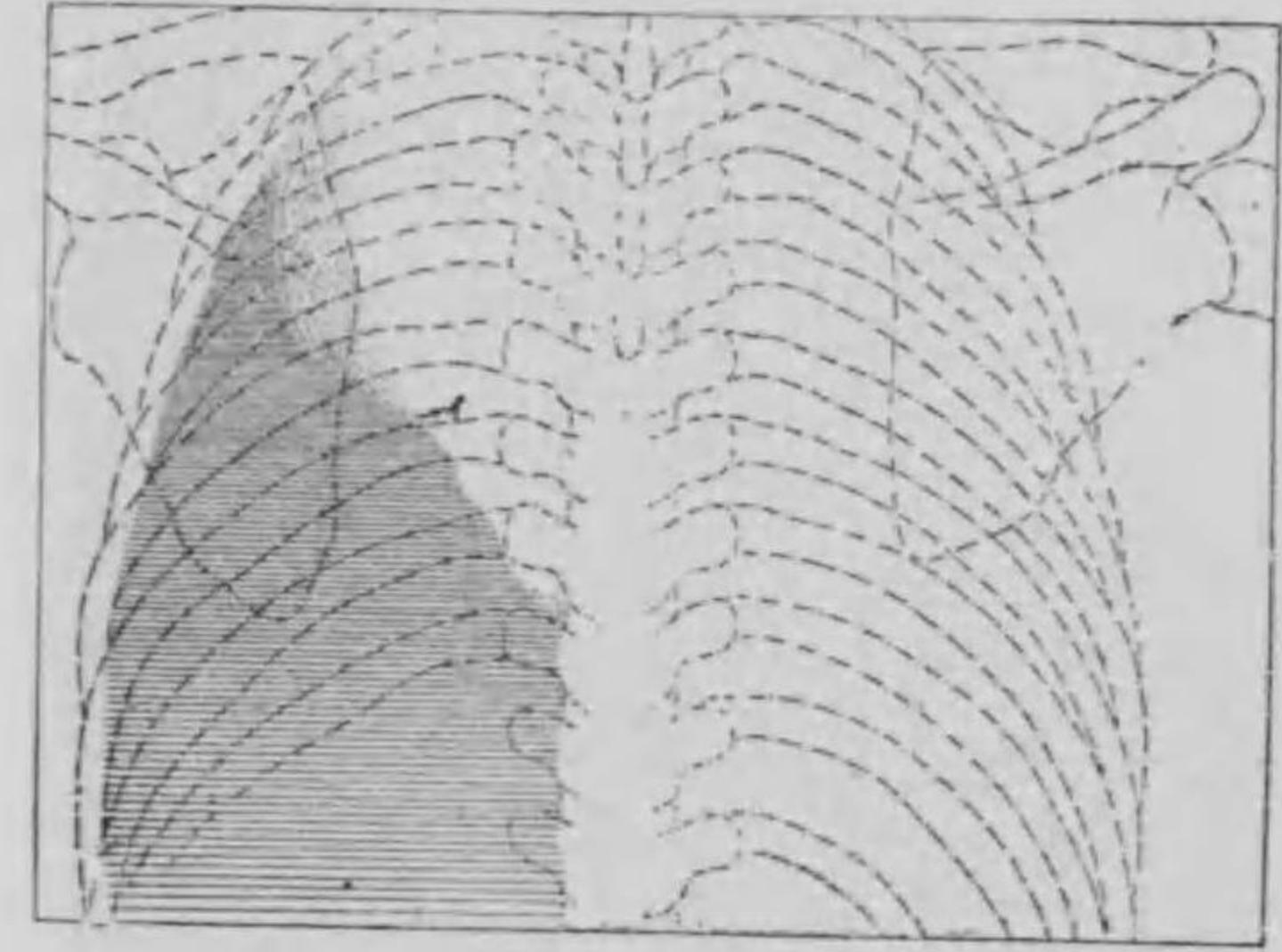
クラウスハ、滲出液ノ此形狀ヲ呈スルノ理由ヲ、れんさげん検査ノ見地ヨリ述テ曰ク、胸腔内ノ滲出液ハ、一二肺臟ノ牽引力ニ左右セラル、モノニシテ、滲出液ガ現存セバざんてるハ陽性トナルガ故ニ、常態ニ於テ肺ノ最大ニ擴張ヒル部及ビ肺組織ノ鬆疎ナル部ニ、肺ノ牽引作用ハ最モ著シク現ルナリ、即チ肺下狀ノ末梢部ニ於テ現レ、更ニ滲出液ノ重力ハ、肺ノ牽引ヲ援ケテ、滲出液ノ量ノ多少ニ拘ラズ、常ニ同一ノ狀態ヲ呈セリ、是肺炎トノ鑑別上重要ナルモノナリ、前述ノ滲出液所在ノ關係ヨリ、滲出液ノ陰影ガ、體位ノ變換ニ件レ、或ハ長時日間保テル體位ニ於テモ著シク變化セザルノ事實ヲモ容易ニ説明スルヲ得ベシ、滲出液ノ影像ハ、其滲出液所在部ニ變動ヲ及セバ、直ニ變ズルモノニシテ、例ヘバ穿胸術ヲ施シ氣胸ヲ作ル場合ニハ、陰影ノ上界ハ直ニ水平線ニ變ズ。

肋膜炎ニヨリテ、横隔膜ノ位置ガ變ズルハ少キモ、若シ滲出液ガ大量ニ瀦溜セバ、横隔膜ハ稍下方

ニ下降ス、左側滲出液ニアリテハ、時トシテどらうべ半月状部ノ膨出スルコトアリ、横隔膜炎ノ結果、横隔膜ノ不全麻痺ヲ招致セバ、横隔膜ハ著シク舉上セラル、心臓ハ大量ノ滲出液ノ爲ニ健側ニ壓迫セラレ、右側滲出液ノ場合ニハ、左肺ハ呼氣ノ状態ヲ呈シ、心尖ハ横隔膜ト明ニ相離ル。前頭位透視方向ニ於テ、後側ニ漏壺セル滲出液ノ状態ヲ知リ得ベシ、陰影上界ハ上後方ヨリ前下方ニ走行シテ、心臓陰影ノ後縁ト

透明帶ノ下部又ハ全部蔽覆セラル。

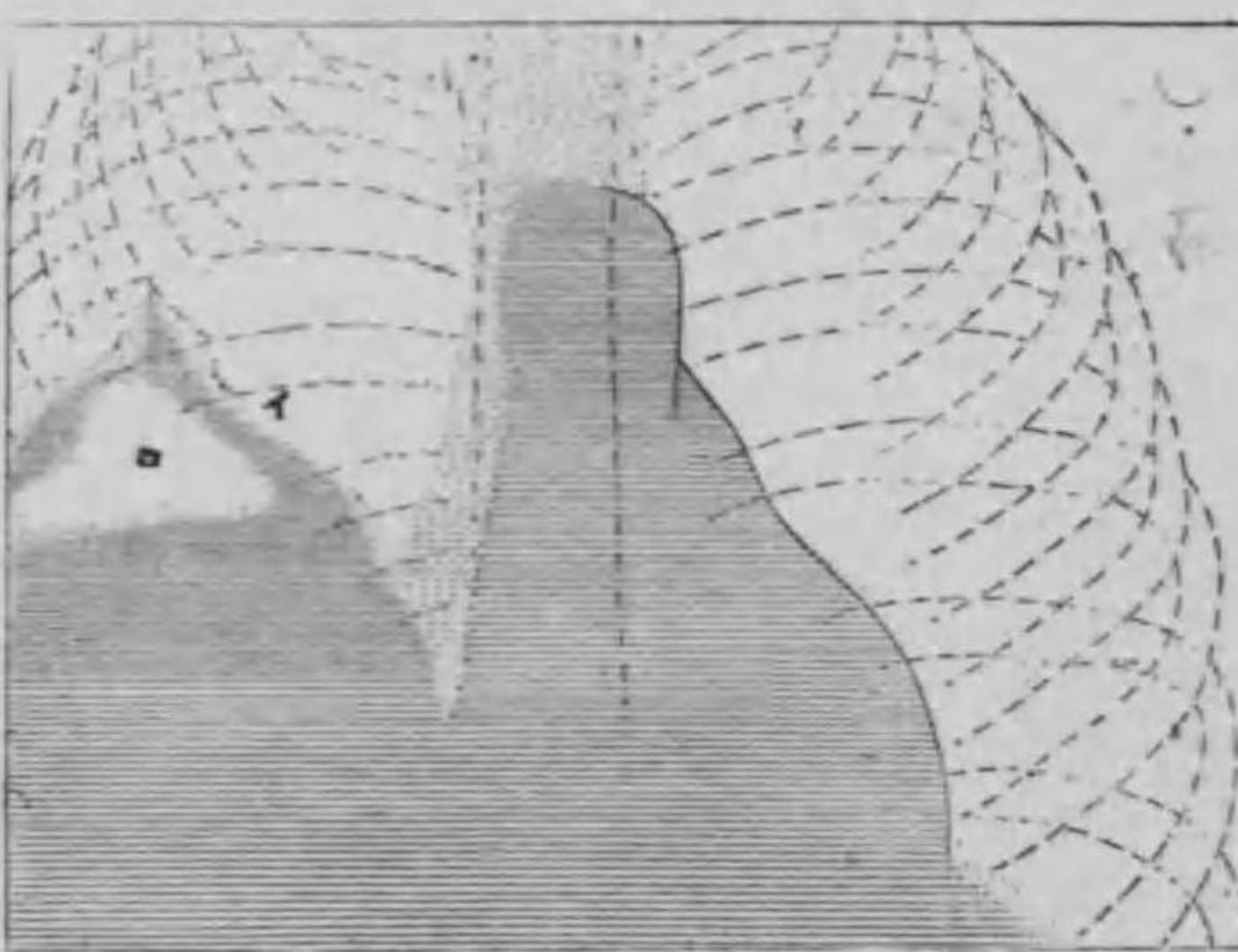
第五十六圖

滲出液ノ波出漏  
リセ著附層維織ハニ(イ)界上其

滲出液ノ上界ハ、必ズシモ區劃明ナラザルコトアリ、殊ニ陳舊性滲出液ニアリテハ、陰影稍淡シ、是レ其部ニハ、滲出液ノ滯留少ク、主トシテ纖維素性物質ガ附著スレバナリ、第五百六十六圖ノ如シ。而シテ滲出液ガ、全ク吸收セラル、ヤ、肺ノ下部ハ再ビ透明トナリ、上界ニハ尙陰翳帶ヲ呈スルコトアリ、殊ニ滲出液ノ陳舊ナル程、益々此狀態ヲ呈セリ。

陰翳ハ、肺ノ呼吸運動ノ恢復後、一定時期ニ至リテハ消失スルコトアリ、或ハ尙陰翳ルコトアリ。(第五百六十八圖参照)。

第五十七圖



部胸穿ハ口、後胸穿)滲出液

ガ残リテ、肋膜炎性肥厚層形成ノ存在ヲ知ルコトアリ、此肥厚層形成ノ陰翳ハ、滲出液ノ陰翳ニ比セバ濃厚ナラズ、滲出液ノ多量ナルニ纖維素性肥厚層ノ薄キコトアリ、又滲出液ノ少量ニシテ、肥厚層ノ著明ナルコトアリ。(第五百六十八圖参照)。

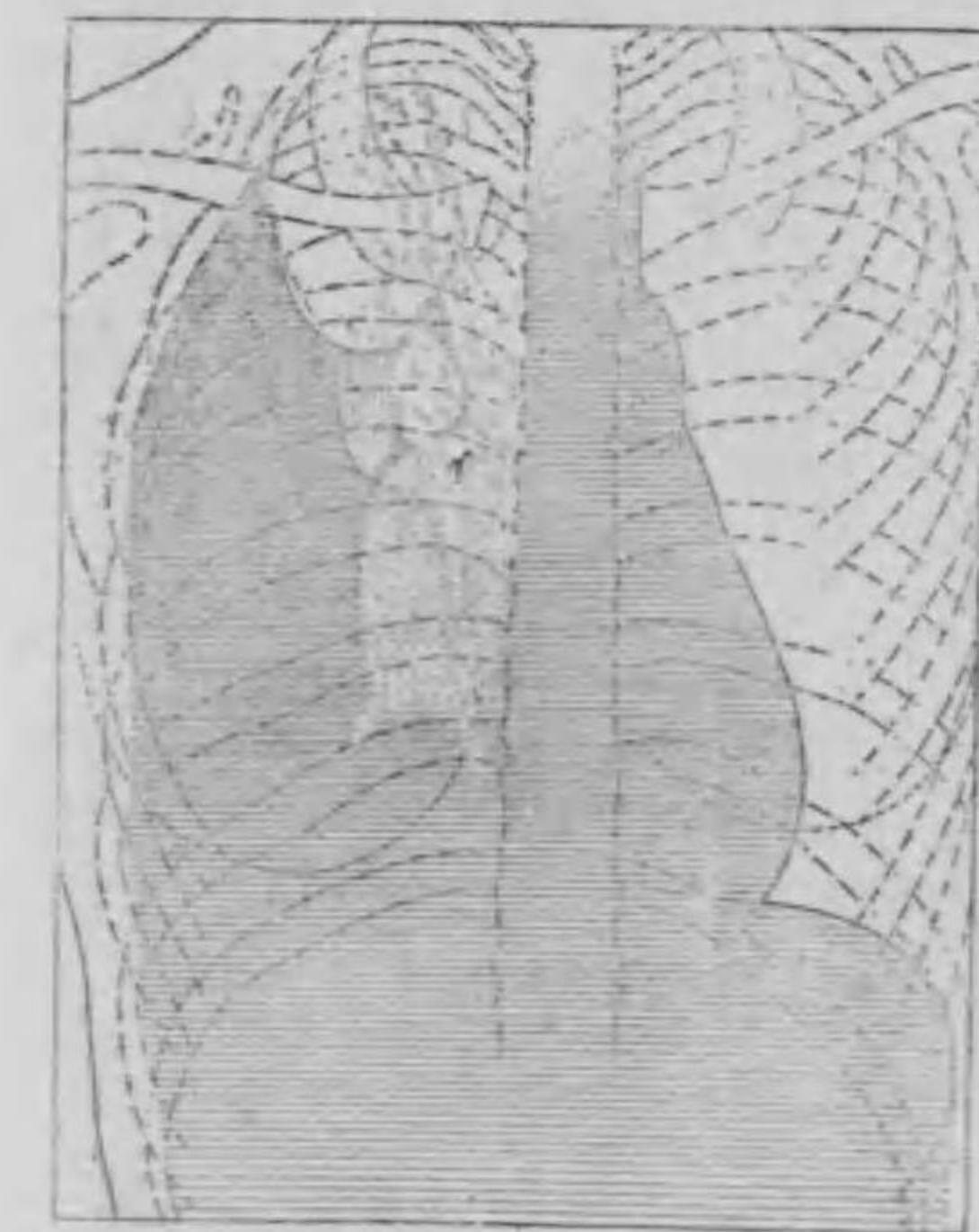
少量ノ滲出液ヲ證明スルハ容易ナラズ、コハ技術上ノ手腕ニ俟ツコト多シ(種々ナル透視方向、管球ノ斜位投射等)、極メテ少量ノ滲出液ヲ容易ニ證明シ得ルハ、滲出液ガ外側ノ横隔膜角ニ漏壺セル場合ナリ。

れんごん検査ノミニヨリテ發見セラル、ハ、葉間肋膜炎性滲出液ノ證明ナリ葉間ニ漏壺セル液ヲ打診上ニテ知ルハ、極メテ稀レナリ、液ノ多量ナルニモ拘ラズ打診上濁音界ノ小ナルコトアリ、例ヘバ滲出液ガ外方ニ漏壺シ、又ハ胸壁ニ接セル場合ナリ。

陰翳縁ハ不明瞭トナレリ。

通常ノ透視ニテハ、滲出液層ノ廣サト其陰影トハ全ク一致セズ、是肺葉ノ境界ハ水平位ニ存セズシテ中央部ヨリ外上方或ハ外下方ニ走行スレバナリ、故ニ滲出液量、所在位置ヲ詳細ニ知ラントセバ、種々ノ透視方向及ビ管球位置ヲ換ヘテ検査ヲ行ハザルベカラズ。滲出液ノ胸壁ニ接シ、其一部ガ葉間腔内ニ達シ肺門ニマデ到達セルコトアリ、或ハ肺門ニ達セザルコトアリ、鑑別診断ヲ要スルモノハ中央纖維素性肺炎、氣管支擴張、肺門ヨリ發生セル、結核等ナリ、此等ノ諸症ニアリテハ其陰翳ノ區劃ハ明ナルノミナラズ其所在位置ヲ異ニス。

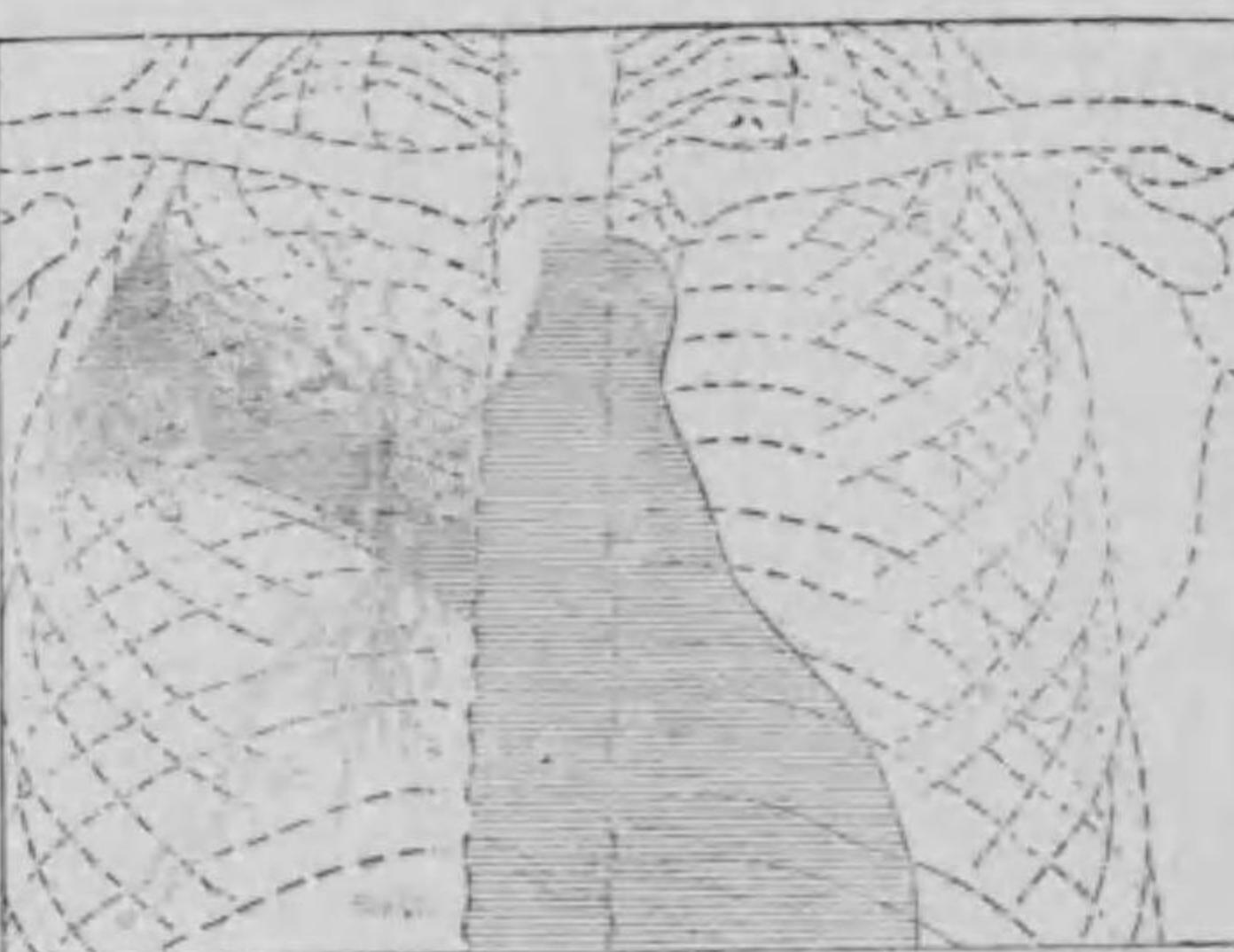
第五百六十八圖



纖維素性(乾性)肋膜炎ノ診断  
ハ、纖維素ノ小量ノトキハ、直接證  
明シ得ザル場合多シ、横隔膜位置  
ノ異常關係、又ハ呼吸時ニ於ケル  
性(イロ)、  
助(イロ)  
膜(イロ)  
異常狀態ニヨリテ間接ニ之ヲ診断  
シ得ルノミ、肋膜炎性產物ガ、横隔  
膜ニ波及セバ、横隔膜ハ著シク舉上  
炎層層  
セリ(クラウス)。

温性肋膜炎ノ如ク、乾性肋膜炎  
ニ於テモ亦、屢々廣大ナル肥厚層

第五百六十九圖



層波出没ルセ在介ニ間葉  
界葉(ロ)リナ明ハ縁上(イ)

見スベシ、其他肥厚層形成ガ、肺臟上方ニ存セル場合ニモ、適當ノ方法ヲ施セバ、容易ニ之ヲ認メ得ベシ。  
助膜炎性瘻著ハ、透視検査ニテ、始メテ之ヲ認メ得ベシ、遮光装置ヲ狹隘ニシテ検査スベシ、自覺的症候  
ノ他、尙瘻著アレバ、呼吸時ニ於テ陰影ノ異常ニ移動スルヲ見ル可シ、第五百七十圖ノ如キ横隔膜ノ瘻著  
ハ、深吸氣ニ際シテ屢々發見セルモ、時トシテハ陰翳ノ淡ク、且不明チルガタメ、唯透視ノミニテハ證明シ

れんさげん診断

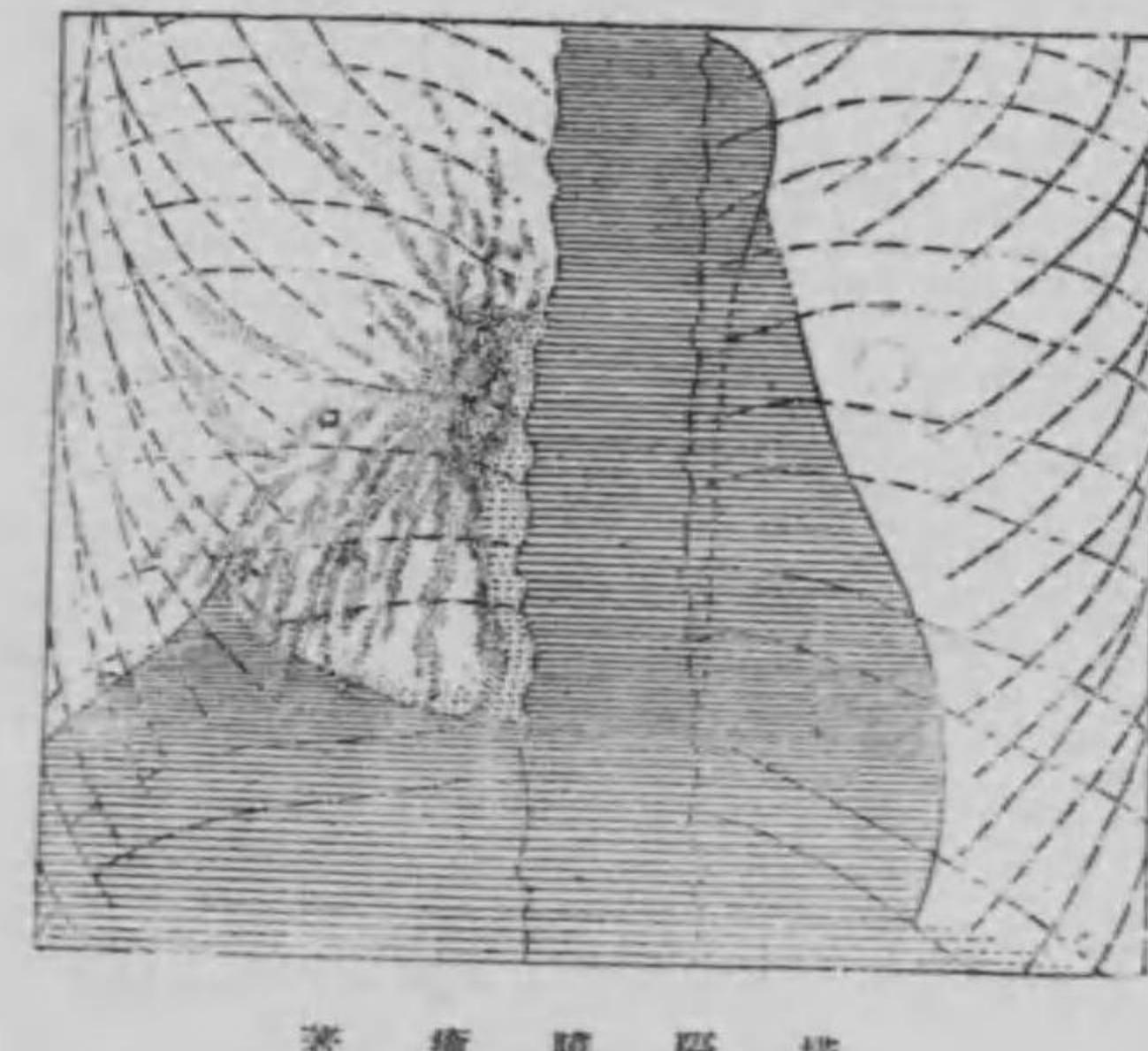
七八〇

得ザルコトアリ、斯ル場合ニハ撮影ヲ施シ始メテ之ヲ知リ得ベシ、肥厚層ノ形成ナク、シカモ廣大ノ肋膜炎性瘻著ニテハ陰影現出セザルヲ以テ證明スルヲ得ズト雖、斯ル場合ニハ肋骨ノ異常位、肋間腔ノ狹小、脊柱ノ側彎、更ニ肋骨横隔膜、肺ノ異常ナル呼吸運動状態ヨリ知リ得ルモノニシテ、肺ノ瀰漫性浸潤ト辨别セザル可ラズ、即チ瘻著ノ場合ハ、恰モ菲薄ノ覆面ガ患側全部ヲ被フガ如キ陰翳ヲ呈セリ。

氣胸

ノレンドゲン

第五百七十一圖

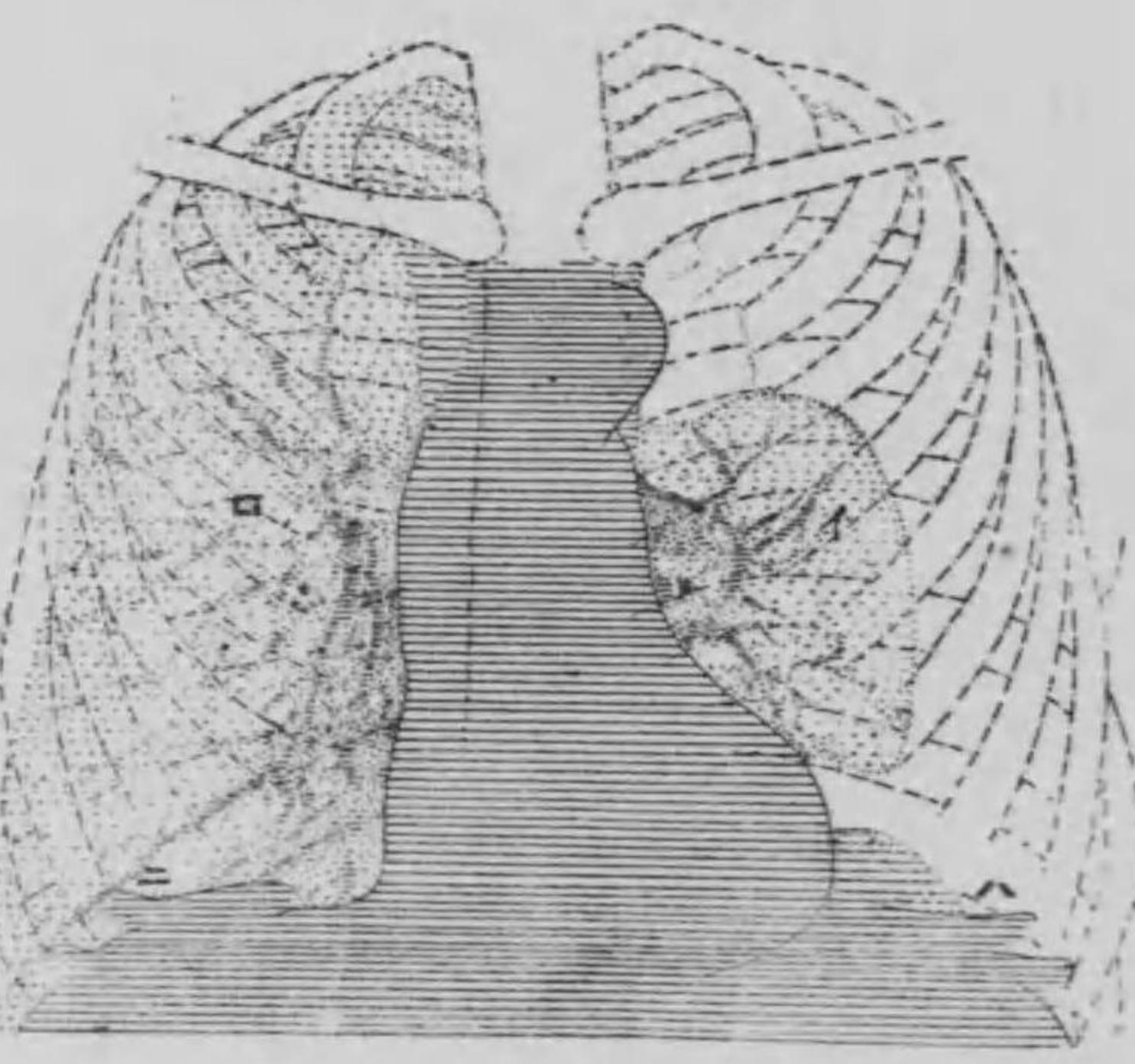


肺胸ト漿液性滲出液トハ區別シ難シ、蓋シ兩者共ニ物理學的要件ガ類似スレバナリ。  
氣胸ノれんどげん影像ハ、外氣ノ侵入セル部分ガ透明トナレルヲ其特徵トス。胸腔内ニ進入セル瓦斯量ト肺臟ノ狀況ニヨリ其透明部ガ細長トナリ、單ニ胸部上方外側ニ所在シ、或ハ肺臟ガ肺門部ニ於テ約手掌大ニ牽縮シタル稍々濃キ陰影ヲ現シ、自餘ノ部ガ透明トナレルコトアリ。

肺臟ガ胸腔内ニ進入セシ外氣ニヨリテ、空氣

ヲ含有シ能ハザルヲ以テ第五百七十一

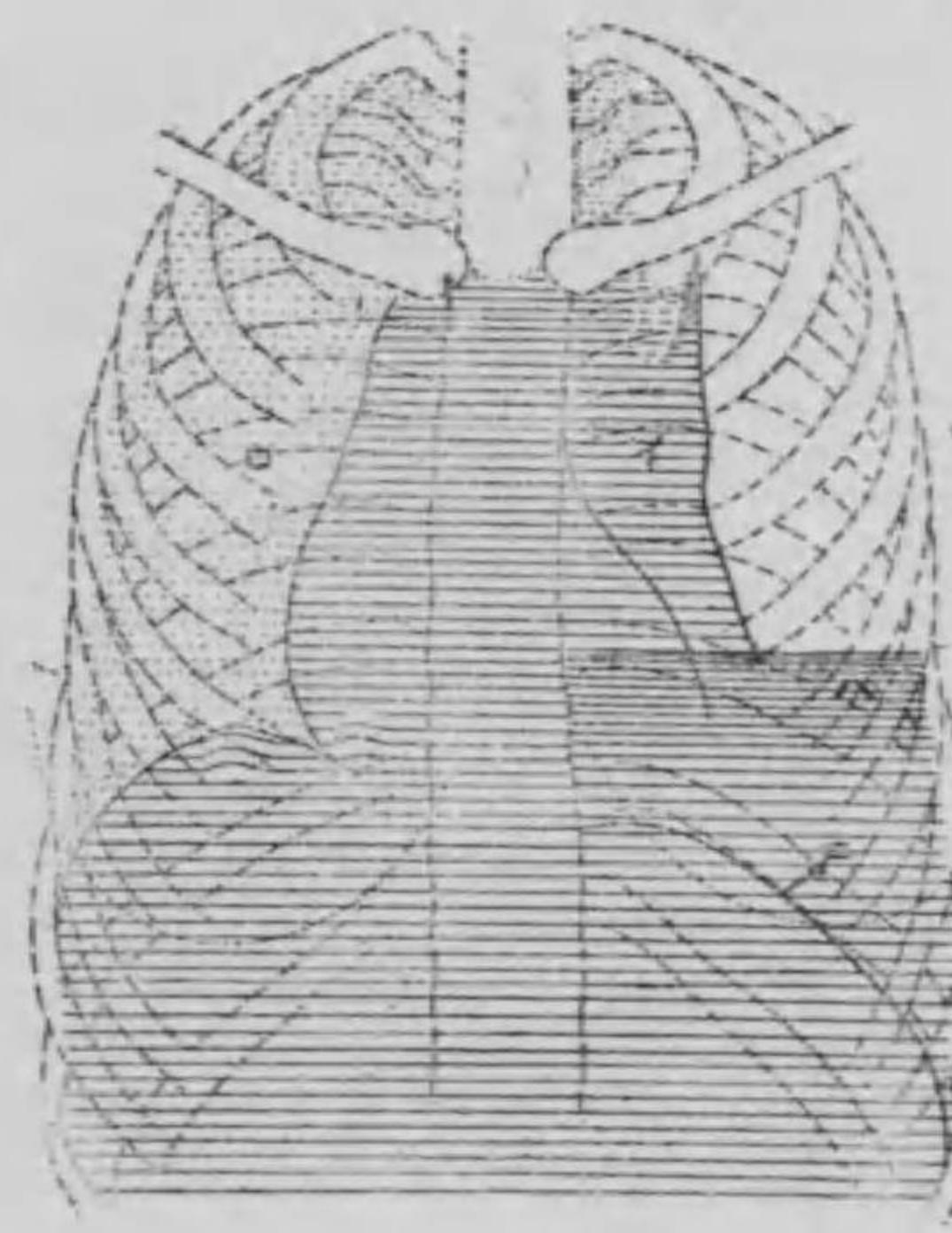
第五百七十二圖



圖ノ如ク收縮シ、種々ノ形狀ヲ呈シ、稠密ナル陰翳ヲ作レルモ、透明部ニハ肺像ヲ作ラズ、肋骨陰翳ハ對側ニ比スレバ一層鮮明トナリ、肋間腔ハ健側ヨリモ屢々廣キコトアリ、縱隔竇、心臓、共ニ健側ニ壓迫セラレ、患側ノ横隔膜ハ多クハ下降セリ、又呼吸運動ハ微弱ナルカ、或ハ不規則(例ヘバ波狀運動ヲ呈シ)ナリ、時トシテハ不可思議性横隔膜運動ヲ呈スルコトアリ、健側ノ横隔膜運動ハ著明ナリ、牽縮セル肺ハ全ク膨脹不全トナレルガ故ニ、呼吸運動ニハ關與セズ、然レドモ往々以上ノ如キ症狀ヲ呈セザルコトアリ。

例ヘバ肋膜炎性瘻著アレバ肺臟ハ全ク縮小セズ、瘻著部及ビ瘻著ノ強サニヨリテ、肺ハ種々ノ形狀ニ牽縮セラル、此牽縮組織内ニ在ル結核性病變(病竈空洞)ハ、明ニ知リ得ヘシ、若シ大結核病竈、或ハ小病竈ガ多數ニ存セバ完全ニ牽縮セズ、又肋膜瘻著ノ廣キ場合ニハ、一部或ハ數所ニ包裹

第五百七十二圖

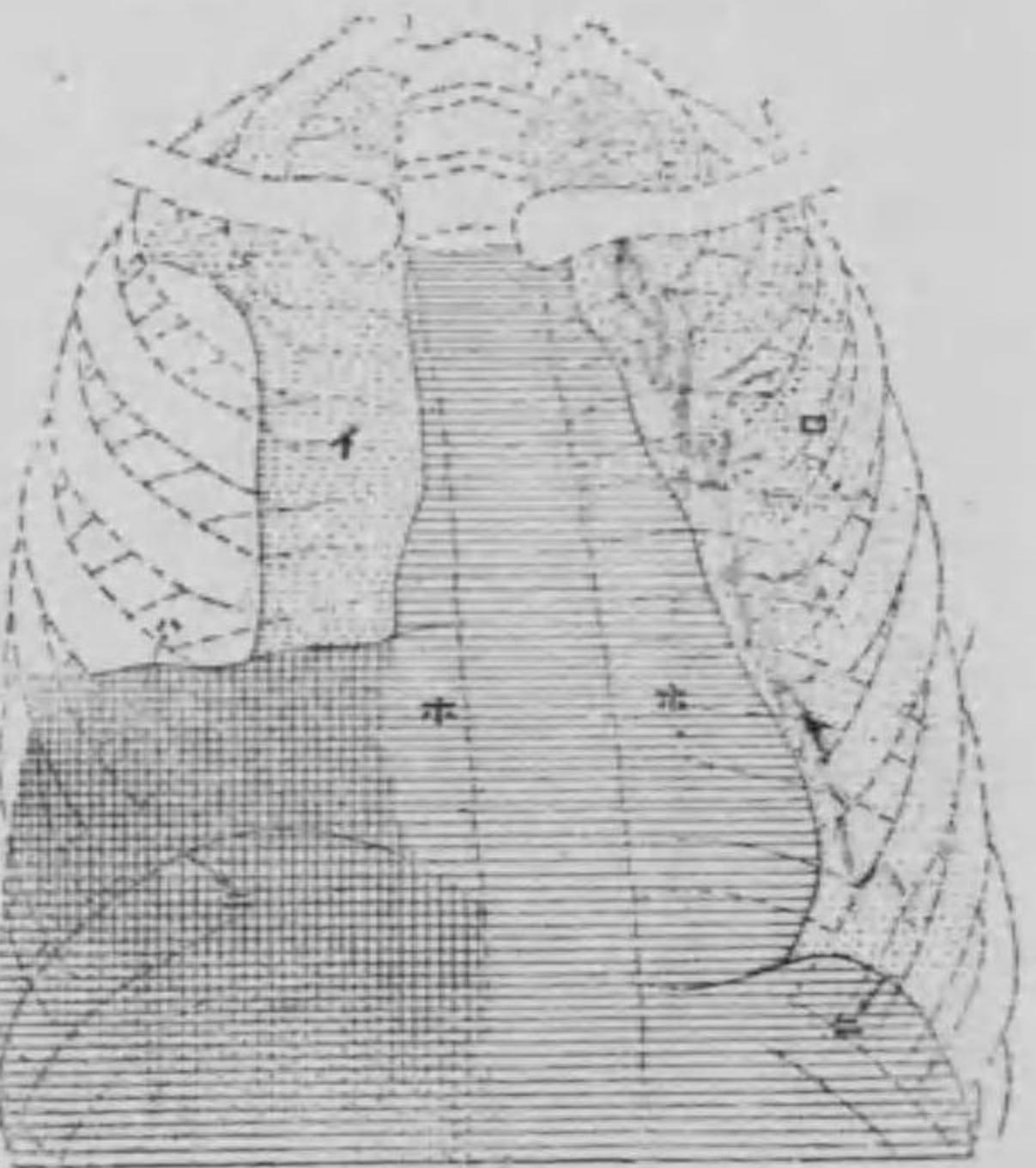


セル含氣層ヲ残セリ(部分的氣胸)、  
其他偶然ニ起リタル多クノ氣胸ニハ  
滲出液ノ存在ヲ伴フコトアリ(第五  
百七十二圖)。其液ノ性質(漿液性、  
膿性、出血性氣胸)ハれんごんヲ以  
テ區別シ能ス、而シテ此滲出液ハ(肋  
膜炎性滲出液ト反對ニ)體位ノ變化  
從ヒテ、常ニ水平位ヲ保テリ、胸部ヲ  
動搖スレバ液面ノ波動(飛躍運動、波  
狀運動、「ヒホクラチス」振水音)ヲ見

ルベシ第五百七十三圖ニ於テハ右側肺臟(イ)ハ内方ニ壓迫セラレ其上部ハ胸壁ト瘻著シ脊柱陰影ト並行  
セル長形ノ陰影アリ、漿液層ノ上界(ハ)ハ波狀ニ動搖セリ、心臓縦隔竇(ホ)ハ左方ニ壓迫セラル左肺ニ於  
テハ多數ノ肥厚セル氣管ガ走行セリ。其他呼吸ニ伴フ液ノ運動ハ微弱ナリ、時ニハ不可思議性呼吸運動  
ヲ認メ、吸氣時液面ハ上升シ、深呼氣時ニ下降ス(キーンペック)、尙横隔膜波動性運動ヲナス異型的運動  
アリ。

氣胸ノれんごん診断ハ難事ニハ非ズ、若シ透視ノミニテ不可ナルトキ、撮影スレバ能ク判定シ  
得ベシ。胸腔内ニ少量ノ空氣侵入證明ニハれんごん方法ニ若クハナシ、其ノ他人工的氣胸ヲ施スニ

第五百七十三圖



當リ、肋膜心囊間ノ外氣ノ集積、及ビ  
氣胸療法ヲ施スニ際シテ行フベキ對照  
的診断ハ、一二れんごん検査ニ賴ラ  
ザル可ラズ、又缺クベカラザルモノナ  
リ。

## 肺 膿 瘡

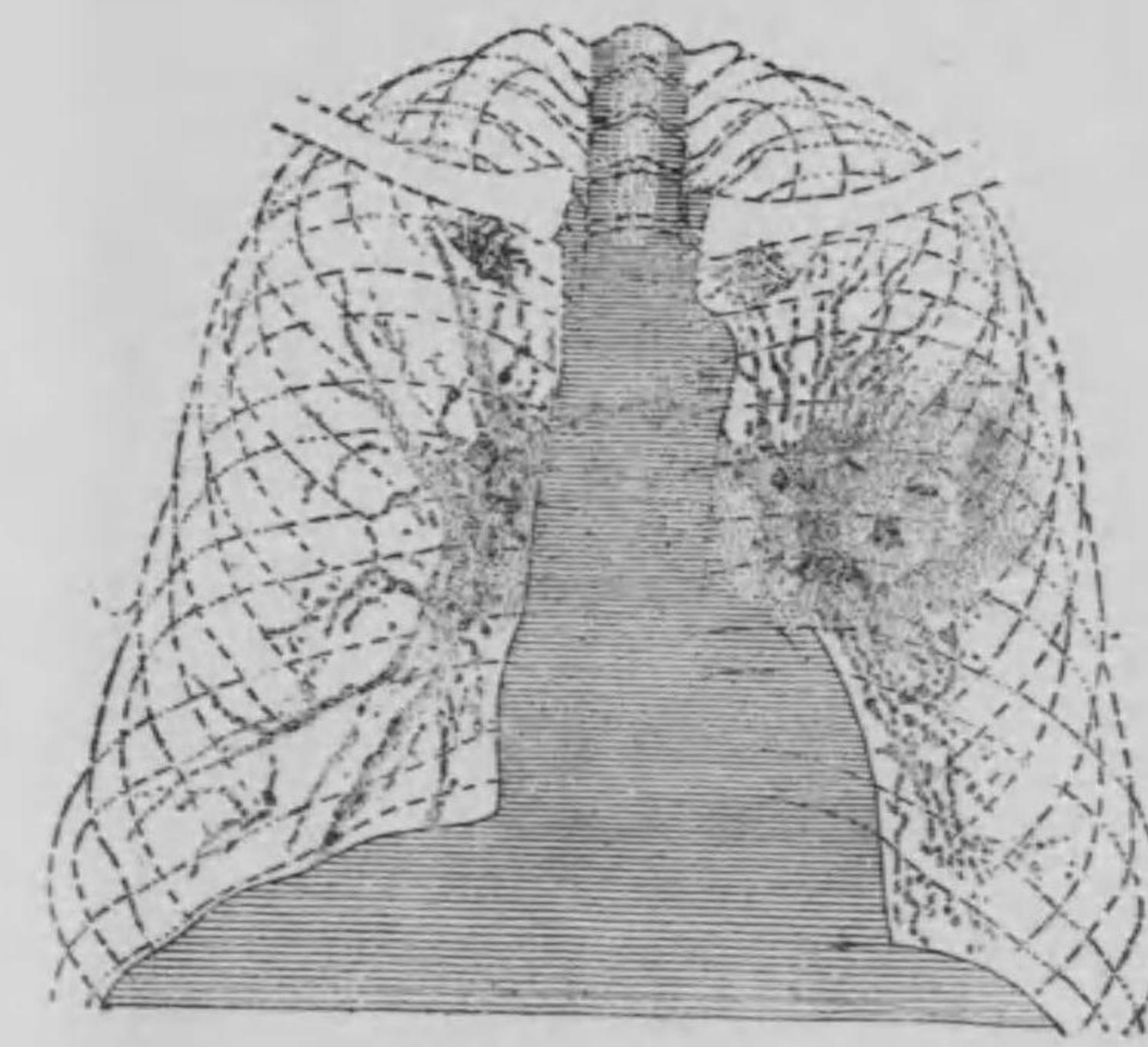
肺膿瘍ノ診断法ニ第一位ヲ占ムルモ  
ノハ、れんごん検査ナリ。經過ノ長  
キ肺疾患ニ、れんごん検査ヲ待チテ、  
之ヲ確ムルコト多ク、其他臨床上肺膿  
瘍ノ診断ヲれんごん検査ニテ、其病

竈ノ所在、位置大小及ビ周圍組織ニ及ボセル關係ヲ窺知シ又れんごん透視ノ下、手術ヲ始メテ行ヒ得  
ルナリ。

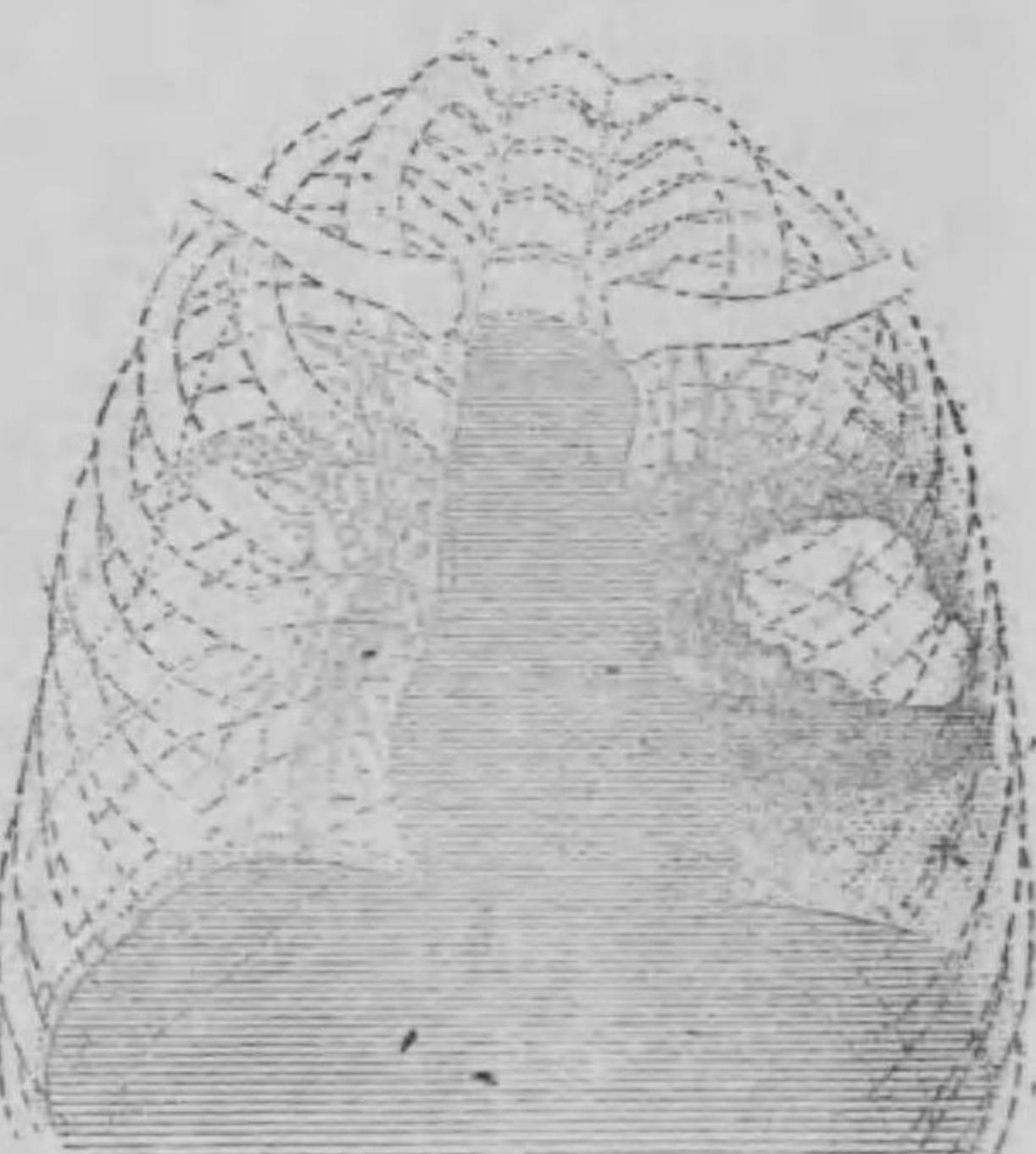
肺膿瘍ノれんごん像ハ、病竈ノ未ダ膿液ニ占領セラレザルカ、或ハ既ニ一部ニ膿液ノ滯積セシトキ、  
或ハ全部膿液トナレルカニヨリ、其陰影ハ異ナリ、膿瘍ノ未ダ排除セラレザルトキ、陰影ハ濃ク限局  
セル圓形、卵圓形、或ハ不整形ヲ呈シ、其ノ周緣ハ銳利ナラザルコト多シ、且ツ僅ニ透明ナル量ヲ以テ

圍繞セラル、コトアリ、(第五百七十四圖)ノ如シ、即チ左肺ノ中央ニハ圓形ノ陰影アリ、中間ハ稍透明ナル、右肺門腺ノ腫大ヲ見ル。膿瘍ヲ招致セル原因(異物、氣管支擴張、肺炎等)ヲ究ムルヲ必要トス、殊ニ後發肺炎性膿瘍ニ於テハ遺存セル肺炎竈ノ影像ヲ屢々見ルコトアリ。膿瘍ガ氣管支ニヨリテ外道ト交通スレバ、前體ノ移動ニツレテ膿腔ノ内容ハ多少動搖ス、而テ膿腔ハ多クハ圓形ヲ呈シ、液面上ニ透明上ニ透視層アリ、是空氣ヲ含有セル、結果ニシテ、其周圍ハ濃キ且廣キ陰翳輪ヲ以テ境界セラル、之ハ第五百七十五圖ノ如シ。此陰翳輪ハ膿腔外壁ノ肥厚及ビ其周圍ノ炎性浸潤ニ相當セルモノナリ。膿腔内容ノ全ク喀出セラレタルトキハ、此陰影竈ニ代ユルニ、圓形ノ透明部ヲ呈スルニ至レリ。深在ノ膿瘍竈ヲ知ルニハ、矢狀透視方向ノミナラズ、種々ノ方向ヨリ、又管球位置ヲ種々ニ換ヘテ透視セザル可ラズ、下葉ノ膿瘍ヲ検査セント欲セバ、特ニ病竈ヲ透視板ニ近接セシムルヲ可トス。膿瘍ノ

第五百七十四圖



第五百七十五圖



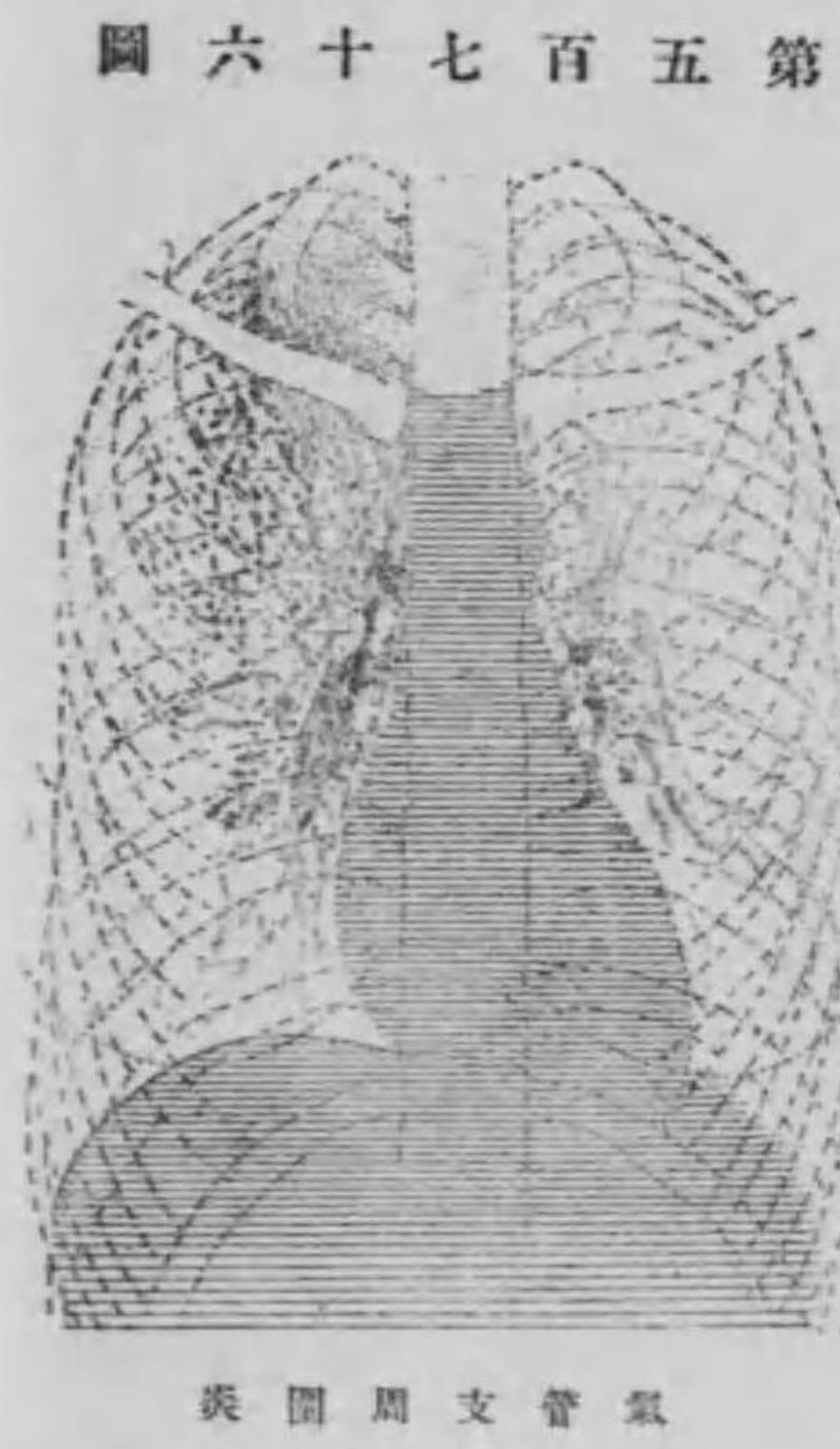
ノニ於テハ、手術ヲ禁忌スベシ、但シ下葉ノ膿瘍ニ對シテハ此見解ハ必ズシモ正鶴ナラザルコトアリ。肺膿瘍ノ診断ハ、れんごん影像ニ信憑ズ可キモノナレドモ、往々他ノ病症、例へバ結核、氣管支擴張、又ハ肺腫瘍トノ鑑別不可能ナル場合アリ、又結核性空洞、包裹性氣胸、滲出液等ハ、恰モ開放性膿瘍ニ酷似セリ、膿液ノ運動シ難キヲ、膿瘍陰翳ノ主點トス。

肺門陰影、肺紋理ノ陰影ヲ呈スベキ場合

氣管支擴張ヲれんごげん検査センニハ、曩ニ説明シタル肺門陰影ノ關係ヲ知得セザル可ラズ、今日ノ技術ニテハ、肺門ヨリ分岐走出セル生理的氣管支及ビ其分岐ノ微細ナル末梢部マデヲ撮影シ得ルニ至レリ、氣管支系統ノ診断ニハ、臨床的諸症候ヲ深ク考慮セザル可ラズ。れんごげん撮影乾板ニハ肺臓血管及ビ氣管支陰影ノ著明ニ現出セル場合アルヲ注意セザルベカラズ、蓋シ血管及氣管支ハ肺門陰影、肺紋理ニナル關係ヲ有スルモノナリ。

血管陰影ト氣管支陰影トノれんごげん的辨別ハ、其起始部即肺門部ニ於テ、大氣管支ノ陰影ハ、其管壁ニ相當シテ竝行ノ陰影ヲ呈シ、血管ノ陰影ハ一樣ノ陰影ヲ呈セリ。

肺門陰影、肺紋理ノ陰影ノ濃度ヲ増スベキ場合ハ、イ氣管支内ニ分泌物ノ堆積(加答兒)ノ多ク、口氣管



第五百七十六圖

支管壁ノ肥厚、即炎術(氣管支周圍炎)又ハ結織性肥厚(結核)、或ハ石灰沈著(老年)等ノ場合、ハ氣管支擴張(單純ナル氣管支粘膜ノ炎術ハ、れんごげん的ニハ證明シ得ズ)ニ肺臓血管ノ異常充血(心臟病)ナリ。

老人性氣管支炎擴張、慢性氣管支加答兒、及ビ氣管支周圍炎ニ基ク、氣管支擴張ハ、多クハ前記ノ陰影度ノ增加セルコト

れんごげん検査ニテ發見ス。

慢性氣管支擴張ニ於テハ、肺門ヨリ放射セル境界不明晰ニシテ、暗黒腺臍タル索狀陰影ガ、透明ノ肺組織内ニ走行セルヲ見ルベシ、殊ニ透視ニ際シ、放射線ノ氣管支ニ切線シテ、放射セル場合ニハ、二重輪ヲ見ルナリ。コハ管壁ノ厚キ爲ニ生ゼシモノナリ、高度ノ部分の氣管支擴張ノれんごげん像ハ、種々多様ニシテ、往々他ノ限局セル病竈ト誤認セルコトアリ、陰影ノ大サハ擴張度ニ準ジ、時トシテハ著シク大ナルコトアリ、多クハ擴張セル管腔内ニハ、分泌液ヲ充實セルヲ以テ、陰影ハ濃ク、其境界ハ多少不鮮明ニシテ、肺下葉ニ見ルヲ最モ多シトス、又多數ノ陰影生ジ、互ニ相連續セルカ、或ハ外觀上全く孤立セルコトアリ、クラウスハ其病竈ガ線狀ノ連結ヲ以テ肺門陰影ト相連ルヲ見タリト。所謂滿口咯出ノ患者ニ於テ氣管支擴張ノ内容ヲ喀出セバ、空洞ハ透明トナリ肺膿瘍ニ酷似セリ、多少圓形ヲ呈シ、濃キ陰影輪ヲ具有セルコト多シ、氣管支擴張ノれんごげん像ハ必ずシモ確實ナラズ、故ニ診断ヲ下サントスルニハ細心注意セザルベカラズ、尙擴張部位ヲ發見スルニモ技術上ノ困難ニ遭遇スルコトアリ。其他氣管支擴張ヨリシテ部分的、又ハ全肺ニ亘レル肺氣腫ヲ生ジテ、肋骨ノ水平位、肋間腔ノ擴大ヲ誘起シ、或ハ其經過中、分泌物、異物、肺膿瘍等ニヨリテ氣管支狹窄ヲ招致セルコトアリ。

ホルツクネヒト、ヤコブソンハ氣管支擴張ニ於テハ、縱隔竇ハ健側ニ向ヒ呼吸的移動セルヲ見タリ、氣管支狹窄ニ基ク部分的又ハ全肺葉ノ膨張不全、肺萎縮ガ現存スレバ、特有ノれんごげん像ヲ呈スルモノナリ。

## 肺 氣 腫

肺氣腫ノれんごげん症狀ハ、既ニ前章ニ於テ略述セリ。肺氣腫ニ於ケル肺陰影度ハ、淡薄ニシテ空氣ノ含有量ニヨリテ、或ハ全葉ニ、或ハ局部ニ現ル。肺ノ透明度ヲ透視、或ハ寫真板ニ於テ判定スルニハ注意セザルベカラズ、蓋シ肺影像ノ透明度ハ、肺組織ノ透明力ノミナラズ、管球ノ硬度、或ハ放射時間ニモ左右セラル、ヲ以テ、肺組織ノ密度ノ著シキ場合(肺鬱血)ニモ、技術ノ如何ニヨリテハ、生理的ノ肺影像ヨリモ透明ナル影像ヲ寫真板ニ現出セシムルコトアレバ、技術ノ熟練ト相俟テ初メテ適當ナル診断ヲ下サムル可ラズ。比重ノ少キ肺(氣胸ニ於テモ同ジ)影像ニハ、不透過性臟器(心臓肋骨等)ノ陰影ノ周縁ガ明済ニ現レ、密度多キ肺ニアリテハ、上者ヨリモ不鮮明ナルヲ常トス、又硬性管球ヲ用フレバ肺ノ影像ノ透明度ハ増加ス、故ニ肺ノ透明度ニ就テハ、此等ヲ參酌考慮シテ正篤ノ判断ヲ下スベシ。

部分的肺氣腫ハ、爾餘ノ健康部ト當該部トヲ比較對照スレバ、其診斷ハ敢テ難事ニハ非ザルモ、斯ノ如キハ稀有ナリ、部分的肺氣腫ハ多クハ淺潤ニ對スル代價的ニ起レルヲ以テ、一側ノ肺氣腫ハ他側肺ニ炎衡、膜肋炎、肺萎縮ヲ起シ、又上葉ニ結核性浸潤ガ現存セバ、下葉ニ氣腫ノアル場合多シ、稀ニハ結核性病變ニ於テ、肺尖部ニ氣腫ノ限局セル場合アリテ、打診上之ヲ誤マルコトアルハ、れんごげん検査ニ際シ屢々發見スル所ナリ。

慢性ニ經過セル瀰漫性肺氣腫ニテハ、肺臟ノ透明度ヲ増シ、且助骨ハ水平ニ近ク位シ、肋間腔ハ廣ク、胸廓ハ一般ニ擴張シ、容積ヲ增大シ、橫隔膜ハ當態ヨリモ低タ。且ツ穹窿部ハ平坦ニシテ、左右殆ンド同高ト

ナリ、横隔膜陰影ハ肋骨陰影ト直角ヲナセリ。呼吸ニ伴フ肋骨ノ運動ハ極メテ少タ、橫隔膜ハ呼氣時ニ於テモ殆ンド下降セズ、僅ニ平坦トナルノミ、肺ノ透明度ハ吸氣時ニ於テモ增加セズ。橫隔膜下降セバ、心臟ハ滴狀心臟(喘息體質)ノ條下ニ述タルガ如ク、鉛直線ニ近ク位シ、長軸ヲ捻轉シテ心尖ハ橫隔膜ト接セズ、中線ニ近ケリ、故ニ恰モ滴狀心臟ニ酷似シ、其弓陰影ハ不明瞭トナレリ。前頭位透視方向ニ於テ、心臟陰影ノ前方ニ於テ透明部ヲ見ル、コハ肺ノ一部膨脹セシモノナリ。

肺氣腫ノれんごげん診断ハ、他ノ臨床的診断法ニ有力ナル補助ヲ與フルモノニシテ、殊ニ心臟ノ狀態ヲ知ルニ必要ナリ、又氣管支喘息ノれんごげん検査ハ、臨床的説明ヲ補足スルコト多ク、喘息發作ノ間歇時ニ於テ、胸廓運動ニ呼吸ニガ恢復セシヤ否ヤヲ詳細ニ知リ得ベシ。喘息發作ニ於ケル肺ノ擴張セルれんごげん像ハ肺氣腫ノ場合ト同ジ。

## 肺臟及ビ縱隔竇腫瘍

グルンマッハガ、始テ肺腫瘍ノ診断ニれんごげん検査ヲ應用セシ以來、益々攻究進歩ヲ遂ゲタリ、就中オーテンノ詳細ナル研究ノ功績ヲ認メザル可ラズ。肺腫瘍ハれんごげん検査好適ノ材料ニシテ、腫瘍ノ所在位置ヲ知ルニハ此ノ検査ニ若カズ、又他ノ診断方法ニテ疑シキ場合ニ、れんごげん検査ヲ施セバ、之ヲ確診シ得ルコト稀ナラズ、腫瘍ノ陰影ハ、大サニヨリ種々多様ナレドモ、其陰翳ヨリシテ腫瘍ノ性質ヲ辨别スルハ不可能ナリ、腫瘍ノ絶體の大サヲ知ラント欲セバ、實大測定法ヲ施スベシ。腫瘍ノ所在位置ヲ詳ニ知ラント欲セバ、種々ノ透視方向ニ於テ検査スベシ。

胸腔腫瘍ヲ左ノ如ク區別スベシ。

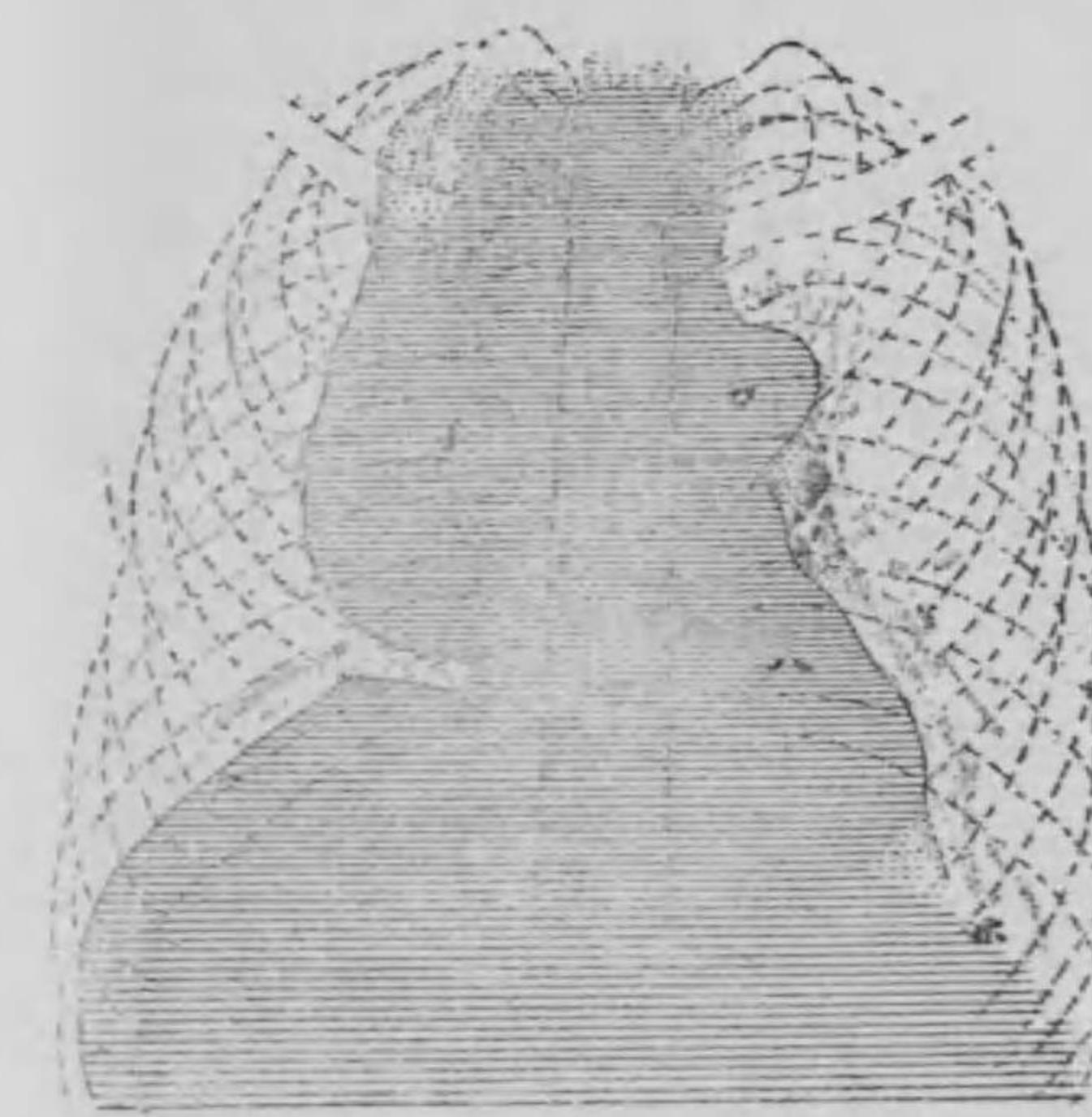
一 孤立性或ハ多發性腫瘍

肺又ハ胸廓ニ發生スル腫瘍ノ主ナルモノハ、癌腫、肉腫、淋巴腺腫、骨腫、軟骨腫、織維腫等ナリ、實地上  
二 肺内ノミニ存在セルモノ、或ハ胸廓ノ何レカニ原因的乃至續發的關係ノ有スルモノ。

三 原發性腫瘍或ハ續發性腫瘍

肺又ハ胸廓ニ發生スル腫瘍ノ主ナルモノハ、癌腫、肉腫、淋巴腺腫、骨腫、軟骨腫、織維腫等ナリ、實地上  
最モ多ク遭遇セルモノハ癌腫及肉腫ナリ。

第五百十七圖



肺臟腫瘍ノ形狀、發生ノ部位ハ一樣ナラザレドモ、又共通セル腫瘍特有ノ影像、好發部ノ一定ナキニシモ非ズ。

肉腫ノ陰翳ハ、多クハ圓形ナリ、其境界ハ  
鮮明ナラズ、而テ該陰翳ヨリ周圍ニ向ヒ、  
浸潤索ノ射出セルヲ見ル。肉腫ノ好發部位ハ  
多クハ肺上葉ナリ、然レドモ亦肋骨  
々膜ヨリ發生シ(骨肉腫)、或ハ淋巴腺ノ

結締織ヨリ發生セルモノアリテ、肺門部ヲ占領セルコト稀ナラズ。第五百  
七十七圖ハ腫瘍(イ)ガ肺門ヨリ發生シ  
テ右肺ヲ占領セシモノナリ、其外界ハ  
右方ニ突隆シ分明ナルモ肺尖側ハ不明瞭ナリ、大動脈弓部ヲ壓迫セラル。

原發性癌腫ハ肺臟上皮細胞又ハ氣管支粘膜ヨリ發生ス、氣管支癌腫ハ多ク  
ハ小ク且ツ多發性ナリ、故ニ往々結核性氣管支周圍炎又ハ氣管支擴張ト區別シ難キコトアリ。

第五百七八圖



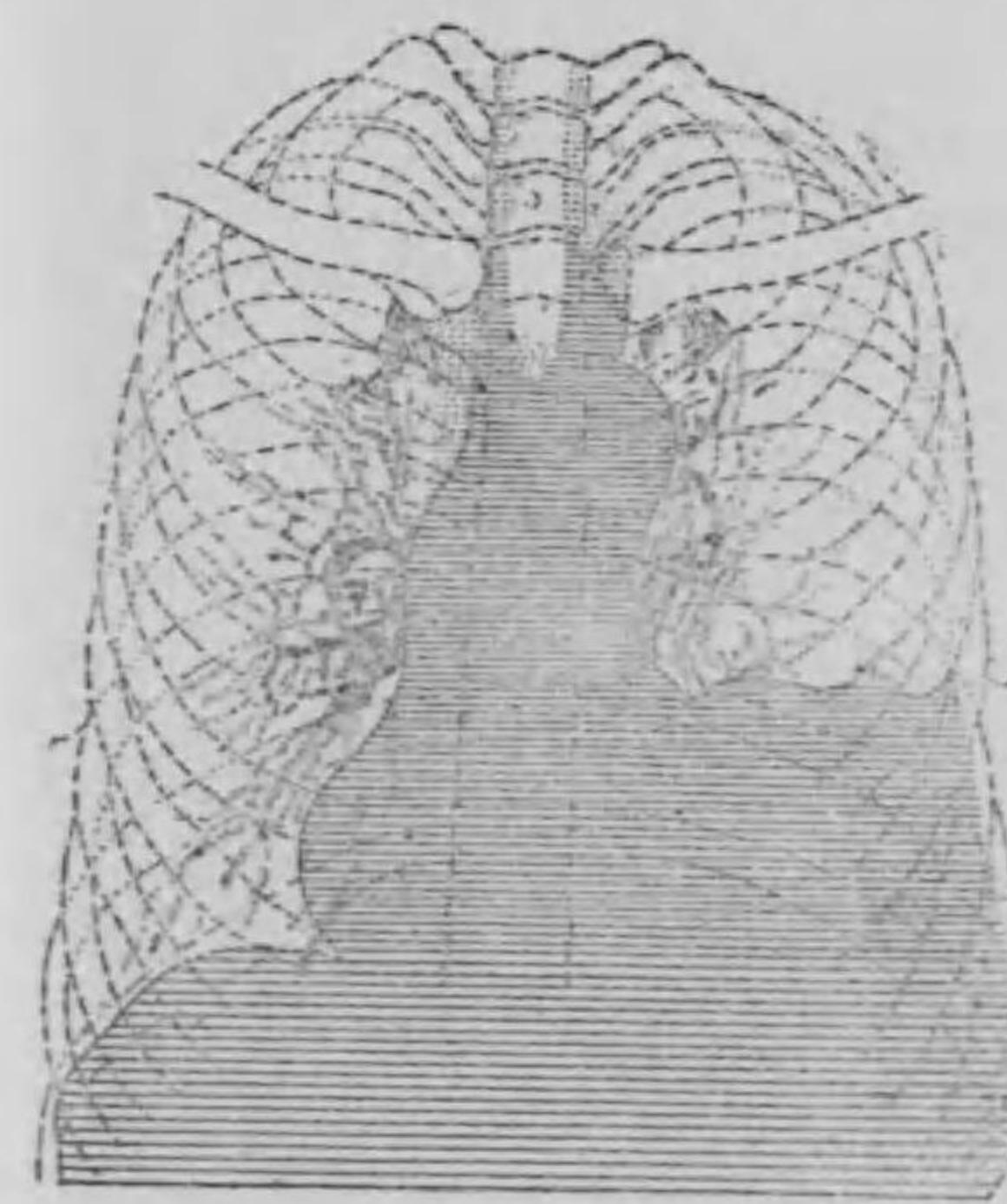
子宮癌等)ノ未ダ何等ノ症狀ヲ表サザルニ、既ニ肺ニ現レ、シカモ著シキ大サニ達セルコトアリ、概シテ轉移ノモノハ、其發育旺盛ナリ、多發性散種性轉移性肺癌腫ハ散種性結核ニ酷似シ、結核竈ノ鑑別ヲ困難ナラシム、唯熟達セル眼ニハ兩者ヲ辨别シ得ベシ、腫瘍ノ陰翳ハ多クハ孤立性ナリ。第五百七八圖ハ右肺門ヨリ發生シテ殆ンド右肺全葉ヲ占領セリ。

大結核竈ニアリテハ、他ノ肺組織ニ尙結核性病變ヲ認ムルコト多キニ腫瘍ノ陰影ハ、一般ニ單一ナル形

状ヲ呈セリ、又結核ニ於テハ小ナル陰翳ノ相連關セルモノ多シ、殊ニ末梢ニ於テ之ヲ認ム可シ、尙肺門陰影ハ結核ニ於テハ濃ク、腫瘍ニアリテハ肺門ガ間接ニ犯サレザルコト多シ。第五百七十九圖ハ左肺葉ヨリ發生セシ肉腫ニシテ其上界ハ波濤狀ヲ呈セリ、横隔膜トノ境界ハ不明ナリ、心臓ハ各方ニ壓迫セラル。

肺臟護謄腫ハ癌腫ニ類似セル陰翳ヲ呈スレドモ、概シテ護謄腫ノ陰翳ハ、他ノ腫瘍程ニ濃カラズ。胸腔内腫瘍ニテ其陰影ガ寫眞板上ニ於テ胸腔ノ末梢或ハ縦隔竇ト連續セルヲ見ルコトアルモ、カ、ル陰影ノ形狀ハ、必ズシモ腫瘍ニ特徵ノモノニハ非ラズ。腫瘍ノ性質、發生部位ヲれんごん検査ニテハ證明シ

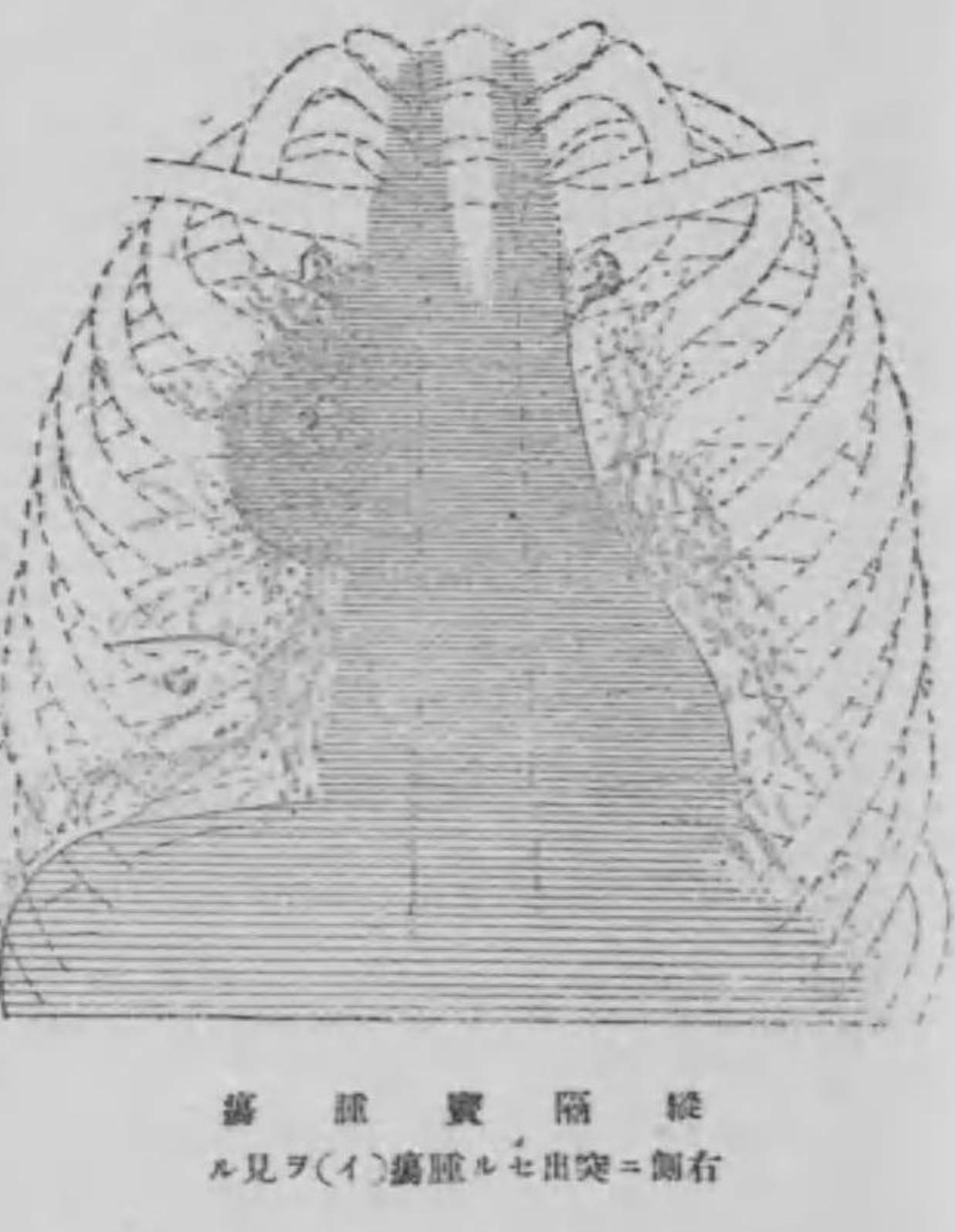
第五百七十九圖



壁、肋膜腔、肺部ヲ悉ク掩覆セバ、其腫瘍ハ何レノ部位ヨリ發生セシヤヲ斷言シ得ズ。ホルツクネヒトハ、唯或透視方向ニ於テ判シ得ラル、陰翳ハ、恐ラク肋膜腫瘍ト見做スレドモ、其他ノ深在セル腫瘍ノ原發部位ヲれんごんニテ知ラントスルハ不可能ナリト謂ヘリ。

縦隔竇腫瘍、脊柱腫瘍、肋骨腫瘍ト肺臟腫瘍トノ區別ハ難シ。轉移性腫瘍ガ發育スルヤ原發肺腫瘍ト異リテ

第五百八十圖



一定程度マデハ、其陰翳ノ境界ハ鮮明ナリ、然レドモ漸次增大シ、全ク肺ヲ壓迫スルニ至レバ、肺影像ハ暗クナレリ。

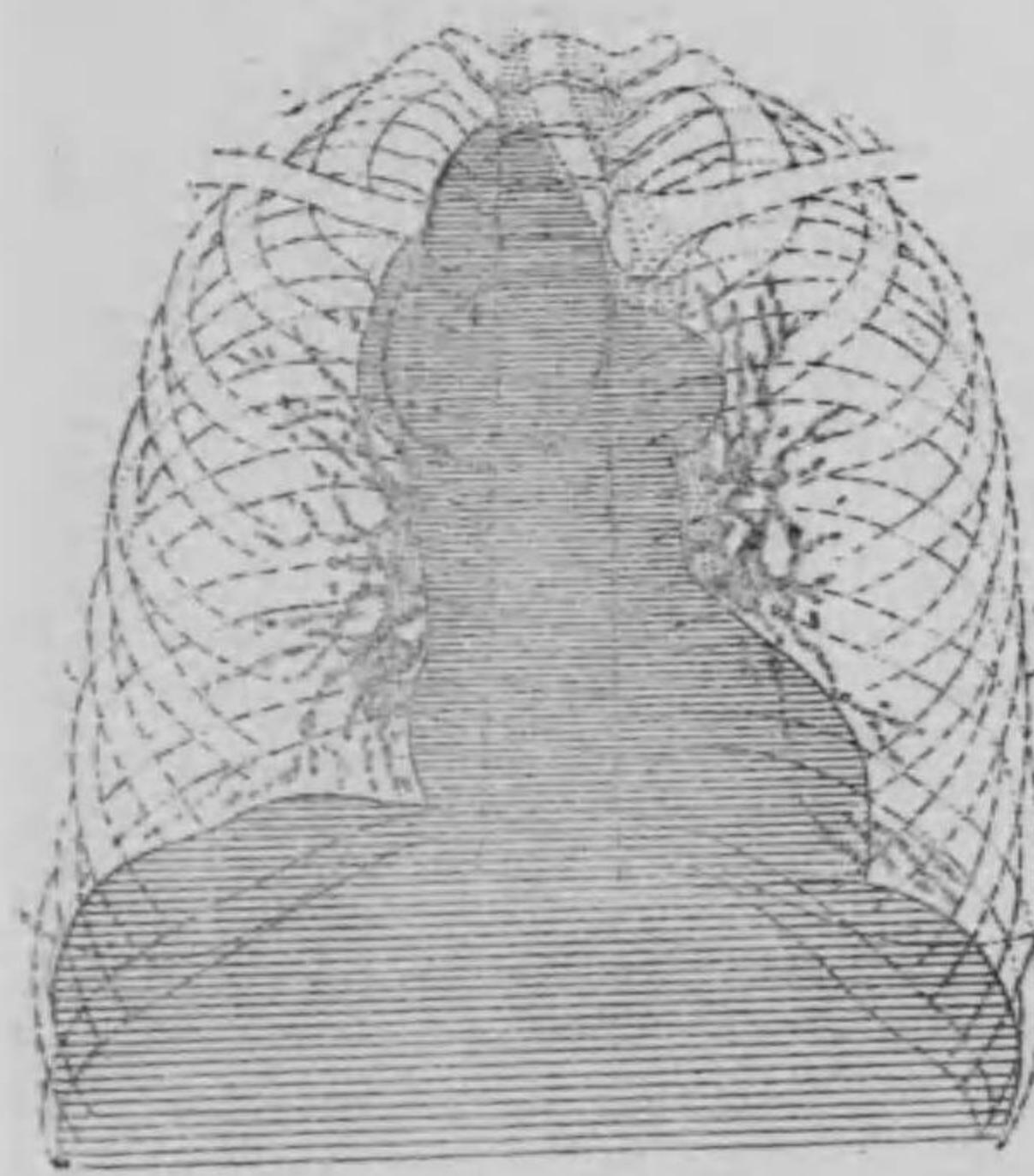
實際上ニ重要ナルハ、脊柱ヨリ發生セル腫瘍（流注腫瘍モ亦然リ）ナリ、是ヲ發見センニハ腹背位透視方面ニ於テ検査スペシ。脊柱ノ病變ハ屢々れんごん検査ニテ直ニ識り得ベク、又之ニ隣接セル脊柱ノ變化ヲ想像シ得ルコトアリ。

胸廓下部ノ腫瘍ハ、助膜炎性肥厚層形成、滲出液、膿瘍、氣管支擴張ト誤認スルコトアリ、之ヲ診断スルニ際シテハ他ノ臨床的所見ヲ考慮セザル可ラズ。

胸腔腫瘍中最モ多ク遭遇スルハ、縦隔竇腫瘍ナリ（第五百八十圖參照）。縦隔竇ヲ前後ニ區別ス、即チ前縦隔竇、後縦隔竇ナリ、其境界ハ氣管ノ後壁平面ヲ以テス、故ニ後縦隔竇ニハ、食道、胸管、下行大動脈、奇靜脈、半奇靜脈及ビ神經ノ一部之ニ含マレ、其他ノ血管、神經、及ビ氣管等ハ前縦隔竇内ニ在リ、尙上方ニハ胸腺存在ス、又胸内甲状腺ハ前縦隔竇内ニ存シ、淋巴腺ハ前後縦隔竇内ニ存在ス。矢狀位透視方

面ニ於テ、常態ノ心臓、血管陰影ガ變位セルヲ見テ、初メテ腫瘍ノ所在ヲ推斷シ得ル場合アリ、然レドモ其腫瘍ハ何レノ臟器ヨリ發生セシヤヲ斷定シ得ザルモ、時トシテハ陰影ノ濃度ニヨリテ説明シ得ルコトナキニシモ非ズ（甲状腺腫）。背腹位透視方向、腹背位透視方向ニ於テ其腫瘍ノ大サ、陰影ノ濃度等ノ差異アレバ、能ク其所在位置ノ深淺ヲ想像シ得、猶斜位透視方向、或ハ前頭位透視方向ニテ検査スペシ、腫瘍ガ前後縦隔竇ノ何レヨリ發生セルヤヲ判定スルハ容易ナラズ、ソンデルハ前縦隔竇ノ腫瘍ハ、體位ノ廻轉ニツレ、腫瘍ノ位置モ亦大動脈陰影ト共ニ變ジ、後縦隔竇ノ腫瘍ハ脊柱ノ陰影ト共ニ其位置ヲ變ズルヲ其

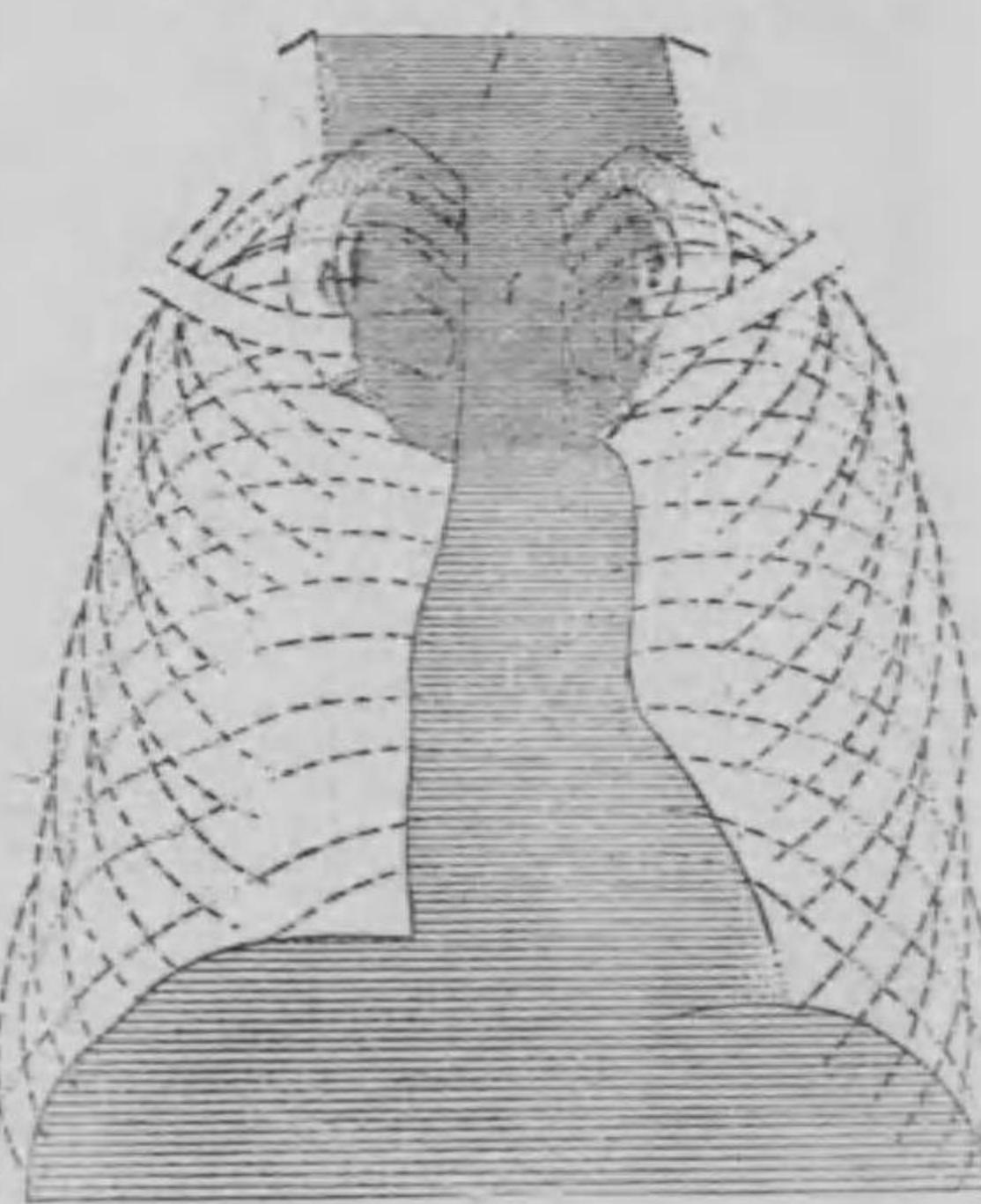
第五百八十一圖



異リ、呼吸運動ニ關與セズ、心臓血管ガ正中線ヨリ外方ニ壓迫セラル、ハ稀有ナレドモ、前方或ハ後方ニ壓迫セラルルコト多シ、上行大靜脈、氣管（喘鳴）食道（嚙下困難）、橫隔膜神經（一側ノ橫隔膜麻痺、舉上）回歸神經（嘶嗄）等ノ壓迫症候ハ屢々縦隔竇腫瘍ニ遭遇スルナリ。第五百八十一圖ハ腫瘍（イ）ガ縦隔竇ヨリ發シテ、正中線上ニ突出シ大動脈弓部及ビ氣管ヲ左方ニ壓迫セリ。

右方ニ重發セル邊緣ヲ見ルハ腫瘍ノ前後縫ナリ。

第五百八十二圖

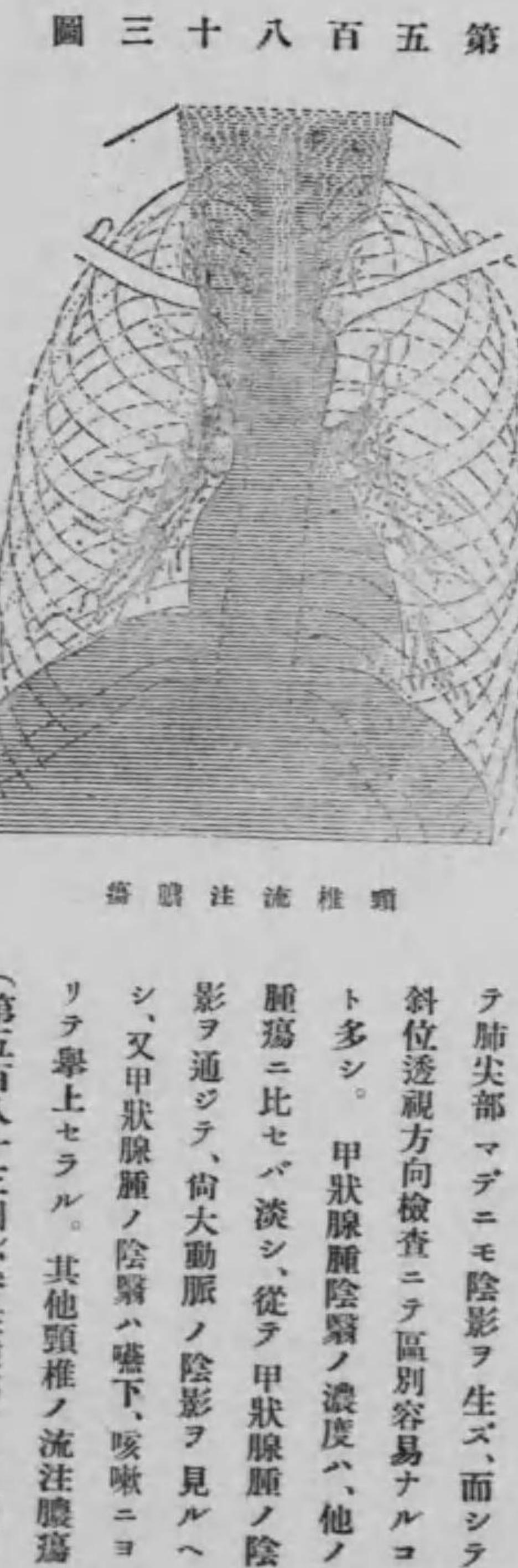


種々ノ透視方向ヨリ透視検査ヲ行ヒ、出來得ル限り、精細ニ腫瘍ノ位置、大サ等ヲ知リタル後、餘リ硬カラザル管球ヲ用キテ一回或ハ數回ノ寫真撮影スルヲ可トス、良好ノ撮影寫真板ニ於テハ、各陰影ハ互ニ蔽覆セルコトアリト雖、其關係ヲ明ニナシ得ベシ。

後縦隔竇腫瘍ニヨル壓迫症候アレバ、瞬間撮影法ヲ行ヒ、食道ノ蒼鉛食嚥下運動ノ状態ヲ窺知スペシ、縦隔竇ノ腫瘍（癌腫、肉腫、淋巴腺腫等）ノ鑑別ハ、他ノ臨床的症候ニ據ザルトモ、れんごん検査ニテ知リ得ルコトナキニハ非ズ。縦隔竇腫瘍ト大動脈瘤トノ鑑別ハ至難ニシテ、又實際不可能ナル場合アリ、此際、大動脈ノ全經過ヲ追求スルハ頗る緊要ノコトナリ、蓋シ、大動脈瘤ニテハ、大動脈ノ他ノ部ニ於テモ、同時ニ病變ヲ發見スルコト多シ、殊ニ大動脈瘤又ハ大動脈擴張ガ微毒ニ基ケルモノニ於テハ、大動脈又ハ他ノ血管ニ微毒性症狀ヲ屢々呈セリ、腫瘍ノ陰影ハ多クハ濃キモノナルモ、唯其濃度ノミニテハ、大動脈瘤ト區別シ能ハズ、又其形狀ノ大小ニテモ大動脈瘤ト鑑別シ得ズ、蓋シ大動脈瘤モ、腫瘍ノ如ク著シク大ナルコトアリ、時トシテハ、全胸腔ヲ

殆ンド占有セルコトアリ、大動脈瘤ノ大ナルモノニシテ、搏動運動ナク且ツ増大セシモノニ於テハ益々腫瘍トノ區別ハ至難ナリ。腫瘍ノ發育ハ概シテ大動脈瘤ヨリモ急劇ナリ、且大動脈瘤ニテハ、肺部ニ境界明瞭ナル陰翳ヲ作レドモ、腫瘍境界ハ多クハ明劃ナラズ。上述ノ特徴ハ必ずシモ、絶體的特徴ニハ非ズ、故ニ之ヲ診断スルニ際シテハ、病歴、臨床的經過ヲ觀察シテ鑑別診断上ノ資料トナスベシ。

胸骨下甲状腺腫ハれんごん検査ニヨリテ、能ク認識シ得ベシ、而シテ他ノ縱隔竇腫瘍トノ鑑別ハ至難ニ非ズ。胸骨下甲状腺腫ノ陰翳ハ、主トシテ中央陰翳ノ上部ニ位シ、且左右對等ニシテ鎖骨ノ高サニ達ス(第五百八十二圖参照)。胸骨下甲状腺腫ニハ無名動脈瘤トノ鑑別必要ナリ、此動脈瘤ハ、甲狀腺腫ト同シク、胸骨鎖骨間隅角ニ存シ、時トシ



第五百八十三圖

氣管ガ胸骨下甲状腺腫ニ壓迫セラレテ轉位セルコトハ、陰影乾板上ニテ見ルヲ得ルナリ。

肺包蟲囊ノ陰影ハ、特有ニシテレピー、ドルン、ツアデック、ワドザック、山田ノ報告アリ、其陰影ハ多クハ卵圓形ヲ呈シ、境界ハ頗ル明劃ニシテ、他ノ肺組織ト明ニ區別セラル、囊ニ空泡存在セバ、其陰影ノ上部ハ透明ナリ、而シテ囊胞ノ氣管支ト交通シ、其内容ノ一部又ハ全部ノ喀出セラレタル後ニハ、透明ノ空胞ノ周圍ニ陰翳輪ヲ生ゼリ。

斜位透視方向ニ於テ包蟲囊ト肝臟トノ間ト索状ノ陰翳ヲ認メ、恰モ包蟲囊ノ莖ノ如キ外觀ヲ呈セルコトアリ、是包蟲ノ肝臟ヨリ肺内ニ破裂セシモノナリ。

胸腺腫ハ前縦隔竇ニ限ラレタルモノナリ、前頭位透視方向ニ於テ明ニ之ヲ見ルヲ得ベシ。

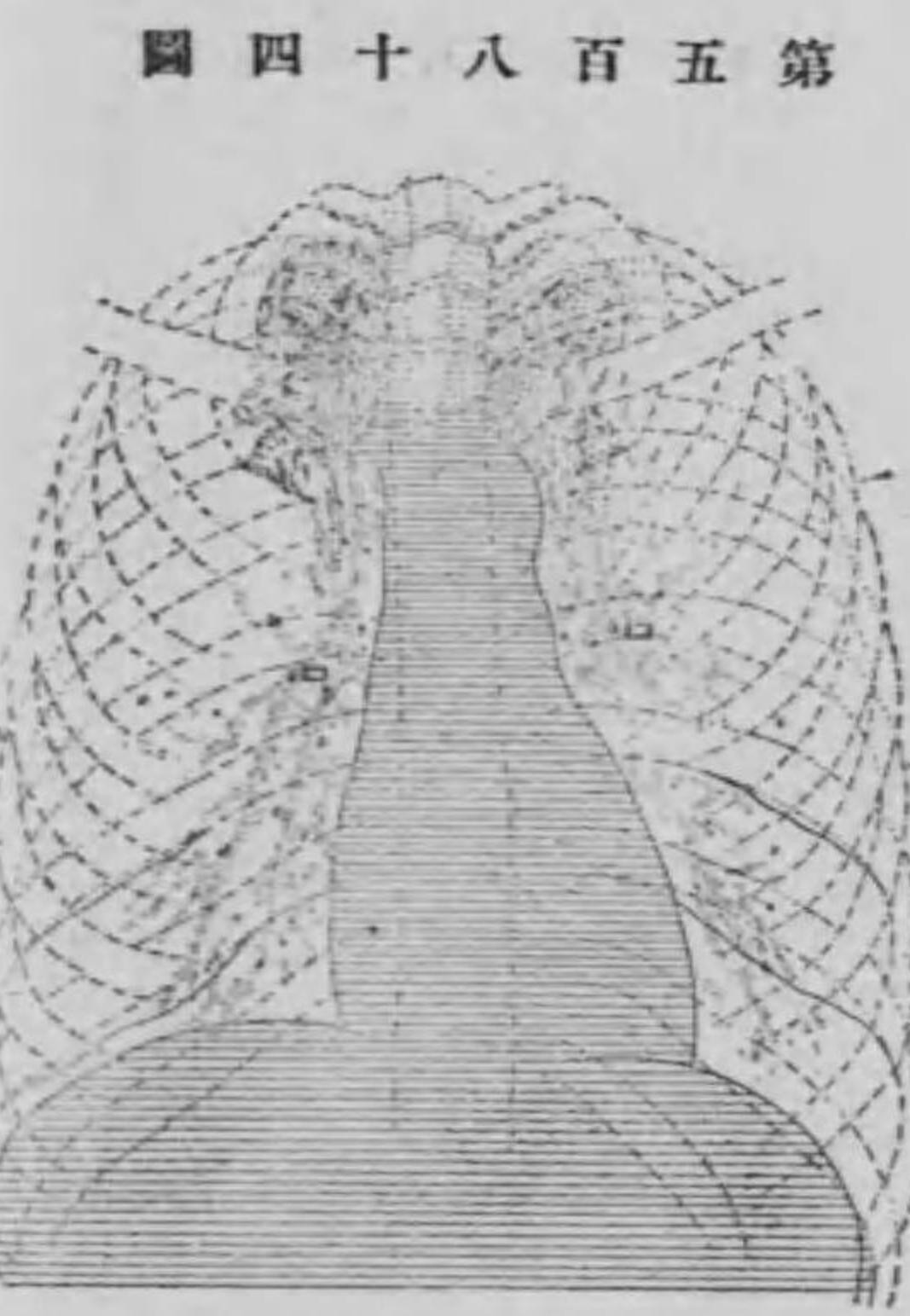
内臓諸疾患ノれんごん診断ハ、他ノ臨床的診断ヲ補足シ、有力ナル判定ヲ與フモノナリ、就中肺結核ノ診断ニハ、特ニ之ヲ感ズルコト至大ナリ。れんごん検査ガ他ノ理學的診断法ニ卓越セルハ、主トシテ淋巴腺結核ノ診断ニ在リ、是ニ由テ結核傳染ノ起始、傳播、經過等ニ關セル舊來ノ見解ヲ改削セルニ至ラシメ、殊ニ小兒結核ニ關スル臨床的研究ニハ、れんごん検査ハ、缺クベカラザルモノナリ、れんごん検査ニ來レル患者ハ、既ニ肺結核ノ陽性所見ヲ有セルモノニシテ其感染期ハ遠キ以前(多クハ小兒期)ニ在リ、れんごん検査ヲ以テ、ヨク其早期感染部位ヨリ直接ニ蔓延セシモノカ、或ハ淋巴腺又ハ其他ノ結核性病竈ヨリ傳染セシヤヲ知リ得ベシ、肺結核ノれんごん診断上、之ヲ左ノ如ク分類ス。

一 慢性播種性肺結核 種々ノ時期(第一、第二、及ビ第三期)ゲルハルト、ツルヘンニ於ケルモノ、及び種々ノ破壊現象(空洞乾酪變性等)ヲ呈セルモノ。

二 肺結核 淋巴腺(肺門、氣管支淋巴腺)及他ノ病竈(肋膜)ヨリ波及セシモノニシテ、其傳播セル病竈ノれんごげん所見ハ特有ノモノナリ。

### 三 粟粒結核

### 四 結核性淋巴腺腫

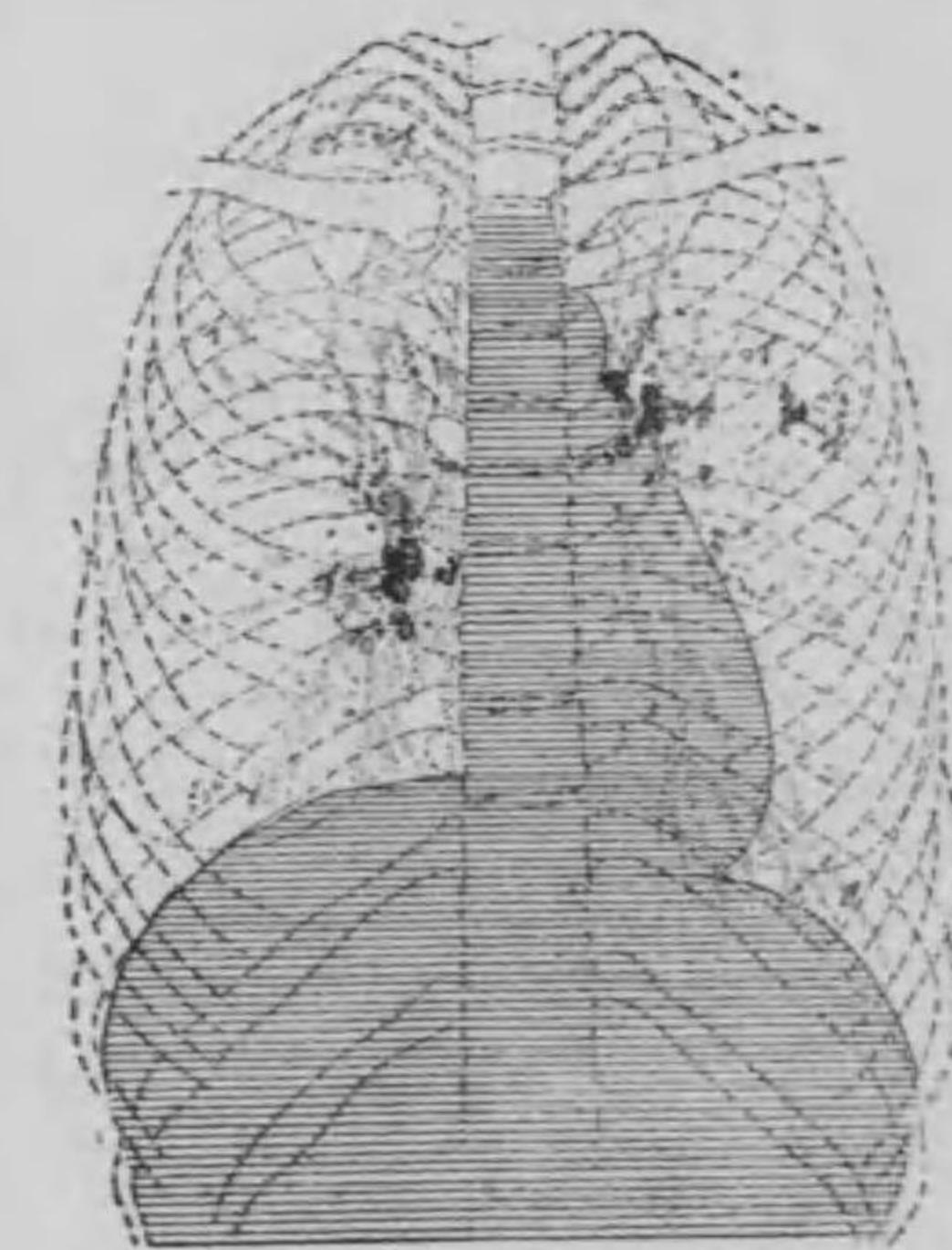


兩行走性核結ルケ於=尖肺兩

肺結核診斷ニ關スルれんごげん技術、種々ノ識別法(病竈ノ陰影、漏洩性ノ暗黒部、兩肺尖ノ比較)ハ、一般技術篇ニ述タルヲ以テ茲ニ省畧ス可シ、初期結核ノ診斷ノれんごげん検査成績

ト努力セシガ、(クレーニッヒ氏打撃界、ゴルドシナデル氏肺尖打診法)實ニれんごげん診斷ハ、早期診斷ニ多大ノ援助ヲ與フモノナリ。

第五百五十八圖



索性・結核

ハ、未ダ全キモノニハ非ズ、又肺尖ノ寫真撮影法ヲ行フモ十分ニ其目的ヲ達セザルコトアリ、是レ打診或ハ聽診ニヨリテ診斷シ得ル初期ノ小浸潤ハ、其密度ノ僅少ナルタメニ、れ線ヲ透過セシメテ、病竈ノ陰影ヲ認識シ得ザル場合アレドモ、肺尖打診法ヲ如何ニ巧ニ行フモ、患者ノ状態、例へバ胸廓ノ構造ノ如何ニヨリテハ、打診上ニ於ケル物理的要件ヲ缺キ、初期結核ヲ確實ニ診断シ得ザル場合アリ。れんごげん診斷ノ経験ニ徴スルニ、浸潤ノ肺尖部ノミニ瀰漫セルヲ、肺結核ノ初期患者ニ見ルハ稀有ニシテ、全肺葉及ビ淋巴腺系ヲれんごげん検査セバ、必ズヤ、他ニ結核性病竈ノ所在ヲ發見スルコトアリ、或ハ少クトモ、他ニ結核感染ノ起始部ヲ發見スルナリ。肺尖部ヲ透視検査スルニハ兩側肺尖部ノ大小(萎縮)、透明度ノ差異ヲ吟味スルヲ怠ルベカラズ、背腹位透視方向及ビ腹背位透視方向ニテ行ヒ、患者ニ呼吸運動又ハ咳嗽ヲ行ハシメテ、兩側ノ差異アルヲ知リ、其差異ヲ撮影スベシ、是ニヨリテ小結核竈ヲ發見スルコト稀レナラズ。

播種性結核ノ進行時期ノ診斷ハ容易ナリ、病竈組織ハ稠密トナリ、陰翳ノ濃淡及ビ形狀ニヨリ一定度マ

## れんせんげんじんか

八〇〇

デハ、病竈ノ解剖的性質ヲ推知シ得ベシ、即チ病竈ガ多數ノ小結核ヨリナレルカ(多クハ初期ノ病變ニ多シ)、或ハ廣キ結核竈ナルヤヲ判知シ得ベシ、乾酪變性ニ陷レル結核竈ノ陰影ハ寫真上ニ於テハ、初期ノ結核性顆粒ニ、比セバ一層濃ク、多クハ大ニシテ平等ノ陰翳ヲ呈セリ、就中石灰變性、乾酪變性ニ陷レル淋巴腺ノ陰影ハ最モ濃厚ナリ。

## 慢性進行性結核

ニ於テハ石灰變性ヲ見ルコト寧ロ稀ニシテ、破壊性空洞ノ形成ヲ特有ノ所見トス、空洞ハ肺結核ノ未ダ廣ク蔓延セザル時期ニ於テモ、之ヲ見ルコト稀ナラズ、而シテ空洞ハ肺上葉ニ發見スルコト最モ多シ、肺上葉ノ空洞ハれんごげんニテ、探索シ易キモノニシテ、其大ナハ様々ナリ、小豆大ノ者ニ於テハ其中央ニ空洞アルモ、之ヲ見ルコト能ハズシテ、唯一様ノ陰影ニ過ザルモ、著シク大ナルモノニハ、手拳大若クハソレ以上ニ達セリ。肺組織ノ壞死溶融シテ作レル空洞ニハ、内腔及ビ外縁ヲ見ル、内腔ニハ崩解物質ヲ容レルコトアリ、或ハ之ヲ咯出シテ空虚ナルコトアリ、外縫部ハ炎性浸潤ノ爲メ肥厚シテハ、特有ノれんごげん像ヲ呈セリ、即チ病竈周囲ノ炎術反應、浸潤ニ於テハ孤立セル結核(ロ)ヲ見ル。

第五百八十七圖



洞ハ早クヨリ存シ、輪狀陰影ヲ呈セリ而シテ病勢ガ進行セバ、其内容ハ乾酪化シ、又ハ液化シテ、暗黒ノ陰翳ヲ呈ス、浸潤輪影ハ後者ヨリモ早クヨリ存セリ。内容ガ乾酪化シ、液化シ、或ハ内ニ膿液ヲ瀦溜セバ、其空洞ノ陰翳ハ浸潤ノ陰翳ト辨别シ難キコト多キモ、圓形或ハ卵圓形ヲ呈シ、境界明瞭ナル爲ニ空洞タルヲ推断シ得ベシ。第五百八十六圖ニ於テハ右肺全葉ヲ占領セル結核性乾酪竈アリ、殊ニ左肺上葉ニ於テ手拳大ノ空洞(ロ)アリ、其下縁(イ)ハ浸潤著シ。

空洞内ニ空氣ヲ含有スレバ、他ノ肺部ヨリモ透明トナリテ、肺ノ構成ヲ有セザル圓形ヲ呈セリ。空洞内ニ蓄溜セル分泌物(粘液、膿液)ハ、多クハ粘稠ニシテ、殊ニ小空洞ニ於テハ、肺膿瘍ノ如ク、其水面ハ移動セズ、空洞ノ大サノ中等ノモノ、或ハソレ以上ニ達セルモノニアリテハ、空洞ノ充實、空虛ヲ明ニ區別シ得ベシ、空氣ヲ含有セバ、一見明ニシテ、初學者ト雖、ヨク之ヲ認識シテ誤謬セズ、注意スヘキハ、空洞ガ時トシテ氣胸ト誤マラル、コトナキニ非ズ。第五百八十七圖ニ於テハ乾酪化セル小病竈ノ肺門ヨリ、周圍ニ向ヒ散在セリ、右肺ハ肋膜炎ヲ併發セルヲ以テ一般ニ不分明ナリ、左側ニ於テハ肺尖及ビ中葉ニ於テ孤立セル結核(ロ)ヲ見ル。

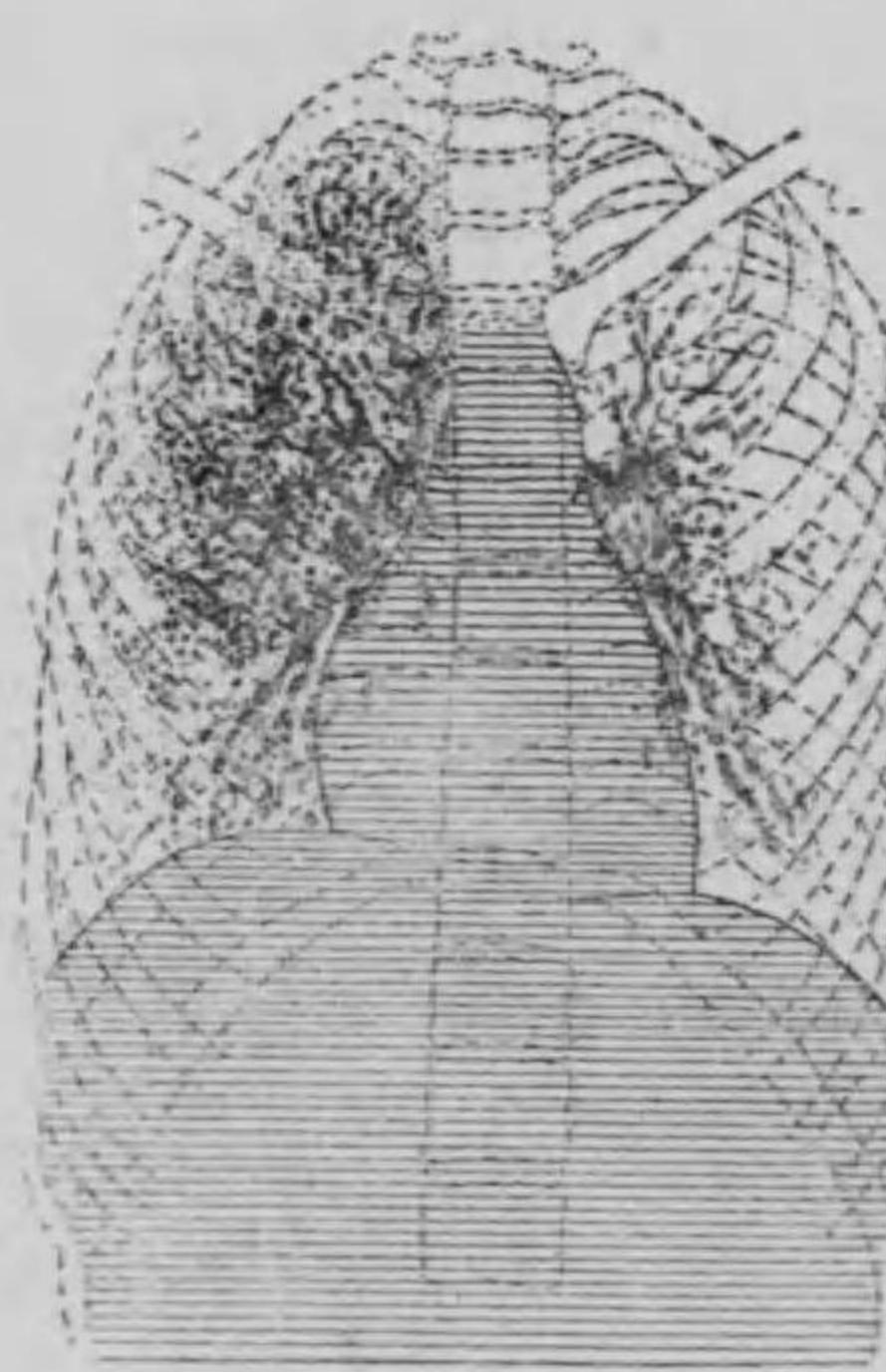
肺膿瘍、肺包蟲囊トノ鑑別診断ニハ、臨床的徵候トれんごん所見トヲ綜合スレバ其辨別容易ナリ、放射ノ方向、若シ大氣管支ノ長軸ニ投射セシトキハ、空洞ニ類似セル影像ヲ現出スレドモ、輪狀陰影ノ位置（肺門部ノ周圍ニ限ラル）及ビ他ノ所見ニヨリテ其區別容易ナリ、之ニ反シ空洞ノ存セルニ拘ラズれんごん検査ニテ之ヲ認メ得ザルコトアルハ、空洞ノ透明部ガ、胸廓ノ一部、例へバ肋骨陰影、或ハ他ノ病竈ノ濃キ陰影ニ、全ク蔽覆セラル、ナリ、故ニ打診又ハ聽診ニヨリテ空洞ノ存在ヲ確メナガラ、れんごん寫眞ニハ、之ヲ發見シ得ザルコトアリ、然

レドモ、殊ニ深在ノ空洞ノ早期診断ハ、他ノ理學的診断法ヨリモれんごん検

査ニ若クモノナシ、其他必要ナルハ、一侧ガ罹患セル場合ニ、他部又ハ患部ノ周邊、殊ニ下葉ニ續發セル代償性肺氣腫ノ存在アルヤラ知ルコトナリ。撒種性結核ノ蔓延ノ状態ハ實ニ多種多型ニシテ一侧ノ肺ニ於テ部分的ニ、或ハ上葉ニノミ多發セルコトアリ。第五百八十八圖又ハ第五百八十九圖參照。

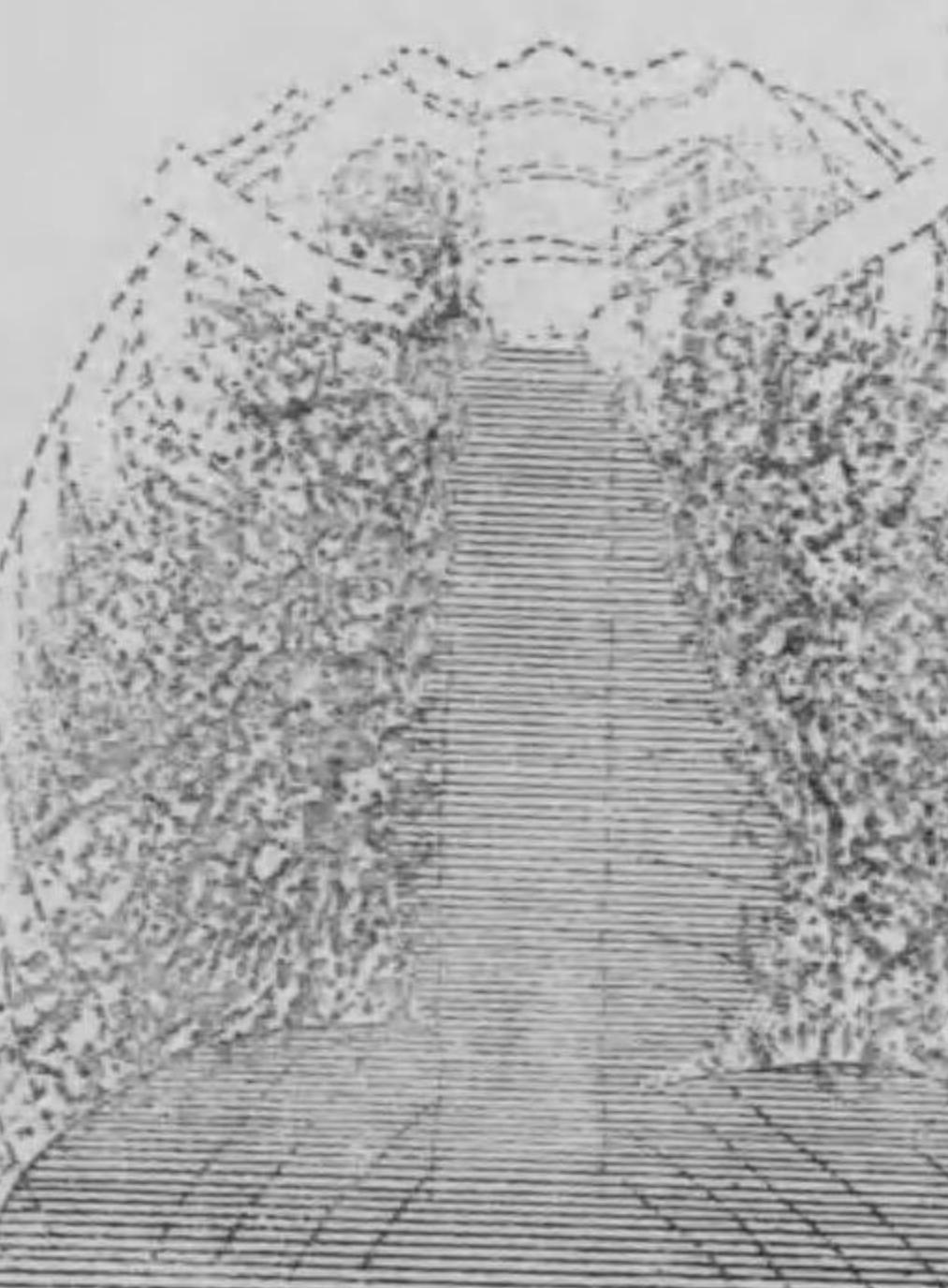
肺門淋巴腺及ビ爾陰ノ淋巴腺ヲ肺結

第百五十九圖



播種性肺結核

第五百八十八圖



肺門淋巴腺及ビ爾陰ノ淋巴腺ヲ肺結核ニシテ一側ノ肺ニ於テ部分的ニ、或ハ上葉ニノミ多發セルコトアリ。第五百八十八圖又ハ第五百八十九圖參照。

障害、肥厚層形成、肋膜炎性瘡著等ノ存在ニヨリテ之ヲ知リ得ベシ、肋膜ノ多發性瘡著ニ就テハ後章更ニ叙述スベシ。第五百九圖ニ於テ横隔膜ハ所々瘡著セリ。

肺結核ガ蔓延セバ横隔膜、殊ニ左側ハ著シク舉上シ、又屢々彎曲度ノ甚ダシキコトアリ。ウイリヤムハ、左側横隔膜穹窿ガ、吸氣時ニ於テ斷裂性運動緩弛セルヲ以テ肺尖加答兒ノ早期的症候トナセリ、實際此現象ヲ撒種性結核ニ見ルコト多キモ、其診斷的意義ハ著シキモノニ非ズ。

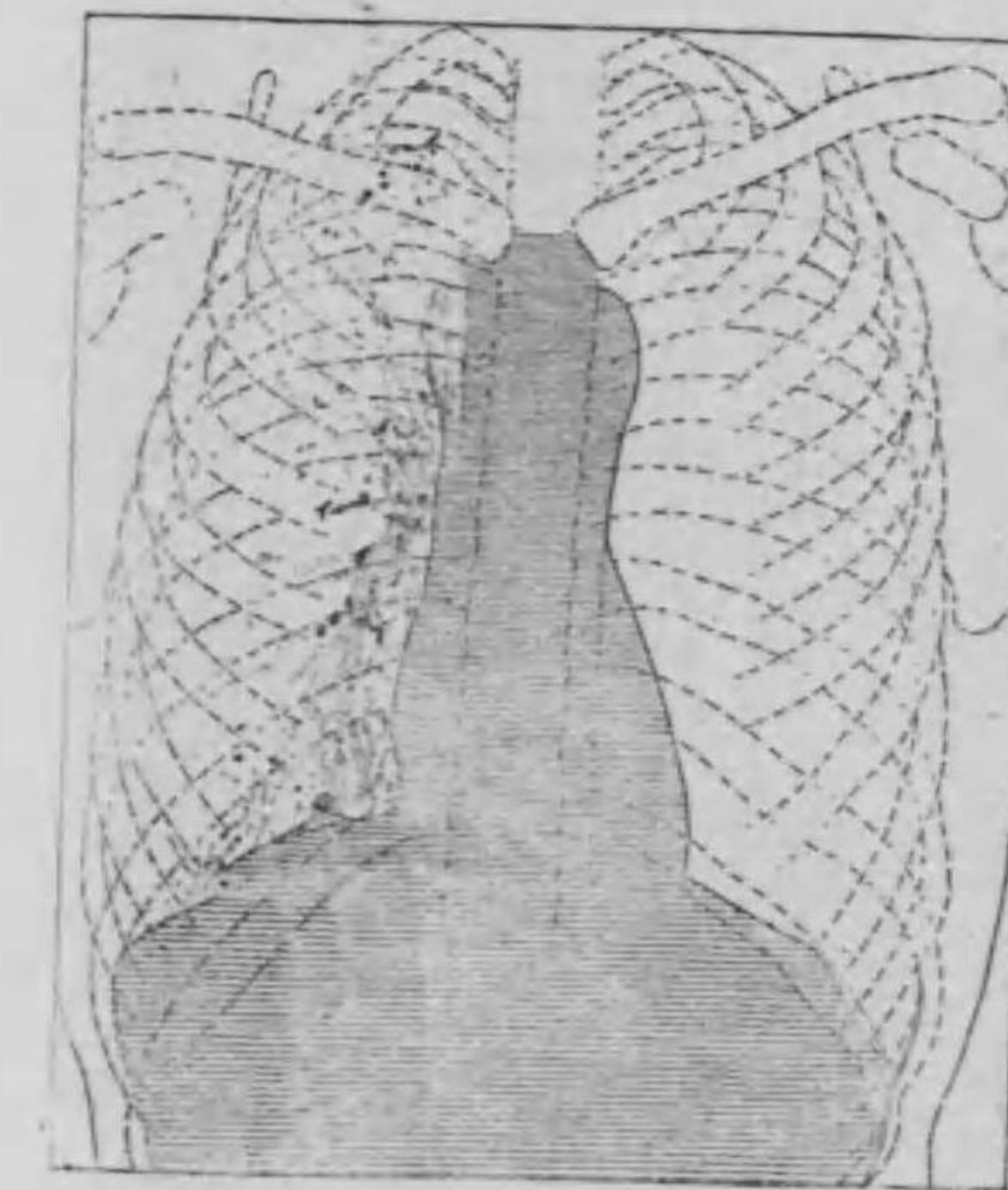
肺結核患者ノ骨骼胸廓ノ狀態ハ、注意スペキモノナリ、結核ノ症狀又ハ其治療作用ニヨリテ、骨體胸廓ハ二次的ニ變化セリ、肺尖ノ牽縮ヨリ肋間腔ハ屢々狹小トナレリ、若シ牽縮ノ廣キトキハ、全胸部ハ縮小シ、れんごん検査ニ際シ、種々ノ併發現象（側弯、心臟或ハ氣管ノ轉位）ヲ明ニ知リ得ベシ、殊ニ肺結核ガ

蔓延セバ、肋骨ハ斜走シ、助間腔ハ極メテ狹小トナリ、其れんごげん影像ハ恰モ犬ノ胸廓ニ彷彿タルコト。

第五百九十一圖ノ如シ。

結核ニ於テ肋軟骨ノ化骨ヲ見ルコト多シ、此化骨ハ上部ノ肋軟骨ノミナルコトアリ、或ハ全軟骨ノ化骨セルコトアリ、通常肋骨陰影像ニ於テ、肋骨ト肋軟骨トノ境界ハ、明ニ區別シ得ベキモ、化骨セルヤ、其陰影ハ班點ヲ生シテ胸骨端ニマテ連續セリ、細小ナル化骨班ハ、肺ノ石灰變性竈ト誤認セラル、コトアリ。肋軟骨ノ化骨ハ、若キ患者ニ遭遇セルコトアルモ、肺部ニ差シタル病變ヲ認メズ。フロインドハ數年前ニ、肋軟骨ノ化骨作用ニ注意シ、ハルトト共ニ肋軟骨ノ早期性化骨ハ、肺臟發育ノ時期ニ於テ、肺臟ノ擴張ヲ制限セルト共ニ、他方ニハ狹小ノ肋

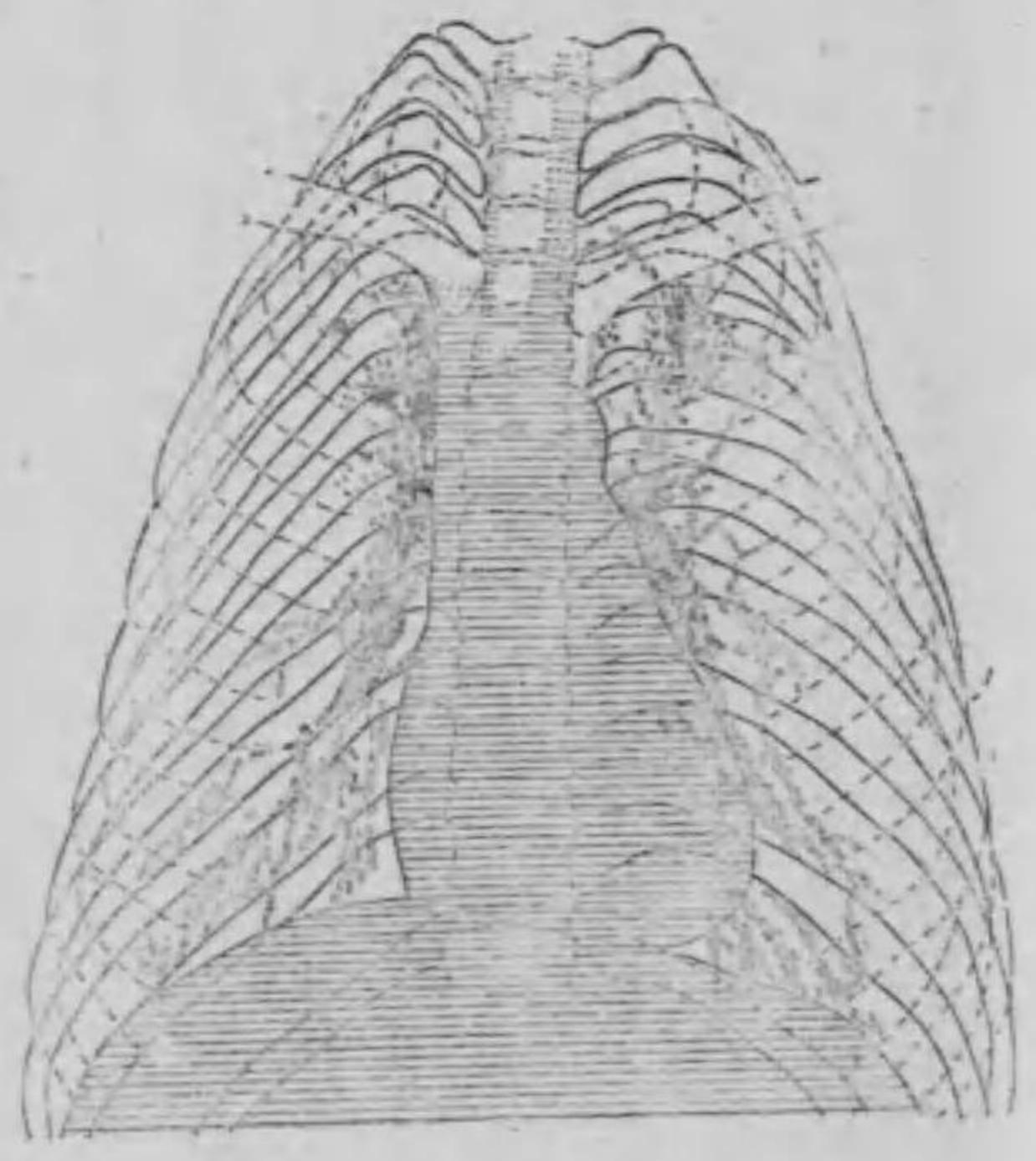
第五百九十一圖



陳性結核

骨輪ニヨリテ壓迫セラル、故ニ、肺結核感染ニ好機會ヲ與フモノナル事ヲ唱導セリ、此フロインドノ説ハバクマイスラレタルモ實際上れんごげん臨床的見地ヨリ必ズシモ、然ラザルコトアリ、肋骨ノ化骨部位ニ於テ、骨折ヲ偶發シ、虛性關節(フロインド關節)ヲ生ジテ、自然的治療ヲ促進セルコトアリ。

第五百九十二圖



小病者ノ胸廓

れんごげん検査ヲ行フニ先チ、毎常、祝診、打診、聽診ヲ行ヒ(殊ニ胸部

骨骼ノ形狀及其狀態ヲ注意シ)、次デ透視法ニヨリテ、胸部ノ概括的検査ヲ行ヒ(透明度、兩側對比)、患者ニ普通呼吸、深呼吸ヲ營マシメ、病竈ノ存在レバ更ニ遮光裝置ヲ狭小シ、背臍位透視方向、臍背位透視方向ニ於テ、肺尖部ノ検査ヲ行ヒ、肺門陰影、横隔膜運動ヲ検査ス可シ、而シテ何レカノ部位ニ於テ異常現象(陰影等)ヲ認メ、其疑ハシキ場合ニハ、之ヲ寫真撮影シ、十分ニ病竈ヲ明ニナスベシ

多クノ研究實驗ニ徴スルニ、吾人ノ胸廓ノ構造ハ、結核ノ素質及ビ其感染傳播上ニ特殊ノ關係アルモノナリ、通常健在ナル胸廓ト、病的ナル胸廓(肺結核ニ對スル素因)アルモノトノ區別セントセリ、れんごげん診斷ハ、此説ヲ是認シ、這間ノ消息ヲ明カニスベキ一新見解ヲ拓ケルモノニシテ、既ニ心臓ノ條下ニ於

テ述タル如ク、れんは一ふ係數ノ大ニシテ、且胸廓ノ狭小細長ナルモノ、ミガ、所謂狹胸者ノ外觀的特徵タルニ止ラズ、斯ル體格ノ形狀ト内臟トノ間ニハ、如何ナル關係アルカハれんごげん學ニテ、始テ知リ得ルモノナリ。

虛弱質ニ、所謂滴狀心臟ヲ認ムルコトハ既述セリ、胸廓ノ外觀、筋肉良好ニ發達シ、全身ノ發育佳良ニシテ、毫モ虛弱質ヲ呈セザルモノヲれんごげん検査ヲ施シ、心臟ノ中線ニ近ク位シ、其長軸ノ急斜シ、比較的小キ心臟像ヲ呈シ、心筋其他ノ一般的發育狀態ニ準シテ、球形ヲ呈シ（球狀心）、其他胃モ亦虛弱質ニ於テハ特有ナル形狀ヲ呈セリ、故ニ虛弱質ノ患者ヲ診斷スルニ、唯胸廓ノ外觀又ハ數字的測定法ニ據ルヨリモ、察ロれんごげん診斷ノ確實ナルコト多シトス。

虛弱質ガ、結核性肺疾患ト特ニ相關聯アルトハ、既ニ古來ヨリ經驗上唱導セラレタル所ナリ、狹胸者ハ、肺結核ノ素因ヲ有スルトハ、況ク知レル所ナリ、而テれんごげん検査ヲ以テ、詳細ニ検シ得ベシ、虛弱質ニ好機會ヲ與フルモノナリト說クリ、蓋シ擴張不全ニ陷レル肺部ハ、結核ノ好發部タレバナリ、實際上肺結核ノ蔓延ハ、肺尖ヨリ起リ漸次下方ニ波及シ、終ニハ肺組織ヲ破壊セルニ至ルベシ、肺結核患者ノ大多數ニハ虛弱質ノモノ多シ。

メンデルゾーンハ、虛弱質ニテハ、兩側第一肋軟骨ノ發育不良ナルコト多ク、肋骨ハ健者ニ比セバ短小ナリ、胸腔上際ノ狹小ハ、青年發育時期ニ於ケル肺尖ノ發育ヲ障害シ、肋軟骨ノ早期化骨ト共ニ、結核感染ニ好機會ヲ與フルモノナリト說クリ、蓋シ擴張不全ニ陷レル肺部ハ、結核ノ好發部タレバナリ、實際上肺結核ノ蔓延ハ、肺尖ヨリ起リ漸次下方ニ波及シ、終ニハ肺組織ヲ破壊セルニ至ルベシ、肺結核患者ノ大多數ニハ虛弱質ノモノ多シ。

虛弱質ノ他、結核感染蔓延上ニ體質的ニ一種ノ特徵アルモノハ淋巴質ナリ。クラウスハ、チルニーノ命名セル „Exudative Diathesis; バルタウフ、エ・シェルリヒノ „Status Thymo-lymphaticus; 佛人ノ所謂 „Arthritisme; ト稱セル體質的、及ビ症候群ヲ此淋巴質ニ包括セリ。淋巴質ノモノハ、寒冒ニ犯サレ易キ傾向（上氣道ニ於ケル炎衝、氣管支加答兒）ヲ有シ、ワルダイエル咽喉環ノ增生、頸部ノ淋巴腺、胸腔内淋巴腺ノ腫脹、增生ヲ見ルコト最モ多シ。

淋巴質ノ結核感染ハ、先づ淋巴腺系統ヲ犯セリ、淋巴腺結核ハ、主トシテ小兒期ニ發シ、所謂腺病質、或ハ腺病結核質ノ者ナリ、れんごげん検査ニ際シ、斯ル小兒ノ胸腔内淋巴腺（肺門淋巴腺、氣管支淋巴腺）ノ觀察ニ注意セザル可ラズ、肺門腺增大、陰影濃度ハ、將來純結核ニ陥リタル時ト殆ンド同程度ナリ。

肺門陰影ノ境界ハ明劃ナリ、氣管支淋巴腺索ハ、肺門陰影ノ增大ニ伴ハザルモノニシテ、肺門陰影ハナルニ拘ラズ、淋巴腺索ノ陰翳線ハ極メテ微細ナルコトアリ、而シテ多數ノ場合ニ於テ、肺臟ニハ病竈ヲ認メズ、腺病質及ビ小兒ノ肺結核ニ關スルれんごげん診斷ハ茲ニ詳述セズ。

成人ノ淋巴體質ノ者ニアリテハ、其臨床的症候ハ、多クハ腺病質ノ小兒ノ如ク著明ナラズ、肺及ビ上部氣道（鼻腔、副鼻腔）ノ加答兒性疾患ニ罹リ易キ傾向ヲ有セルヲ特徵トス、而シテ結核感染ハ既ニ小兒期ニ於テ其因ヲナシ、多年潛伏セルモ、其間ニハ何等認ムベキ徵候ナク、つべるくりん反應ヲ試ミルモ、陰性ニ終ルコト多シ、其結核原基ハ、殆ンド淋巴系統ニ潛伏セルガ故ニ、れんごげん検査ニ際シテ、肺門陰影、氣管支周圍淋巴腺索ノ濃き陰翳ヲ見ルベシ、而シテ時ニハ不定ノ發熱、著明ナル貧血、發育不良等ノ患者ノ既往ハ、淋巴質ヲ證明スルニ足ルナリ。

ゴーンハ、解剖學的研究ヨリシテ、潜在性結核竈ノ淋巴腺系統ノ他、肋膜心囊ニモ所在セルコト多シト謂ヘリ。

肋膜心囊ノ淋巴結節ハ、感染セル病的變化ノ如何ヲトスベキモノニシテ、呼吸時ニ於ケル疼痛、癰著、瘢痕ニ由レル心臟機能障害ハ、其症候ニシテ、此等ノ諸症候ハれんごん検査ニヨラズシテ、唯臨床的ニ説明スルハ至難ナルカ、或ハ全ク不可能ナリ、多發性肋膜炎ハれんごん寫真ニ於テ、其癰著ノ關係ヨリ、横隔膜或ハ心囊ガ波狀或ハ尖狀ニ屈曲セルコトニヨリテ之ヲ知ルベシ。

淋巴質患者ノ結核ハ、他ノ傳染性疾患(肺炎、流行性寒冒)、或ハ寒冒ニ續發セルモノ多シ、斯ル肺結核ハ、特有ナル蔓延狀態ヲ呈セルカ、或ハ比較的良性ノ傾向ヲ有セル頓挫性結核トシテ現ハル、コトアリ。其他骨、腎臓、眼等ノ結核、或ハあちそん病ヲ同時ニ合併セルモノ亦稀ナリトセズ。

淋巴質ノ胸廓ノ外形ニハ特有ノモノナシト雖、亦虛弱質ヲ伴フコト稀ナラズ、れんごん検査ハ、此淋巴質ノ内景ヲ説明シ得ルヲ以テ、之ニヨリテ結核感染ニ對スル相當ノ處置ヲ講ジ得ベシ。

診斷上極メテ至難ナルハ、他ニ固有ナル結核性病變ヲ認ム可キ所見ナク、又肺門陰影ノ變化極メテ輕度ナルトキハ、果シテ是ガ病的ナルヤ、將又常態ナルヤヲ判知スルニ苦ムモノナリ。而シテ直接ノ誘因、或ハ寒冒、其他ノ傳染性疾患(いんふるえんざ等)ニ續發セルヲ認メザルニ、時々發熱、違和、盜汗等ノ結核ニ疑ヲ措ク可キ症候、或ハ病歴アリテ、之ガ淋巴性體質ナルヲ思ハシムル患者ニハ、實ニれんごん検査ニヨリテ満足ニ解決シ得ベキコト最モ多シ、サレドモ羸瘦、貧血、つべるくりん反應陽性等ノ症候ノ現存セルニ、れんごん検査ヲ行フモ、輕微ノ病竈ヲ認識シ得ザル場合有ルヲ忘ル可ラズ。

前述ノ臨床的諸症候ハ、唯淋巴腺系統ノミニ限局セル結核ニ現ハル、コト多シ、此場合ニ於ケル唯一ノれんごん徵候ハ、肺門ノ組織、竇ニ氣管支淋巴腺陰影ノ強ク、且著明ニ現出シ、微細ナル陰醫索ヲ肺ノ末梢ニマデ、明ニ追及スルヲ得ルコトナリ。

肺門陰影ノ濃度、形狀ニヨリテ、常態ト病的狀態トヲ辨別シ得ルハ、既述ノ如ク極メテ難事ニ屬ス、殊ニれんごん技術ノ進歩ハ、極メテ微細ナル對照、即末梢氣管支、血管ノ微細ヲモ撮影シ得ルヲ以テ、之ガ鑑別ハ益々困難ナリ。

肺門陰影ヲ増強スル原因ハ種々アリ、コハ既ニ氣管支擴張症ニ於テ叙述セリ、此等ノ諸原因ハ、胸部ノ疾患ヲ診斷セルニ際シテ、常ニ考慮參酌スベシ、尙温性かたーるアレバ、豫メ祛痰剤ヲ與ヘタル後ニ撮影ヲ行フヲ可トス、實際ニ當リテハ、熟練ト豊富ナル經驗ヲ有セル者ト雖、肺門ノ狀態ヨリシテ、結核ニ疑診ヲ措クベキモノナルヤ否ヤヲ斷言スルノ容易ナラザル場合少シトセズ。

肺門陰影ヲ觀察スルニハ、先づ、初メニ著シキ病竈ノ有無(病竈、淋巴腺腫脹)ヲ、概括的ニ検査シ、更ニ部分的ニ詳細ニ検査スルヲ可トス。リーデルハ生理的ニ分布セル淋巴腺ヲ左ノ三系統ニ區別セリ。

- 一 縱隔竈ノ上部ニ位シテ氣管ニ屬セル淋巴腺
- 二 肺門ニ所在セル狹義ノ淋巴腺
- 三 末梢氣管支ニ屬スル淋巴腺

然レドモ淋巴腺ノ分布ハ、生理的、既ニ多少ノ異同アルモノトス、異常ニ増大セル肺門陰影ハ、多クノ場合、之ヲ寫眞板上ニ於テ之ヲ確定スルヲ得レドモ、氣管支淋巴腺ノ撮影ハ容易ナラズ、疑ハシキ場合ニハ

更ニ種々ノ透視方向ヨリ検査セザル可ラズ。

陰翳ノ濃度ヨリ、リーデルハ病的肺門淋巴腺ヲ、左ノ三種ニ區別セリ。

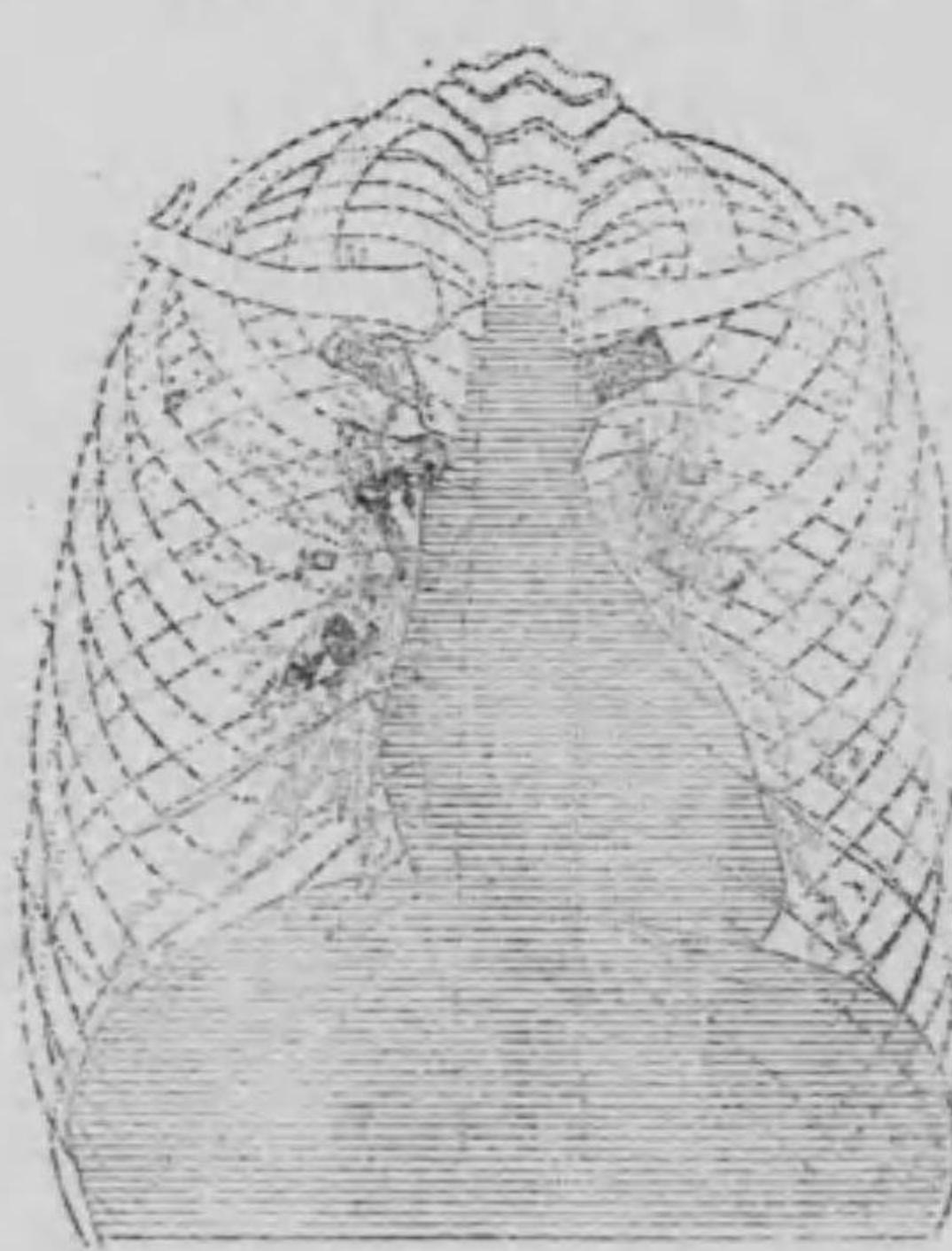
- 一 體様ニ腫脹セルモノ
- 二 乾酪變性ニ陷レルモノ
- 三 石灰變性ニ陷レルモノ

初メノ二種ノ區別ハ至難ナルモ、陰翳ノ濃度ハ病竈ト相稱應セリ、肺門腺ノ著シキ腫大ハ、結核ニ非ザル疾患ニ於テモ現ルコトアリ(肺炎、慢性氣管支加答兒、腫瘍)。誤診シ易キハ、中心部ノ浸潤竈、腫瘍、血



第五百九十二圖

第五百九十三圖



第五百九十四圖

管ガ共ニ、浸潤腫脹(結核性淋巴管炎)ヲ蒙レルハ明ナリ。

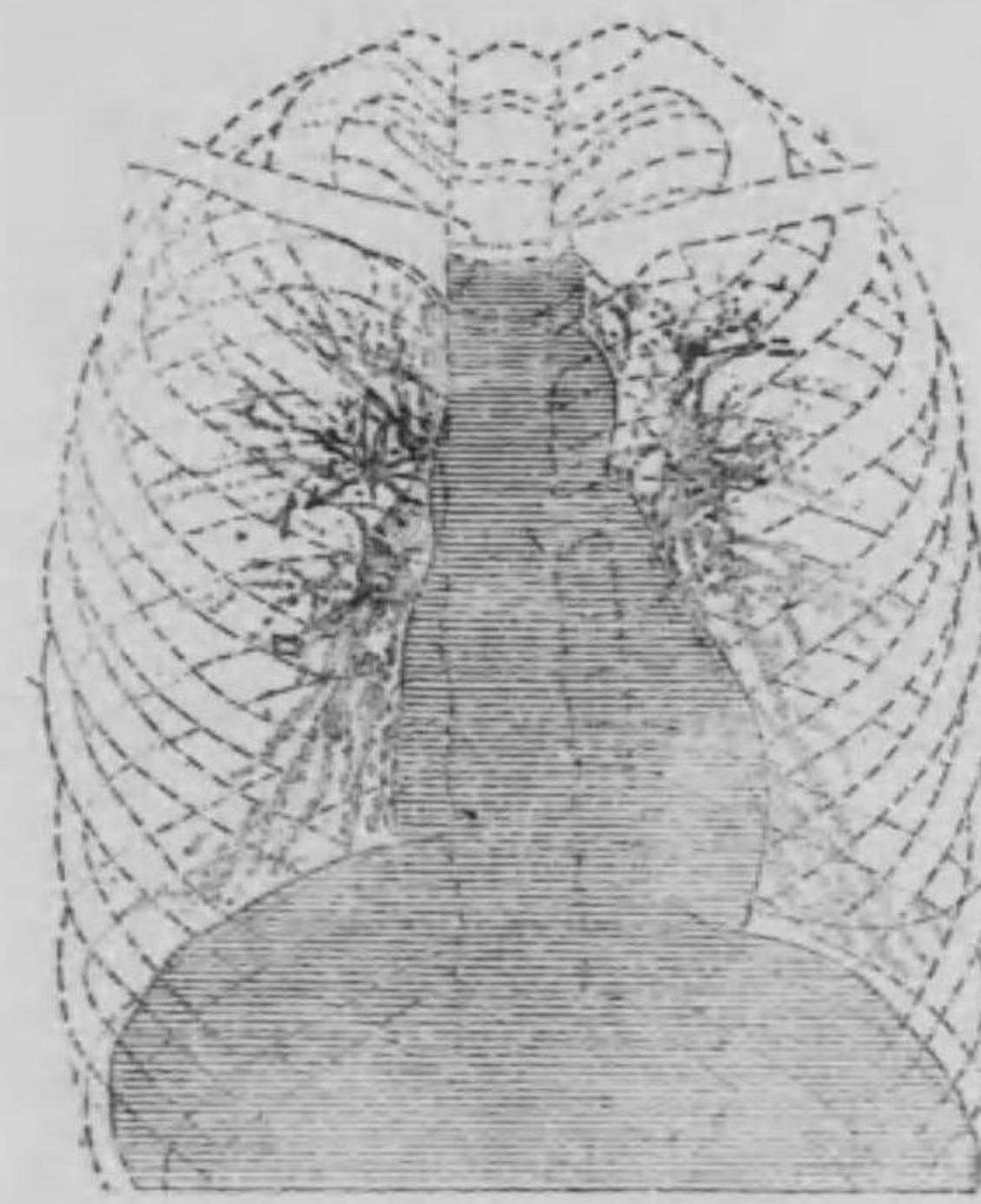
其他索狀陰影ノ強ク表レ、周縁ニ向ヒテ一條乃至數條走行セバ其附近ニ於ケル結核ヲ想像スルニ難カラズ、而シテ肺尖ニ於テ、陰翳索ノ著明ニ表レ、或ハ大理石様紋理ヲ呈セル場合ニハ殊ニ然リトス。

肺門ニ病的變化アリ、肺組織ニ結核竈存在セバ、其診斷ノ容易ナルハ言ヲ俟タズ。概シテ良性ナル頓挫性肺結核ハれんごん観察ニヨリテ證明セラル、モノナリ、即肺組織ノ一部ノ淋巴道性感染セシ場合ニ於テハ、其初發ノ浸潤部ノ病竈ハ融合(乾酪變性)シ、其所在ヲ明ニ知リ得ベシ、其寫真像ニ於テ肺組織或ハ肺門ト病竈間ニハ陰影ノ強キ淋巴腺、淋巴道トノ連絡アリ、而テ治癒セシモノ又ハ病竈ノ石灰變性セシ

モノニ於テハ病竈及肺門ヲ連結セル此陰翳線ハ全ク消失シ、石灰化セル病竈陰影ノ境界ハ劃然シ、斯ノ如キ石灰化セル病竈ノ多數ニ存在セルヲ視ルコト往々アリ。第五百九十四圖ハ肺門腺及ビ氣管支腺ハ乾酸シ、淋巴索ハ肥厚セリ。

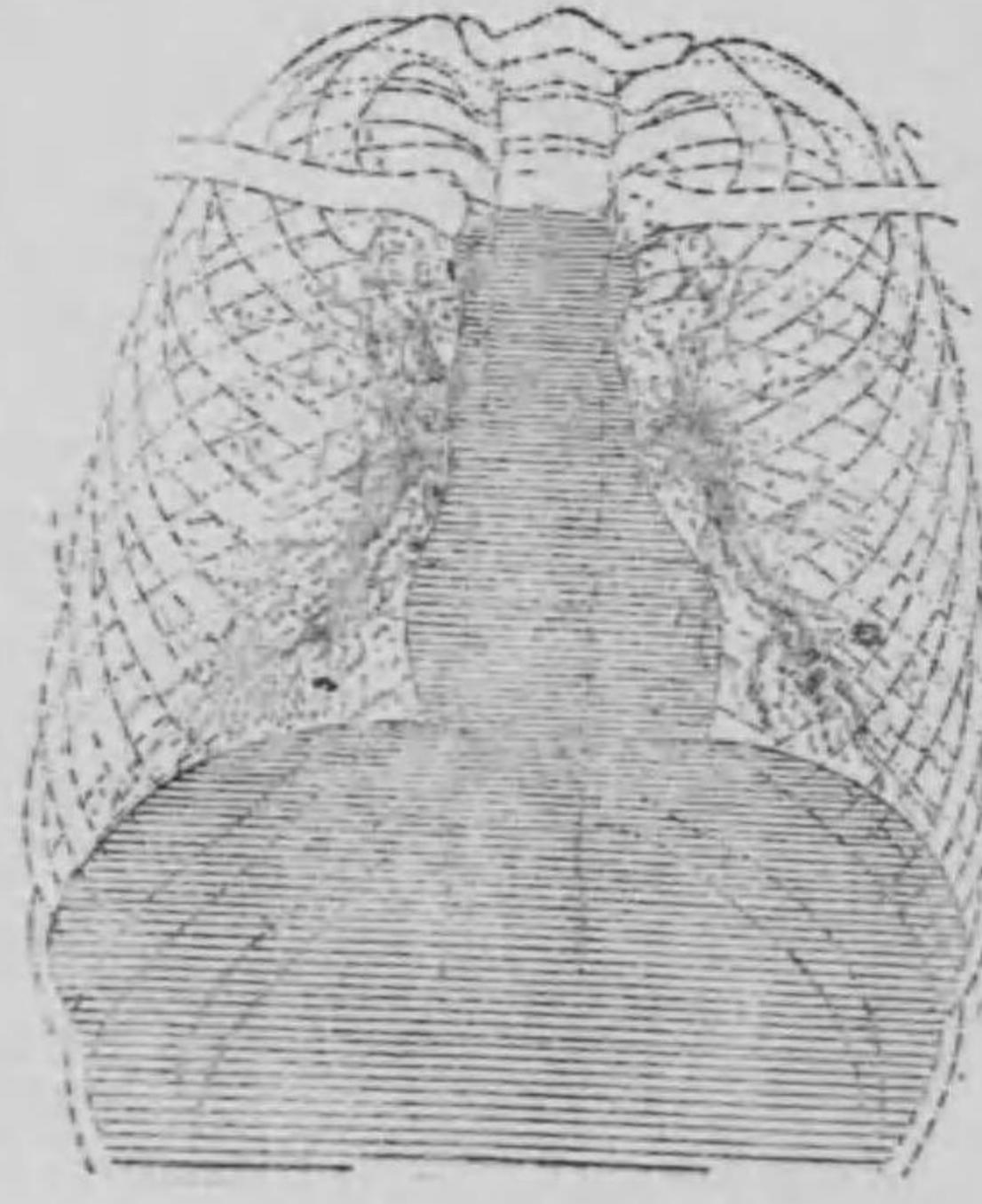
肺結核ノ内、此種ノモノ罹疾期(能動時期)ニ於ケル、又ハ感染ノ初期、或ハ進行期ニ於ケルれんせん所見ハ、治療期ノ症狀ノ如クニ著明ナラザルコトアリ、或ハ單ニ太キ氣管支陰影索ヲ認ムルニ過ギサルコトアリ、之ヲ以テ病竈ヲ推斷セルノミ。

第五百九十四圖



乾酸ノ肺支管及肺門腺

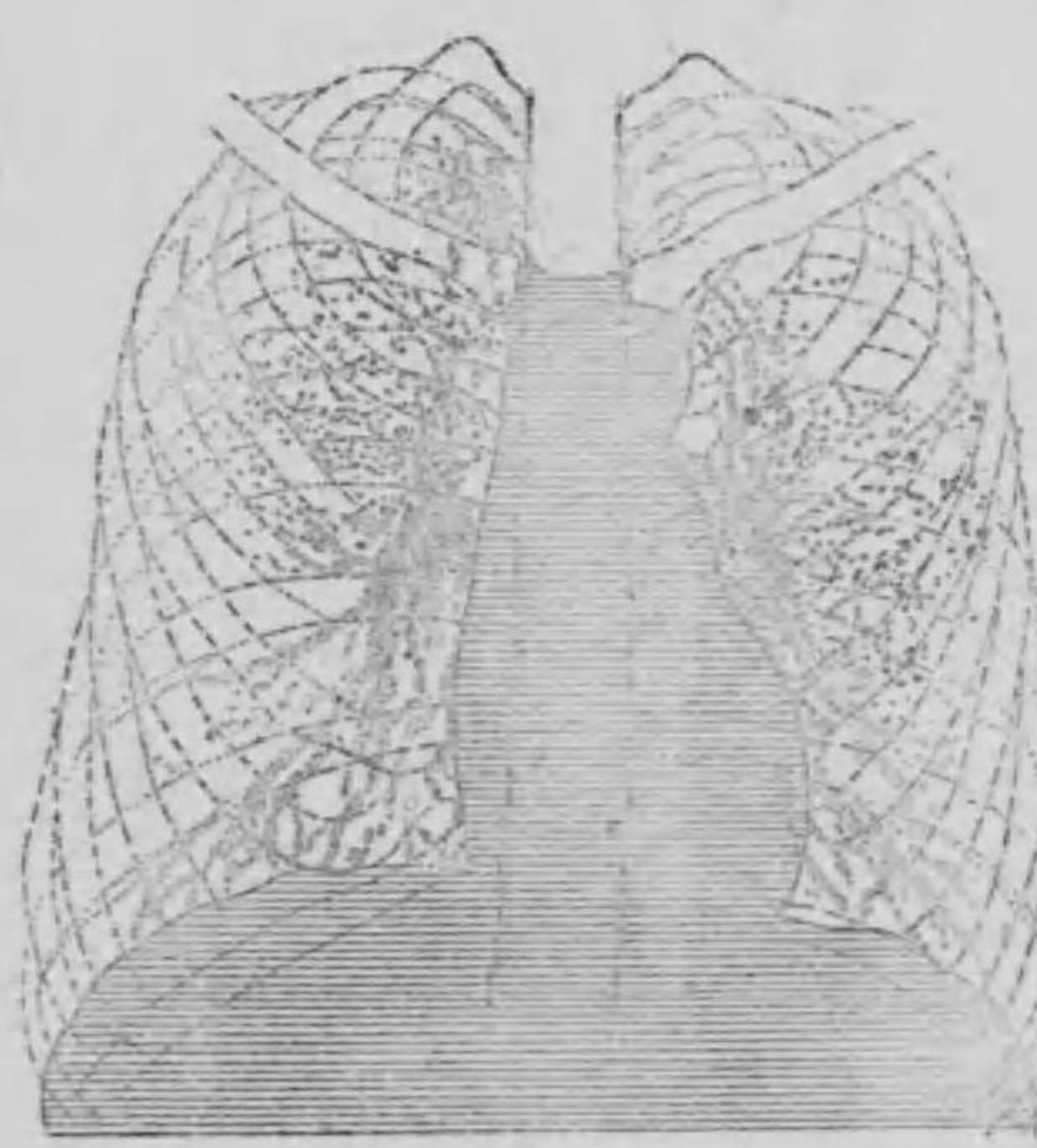
第五百九十五圖



結核ノ肺門腺及氣管支腺

近ヲ見ル、又肋膜ノ原發感染部位タルコトアリ、即チ病原體ハ淋巴腺ニ於ケル如ク、多年此ニ潜伏シ、肺膿ニハ、何等病變ヲ呈セズ。肋膜病竈ヨリ續發セルモノハ、肺門傳播ト異リ、病竈ガ原發部ヨリ、中心ニ向ヒ、肺組織ニ於テ線狀又ハ扇狀ニ進行セリ、斯ノ如キモノハ、概シテ比較的良性ナレドモ、此病竈ヨリ漏蔓性肺結核ヲ誘起スルコト多シ。

肺結核ノ末期ニ際シテハ、原發部位、蔓延ノ状態等ヲ知ルコト能ズ、肺門淋巴腺、或ハ肋膜病竈ヨリ發生セルモノト、同ジ病變ヲ呈スルモノハ、淋巴腺感染ニ基ケル乾酪變性肺炎ナリ、其陰影ハ、多クハ、普通ノ肺結核ヨリモ濃ク、且ツ大ナルヲ常トス。撒播性結核及ビ限局性肺結核トノ間ニハ、種々ノ移行型アリ



圖六十九百五第

ズ。治療ニ傾ケルモノハ初期ノ進行性傾向アルモノヨリモ、其陰翳濃度ノ概シテ強キコト多シ、瘢痕、石灰沈著等ハ初期浸潤ヨリモ更ニ著明ニ現ルベシ。

テ、初期或ハ末期ニヨリ、或ハ限局シ、或ハ瀰漫セリ、而シテ多數ノ場合、肺門淋巴腺、他ノ淋巴腺ノ犯サレタルモノヲれんとげん検査ニ際シテ明ニ知リ得ベシ。尙肺尖加答兒ノ殊ニ、初期ニ於テハ、其病竈ト肺門淋巴腺トノ相連絡セルヲ明ニ見ルニ、治後ニ於テハ、病竈ハ相離レ淋巴腺索ハ不著明トナレリ。茲ニ注意スペキハ、肺結核病竈ノ陰翳ノミヲ以テ、直ニ初

## 第六十四章 食道ノれんごげん検査

工具、方法及影响作用

ノ條下ニ於テ述タリ。然レドモ唯ニ此斜位透視ニテハ、食道ノ状態、経過ヲ直接ニ察知スルコト能サレバ、補助法ヲ施スノ必要アリ、其法ニ數多シ、即チ、一 金属消息子、或ハ散彈ヲ充實シタル謹謹管ヲ食道ニ插入シ、れんごげん像ニ由リテ、食道ノ全経過、及ビ他ノ臟器ニ對スル關係等ヲ究ムルニアリ。ニ 重金属鹽類、殊ニ蒼鉛化合物剤ヲ充タセル膠囊ヲ用ユ、然レドモ膠質ハ屢々咽喉腔ニ抑留セラレ、水ヲ飲ミ漸ク下行セシムルモ、氣管支分岐部ノ高サニ至レバ再ヒ停留スルコト少カラズ、膠質ノ好ンデ停留セル所ニ在リテハ、水ヲ嚥下セシムルモ、容易ニ下行セザルコトアリ。更ニ食道最下部、即チ噴門上際ニ於テ停止ス、停止部位ハ、生理的ニ存セルガ故ニ、病的狭窄トノ區別ハ單ニ膠質ノミヲ以テハ判知シ能ザレバ、食道ノ膠質検査ハ、稀ニ行ルノミ。三消息子挿入法ハ、食道ノ経過ヲ知ルニ止リ、食道ノ形狀、或ハ嚥下狀態ヲ觀察シ能ハザルノミナラズ、患者ヲシテ苦惱ニ陥ラシムルヲ以テ、現今ニ於テハ造影剤(蒼鉛乳劑又ハ蒼鉛水)ヲ用ユルニ至レリ(蒼鉛乳劑蒼鉛水ノ處方ハ總論參照)。

嚥下作用ヲ詳細ニ究メ得ルモノハ、獨リれんさげん検査ノミナリ。食道ノ管アリケンハ、勿論也。但シ、嚥下作用ヲ營ムモノニハ非ズシテ、復雜キ、開放管内ニ液體、又ハ粥狀食物ヲ注入シタルガ如キ、單純ナル降下作用ヲ營ムモノニハ非ズシテ、クロネケル以前ニ於テモ既ニ想像セル人アリキ。

卷之三

ニ收容セラレ、舌及ビ頸舌骨筋ニヨリテ、咽頭腔ニ送ラルレバ(口蓋咽頭期)、食道上口ハ、咽頭腔ノ筋肉ノ屢力ニヨリテ開キ、直ニ嚥下物ヲ咽頭腔ヨリ食道内ニ輸送ス(食道期)。

・往々食物ハ、食道内ニ於テ、一秒間乃至數秒間停滯セルコトアリ、クラウスニヨレバ、此現象ハ食道收縮輪ニヨリテ成サルモノニシテ、食道壁ノ蠕動ニ由ルモノナリト。多量ノ液體ヲ飲ミ續ケバ、噴門括約筋ノ緊張ハ、減退シテ開放シ、液體ハ忽チ流下ス、而シテ嚥下ト共ニ空氣ノ小量ハ、混ジテ胃ニ送致セラル、ナリ。

活動寫眞應用研究ノ成績ニヨレバ、食道ノ嚥下ニハ、四乃至六秒間ヲ要スレドモ、食物ノ通過ノ遲速ハ、等ハ、容易ニ嚥下セラレ、且ツ速ニ下降シ、渴時ノ飲料ハ最モ迅速ニ通過ス。

### 食道ノ病的變化

食道内ノ異物嵌入ハ、屢々遭遇スル所ナリ。是ヲ簡易ニ發見シ、困難ナク、之ヲ除去シ得ンニハ、れんさげんノ力ヲ借ラザルベカラズ。れんさげん線ニテ、最モ證明セラレ易キハ、大ナル骨片、及ビ金屬性物質ニシテ、咽頭ニ介在セシ魚骨ノ如キハ、乾板撮影ニヨリテ證明セラル、コトアレドモ、下部ニアリテハ之ヲ探索スルコト概シテ難シ。金屬ノ證明ハ最モ容易ナリ、若シ金屬ノ陰影ノ疑シキ場合ニ於テハ、嚥下金屬ト、同種ノ小片ヲ背側ニ貼布シ、其對照ヲ求メテ異物ノ有無ヲ探求スルヲ可トス、異物ノ所在ガ、食道内ナルカ、或ハ食道外ナルヤヲ確メンニハ、實體寫眞法ヲ施スベシ、至便ノ一法トシテハ、蒼鉛水ヲ嚥下

セシメ、兩者ノ陰影ガ何レノ透視方向ニ於テモ同ジ位置ニ在ルヤ否ヤヲ檢スルニアリ。食道異常ノ臨床的症候ハ、多クハ嚥下障碍ニシテ、是ヲ將來セシ原因ハ多シ。食道ニハ何等ノ變化ナタ、隣接臟器ノ病的變化ヨリ壓迫セラレ(大動脈瘤、縱隔腫瘍等)、食物ノ停滯ヲ來セルコトアリ。其他、脊柱ノ高度ノ後屈ハ、食道ノ位置ヲ著シク變ジ、食物通過ヲ障碍セリ。コハれんさげん検査ニヨリテ明ニ認知シ得ベシ。

食道憩室ハ、多クハ食道ノ上部ニ占位シ、特有ノれんさげん像ヲ呈スレバ、容易ニ之ヲ判定シ得ベシ。

れんさげん検査ハ食道憩室ノ外科的治療ニ當リテ、多大ノ援助ヲ與フナリ。食道憩室ヲ分テ漏斗狀憩室及ビ波動性憩室トス。

漏斗狀憩室ハ、通常何等ノ症候ヲ呈セザルヲ以テ、偶然ニ之ヲ發見スルノミ。消息子插入或ハ食道鏡検査ニテハ之ヲ知ルコト至難ナリ。

波動性憩室ハ、之ニ反シテ前者ヨリモ確實ニ證明シ得ベシ、殊ニ上部ニ存在セルモノニ於テ易シ。上部ニ位セル憩室ハ、多クハ咽頭食道ノ移行部ニ生ズレドモ、時トシテハ、上胸部ニ達シ、或ハ稀ニハ氣管支分岐部ニ達セリ、其大サ胡桃大ヨリ小兒手拳大ニ達ス。其所在ニヨリテ、之ヲ高位波動性憩室或ハ咽喉食道移行部憩室ト名ク、又其研究者ノ名ニ因テユンケル氏憩室ト稱ス。今、一匙ノ蒼鉛食餌ヲ嚥下セシメ、直ニれんさげん透視スルニ、頸胸移行部、或ハ胸骨上端、或ハ之ヨリ稍々下方ニ於テ、卵形、或ハ圓柱形、或ハ囊狀ノ陰影ヲ見ル。其陰影ノ上際ニハ、空氣ヲ蓄積シテ透明ナリ。スタイルクハ是ヲ憩室空泡ト稱セリ。

憩室ノ所在位置ハ一様ナラズ、正中線上ニ存シ、左右同大ナルコトアリ、時トシテハ左方ニ、或ハ右方ニ

偏在セルコトアレドモ、其左右縁及ビ下縁ハ平滑區割截然タルモ、陰影度ハ上層ニ向ヒ淡ク、且ツ明瞭ナラズ。蒼鉛ノ杯狀影像ノ淺ク、且ツ廣キ時ハ、憩室ノ大ナルヲ知ル可ク、深ク且ツ狭キ時ハ、憩室ノ小ナルヲ知ルベシ。嚥下運動ヲナサシムルニ、憩室ハ後上方ニ舉上セラレ、憩室内容ハ上方ニ向ヒ、排去セラル、ヲ見ル、造影剤ヲ嚥下スルニ、食道トノ交通口ニ達スルマデ、憩室ヲ充實スレドモ、全憩室ヲ満スハ不可能ナリ。憩室内ニ食物ノ満ツルヤ、患者ハ突然咳嗽シ、窒息ヲ呈スルコトアリ、食物ノ憩室ノ交通口ニ達スルヤ、始メテ食道内ニ流下ス、然レドモ、蓄積セル憩室ハ、容積ヲ増加シ、食道ヲ壓迫スルヲ以テ、食物ハ容易ニ下行セズ、患者ノ努力ヲ待チ、初メテ食物ハ食道ヲ下降ス、之レト共ニ、憩室内容モ亦排出セラレ、容積ハ縮小シ、食道ノ嚥下ヲ容易ナラシム、時ニハ憩室ノ數房ニ分レシモノアリ。

## 食道狭窄

食道狭窄ノ主要ナル原因ハ、食道痙攣、就中噴門痙攣及ビ食道癌及ビ噴門癌ナリ。食道痙攣ノ發作ノ持続、反覆及ビ痙攣部位ノ範囲ハ、多様ナリ。吾人ノ多ク遭遇スルハ、造影剤ガ食道筋肉ノ過性收縮ニ由リテ停滞シ、少時ニシテ下行スルガ如キ場合ナリ、時トシテ痙攣ノ食道各部ニ同時ニ起リ、造影剤ガ所々ニ截斷セラレ停滞スルコトアリ。食道全部ニ亘ル持続的痙攣ハ稀有ナリ、食道痙攣中、最モ多キハ、所謂噴門痙攣ナリ。

噴門痙攣ハ、往々真正ノ食道狭窄ト合併セルコトアリ。食道痙攣發作ノ爲ニ、食物攝取シ能ズシテ、恰モ癌腫ノ如クニ扁瘦惡液質ニ陷リ、殊ニ老年者ニ在リテハ、爲ニ癌腫トノ鑑別ヲ至難ナラシムル場合アリ、サレドモ噴門痙攣ノれんごん像影ハ、特有ニシテ、食道癌ト區別シ得ベシ、蒼鉛食餌ノ第一嚼片ハ、噴門ニ於テ留リ、漸次其上ニ滯積シ、終ニ高度ノ食道擴張ヲ伴ヒ、三〇〇分、或ハ猶大量ノ液體ヲ食道内ニ

瀦留ス。擴張セル食道陰影ノ周緣ハ平滑ナルヲ常トス。輕度ノ噴門痙攣ニテハ、殆ンド健康食道ニ見ル可キ蠕動運動アルモ、暫クニシテ逆行蠕動ノ起ルヲ見ルベシ、食道ノ内容ハ、噴門ヨリ食道口ニ向ヒテ、上進下降シ、益々著明ニ現ル、ナリ。

慢性噴門痙攣ノモノニアリテハ、食道筋肉ハ弛緩セルヲ以テ、食物ハ囊狀ニ擴張セル食道内ニ數時間滞積スレドモ、之ヲ排除セントスルガ如キ、著シキ逆行蠕動現レザルヲ以テ、食道ハ迂曲延長セル外觀ヲ呈ス（特異性擴張）。而シテ往々、胃内容ヲ混ゼル食物ヲ嘔吐セルコトアリ。コハ逆行蠕動ノ胃ヨリ發シテ食道ニ及ベルモノニシテ、此運動ニヨリ、食道噴門部ハ一過性ニ開放セラレ、胃内容ヲ逆送セリ。食道噴門部ノ陰影ハ、多少尖リ而シテ痙攣ノ未ダ強カラザレバ、往々之ヨリ細長ノ線狀陰影ノ胃内ニ通ズルヲ見若シ、痙攣ノ強キトキハ、此像ヲ認メズ、今、試ニ消息子ヲ送入シ、痙攣ヲ鎮壓スレバ、食道内容物ハ胃内ニ輸出セラル。

食道ノ部分的痙攣性收縮ハ、稀有ノ症狀ナリ、コハ食道壁ノ糜爛、或ハ消化性潰瘍ニ原ケリ。ムンクハ、恰モ斯ノ如キ一例ニ遭遇セリ、初期ノ臨床的症候ハ、恰モ食道癌腫ニ類似セル症狀（羸瘦、惡液質、食道擴張等）アリシモ、撮影乾板検査ニヨリ、食道陰影ノ周緣ノ平滑且ツ區割判然タル膨隆ヲ認ムルコトニ由リテ之ヲ鑑別シ得タリト。

## 食道癌腫

食道癌腫ノれんごん像ハ、痙攣性狭窄トハ容易ニ區別シ得ベシ。癌腫ノ占領セルれんごん影像ノ周緣ハ、齒牙狀ヲ呈シ、不規則凸凹ナルヲ特徴トス、之ニ由リテ食道壁ノ形態上、變化ヲ直接ニ認識シ得ベシ。

クラウスガ謂フ如ク、特ニ噴門部ノモノニハ、仔細ニ吟味スベキ必要アリ。

癌腫ノ未ダ小ナルトキハ、噴門ハ開放セルヲ以テ、食餌ハ蠕動運動ノ力ヲ俟タズシテ、容易ニ胃内ニ流下ス。斯ノ如ク、食道ノ括約筋ノ閉鎖不全ハ、恰モ胃底ニ癌腫發生シテ、幽門ノ閉鎖不全ヲ起セルガ如ク、又直腸癌(殊ニ高位ニ於テ)ニヨリテ、肛門ノ閉鎖不能ヲ發起セルト相對比スベキモノナリ。

噴門癌ニ於テハ、蒼鉛影像ノ下端ハ、蒼鉛ヲ充實セズ、是レ蒼鉛影像ノ下端ハ、狭窄ノ上部ニ該當スルモノニシテ、狹窄下部ヲ知リ得ザルハ、狹窄部ヨリ以下ニハ蒼鉛ガ到着シ得ザルト、且ツ又蒼鉛剤ハ容易ニ其下方ニ流下スルニヨレバナリ、斯ル場合ニ於テ、噴門部ハ開放セラレ、食餌ハ宛モ開放管内ニ注入セラレタルガ如ク、胃内ニ忽チ流下スベシ、往々寫真乾板ニテ胃内ニ送入セル食餌ニハ蠕動力ヲ受ケザルガ如クニ視ルコトアルモ、是ハ食餌ガ恰モ、小管ヨリ流ル、水ノ如ク、徐々ニ小彎ニ沿フテ、徐々ニ下行スレバナリ、通常食物ハ胃泡腔ニ沿ヒ流ルモノナリ。

## 第六十五章 胃ノれんごげん検査

### 正常ナル胃

#### 位置

位置 直立位ニ於テ撮影セル、胃れんげん像ハ、約其三分ノ二ハ正中線ヨリ、左側ニ、爾餘ノ三分ノ一ハ右側ニ在リ、胃ノ上部ノ所謂、胃泡部ハ、横隔膜穹窿部ノ直下ニ在リ、此胃泡ハ胃内空氣部ニシテ、食物ノ嚥下毎ニ、或ル一定量ノ空氣ヲ隨伴セシモノナリ。胃泡ノ形狀、大小ハ空腹、満腹、又個人體質ニヨリテ差異アリ。

胃ノ下行脚ハ、身體正中線ヨリ、左側ニ偏位シ、次デ稍ヤ右方ニ向ヒ斜ニ走リ、身體ノ中央部ヲ通り、正中線ノ右ニ出デ、是ヨリ更ニ幽門部ニ至ル上行脚ヲ作レリ。幽門部ハ脊髓陰翳ノ右方ニ位スルヲ常トス。

胃ノ最下部ハ、殆ンド臍高ニ在リ、然レドモ臍ノ高サハ、胃ノ位置ヲ定ムル絶對的ノモノニ非ズシテ、比較的ノモノタルヤ言ヲ俟タズ、蓋シ臍ハ、腹壁ノ性狀、其他種々ナル事態ニヨリ移動スレバナリ。故ニ吾人ガ胃ノ検査ヲ行フニ當リテハ、胃ノ下界ト兩腸骨翼ノ高サトヲ比較セルヲ可トス、胃底ハ男子ニアリテハ一般ニ女子ヨリモ高ク位セリ、其他、吸氣時ニハ、胃ハ下方ニ移動シ、呼氣時ニテハ、上方ニ移動ス、コハ専ラ胃ノ幽門部ニ於テ見ルベシ。

腹壁ノ運動、又ハ腹壁ノ故意的凹入ハ、胃ノ位置ニ著シク影響シ、胃ハ稍後上方ニ移動ス。此位置ノ轉換ト共ニ、胃ノ形態モ亦著シク變化セルモノナリ、其他仰臥位、側臥位ニ於テモ、亦胃ノ位置、形狀ニ變化ヲ見ル可シ、仰臥位検査ハ、實際上ノ價值少シ、右側竝ニ左側臥位検査ハ、或特別ノ場合ニ之ヲ行フノミニシテ、多クハ直立位ニ於テ行フナリ。此體位ニ於テハ、當ニ胃ノ機能ヲ十分ニ觀察シ得ルノミナラズ、胃内容ノ下行セル狀態、充實試驗ヲ適當ニ行ヒ得ベシ。又胃ノ位置ハ、隣接臟器ノ狀態及ビ位置ニ左右セテル、胃ノ右方又ハ左方轉位、異常下垂等ハ症候學上ニ意義アルハ明ナレドモ、生理的作用(妊娠)ニヨリテモ、胃ハ壓迫セラレ、又變位スル場合アルヲ忘ル可ラズ。

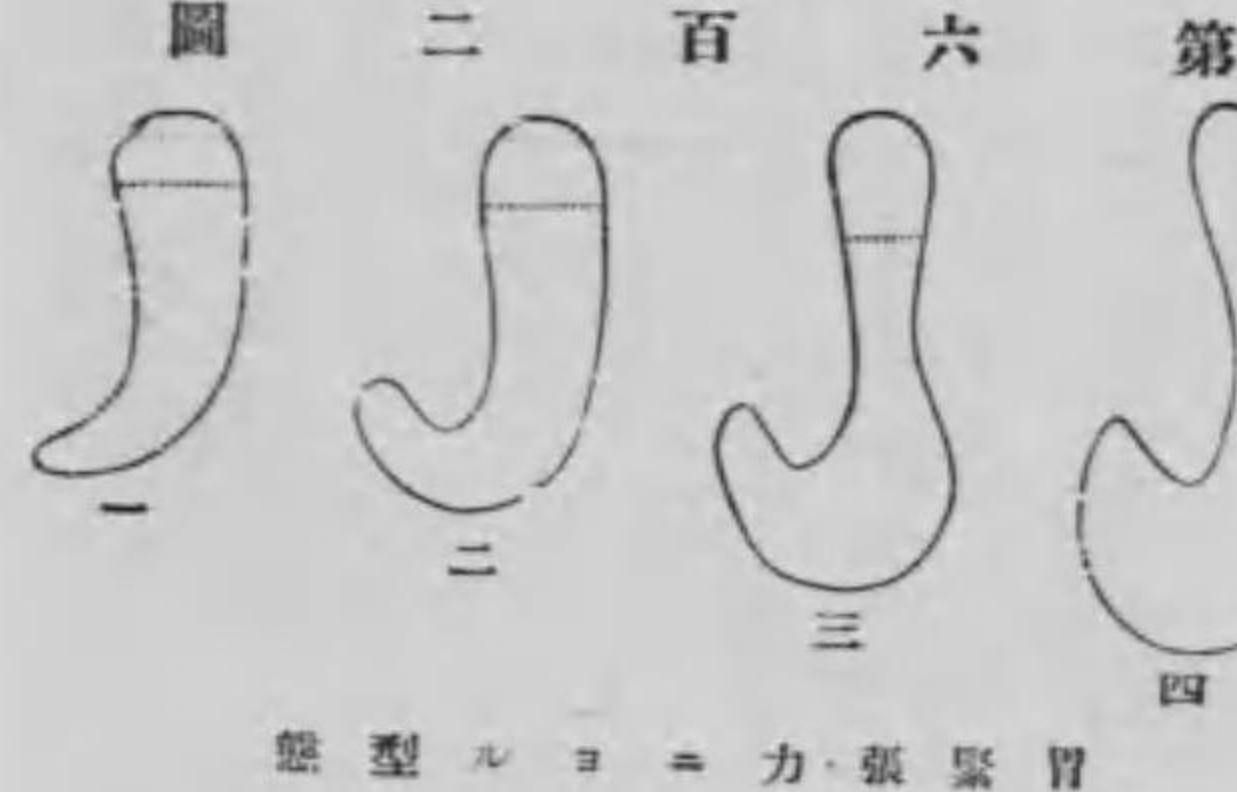
胃ノ形狀ハ、其充實狀態ニ干與セリ、造影食餌ヲ以テ充實セバ、最モ明ニ形狀ヲ窺知シ得ベシ。

通常、胃ノ形ハ所謂鈎状型或ハさいふおん型ニシテ第五百九十八圖ノ如シ正常型ト病的型トノ境界ニ



茲ニ注意スベキハ、食餌ハ、單ニ自己重力ニ由リテ、胃ノ下部ニ集積セルニハ非ズ、胃底部ガ適當ニ展伸セラレタルモ、尙食餌ハ胃ノ上行脚部ニモ保留セラル、ヲ見レバ、胃ハ單純ナル囊ニハ非ズシテ、胃壁ハ常ニ一定ノ緊縮狀態ニ保タル、モノト謂ハザル可ラズ、是ヲ稱シテ胃ノ緊張力ト曰フ。胃ハ自個ノ筋肉ノ自動的作用ニヨリテ、其内容ヲ保容セントスルモノナリ、(スチーラトハ之ヲ蠕動機ト稱セリ)。食物ノ胃内ヲ通過セル際、往々胃ノ上壁ノ皺襞間ニ、食物ノ介在セルヲ見ルコトアリ。胃ノ緊張力ヨリシテ胃型

第6章



懸型ルヨニ力・張緊臂

食餌分布ノ狀態ハ、胃ノ診斷學上有力ナルモノナリ。シツク竝ニ  
テデスコノ說ニヨレバ、食餌ノ胃内ニ送ラル、ヤ、噴門ノ反射機能ニ  
ヨリ、胃底ノ筋肉緊張力ハ弛緩シテ、其展伸作用ヲ催進スルモノナリ  
ト。

又グレー・デルノ説ニヨレバ、胃ガ完全ニ延伸シ、且ツ充實セシ時ニ於テ觀察スレバ、最初ニ送ラレタル食餌片ハ、胃ノ大弯側ヲ、最後ニ達セルモノハ小弯側ヲ占領セルト、而シテ食餌ノ硬度ハ、食餌層ノ生成ニハ、差シタル影響ヲ及ボサザルモノ、如シ。

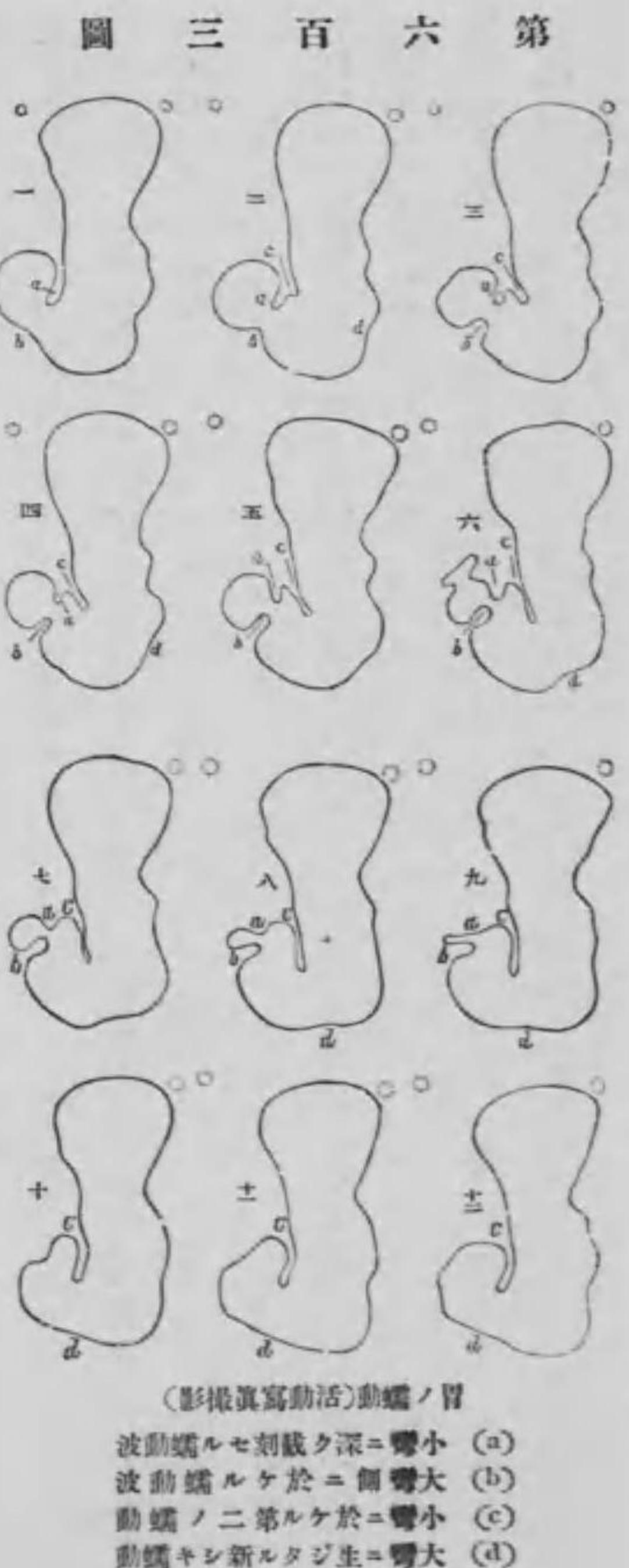
胃ノれんごげん像上ニ於テ、屢々目撃スルハ、比重ノ重キ固形成分ハ、胃底ニ沈下シ、其上方ニ稍透明ナル層、即チ中間層ニ液體ヲ溜止ス。シユレヂングルハ、此中間層ハ胃ノ分泌液層ニシテ、過酸症ニ於テハ、迅速ニ且著シク生ズルモ、胃酸缺乏症ニアリテハ之ヲ發生セズ、中間層ノ存在ハ、潰瘍ノ現存ヲ意味シ、癌ニ在リテハ、之ヲ缺クモノナリト主張セルモ、未ダ一般ニ是認セラル、ニハ至ラズ。

蠕動運動 れんごげんじゅうの未タ醫學上ニ應用セラレザリシ以前ニアリテハ、胃ノ生理的並ニ病的蠕動運動ノ知見ハ、極メテ貧弱ナリシガ、れんごげん透視法ノ發達セシ以來、胃ノ蠕動運動ヲ直接ニ目撃シ、其生理作用ヲ詳細ニ知リ、更ニ進デ、其病的機能障害ノ診斷ニ應用スルニ至レリ。然レドモ此關係ニハ、從來幾多ノ學者ガ、熱心ニ攻究スルニ拘ラズ、未ダ完全ナル説明ヲ得ルノ域ニ達セズ、胃泡ヲ含メル胃ノ噴門部ガ蠕動運動ニ干與スルハ、極メテ僅微ニシテ、れんごげん検査ニテハ、殆シド之ヲ認識シ得ズ、噴門部、體部ノ移行部ヨリ始メテ波動狀ノ蠕動運動ガ起レリ、其現出スル上部ノ輕キ痙攣狀收縮ヲ噴門裁痕ト云フ。

壁ハ殆んど相接觸シ、恰モ窪部ハ此部位ニ於テ離隔セラレタルガ如キ外觀ヲ呈セリ、波動狀ノ運動ハ、規則正シキ周律ヲ以テ反覆セズ、多少ノ長短アリ、通常一週期ノ蠕動ハ、平均二十二秒ヲ算ス、此期間ハ固ヨリ、既ニ生理的ニ於テモ多少ノ相違アル(十五秒—三十秒)ノミナラズ、消化ノ終リニ在リテハ、始メニ比シテ蠕動期ハ、迅速ニ經過セリ。此比較的大ナル波狀運動ヲ見ルノ他、猶瞬間撮影乾板上ニ於テハ、往々更ニ小ク且ソ不規則ナル小波狀運動トモ見ル可キ、小蠕動ノ鋸齒狀ニ現ルコトアリ。胃體部ニ始マル蠕動運動ハ胃ノ尾端ニ向テ波狀走行セリ、之ニ反シ幽門部ノ蠕動運動ニハ多クノ學者ノ所說區々ナリ。

カウフマン及ビホルツクネヒトノ、透視板上ノ研究結果ニヨレバ、ホーフマイステル、シューヴガ動物試験ニ就テ證明シ得タル結果ト相一致セシヲ見タリ、即チ窪部括約筋ハ緊張性及ビ收縮性アルモノニシテ、茲ニ全ク相異レルニ様ノ蠕動系ヲ現スナリ、甲ハ噴門截痕ヨリ窪部括約筋ニ向テ走行スル波狀ノ蠕動運動ニシテ、乙ハ窪部括約筋ヨリ幽門ニ向テ起ル求心的收縮運動ナリ、而シテ食餌ハ、幽門窪ノ收縮ニヨリテ、十二指腸ニ驅逐セラル、モノナリト謂ヘリ。果シテ然ラバ、窪部括約筋ノ深刻ナル輪狀絞扼ハ、幽門窪ニ向テ波動狀ニ進行スルモノナルカ、或ハ唯ニ蠕動ノ起始部ニ止マレルモノナルカ、而シテ幽門窪ヨリ食餌ヲ排出セルハ、單ニ縱走筋ノ收縮ノミニヨリテ營爲セラルヤノ諸問題ニ就テハ、今日ニ至ルモ、猶學者間ノ論爭研究ノ好材料トナリ居レリ。

蠕動運動ノれんさげん研究ニ、一大進歩ヲ促セルモノハ、リーデル、ローゼンタール及ビケストレル等ノ活動寫真撮影法ナリ、氏等ハ第六百三圖ノ如ク蠕動運動ノ經過ヲ(約二十秒間ニ)十二枚ノ順列寫真上ニ撮影シタリ。



活動寫真乾板ノれんさげん像ニテハ、幽門窪ノ絞扼ハ、漸次幽門ニ移進シ、終ニ認メズ。之ニ由レバ、窪部括約筋ハ幽門窪ナル名稱ト共ニ、一定所ニ限定セルモノニ非ザルヲ知リ得ベシ。故ニ幽門窪ト云ヒ、括約筋ト稱スルモ、畢竟唯筋肉ニ富ミ、且ツ強度ノ蠕動運動ヲ營爲シ得ルノ特種ノ胃壁ノ一部ニ過ぎザルナリ。

リーデル、ローゼンタール、ケストレルハ、各蠕動運動ノ、狀態ヲ仔細ニ觀察シ、幽門ノ閉鎖時ニアリテモ、尚幽門窪ノ小陰翳ノ存スル事實ヲ發見セリ、此小陰翳ハ蠕動運動ニ際シ、窪ノ内容物ノ一部分ガ、胃腔内ニ逆行セル爲ニ、現出セルト主張シ、尚氏等ハ說ヲナシテ曰ク、今假ニ幽門窪ノ内容ガ、胃内容ノ十分ノ

一ヲ占ムルモノトシ、胃ハ絶ヘズ其機能ヲ營爲シ、且逆行運動ノナキモノトセバ、既ニ十回ノ蠕動運動、換言スレバ、二十二秒ノ十倍、即四分間ニ於テ、胃ハ著ク空虚トナルベキ理ナリ、然ルニ蒼鉛食餌ヲ以テ充實セル正常胃ノ排出ニ、數時間ヲ要スルハ、普ク人ノ知ル所ナリ。サレバ、胃ノ幽門窪ノ内容ノ大部分ハ、再ビ後方ニ逆行スルモノト見做ザル可ラズト。猶活動寫真乾板ヲ順次検スルニ、各蠕動運動ノ間ニハ、窪内容ト他ノ胃部ヲ相連絡セル陰翳アリ、加之、幽門ハ各蠕動運動毎ニ、必スシモ開カザルヲ見レバ、窪部ノ蠕動運動ハ、食物ヲ十二指腸内ニ排出セント企ルニ非ズ、主トシテ糜粥ノ混和ヲ營爲スルモノナリ、是レ夙ニコーンハイムガ主張セル説ト偶々相一致セリ。グレーデルハ、幽門窪部ニハ、食餌壓出作用ト食餌混合作用トノ二作用アルヲ區別セリ。

胃ノ蠕動運動ハ、規律的ニ行ハルルト雖、各蠕動ノ深淺并ニ形狀ハ、生理的既ニ個人的差異アリ、此蠕動ノ著シキ障礙、或ハ變化ハ、胃ノ診斷上ニ必要ナルモノナレバ、後章ニ於テ更ニ述ブ可シ。

#### 胃ノ排出作用

胃内容物ノ排出作用ハ、唯胃ノ蠕動運動ノミニ預ルニハ非ズ、胃筋肉ノ張力ノ他、幽門狀態ハ、排出作用ニ主要ナルモノナレドモ、蠕動運動ト幽門ノ機能トノ相互關係ニ於テハ、未ダ正確ナル説明ナシ。幽門ノ機能及ビ輪状筋、就中幽門窪部ノ筋肉ニハ、反射作用アルモ、其詳細ナル説明ハ尙不明ニ屬セリ。

其他、腸管ハ、胃ノ排出作用、殊ニ幽門ノ機能ニ、一種ノ調節的交渉ヲナセリ、マーリング、ヒルシュー説ク所ニヨレバ、糜粥、或ハ酸性胃液ガ、胃ヨリ小腸ニ到達スレバ、反射的幽門閉鎖ヲ喚起シ、幽門閉鎖ハ小

#### 胃ノ排出作用

腸ニ輸送セラレタル内容ノ化學的、器械的作用ヲ受ケル間持續セリ(マーリング反射)。是ニヨリテ觀レバ、胃液ノ化學的性質ト幽門ノ機能トニハ、亦一定ノ關係アルヲ知ルニ足レリ、是レ既ニ臨床上ニモ證明セラレ、夙ニ普ク人ノ知ル所ナリ、胃ノ筋肉ノ張力ガ同一ナル場合ニモ、過酸性胃液症ハ、正常胃液、或ハ胃酸缺乏症ニ比セバ、其排出時間ハ遅クル、モノナリ。

幽門ノ機能的關係ハ、胃ノれんぞげん検査ニハ、重要ナルモノニシテ、今試ニ空虚胃ニ蒼鉛水ヲ嚥下セ

シムルニ、ソノ一部分ハ、直ニ幽門ヲ通過シテ、小腸ニ排出セラル、モ、固形食餌、或ハ粥状食餌ナレバ、其關係ヲ異ニシ、直ニ小腸ニ排出セラル、コトナシ、故ニ蒼鉛食餌ノ胃ニ入ルヤ、直ニ小腸ニ送ラル、場合アレバ、是レ幽門不全閉鎖症ト見做シテ可ナリ、此現象ハ「胃腸」ノ種々ナル病的變化(胃體ノ癌腫、十二指腸潰瘍等)ニ際シ、屢々認ムル所ニシテ、診斷的意義ヲ有スルモノナリ。

ムンク及ビロムメルハ、胃液ノ正常ナル者ト病的胃液ノモノトニ於テ、初メニハ、餓胃ニ蒼鉛食餌ヲ與ヘ、二日後再ビ同時刻(試験朝食攝取三十分後)ニ蒼鉛食餌ヲ與ヘテ排出作用ヲ檢シタル結果左ノ如シ。

上表ニ示セルガ如キ結果ノ相異ナレル原因ハ、果シテ

胃ノ化學的變化ナルカ、或ハ胃ノ器械的障碍ナルカハ、尙疑問ニシテ、更ニ將來ノ詳細ナル實驗ニ俟タズル可ラズ。

食物排出ヲ營爲スル胃ノ筋肉及ビ幽門ノ蠕動運動ヲ胃ノ運動力或ハ運動機能ト稱ス。

### 胃ノ運動機能

胃ノ運動力ヲ試験セント欲セバ、空虛胃ニ凡ソ四百瓦ノ造影劑ヲ與ヘテ、排出時間ヲ檢ス可シ、但シ試験時間中他ノ食物ヲ採ラシム可ラズ。排出時間ハ、健康胃ニ於テハ凡ソ三時間ニシテ、全ク排出セルモ、個人ニヨリテ、生理的既ニ多少ノ差異アリ(一一六時間)、運動機能ヲ確實ニ試験セントセバ、先づ胃ノ位置、形狀、蠕動等ヲ詳細ニ検査シタル後、更ニ時間ヲ換テ、再三透視検査ヲ行フカ、或ハハウゼックノ主張ニ従ヒ、透視検査ニ先チ凡ソ六時間前ニ造影劑ヲ與ヘテ透視ヲ施シ、胃内ノ殘留ヲ檢スルモ可ナリ、此排出ノ時間ト、蠕動運動トハ、直接ノ關係ナキガ如シ。食物排出ノ遲延ノ原因ハ種々多様ナリ(胃弛緩、幽門狭窄、瓢箪形胃等)。

### 胃ノ病的變化

前章ニ於テ、正常胃ノ性質、機能ヲ叙述シタルヲ以テ、更ニ進デ形狀、位置、緊張力、蠕動運動、運動力等ノ異常ニ關シ、注意すべき諸點ヲ述ントス。

胃ノ位置ハ、既ニ述べタル如グ、多クハ其隣接臟器ノ狀態及ビ位置ニ左右セラルナリ、肝臟ガ胃ノ位置、

形狀ニ影響スルハ極メテ稀ナルモ、脾臟又ハ左腎ノ腫瘍、其他下腹腔ノ腫瘍、妊娠等ハ、屢々胃ノ形狀位置ヲ變化セシムルモノナリ。其他、腹壁ガ強ク緊約セラル、トキハ、胃ノ變形ヲ將來シ、往々胃ニ緊約溝ヲ作ルコトアリ、殊ニ大腸ノ瓦斯鬱積著シキトキニハ、胃ハ壓迫セラレテ、瓢箪形胃ト誤解セラル、コトアリ(虛性瓢箪形胃)。

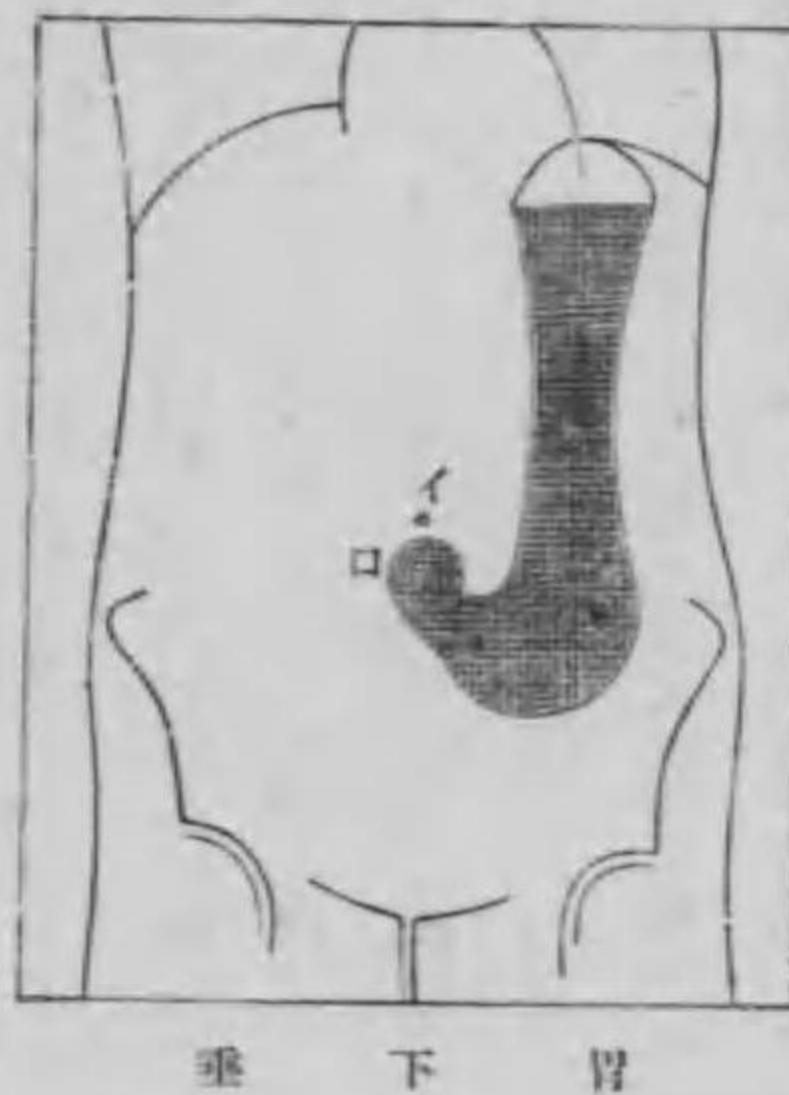
左側横隔膜へるにや又ハ炎衝ノ爲メ、胃ガ其周圍組織、或ハ他ノ臟器ト瘻著シテ、變位、變形ヲ喚起スルコトアリ、而シテ此等ノ諸原因ニ基ク、胃ノ位置異常ハ、往々胃ノ症狀ヲ呈ス、又胃ノ位置ノ非常ニ低キモノハ、是ヲ胃下垂症ニ於テ見ル。

### 胃 下 垂 症

胃下垂症ヲ、胃ノ一症狀ナリト診斷スルニハ、須ラク慎重ナル検査ヲ遂ゲタル後ニ非ザレバ、斷定ヲ下ス可ラズ、而シテ啻ニ胃下垂症ナル診斷ノミニ満足スルコトナク、更ニ進デ、細心注意ヲ加ヘ、検査ヲ施行シ、下垂症ガ將シテ患者ノ訴フル胃症狀ノ唯一ノ原因タルカ、或ハ他ノ病的變化ノ之ニ關與セザルヤ否ヤヲ追求シ、胃ノ位置異常ヲ誘起セル諸原因、胃ノ支持點ノ狀態及ビ臍ノ位置ニ注意ヲ怠ル可カラズ。男子ニアリテハ、胃ノ最下部ハ臍位、或ハ腸骨翼線上ニ位セルヲ常トス、若シ之ヨリモ低下セルトキハ胃ノ異常低位或ハ胃下垂症ト稱ス。第六百四圖ノ如シ。

胃ガ僅ニ斜傾セルカ、或ハ横位トナレバ、胃ノ最下部ハ正常ニ於ケルヨリモ低キモノナリ、而シテ下垂症ハ、虛弱質ノ一症候ニシテ、虛弱者ニ見ルコトアリ(體質性胃下垂症ト云フ)。婦人ニアリテハ、鉛直位

## 第六百四圖



ヲ呈セルコト多シ、從テ胃ハ一般ニ低シ、即チ胃ノ最下部ハ、殆ンド臍位ノ高サ、或ハ之ヨリモ尙下方一乃至二横指徑ニ位セリ。グレー・デルハ純然タル胃下垂症ニ特有ナルハ、啻ニ胃ノ下界ノ低キノミナラズ、幽門モ亦狀態ヨリモ下方ニ位シ、胃ノ全部ハ概シテ、左方ニ偏在セリ、猶觸診スレバ、胃ハ移動シ易キモノナリト。ホルツクネヒト、ショールマイエルハ、胃下垂ニハ横隔膜穹窿モ亦正常ヨリモ低シト謂ヘリ。

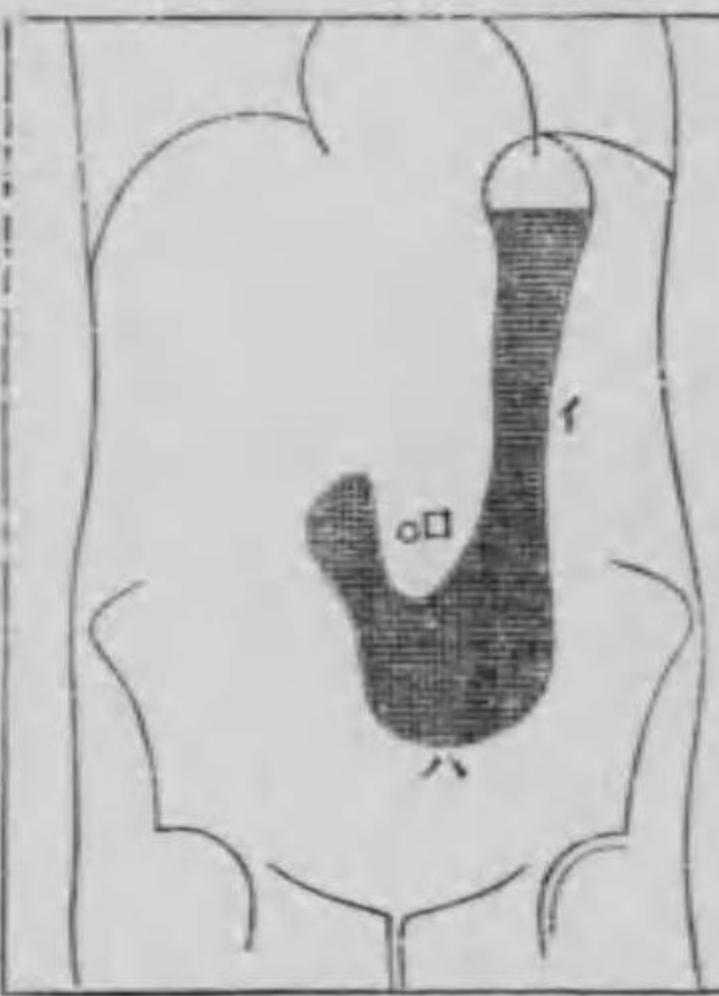
下垂ノ原因ハ、胃ノ固定部ノ弛緩、或ハ下降セルニ由ルハ言ヲ俟タズ、然レドモ胃筋肉ノ緊張力ハ、正常ト變化セザルコト多シ。下垂セル胃ノ形狀ハ、正常ノモノト大差ナク、運動力、排出作用モ、生理的常規ヲ脱セズ、而シテ實際ニ、眞ノ胃下垂ヲ見ルハ、比較的稀有ナリトス。下垂ノ原因ガ體質的ナルカ、或ハ他ノ偶發的誘因(羸瘦、產後ノ腹壁弛緩)ナルカ、何レニスルモ、胃ニハ早晚變化ヲ將來スルモノニシテ、一般虛弱ニ相當セル胃筋ノ弛緩ハ、食物ノ荷重ニヨリ、胃擴張ヲ續發セリ、故ニ吾人ハ胃下垂ノ診断ノミニ満足セズ、之ニ伴フ合併症ノ有無ヲ知ラザルベカラザルハ以上ノ理由ニ據ルモノトス。

## 胃弛緩 胃擴張

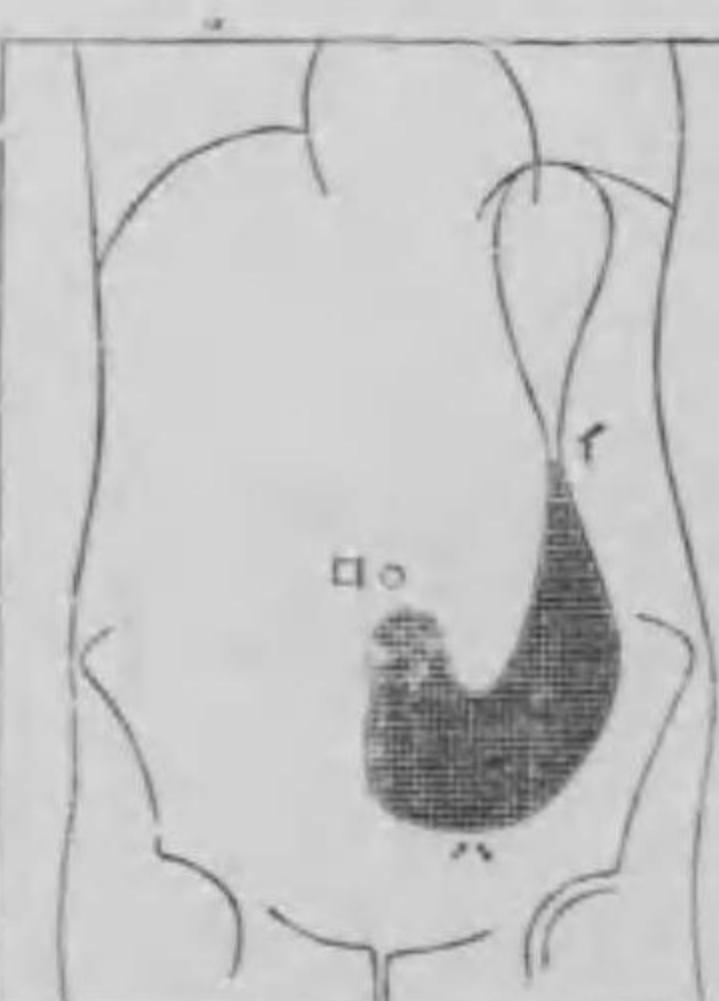
胃弛緩  
胃擴張

胃ノ緊張力ノ減弱セルコト、ハれんさげん検査ニヨリテ、容易ニ認メ得ベシ。食餌ノ胃内ニ送ラル、

## 第六百五圖



## 第六百六圖



## 第六百七圖

症候擴性一にさあ

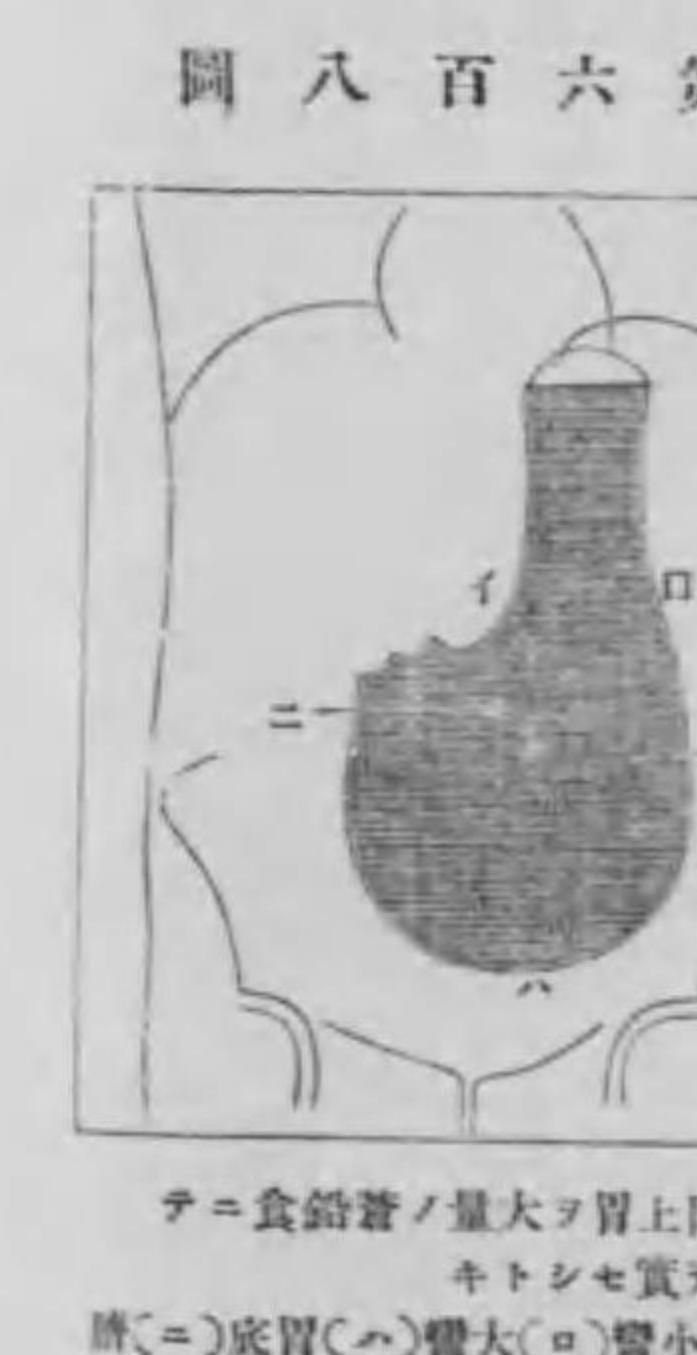
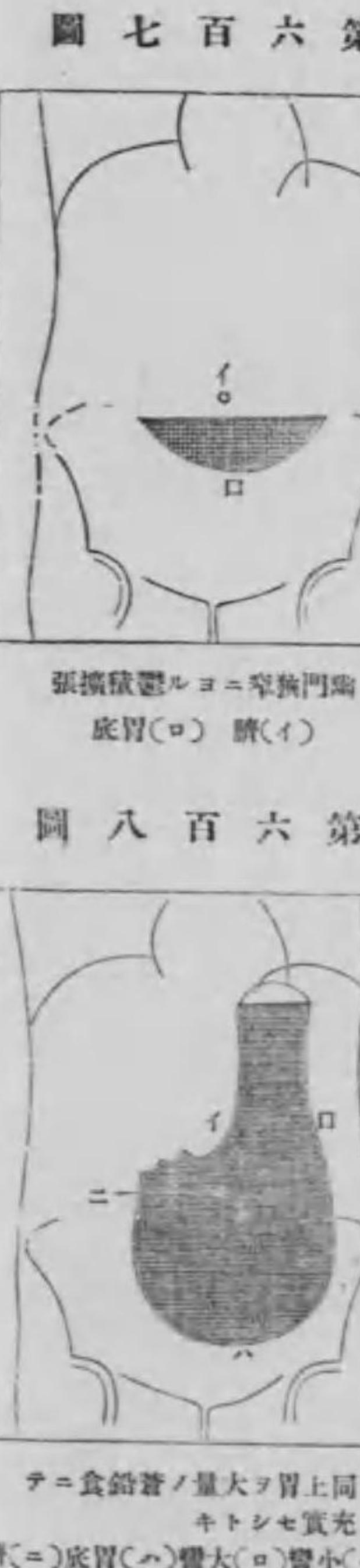
ヤ、何等ノ躊躇抵抗モナク、胃ノ最下部マデ下降シ、恰モ弛緩セル囊ニ物ヲ容ル、ガ如キ觀アリ、而シテ食餌ハ、胃ノ體部ニハ積滞セズシテ、胃底ニ沈積ス、胃ノ下部ハ骨盤内ニ在リテ、囊狀ニ擴張セリ。  
胃ノ擴張セル下部ガ、多少廣キ基底ナルトキハ、體部ノ胃壁ハ相近接シテ、宛モ漏斗狀ノ如ク狭マレリ、胃ノ弛緩セルモノニアリテハ、胃泡ハ著シク大ナリ、此大空泡ハ上方ニ膨脹シテ、心臓症狀、其他ノ症狀、(呼吸ヲ障害スルガ如キ感)ヲ招クコトアリ、幽門ノ位置ハ正常ナルコトアリ、又著シク低キコトアリ、而シテ小嚢及幽門部ノ移行屈曲部ハ、俄ニ屈シテ、尖銳ナル角度ヲ作レリ。  
蠕動運動ハ筋肉ノ菲薄ナル爲メ、多クハ淺キ波動ヲ營メリ、シユワルツハ弛緩症ニ於テハ、蠕動ガ胃壁ノ一定部ニ長ク停止セルヲ見、輕度ノ弛緩ニ於ケル運動力ハ、比較的良好ニシテ、排出時間モ亦多クハ生理的限界ヲ脱セズト雖、五乃至六時間後ニ於テモ、尙膨隆セル囊狀ノ底部ニ、蒼鉛ノ殘留セルコト多シ。十二時間後ニ於テ、尙多量ノ殘留ヲ見ルガ如キ場合ハ、單ニ胃ノ弛緩ノミナルコトハ、寧ロ稀有ニシテ、多ク

ハ幽門狭窄ヲ合併セルモノナリ。

胃下垂ニ於テハ、排出力ノ減弱、蠕動ノ不活潑ハ蠕動機ノ減少ヲ來シテ、胃内容物ヲ幽門ニ輸送シ能ザルモ、右側横臥位ヲ採ラシムレバ、内容物ノ排出ハ容易トナル。此側臥位排出ハ、運動障害ノ單ニ弛緩ノミニ因スルカ、將又更ニ幽門狭窄ノ合併セルヤ否ヤ鑑別診断スルニ有用ナルモノナリ。輕度ノ胃弛緩症ハ、婦人ニ往々見ルコトアリ。弛緩症ニ起レル必然ノ結果ハ、胃擴張(重力性擴張)ニシテ、胃擴張ト弛緩トヲ同時ニ見ルコト多シ、胃擴張ハ弛緩症ノ一症候ナリ。

胃筋ノ弛緩ヲ認メズシテ、胃擴張ヲ見ル場合アリ、例之、酒客、多食家、幽門狭窄ニ之ヲ見ルベシ、而シテ此ハれんごんニテ、容易ニ識別シ得ルヲ以テ、從來單ニ臨床上神經性胃症狀ト認メラレタルガ如キ場合ニ、れんごん診断ヲ施シテ、弛緩症タルヲ明ニセルガ如キ例證多シ。

胃痙攣ノ病理ヲ攻究スルニ當リテモ、亦れんごん検査ハ、大ニ與テ力アリ。胃痙攣ノ臨床的症候群ハ、



汎ク知ラレタル所ナリ、近時れんごん的研究ニヨリテ、胃痙攣ニ際シ、胃筋全部ニ亘レル痙攣ヲ確實ニ知ルヲ得タリ。

シユレジングルハ、胃全部ニ亘レル痙攣ノ止ミタル後、ニ於テモ、尚疼痛ヲ帶ベル深刻ノ蠕動運動ノ存在ヲ見、此深刻ナル胃壁ノ紋扼ト共ニ、疼痛ノ隨走スルヲ觀察シタリ、輕度ノ胃痙攣ハ、單ニ臨床的検査ニヨリテ診断セラル、場合ヨリモれんごん検査ニヨリテ、發見セラル、コト遙ニ多シトス。

胃痙攣ノれんごん症候ハ、胃ハ一般ニ縮小シ、殊ニ胃ノ下部ノ狹小トナレルコトナリ、噴門部ハ之ニ反シ、著シク膨大セルヲ常トシ(シユレジングル、ブンタル)、恰モ萎縮胃ニ見ルガ如キ外觀ヲ呈ス、胃痙攣ニアリテハ、胃ノ排出ハ著シク迅速ナルヲ常トス(シユワルツ)。

胃全部ノ痙攣ヲ現ス他、輪状筋及ビ縦行筋ノ部分的てたぬす様ニ收縮スルコト往々アリ(停留性收縮波)、リーテル、カウフマンハ此輪状收縮ヲ以テ、波狀蠕動運動ガ一定時間、同ジ場所ニ固定セルモノニ外ナラズト稱セリ。シユミーデン、ヘルタルハ縦行筋ノてたぬす様痙攣ノ場合ニハ、往々蝸牛狀ノ捲縮運動ヲ營ムコトアリト謂ヘリ。此部分的筋興奮ハ、小變ニ於ケル胃潰瘍又ハ瘢痕ニ基ケルコト屢々アリ。

クエルパン、スチールレンノ證明セル如ク、部分的てたぬす痙攣ハ、亦健康ナル胃ニ於テモ認ルコトアリ、其れんごん像ハ、胃ハ此輪状痙攣ニヨリテ二半セラレ、恰モ胃潰瘍ニ於ケル瓢箪形胃ニ旁聳タルモノアリ、ムンクハ犬ノ胃ニ於テ、迷走神經ノ各分歧ニ電氣的刺戟ヲ與ヘテ、胃壁ノ各部ニてたぬす痙攣ヲ起シ、而モ此痙攣ハ多クハ進行性ノ蠕動ヲ起サズシテ自カラ緩解セシヲ見タリ。

胃痙攣ハ、神經性諸疾患、腹腔臟器ノ動脈硬變症(ワルドフ・ゲル)、中毒症(ニコチン、鉛等)、隣接臟器

ノ炎衝(ショーリングル)等ニ於テ現ルナリ。就中重要ナルハ幽門痙攣ナリ、其原因ハ幽門ノ靡爛潰瘍ニシテ、反射的ニ誘起セラル、他胃ニ器質的變化ナク、幽門痙攣ノ現ルコトアリ。

幽門痙攣ハ啻ニ臨床上ノミナラズ、れんざん検査ニヨルモ、眞性ノ幽門狭窄ヲ見ルモノニシテ、幽門部ニ深刻、活潑ナル蠕動運動ガ胃ノ上部ヨリ起リ、猶之レト反対ニ噴門ニ向ヒ、逆行セル蠕動運動ノ現ルコトアリ(イヨナス)。

其他幽門痙攣ニアリテハ、乳糜ノ排出不十分ナルガ爲メ、胃ノ重荷ハ増加シ、胃擴張ヲ將來スルコトアレドモ、器質的幽門狭窄ニ伴フ閉塞性胃擴張トハ、固ヨリ同日ノ比ニ非ズ。

幽門痙攣ニ原ケル狹窄ニハ、胃筋ノ機能ガ往々増加シテ、當該筋肉ノ肥厚ヲ誘起セルコトアリ、胃ノ筋蠕動運動ヲ發起スルモ、漸次不活潑トナリ、平キ弱キ蠕動運動アルノミ、器質的狹窄ノ場合ニ於テハ、筋肉ノ疲勞ハ、永續シテ、弛緩ヲ誘起シ、痙攣性狹窄ニアリテハ、筋肉ハ漸次肥厚スルノ傾アリ。逆行運動ハ何等ノ器質的變化ヲ認メザル胃ニ於テモ、亦幽門痙攣ニ基ケル幽門狭窄ニモ現出シ得ルハ、ムンクガ動物試験ニヨリテ證セル所ナリ。犬ニ於テ、幽門痙攣ヲ人工的ニ喚起セシムルニハ、ふいぞすちぐみんノ小量ヲ皮下ニ注射スベシ。

### 胃ノ分泌機能障碍

胃ノ分泌機能ヲ、れんざんニ試験スル方法ハ胃ノ液體内容ヲ透視検査測定スルニアリ。

空虚胃ニ於ケル内容ヲ検定スルニハ、コーン又ハケスルノ創案ニヨル蒼鉛膠囊ヲ用ニベシ。

胃液ノ酸度ノれんざん測定法ニシワルツノ創案アリ、即患者ニ普通試験朝食ヲ與ヘタル後ニ蒼鉛四瓦トベブシン〇・二五瓦ヲ容レタルふいぶろでるむ囊ヲ嚥下セシム、又胃ノ鹽酸ガ囊内ニ侵入スルニ至レバ、べぶしんニ作用シ、囊ハ消化セラレテ蒼鉛ハ遊離ス。(但囊ハ患者ニ與フルニ先チ豫メ之ヲ水ニ浸シテ柔軟ニスルヲ可トス)。今囊ガ胃内ニアルヲ確メタル後、患者ニ左側横臥位ヲトライメ、約一時間半後ニ再び透視試験ヲ行ヒ、囊ガ未ダ破壊セザレバ境界明瞭ナル圓形ノ陰影ヲ認ムルモ、反之囊ガ開放スレバ、蒼鉛ハ大變ニ沿フテ線狀ノ陰影ヲ呈スルヲ識ルベシ、シワルツバ、此壞ヲ用ヒテ酸量ノ多寡ヲ推知すべき時間ヲ計レリ。

一時半後ニ於テ囊ガ開放セバ……………過酸症(高度)  
二時間後ニ於テ囊ガ開放セバ……………過酸症(輕度)  
二時半後ニ於テ囊ガ開放セバ……………正常ナル酸度

三時半後ニ於テ囊ガ開放セバ……………酸減少症(中等度)  
四時半後ニ於テ囊ガ開放セバ……………酸減少症(高度)

五時間或ハ其レ以上ノ時間後ニ於テ開放セバ……………酸缺乏症

シレジングルハ、重炭酸なごりうむ液ヲ與ヘタル後、現出セル胃泡ノ大小ニヨリテ、胃液ノ酸度ヲ検シ得ベキヲ説ケリ。

畢竟、此等ノ方法ハ、啻ニ其方法ノ煩雜ナルノミナラズ、種々ナル誤診ヲ招クノ恐レアルヲ以テ、未ダ實

用の重要なトハ謂ヒ難シ。其他胃ノ分泌過多ハ蒼鉛食餌ヲ與ヘタル後ニ現ル中間層ノ高サニヨリテモ検定スルヲ得(シエレジンケル)。

蠕動運動ノ状態ハ、胃液ノ化學的性質ヲ知ルノ根據ナリ、即チ酸過多症ニアリテハ、酸減少症及ビ酸缺乏症ニ於ケルヨリモ、蠕動運動ハ一般ニ緩徐ナリトス。ダウラニヨレバ、鹽酸ヲ與フレバ、蠕動運動ハ活潑深刻ニ發現スルモ、排出時間ハ却テ遲延スルモノナリト謂ヘリ。酸過多症ノ排出時間ハ、一般ニ長キヲ常トス、胃液ノ化學的性質ト幽門トノ關係ニ就テハ、今日猶學者間ニ於ケル論争ノ點少カラズ。

從來、酸过多症ト胃痙攣、又胃液缺乏症ト幽門閉鎖不全トハ、互ニ相離ル可ラザル現象ト見做ナレタレドモ、近時胃液ノ酸量過多ナルニモ拘ラズ、幽門不全閉鎖ノ伴ヘル場合アルヲ知ルニ至レリ、斯ル場合ニハ、胃壁ノ器質的變化ノ與テ力アルモノトス。酸缺乏症ニアリテハ特有蠕動ヲ呈シ、乳靡ノ第一塊ハ徐々ニ底部ニ推進スルヲ見シ、コハグレーデルガ謂ヘル如ク、胃壁ノ緊張ノ過度ヨリ將來スルニ非ズシテ胃粘膜ノ浸潤ノ少キ爲ナリ。

胃ノ診斷ヲ下スニハ、常ニれんごん所見ト分泌機能ニ關スル凡テノ臨床的症候トヲ參照結合シ、更ニ體質ノ如何ヲモ考慮セザル可ラズ、虛弱質、衰弱、興奮、貪血、萎黃病等ハ、胃ニ著シキ影響ヲ與ヘ、其他年齢、生活ハ胃型ニ多少ノ變化ヲ及スモノナリ、殊ニ慢性中毒症(酒客、煙草濫用)ハ、慢性胃加答兒ヲ將來シ、時日ヲ經過スルニ從ヒれんごん的ニモ、認識シ得ベキ變化ヲ呈スルニ至ルベシ(胃弛緩症、胃擴張等)。

胃潰瘍 患者ガ病苦ヲ胃部ニ訴フニ際シテハ、先づ胃粘膜ニ於ケル器質的變化ノ有無ヲ決定セザル可ラズ、確實ナル診斷ハ、食餌、藥物療法、乃至外科的治療上ニ重要ナルモノナリ。臨床的検査(胃液検査、潜在性胃出血ノ證明等)上、胃潰瘍ノ診斷ヲ確實ナラシムルモ、病理解剖上胃粘膜ノ靡爛及ビ潰瘍ハ、吾人ガ臨床的診斷ニテ想像スルヨリモ、遙ニ多キモノナリ。此等ノ事實及ビ臨床的検査法ノ未だ完全ナラザル點ニ想到スレバ、れんごん検査法ハ、診斷上ニ有力ナル補助ヲ與フルモノナリ。

胃粘膜ノ疾患ヲれんごんニテ診斷セントスル理想ヲ、ヨラッセー、ヘムメテルハ努力セリ、氏等ハ、潰瘍面ニ蒼鉛水ノ一部ガ附著スレバ、胃内容ノ排出後、猶微細ナル蒼鉛陰翳ノ現出スペキト期待シタルニ、未ダスノ如クニ確證セラレタルハ、殆ンド是ナシ。是レ蓋シ胃粘膜ノ損傷又ハ潰瘍ガ、斯ノ如キ陰影班ニテ認識シ得ラルハ、寧ロ稀有ナル現象ニシテ、胃壁ニ何等ノ器質的損傷無シテ限局セル陰翳ヲ現出スルコトアレバ、斯ノ如キ陰翳班ヲ以テ、胃潰瘍ノ存否ヲ直ニ斷定シ得ズ、故ニ胃潰瘍ノれんごん診斷ハ、今日ニ於テハ一定ノモノ(穿孔性潰瘍)ニ制限セラル。れんごん診斷ヲ下スニ當リテハ、單純性消化性潰瘍及ビ胼胝性潰瘍ノ病理解剖上ノ差異ニ注意セザル可ラズ。

胃潰瘍、殊ニ單純性潰瘍ヲ診斷シ得ル場合ハ、多クハ潰瘍ヲ直接證明スルヨリハ、寧ロ潰瘍ノ間接ノ現象ヲ認メ得ルモノニシテ、胃ノ變位、變形、痙攣、蠕動障害、運動障害等ヲ以テ知ルナリ、故ニ此等ノ諸現象ヲ既述ノ方法ニ從ヒ、細心注意シテ觀察検査シ、始メテ胃潰瘍診斷ヲ達シ得ベシ、而シテ此等ノ諸現象ハ、

又胃壁ノ何等器質的變化ナキ場合ニモ認ムルコトアルヲ忘ル可ラズ。

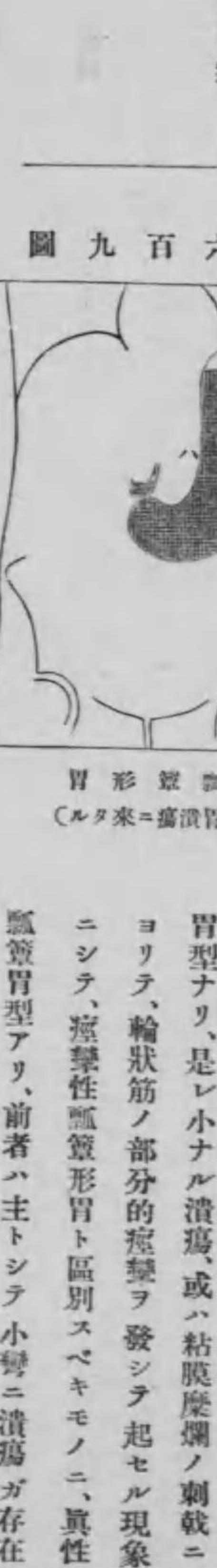
胃潰瘍ノれんさげん診断ニハ二様ノ症候群アリ。即一ハ間接的症候タル前述ノ諸現象ハ胃潰瘍ヲ疑シムルニ足ルモ未ダ之ヲ斷定シ能ハズ、他ハ胃壁ノ器質的變化ヲ直接ニ認メ得ベキ胃陰影ノ形狀、并ニ周縁ノ變化ヲ知リ得ル場合ナリ、後者ノ場合ニアリテハ、胃潰瘍ヲ絶體的ニ證明シ得ルナリ。

透視板ヲ用ヒテ行フ胃ノ検査ハ、診断上重要ナル方法ナレドモ、尙疑ハシキ場合ニハ、再三寫真撮影セザル可ラス、殊ニ陰影ノ周縁ニ異常ヲ認メタル場合ニ於テハ、益々其必要アルモノナリ、啻ニれんさげん所見ノミニ拘束セズ、臨床醫家ト相提携シテ、臨床上ノ諸症候ヲ參照シテ診断ヲ下サザル可ラズ。

胃ハ潰瘍ノ爲ニ往々下垂セルコトアリ、又胃壁ノ周圍組織ト瘻著セバ、胃ハ左方ニ、或ハ右方ニ牽引セラレテ偏在ス、殊ニ幽門ノ右方偏位及ビ高上セルヲ以テ其特徴トス。

胃ノ形狀ハ潰瘍ノ現存セルニモ拘ハラズ、全ク常態ヲ保テルコトアリ、胃ノ器械的障害(胃部痙攣等)ア

ルニ至リテ初メテ胃形ノ變化ヲ發現スベシ、而シ



スルトキ、之ニ對應セル大彎壁ハ、牽引收縮セラレ

テ瓢箪形ヲ作レリ。即チ、潰瘍ハ粘膜ニ皺襞ヲ形成シ、之ニヨリテ潰瘍ト相對セル大彎ノ部分ヲ牽引シ、又潰瘍ノ刺載ハあうゑるばつは神經叢ニ痙攣發作ヲ誘發シ、之ヲ援助スルナリ。斯ノ如ク痙攣作用ノ起レルコトハ、極メテ小ナル潰瘍ヲ截除シ、胃壁ガ少シク開大セル事實ニ見テモ明ナリ。數回ノ透視検査及ビ寫真撮影ニヨリ、確ニ瓢箪形胃タルヲ證明シタルニ拘ラズ、手術ニ當リ空虚胃ノ何等變化ナキヲ見ルコト稀レナラズ。又胃周圍炎ノ結果、瘢痕性瓢箪形胃ヲ呈セルコトアリ、瓢箪形胃ト診断上ニ區別スキ虛性瓢箪形胃ナリ。コハ、瓦斯ヲ以テ膨満セル大腸、或ハ腫大セル脾臓ガ、胃壁ヲ壓迫シテ、虛性瓢箪形胃ヲ生ズルモノニシテ、觸診ニヨリテ辨識シ得ベシ。更ニ診断ノ至難ナルハ、胼胝性潰瘍ニ基ケル眞性瘢痕瓢箪形胃ト單純痙攣性瓢箪形胃及ビ單純性消化性胃潰瘍、或ハ小靡爛ノ刺載ニ起因セル痙攣性瓢箪形胃トノ鑑別ナリ、コハ治療上ニモ診断學上ニモ必要ナルモノナリ。痙攣性瓢箪形胃ノ瘢痕性瓢箪形胃ト異ルハ、其凹陷部ノ不定ナルコトナリ、手ヲ以テ患者ノ胃部ヲ壓シ、或ハ深呼吸ヲ行ハシメ、或ハ腹壁ヲ牽縮セシムレバ、凹陷ハ一時的又ハ永久的ニ消失スルニヨリテ之ヲ知リ得ベシ。

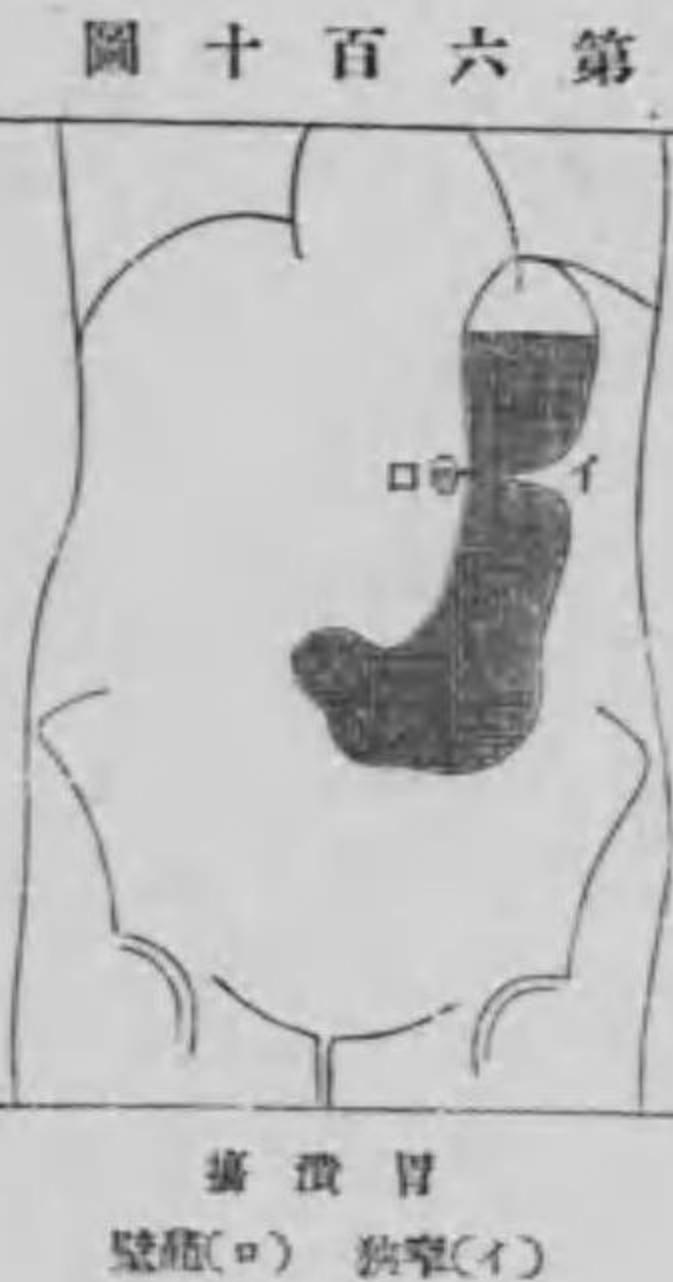
ホルツクネヒトハ、痙攣性瓢箪形胃ハばゝうゑりん○・○五ヲ内服スルニヨリ、其痙攣ヲ緩解シ得ト謂ヘドモ、又緩解セザルコトモ多シ。

リーデルハ、說ヲナシテ曰ク、痙攣性瓢箪形胃ニ現ル、てたぬす様牽縮ハ、多クハ食餌ノ刺載ニ由來スレドモ、食餌ノ初塊ハ何等ノ遲滯ナク、胃ノ最底部ニ達シ得ヘキニ、器質的狹窄セル胃ニアリテハ、斯ノ如キ現象ヲ見ズト、ファウルハーベルハ痙攣性瓢箪形胃ニテハ、手掌ヲ以テ胃壁ヲ壓迫シテ、痙攣ヲ抑制セバ、糜粥ガ噴門部ヨリ尾端部ニ輸出シ得ベシト。痙攣性瓢箪形胃ノ周縁ハ平滑且ツ銳滑ナルモ、器質的瓢箪

形胃ニ於テハ瘢痕性收縮ヲ呈シ、不規則ナルヲ常トス。

胃陰翳ノ周縁ノ異常ハ、多クハ透視板上ニ於テ能ク之ヲ證明シ得ルモ、潰瘍ニ特有ナル陰翳周縁ノ變化ヲ知ラント欲セバ、寫真撮影ニヨルヲ便トス。消化性潰瘍ハれんごん検査上直接ニ、稀ニ之ヲ證明シ得ルコトアリ。穿孔性潰瘍ハ特有ノれんごん陰影ヲ呈ス、即チ第六百十圖ノ如ク、潰瘍ニヨル組織缺損部ニハ、壁竈ヲ作り、此ニ蒼鉛ガ滯積セリ、此壁竈症候ヲ發見スルニハ、固ヨリ特殊ノ技術ニヨラザル可ラズ(ハウデック)而シテ此壁竈ノ其平面上界ニハ屢々半月形ノ透明部ヲ見ルコトアリ、コハ空氣ガ上層ニ壓上セラレタルモノナリ。

胃内容物ノ排出後ニ於テモ、往々此空洞内ニ蒼鉛ガ殘留セルコトアリ、斯ル憩室ノ陰翳ハ、屢々三層ニ區別シ得ベシ、即チ、蒼鉛ノ一部ハ、普通食餌ノ殘留セル上ニ積留セル場合ニシテ、下層ノ稍ヤ淡キ陰翳部分(普通食餌ノ殘留)ト、其上部ヲ占ムル蒼鉛ノ濃キ陰翳ノ中層及ビ最上層ノ透明ナル空氣泡ナリ。斯ノ



第百六十圖

(胃潰瘍ノ症候  
(ハウデック)

如キ穿孔性潰瘍ノ胃陰影周縁ノ變化ハ、主トシテ小變側ニ在セリ、之ヲ觸診スルニ、潰瘍部ハ硬ク癥著シテ動カズ、又空洞ノ内容物ニ向ヒ、手壓ヲ加フモ之ヲ排除シ得ズ。

胃潰瘍ノれんごん像ハ、其周縁陰影ノ特別ナル變化ヲ呈セルモノニシテ、ハウデックハ胃潰瘍ノ陰影ノ變形ニ就テ、左ノ症候群ヲ舉ゲタリ。

- 一 充實セル胃陰影ニ於テ、多クハ小變側ニ憩室様突起存在セリ
- 二 憩室内ニ於ケル蒼鉛塊ハ觸診上不動性ナリ
- 三 憩室内ニ蒼鉛ノ殘留セリ
- 四 蒼鉛ノ上層ニ半圓形氣泡ヲ含メリ
- 五 大變側ニ深キ狹キ凹没ヲ見ル

此等ノ症候群ハ、固ヨリ凡テノ潰瘍ニ必シモ、具備セルニハ非ズト雖、其何レノ一症候ダニ存在セバ、胃潰瘍ノ診斷ヲ益々確實ナラシムルモノナリ、尙疑シキ場合ニハ數日後更ニ反複検査スルヲ要ス。

胃潰瘍ニ於ケル胃ノ緊張力ハ、多クハ過緊張ニ在ルヲ常トス。痙攣ハ胃全部ニ亘リテ存セルコトアリ(シユワルツ)、或ハ輪状筋ノ一部分ニ起りてたぬす様縮縮ヲ呈セルコトアリ(間歇性瓢箪形胃)、或ハ胃筋肉ノ痙攣ノ持続セルコトアリ、ソノ持続ハ粘膜損傷ノ刺戟ニ由ルモノト見做シテ可ナリ、あごろびんばうゑりん(〇・〇五)ノ内服ハ、痙攣ヲ緩解シ得ルヲ以テ、瘢痕性瓢箪形胃ト鑑別スベシ。

潰瘍ノ刺戟ガ、幽門痙攣ヲ誘起シテ幽門ノ持続的狭窄ヲ招キ、シカモ胃液ノ過酸性ノ大ナルニモ拘ラズ、胃筋ノ弛緩セルコトアリ、是レ幽門潰瘍ニ遭遇スル所見ナリ、其他食物ノ潰瘍部ヲ通過スレバ其刺戟ニヨリテ痙攣ヲ喚起スルコトアリ、故ニ食餌ニ中性白陶土ヲ混ズレバ幽門痙攣ヲ緩解シ得ベシ、之ニヨリテ單ニ官能的痙攣ナルカ、器質的變化ニ由ル眞性ノ幽門狭窄ナルカラ解决シ得ベシ。胃ノ異常ナル緊張力ハ、潰瘍ノ診斷ニ未だ絶體的價値アルモノニ非ズト雖、有力ナル参考ニ價セリ、蠕動運動ハ潰瘍ノ診斷ニハ、稍有力ナルモノナリ、一般ニ潰瘍アレバ、筋肉ノ緊張力亢進セルヲ以テ、蠕動運動ハ深ク且劇シ。

幽門痙攣ヲ將來スル潰瘍ノ現存セルヤ、其蠕動運動ハ特有ナルモノナリ、ヨーナスバ、スル、狭窄蠕動ヲ二様ニ區別セリ、即チ一ハ、狭窄カ既存セル場合ニ於テハ、蠕動運動ハ、胃體部ノ上際ヨリ起始シ深ク、且著シク進行シ、他ハ噴門部ニ向フ所謂逆行蠕動運動是ナリ。ケストレハ、胃體ヨリ起レル深刻ノ蠕動運動ヲ以テ、未ダ幽門狭窄ノ何等ノ徵候ヲ呈セザル時ニ於テモ、幽門潰瘍ヲ診断シ得ベシト謂ヘリ、蠕動運動透視板上検査ハ技術ノ熟達ヲ要ス、其他活動寫真撮影ニ賴ル場合アリ。

胃ノ運動力試験ハ、胃潰瘍ノ疑診ニ際シテハ、透視診断上ニ缺ク可ラザル一補足法ナリ、殊ニ蠕動運動トノ關係ハ診断上必要ナルモノナリ。蠕動運動ノ活潑ナルニモ拘ラズ、排出時間ノ五乃至六時間以上ニ遅延スレバ早最幽門狭窄ヲ疑フノ餘地ナシ。

一般ニ、單純性胃潰瘍ニ於テ過酸症アレバ、胃ノ運動力ハ減弱セラルト雖、又過酸症ニシテ、正常排出時間ナルコトモ亦稀ナラズ、多クハ運動試験ハ幽門ノ潰瘍性狭窄ノ證明ニ重要ナルモノナリ、尙胃潰瘍ノ診断ニ必要ナルハ胃ノれんごん觸診法ナリ(ホルツクネヒト)。是ニヨリテ隣接臓器ニ病因アルベキヤヲ定メ得ベク、又隣接臓器ニヨル胃ノ變形、移動、位置異常ノ原因(瘻著等)ヲ知ルニ足レリ。其他觸診ニヨリテ疼痛點ヲ探索シ、其位置ヲ確ムルコトバ、診断上必要ナリ、此疼痛點ハ必ずシモ潰瘍ノ所在ヲ示スモノニ非ズト雖、他ノ症候ト綜合シテ、潰瘍ノ位置ヲ知ルニ便ナリ。れんごん觸診ニヨリテ、壓痛點ノ胃ニ存セルカ、或ハ隣接臓器、例ヘバ膽囊ニ在ルヤ否ヤフ知ルコト容易ナリ。

之ヲ要スルニ、潰瘍ノれ診断ハ困難ニシテ満足シ得ベキ確證ヲ得難シ、殊ニ單純性潰瘍初期ノ診断ハ少數ノ場合ニ限ラレタリト雖、前述ノれんごん像ヲ根據トシテ得タル所見ヲ綜合セバ、胃潰瘍ノ診断ヲ下

シ得ルコト多シ。

既述ノ胃ノ變形ニ關スル症候ノ他、逆行蠕動運動、運動力ノ減弱等ノ間接症候モ、亦潰瘍ノ診断ヲ援クルモノニシテ、壓痛點ノ存在ノ一定セルコト、胃ノ右方(瘻著)又ハ左方(幽門痙攣)轉位モ亦潰瘍ノ特徴ナリ。

臨床的方法ニテ、潰瘍ノ性質、位置、大サ、隣接臓器ノ關係ヲ顧慮セルモ、確診シ能ハザルガ如キ場合ニ、れんごん検査ノ結果ヲ、綜合推斷シテ、胃潰瘍ノ疑診ヲ益々確實ナラシムルナリ。

## 胃 痞

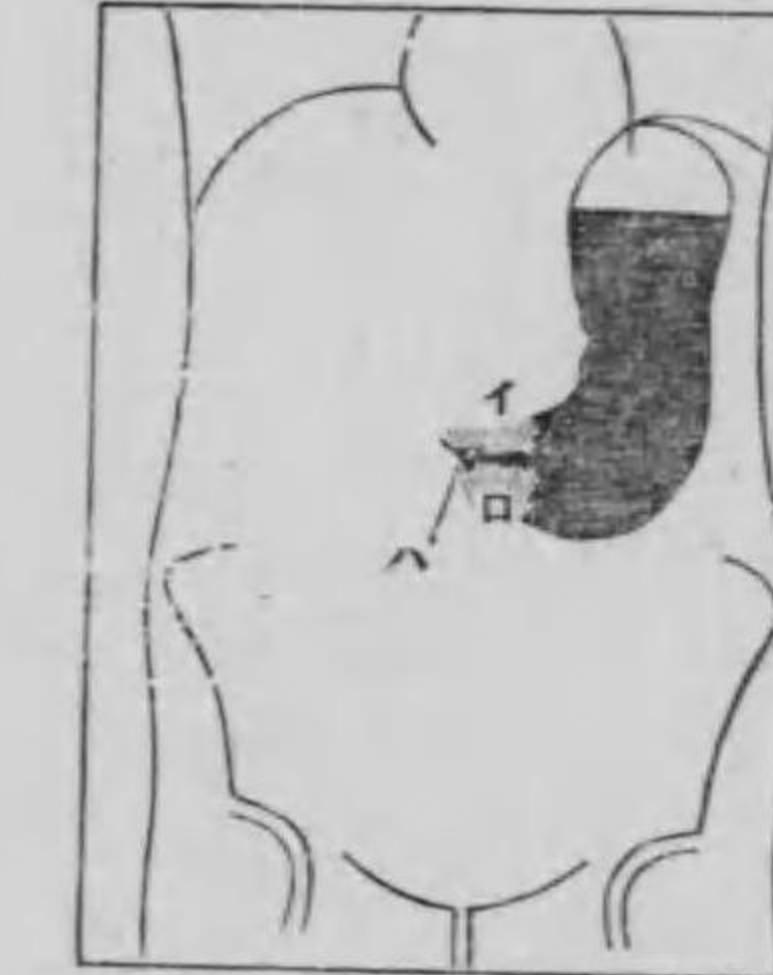
胃潰瘍ノ診断條下ニ述タル所說ノ一部ハ、之ヲ胃癌ノ診断上ニ適用スルヲ得ルモノナリ。

胃癌ノ診断ニ於テモ、直接及ビ間接症候ニ區別ス、胃ノ分泌ハ、胃液ノ化學的検査ヲ施セバ、確實容易ニ之ヲ知リ得ベキモ、蠕動運動、緊張力ノ障礙、並ニ運動力、幽門ノ關係等ヲ知ラント欲セバ、れんごん検査ヲ便トス、而シテ此等ノ諸障礙ノ検査ハ、胃癌ノ早期診断ニ著シキ好果ヲ齎ラスモノナリ。胃癌ノ癌性變化ヲ可成、早期ニ、シカモ之ヲ直接ニ認識センコトハ、今日ト雖、尚不可能ナリ、胃ノ變形ヲ透視板上ニ認メ得ル如キ場合ハ、既ニ癌腫ノ進行セシ場合多シトス。

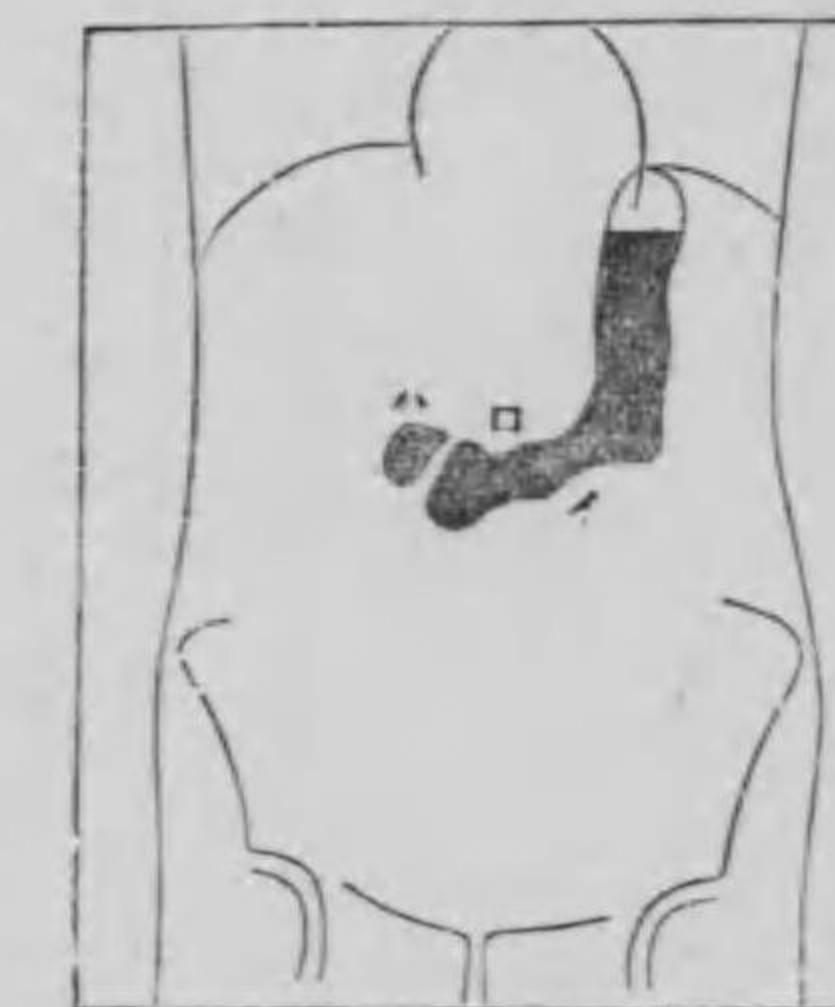
胃ノ位置ニハ、特ニ影響ヲ受ケズト雖、既ニ惡液質ニ陷リシモノニ於テハ、胃ハ屢々下垂セリ、其他、早期幽門狹窄及ビ胃擴張ニ起因セル胃形ノ變化ハ、既ニ述ブル所ト同様ナルヲ以テ茲ニ之ヲ省略ス。

癌腫ノ進行ト共ニ胃ノ形狀ニ特有ナル變化ヲ來セリ。胃粘膜ヨリ發生シテ、漸次内腔ニ増殖スル軟性

癌腫ニ在リテハ、蒼鉛食餌ハ胃ヲ十分ニ充實スルコト能ハズシテ、所謂充實缺損ヲ生ズ、此充實缺損ハれんこげん透視ニヨリ當該部位ヲ知ルヲ得ベシ。時トシテ瓢箪形胃ニ類似セル形ヲ呈スルコトアレドモ、

圖三百六第  
癌 胃圖四百六第  
癌 胃圖二百六第  
癌 胃

(イ)腫瘍ルケ於ニ=嚢大

圖五百六第  
癌 性 症

癌性ノモノニ於テハ其狹隘部ノ周縁ガ平滑一樣ナラザルニヨリ、潰瘍ニ於ケル瓢箪形胃ト區別シ得ベシ。  
胃癌ノ陰影ハ種々多様ナルモ、概シテ陰影線ハ不規則ニシテ、恰モ毀碎セラレタルガ如キ外觀ヲ呈ス、ホルツクネヒトハ、癌性浸潤部ヲ指壓スレバ、常態ニ於ケルヨリモ多量ノ胃内容ヲ他ニ向ケ、容易ニ排除ス而シテ、其排除量ハ壓抵セル指容積ニ相應セザルモノナリト謂ヘリ。

硬性癌ニアリテハ、胃壁ノ周縁ハ銳利ニシテ、胃ノ大サ著シク縮小シ、恰モ小キ漏斗狀ヲ呈シ又ハ萎縮矮小ノ男型ラセリ(第六百十五圖)。癌腫ヲ未ダ觸知シ得ザル場合ト雖、往々れんこげん検査ニテ證明シ得ル、胃ノ變形ニヨリテ、進行スル器質的變化ノ現存ヲ知ルコトアリ。

胃癌ニ於ケル胃壁緊張力ハ、屢々減少セリ、是レ同時ニ存在セル惡液質ニ關係スルモノナリ。故ニ幽門ニハ未ダ何等ノ狭窄ナキニ、既ニ胃緩症及ビ多少ノ胃擴張ヲ發シ、幽門癌、發生セバ、弛緩及ビ擴張ハ共ニ著シク高度ニ達スルモノナリ。

胃癌ノ蠕動運動ハ、未ダ浸潤ノ著シカラザル時ニ於テハ、旺盛ニシテ何等ノ異常ヲ呈セズ、蠕動運動ノ障害ガ存在セルモ、其障害ノ状態ヨリ、直ニ潰瘍ナルカ癌腫ナルヤヲ區別シ得ザルハ言ヲ俟タズ。幽門ニ癌腫ヲ發生シ、狭窄ヲ起セバ、從テ蠕動運動モ變化シテ逆行運動ヲ營ム、シカモ排出障害ヲ明ニ認メザルニ、逆行運動行ル、コトアリ。幽門癌腫ニ起因セル幽門狭窄症ハ、潰瘍ニ於ケルガ如ク、迅速ニ現ハルモノニ非ズ。是レ兩者ニ於テ胃液ノ化學的成分ヲ異セルニ由レリ、又潰瘍ニアリテハ（除外例ナキニ非ラザルモ）過酸症ヨリ幽門痙攣ヲ助長セルニ、癌腫ニアリテハ多クハ胃液缺乏症ナルヲ以テ、幽門不全閉鎖ヲ誘起セリ。

潰瘍ト癌腫トノ區別ハ、運動試験ニヨリテ自カラ差違アルヲ知ルベシ、注意スペキハ化學的検査ヲ行ヒ、胃液缺乏症ヲ知リ、れんごん検査ニテ、排出時間ノ迅速ヲ證明シタルトテ、直ニ癌腫ノ存在アリト斷定セルハ、早計ノ悔ヲ免レザルモノナリ、宜シク他ノ臨床的症候ヲ參照シ、更ニ細心注意ノ下ニ數回ノ検査ヲ反復セザルベカラズ。

クラウスハ、平滑筋ヲ有スル臟器（食道、胃、腸）ノ管壁ニ、新生物ガ發生セバ、屢々括約筋ノ反射性不全閉鎖アルヲ證明セリ、近時外科的方面ヨリ、癌腫ノ種類（膿樣癌、圓柱癌、膠樣癌、硬性癌等）ヲれんごん検査ニテ決定セント努力セリ。

胃疾患ノれんごん診断學ハ今日ニ於テモ猶ホ論爭ノ餘地多シ、茲ニハ唯一般ニ承認セラタル事實ノミヲ簡單ニ述べシノミ。

## 第六十六章 腸ノ「レントゲン」検査

### 腸管ノ一般

腸管ノれんごん検査モ、胃ト同ジク腸管トソノ周圍トノ陰影差別ヲ得ンガ爲、造影剤ヲ用テ、腸管ヲ充實検査スルモノトス。腸管ノ検査ニ際シテ、注意スペキハ、腸管ノ位置、形狀、緊張力、蠕動運動及ビ運動力ハ透視検査ニテ行ヒ得ルモ、腸管ノ形態及ビ局所ノ詳細ナル所見ハ透視法ノミニテハ不満足ナルヲ以テ、必ズ寫真撮影ヲ施サザル可ラズ、殊ニ腸ノ運動ニ關スル知識ハ、順列撮影ニ求メザルベカラズ。

小腸ノれんごん検査法ハ、尙不完全ヲ免レズ。十二指腸ニアリテハ十二指腸漏斗部、即十二指腸球ヲ透視及ビ撮影乾板上ニ之レヲ知リ得ルモ、其他ノ部ハ認メ難シ、是レ造影剤ハ、他ノ小腸部ニ於ケル如ク、十二指腸ヲ通過スルコト、極メテ迅速ナルガ故ナリ。

十二指腸ノ検査ノ最良方法ハ、ホルツクネヒトノ法ニシテ、空虚胃ニ蒼鉛水ヲ攝取セシムルナリ、既述タルガ如ク、液體ノ一部分ハ、直ニ胃ヲ去ルヲ以テ、十二指腸ノ陰影ハ此時機ニ現出ス、指壓ヲ加ヘ、蒼鉛水ヲ胃底ヨリ幽門ノ高サニマデ押送スレバ、一層ヨク現ルモノニシテ、十二指腸ノ經過ヲ十分ニ追究シ得ベシ、十二指腸ヲ上水平部、下部及ビ下行水平部ニ區別ス。

上水平部（十二指腸球部）ハ、急ニ彎曲シテ下行部トナリ、下行部ハ胃ノ後方ニ位セル下水平部ニ移行ス、空腸ハれんごん検査上、空腸ノ全部ヲ知ルハ頗ル稀ナリ。

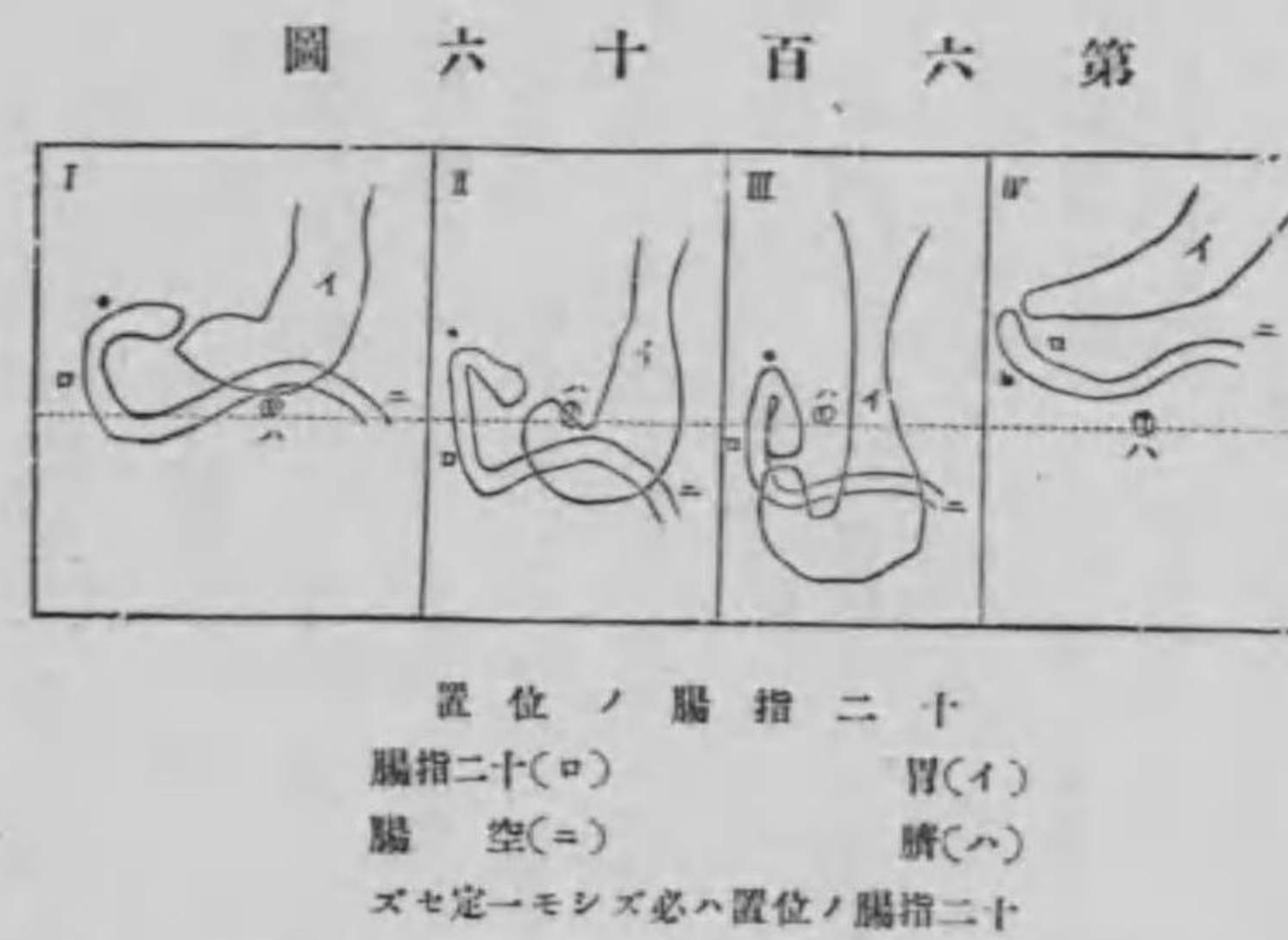
れんごん診断

八五〇

食餌ハ十二指腸及ビ空腸ヲ極メテ迅速ニ通過スルモ、小腸下部ニ到ルヤ、二乃至三時間、或ハ、猶數時間茲ニ積留スレドモ、三時間後ニ至レバ、初メテ盲腸部ニ達セルコト多シ、而シテ小腸全部ヲ通過シ終ルニハ、約六乃至八時間ヲ要ス(ファウルハーベル)。

小腸ノ運動

大腸

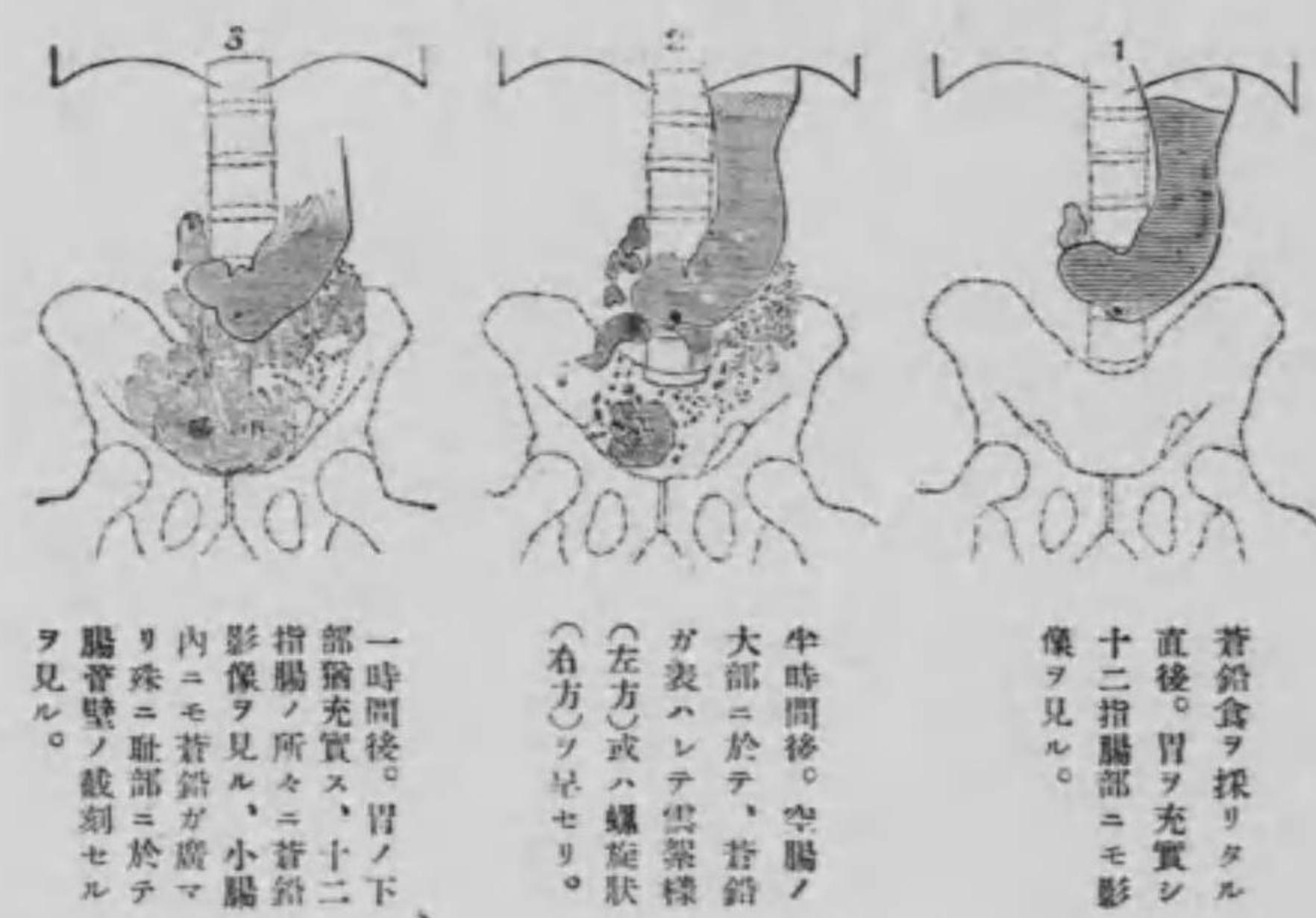


位置ノ腸指二十  
腸指二十(ロ)  
腸空(=)  
ズセ定一モシズ必ハ置位ノ腸指二十

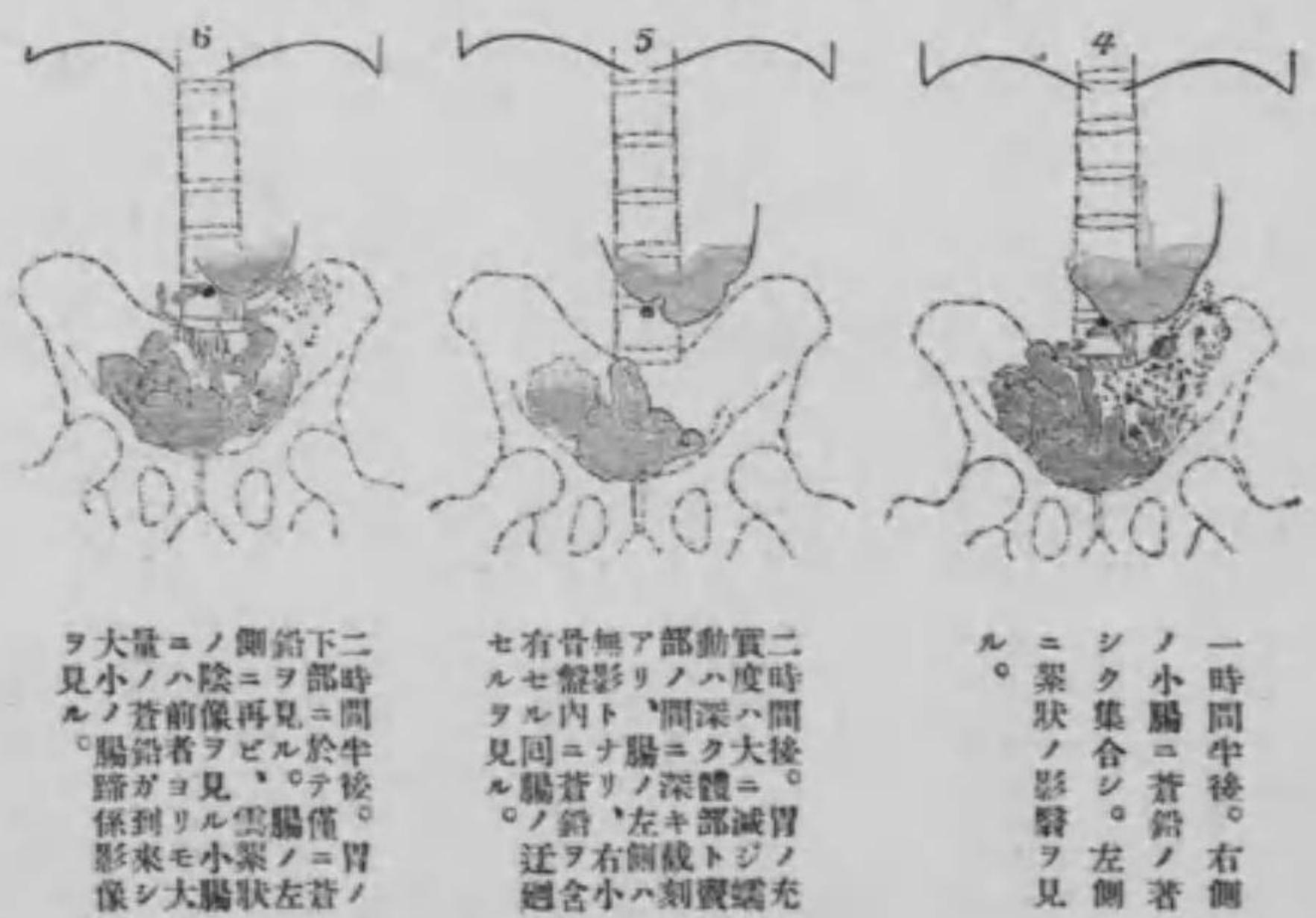
ケップスル及ブリュグルハ活動寫真ノ検査ヨリ小腸ノ運動ヲ混和及ビ攪拌運動及ビ輸送運動トノ三種ニ區別セリ。混和運動トハ、初メ堆塊狀トナセル腸内容物ガ、數秒ニテ帶狀ニ遷リ、更ニ再ビ相聚リテ塊狀トナリ、少時靜止シ、更ニ復タ反復シ、十八秒間ニ約三回ノ運動ヲ營ム。攪拌運動ハ、帶狀ノ内容ガ、多數ノ球塊ニ分タレ、恰モ捻珠狀ノ外觀ヲ呈ス、混和及ビ攪拌運動ノ周期ハ、種々ナレドモ、腸内容物ハ此際其位置ニ止リテ動カズ。輸送運動ハ腸内容ヲ前進送出セルモノニシテ、約十二種進行スレバ、再ビ球狀塊ニ變ジテ、進行ヲ止ム、此二様ノ運動ニヨリ小腸内容ハ輸送セラレテ結腸ニ到達スルナリ。

大腸ノれんごん検査ハ小腸ヨリモ容易ナルノミナラズ、れんごん知識ハ、遙ニ進メリ、是レ蓋シ蒼鉛食ノ長時間大腸内ニ停留セルト、他方ニハ、大腸ハ小腸ノ如クニ疊重セザルヲ

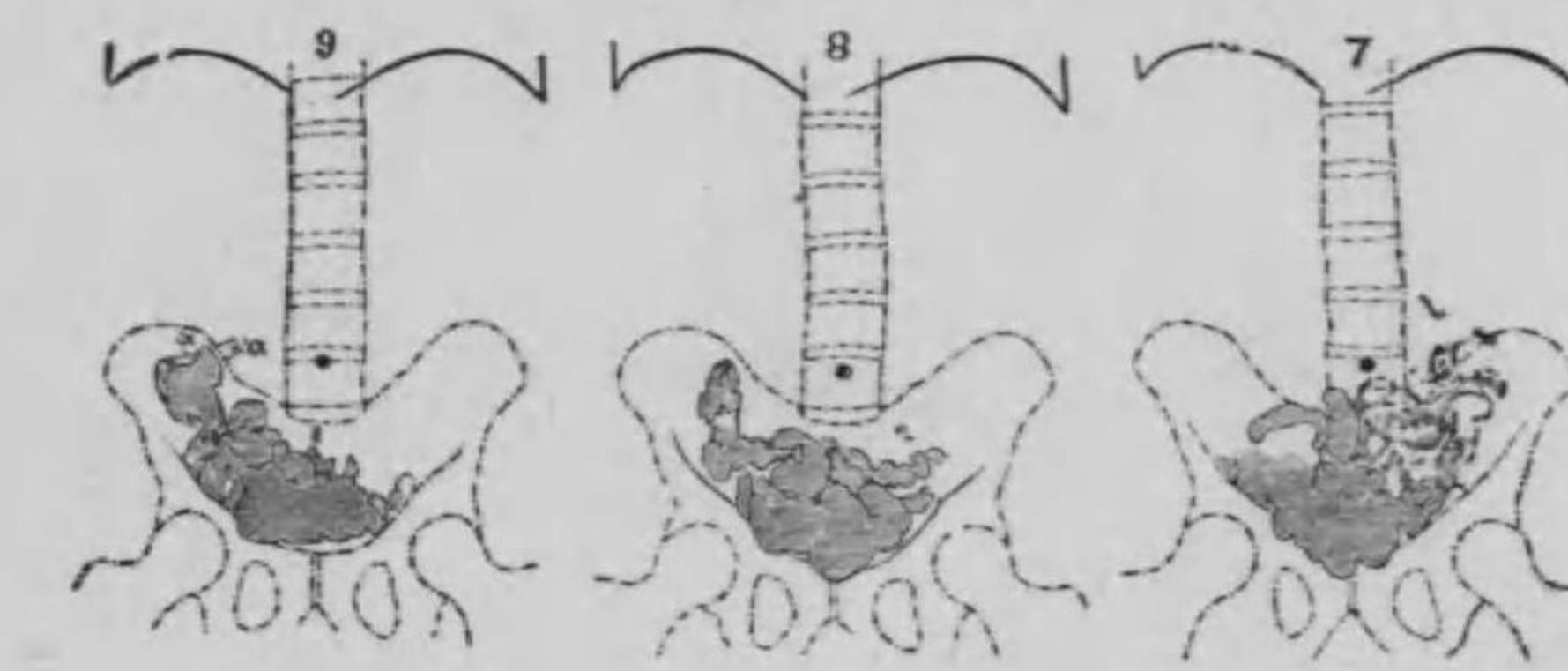
圖七百六第



圖八百六第

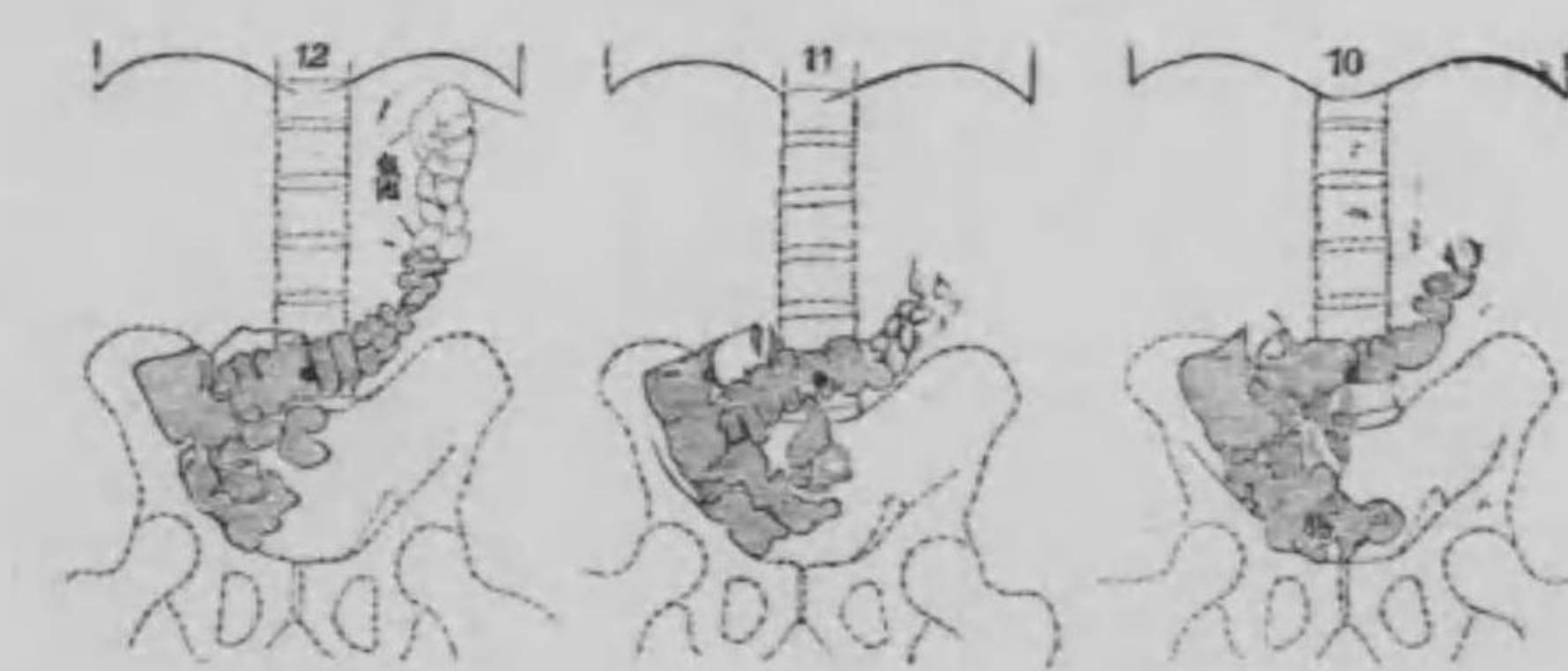


圖九百六第



三時間後。胃ハ空虚トナレリ、小腸ノ大部分ハ小骨盤内ニ集積シ腸管ノ截刻ヲ見ル。

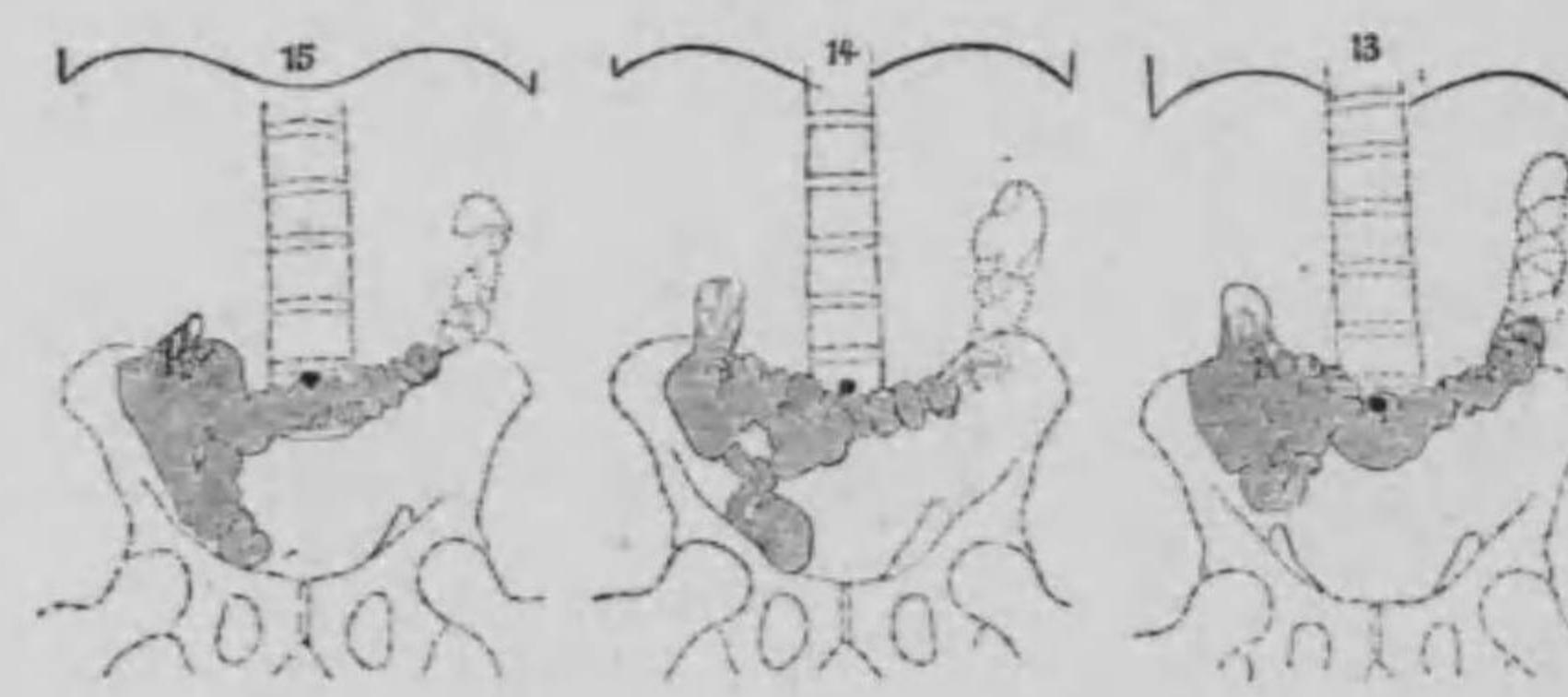
圖一千六第



四時間後。小腸ハ右方ニ移レリ、盲腸及上行結腸ニ苔鉛ガ充實シ始メタリ。(上行結腸ノ上部ニハ氣泡ヲ作レリ、(上行結腸ハ頗る短シ)。・・・

三時間半後。小腸ハ太クナリ、盲腸ニハ不充分ナガラモ苔鉛ノ影像ヲ見ル。

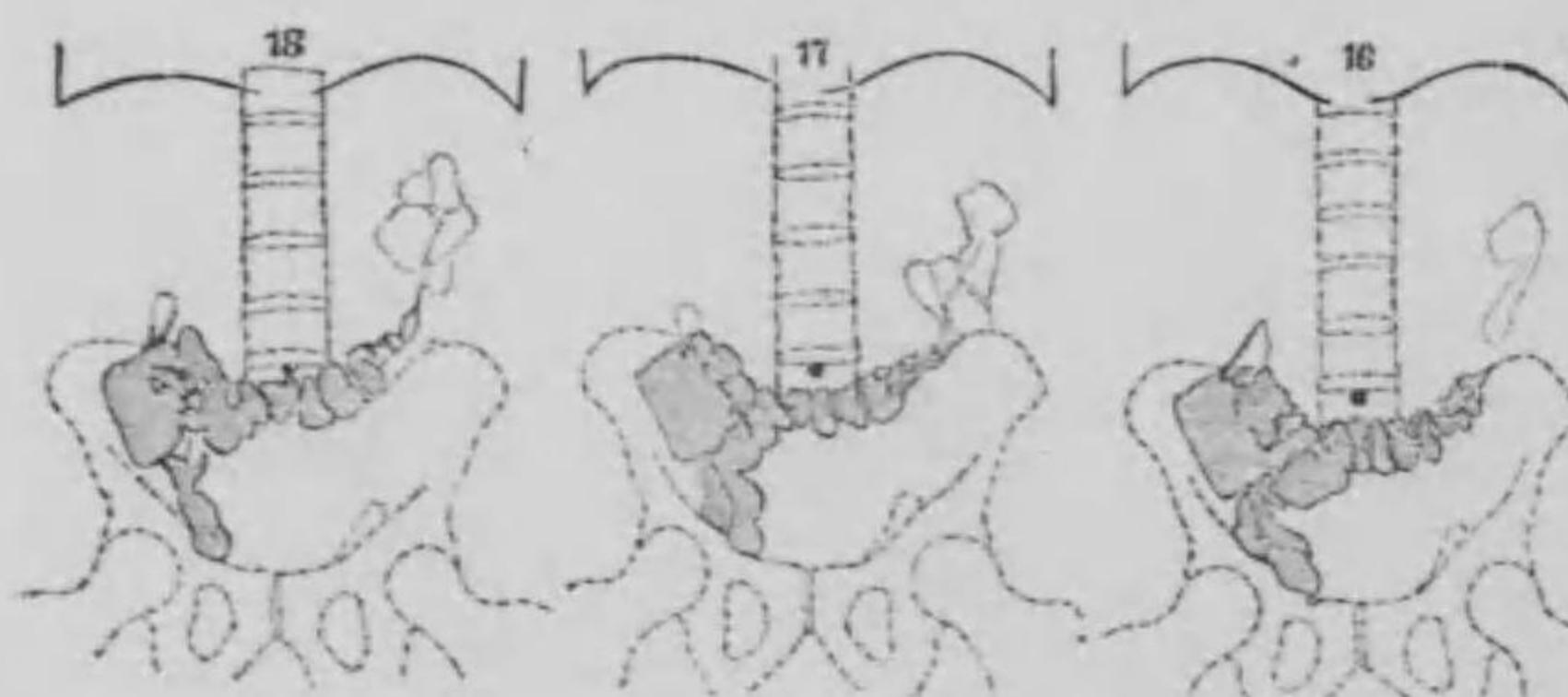
圖一千六第



六時間後。小腸ハ僅ニ其影像ヲ残ス。・・・

六時間半後。小腸ハ下方ニ伸長セリ、横行結腸ニ於テハ苔鉛ガ右方ニ退歩セリ。

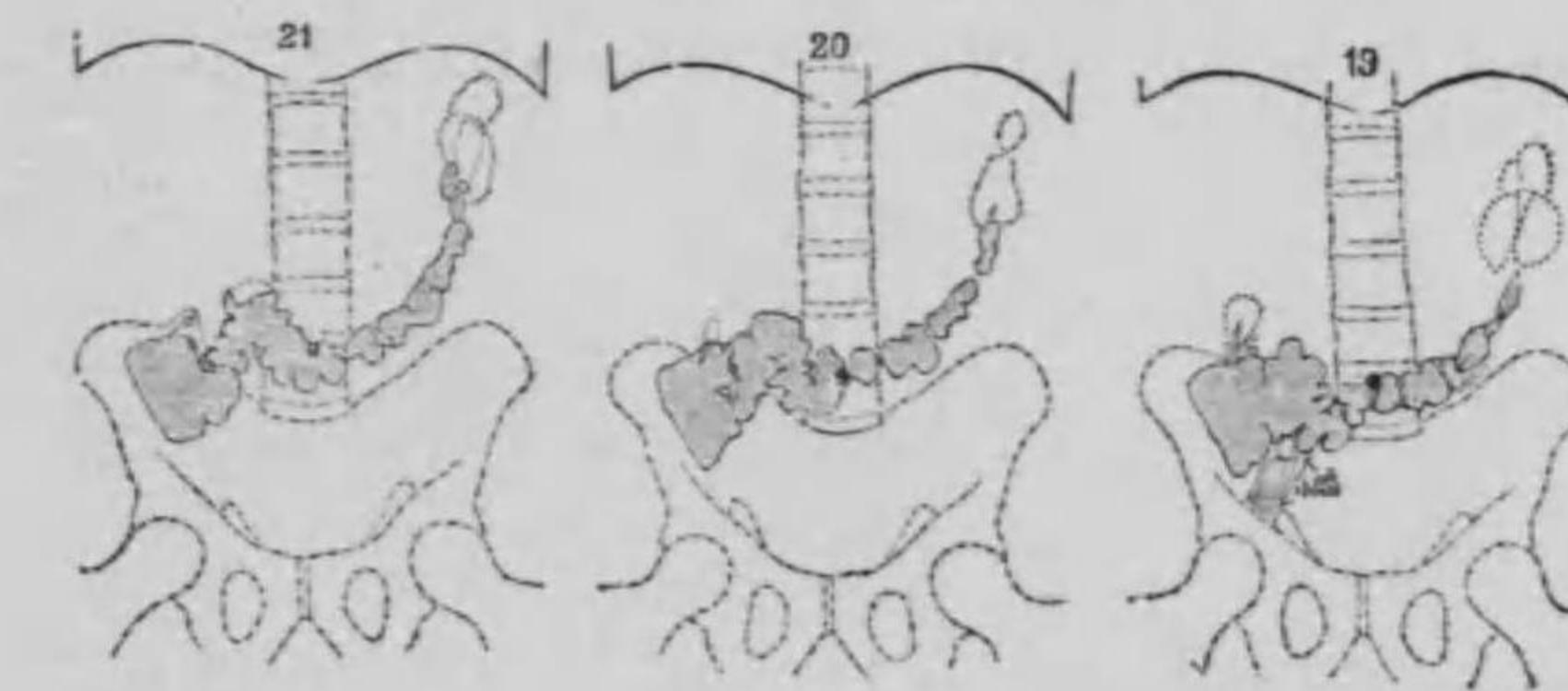
圖一千六第



八時間後。横行結腸ハ振子運動ヲ營ミ、絞結ハ變リ。

八時間半後。結腸ノ絞結ハ再、變レリ。

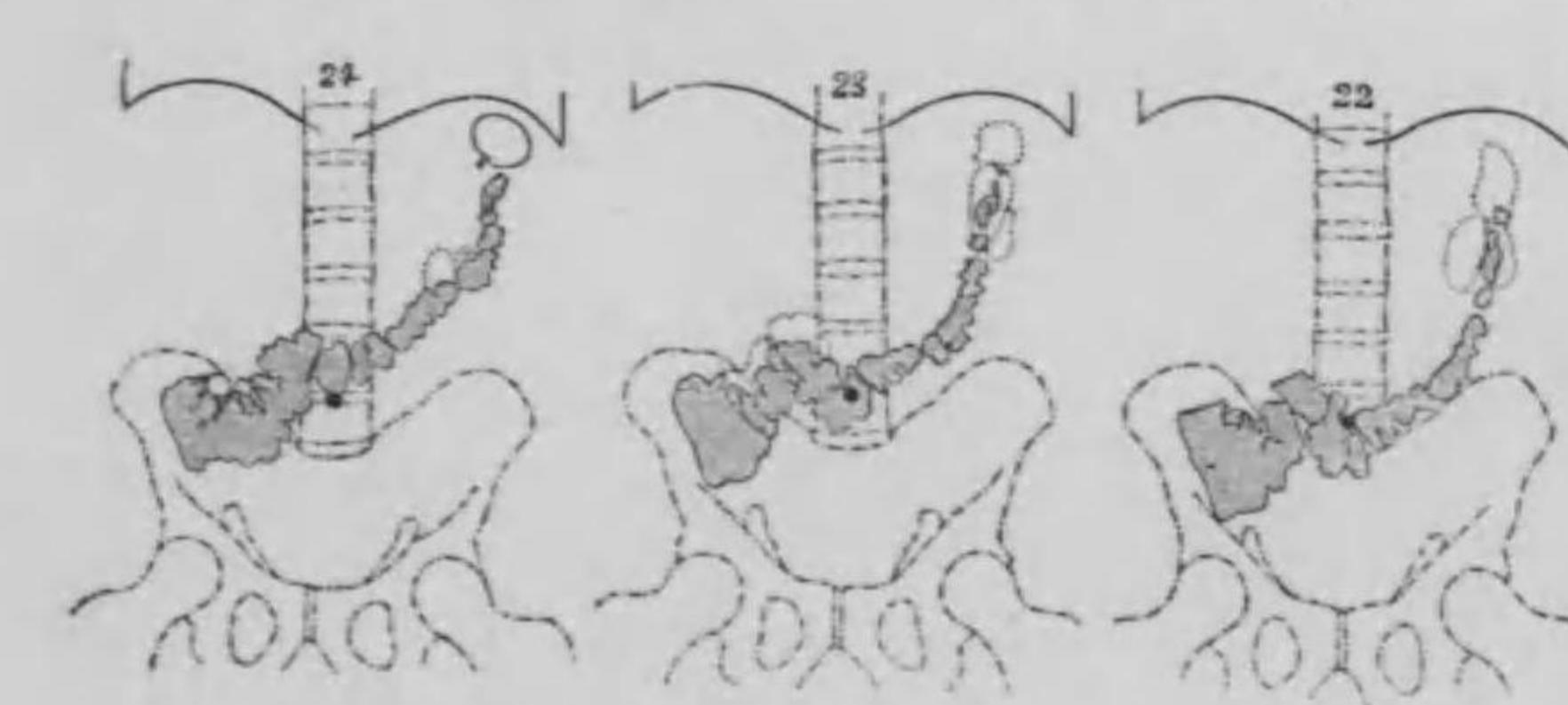
圖三百二十二



九時間後。横行結腸ハ前回ヨリモ稍高ク位セリ。蒼鉛ハ多少移行セリ。小腸ノ影像ハ僅ニ現ルノミ。

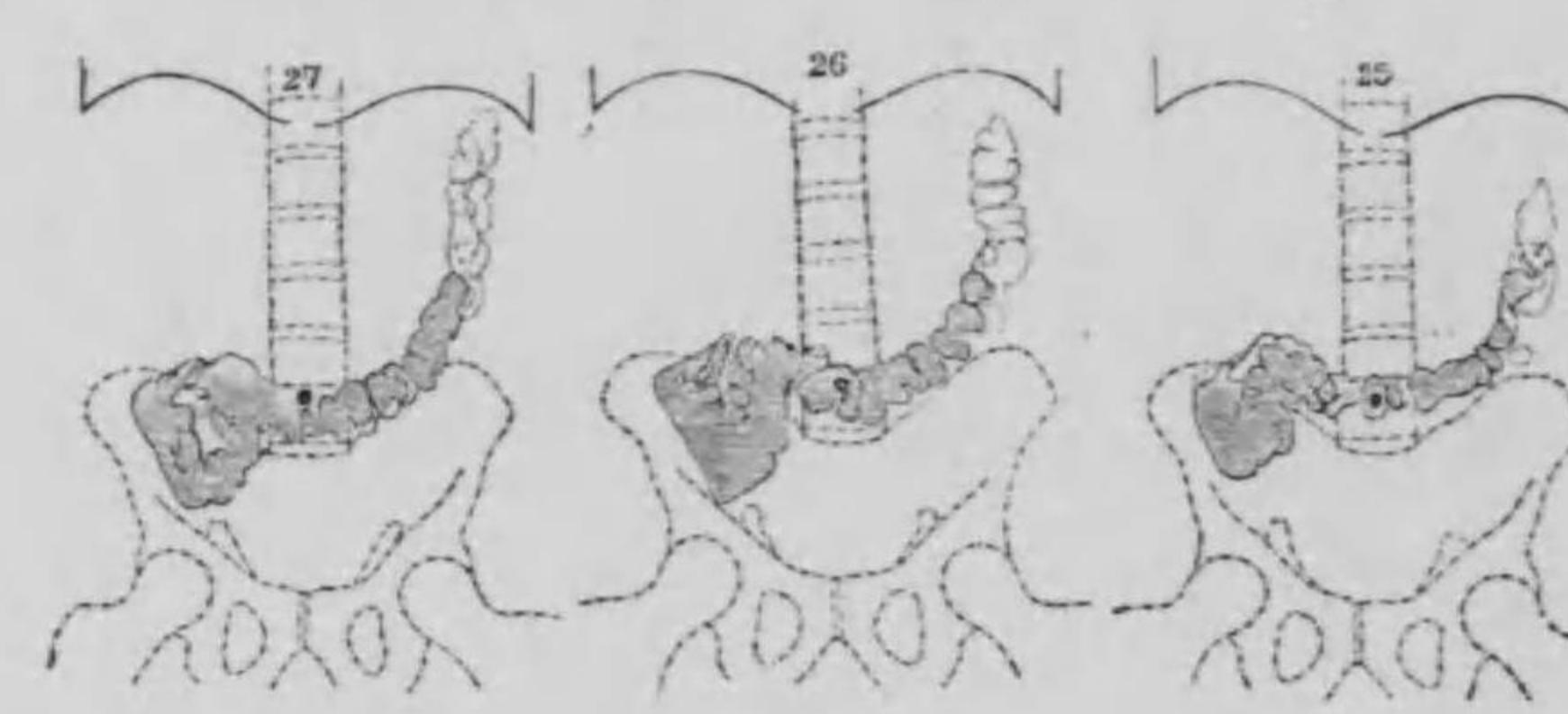
十時間後。横行結腸ノ消化失敗セリ。蒼鉛在曲運動ノ始而ヨリ腸完全了。通氣部ニア部又モノモノ了。通氣部瓦リニハ横移行セリ。則ハ左大行鉛リ小全ク盲見斯ル泡右振結セハ、腸ク盲現レズ。

圖三百二十三



十時間半後。盲腸ハ下方ニ降レリ。横行結腸ノ始部ニモ高シ。糞塊ハ左腸曲部ニ達セルモノアリ。

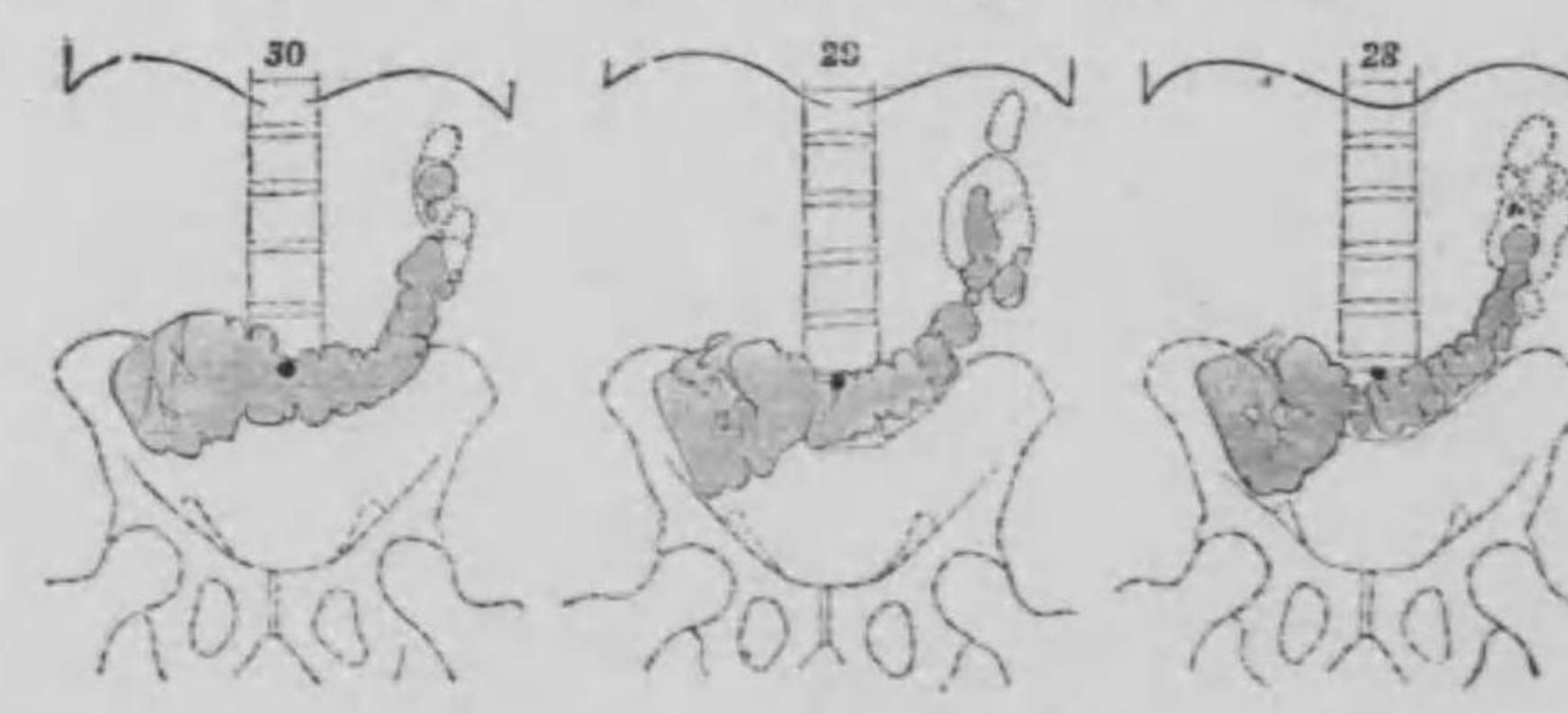
圖三百二十六



十二時間後。横行結腸ハ前回ヨリモ降下シ。糞塊ハ右方ニ移行シ、継続ハ消失セリ。盲腸上行結腸ハ著シク充實セリ。

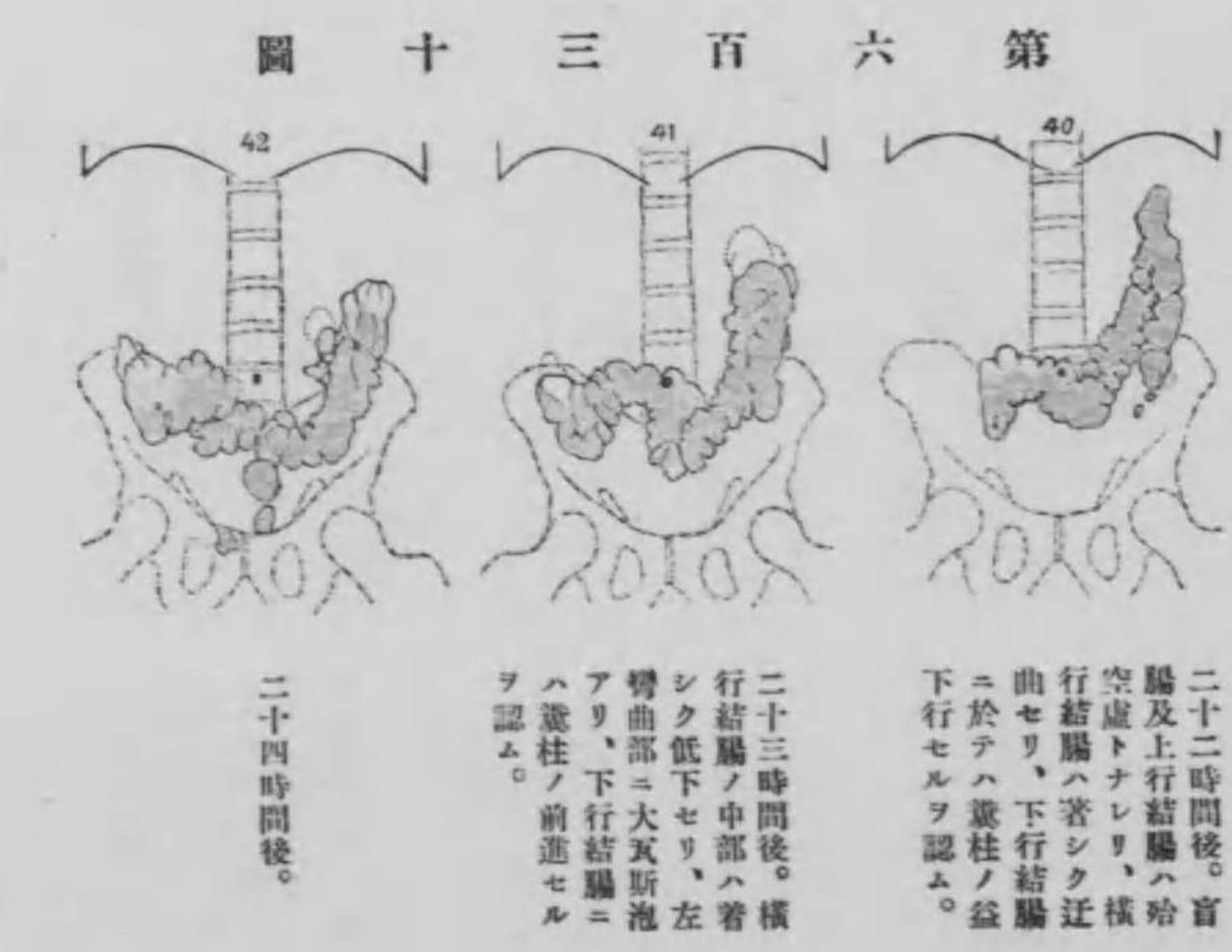
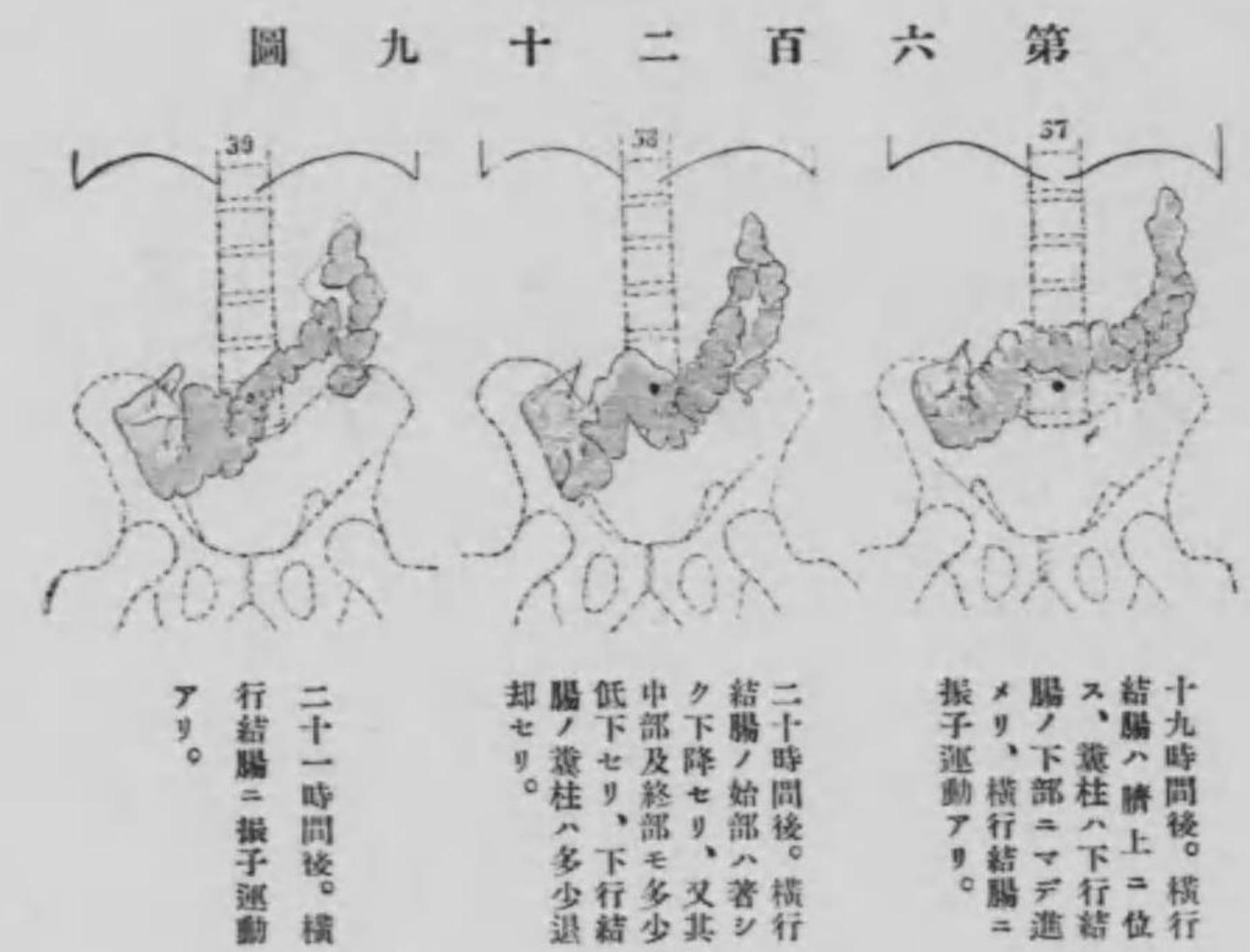
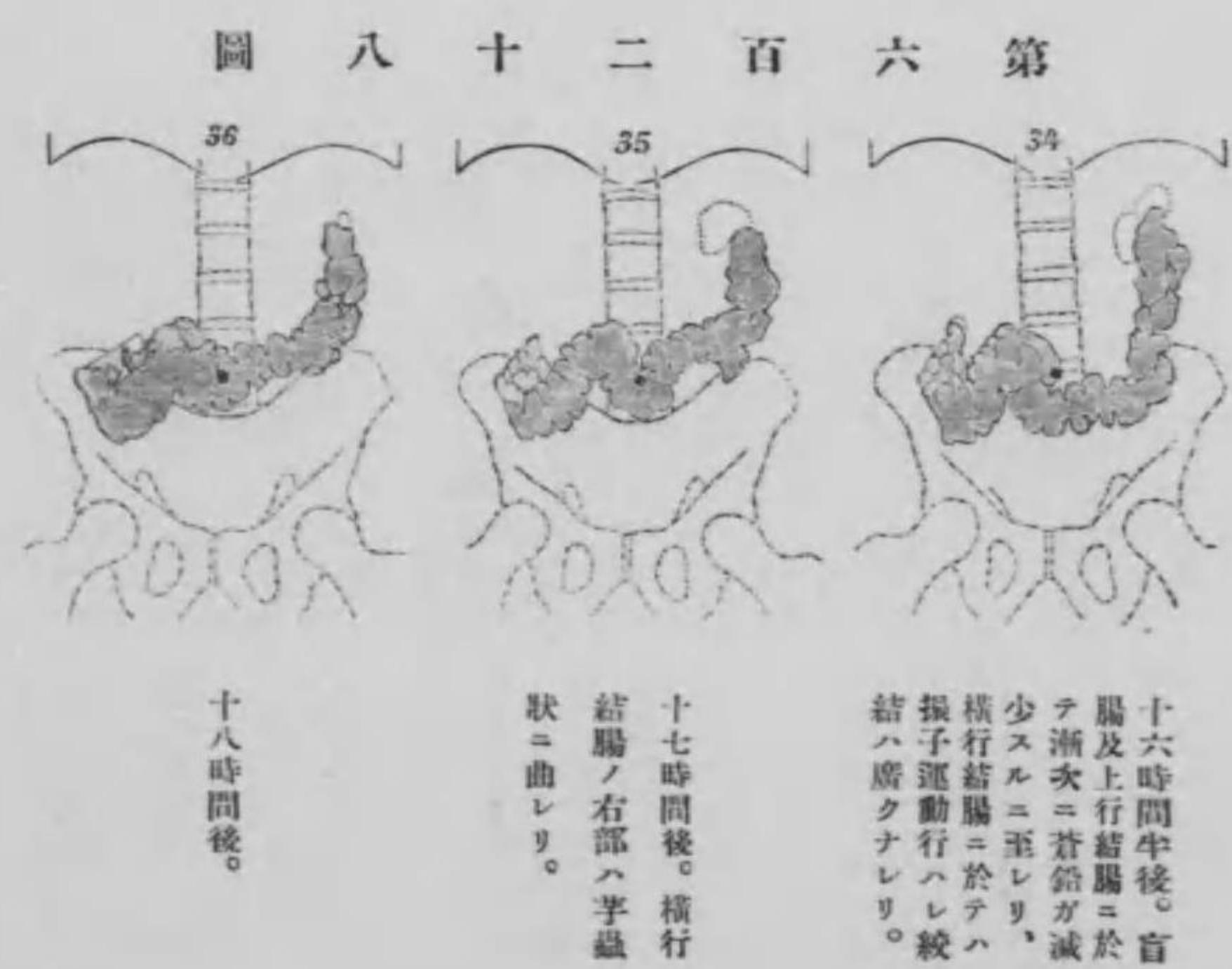
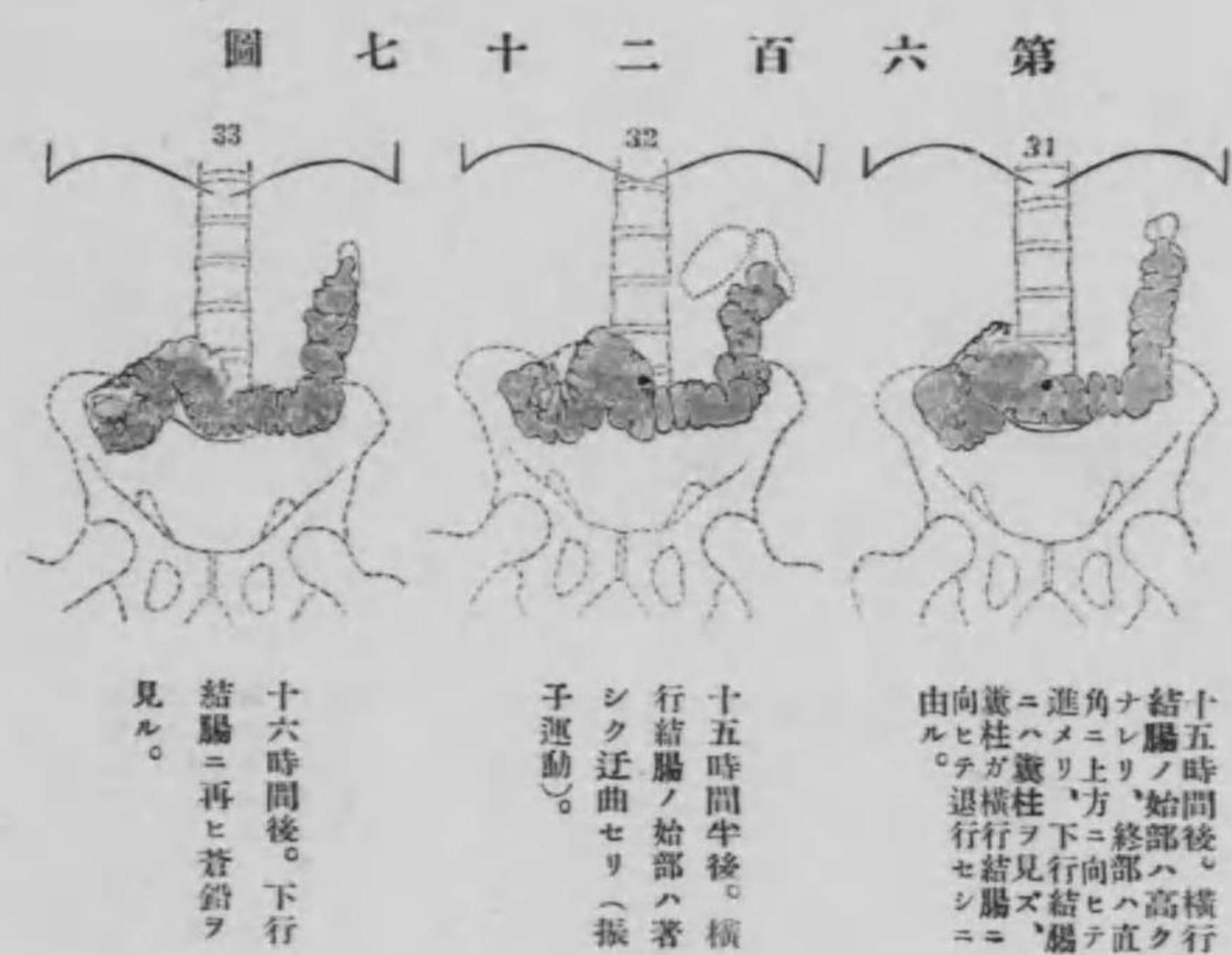
十三時間後。

圖三百二十七



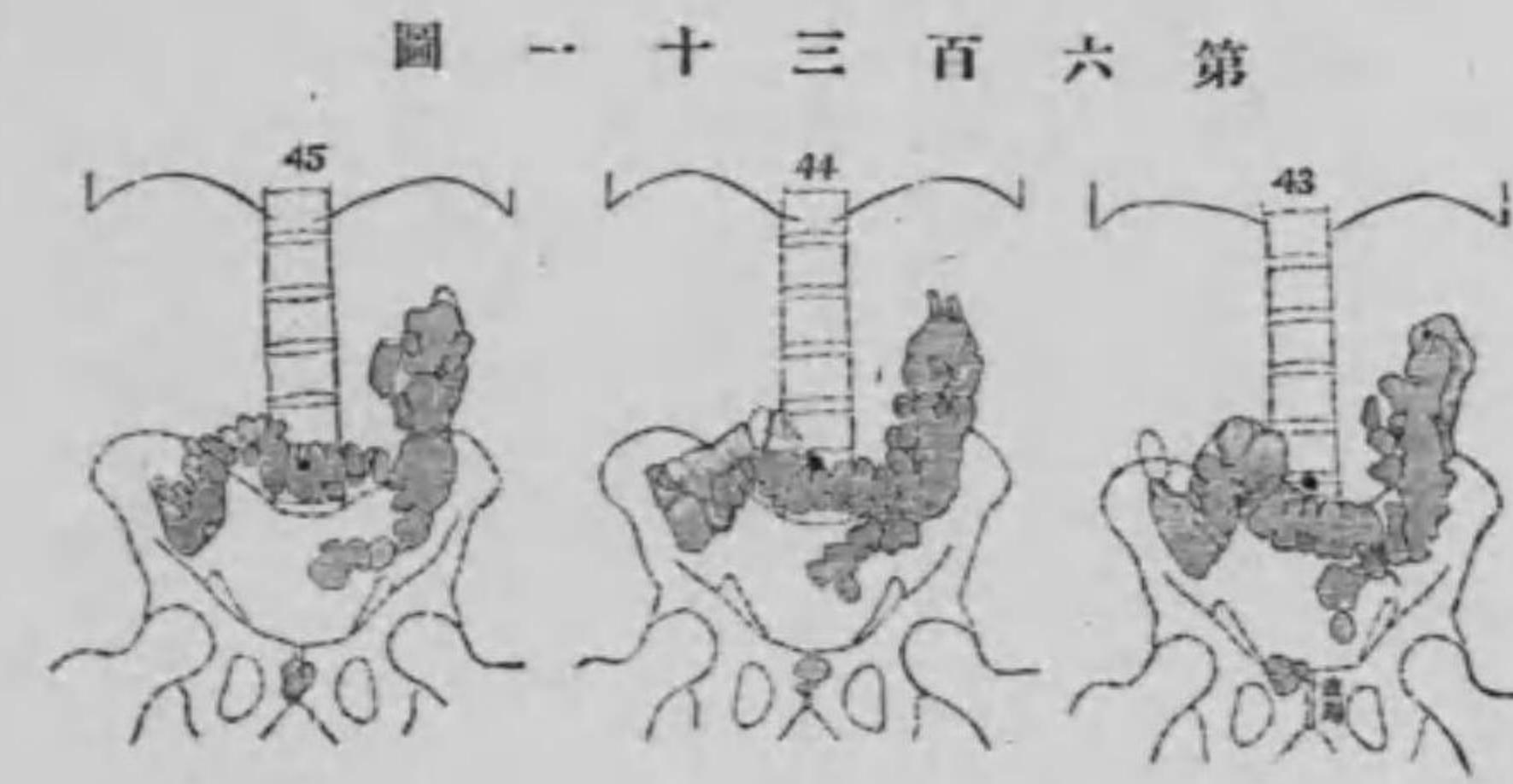
十四時間後。盲腸ハ上方ニ進メニ移行セリ。

十三時間半後。



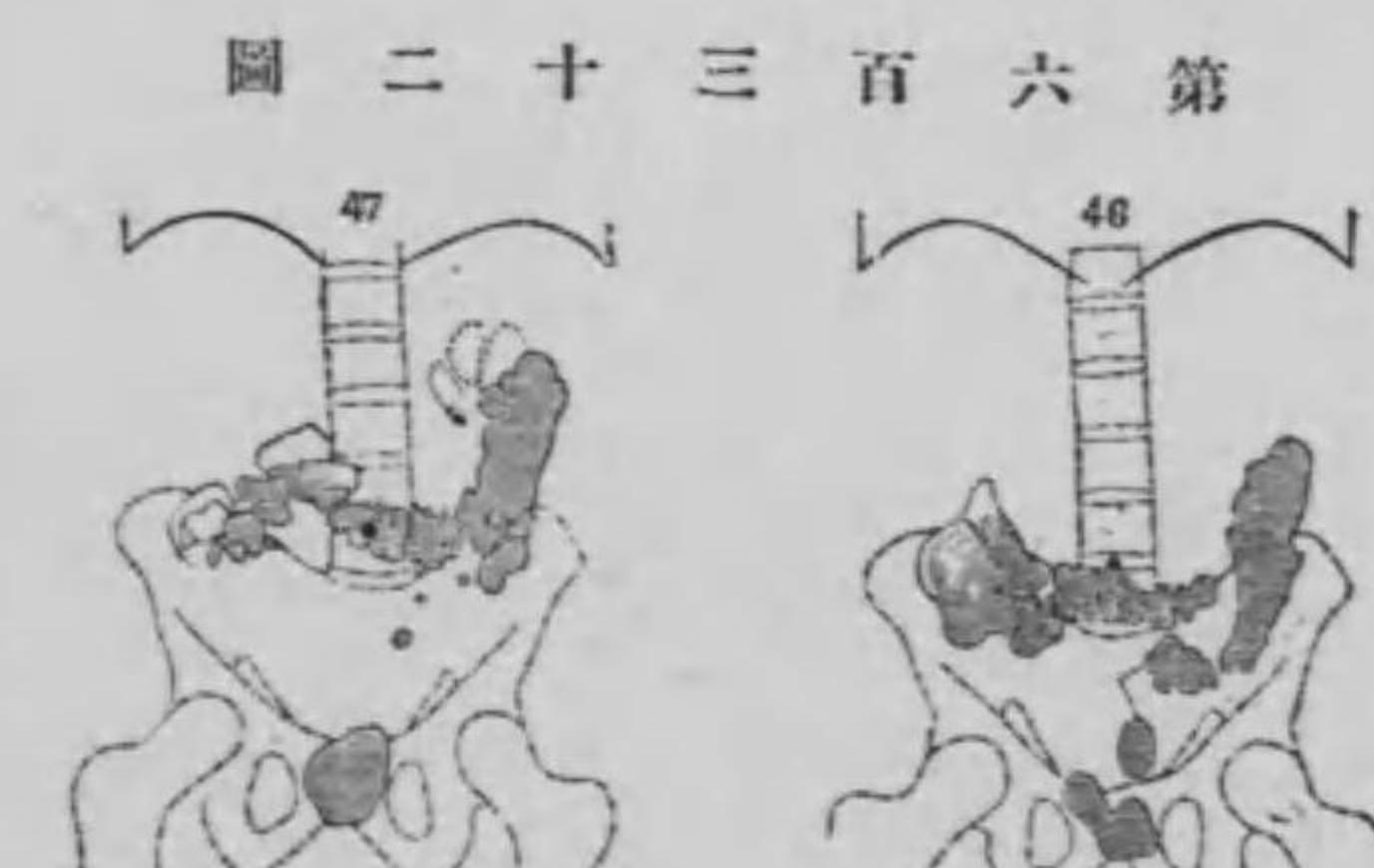
れんさげん診断

八五八



圖一十三百六第

二十五時間後。盲腸下殆、空虚トナレリ、行結腸ハ横行結ラシ蒼ノ内側ヲ下行充質鉛ハS字状現ハル。又直腸部

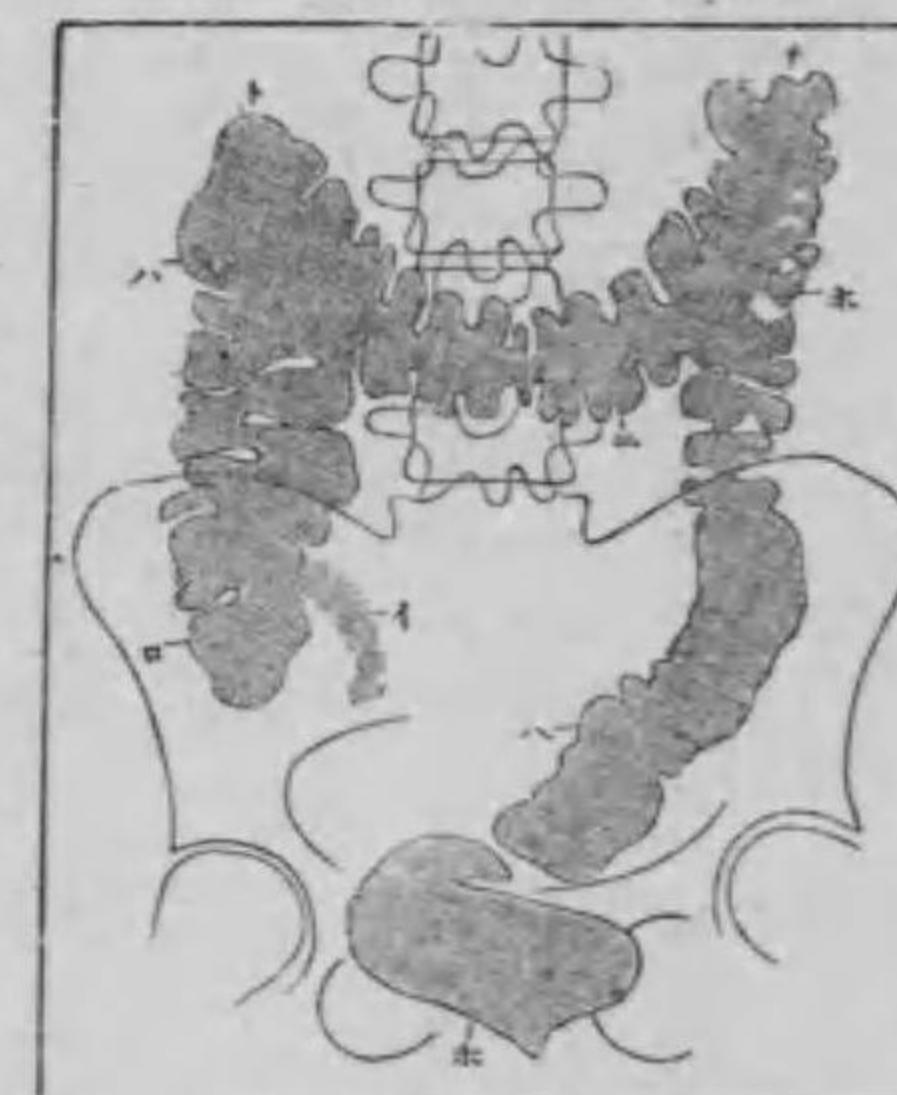


圖二十三百六第

三十時間後。横行  
結腸ノ終部及ビ左  
彎曲部ハ空虚トナ  
レリ、下行結腸、  
S字狀部及ビ直腸  
ニ大糞塊アリ。

復セルコト少ケレバナリ。 蒼鉛食ノ

圖三十三百六第



ルタシ實充ヲ鉛蓄ニ部全腸大  
像んげみえれ  
(=)腸結行上(ハ)腸盲(ロ)腸迴(イ)  
部狀字S(ヘ)腸結行下(ホ)腸結行橫  
部曲彎左(チ)部曲彎右(ト)腸直(ギ)

實ス、然レドモ腹大部ニ、蒼鉛ガ到著スル時ハ、盲腸部ニハ最早ヤ蒼鉛食ハ存在セザルヲ以テ、斯ノ如ク經口的蒼鉛食餌法ニテハ、大腸全部ヲ十分ニ充實セシムルコト稀ナリ。蒼鉛食ノ攝取後、遲タトモ四十八時間ニ於テ、最後ノ蒼鉛ハ排泄セラルナリ。フアウルハーベルニヨレバ、前述ノ時間的關係ハ、唯平均ノ時間ニ止リ、實際ニ於テハ生理的ニスラ著シキ差異アリト。

大腸ノ検査ニハ、造影剤ヲ經口的ニ攝取セシムル他、尙蒼鉛、又「バリュム」ノ粥狀液ヲ、灌腸法ニヨリ、大腸ニ充實セシムル法アリ、此方法ニヨリテ、大腸ノ局所及ビ形態ヲ知ルニ便ナリトス。

大腸ノ位置、形狀ハ、各個人ニヨリテ著シキ差異アリ。大腸ノ検査ハ、多クハ寫眞撮影ニ據ラザレバ、満足ナル結果ヲ得ルコト難シ。盲腸及ビ上行結腸ノ陰影ハ、明ニ認メ得ベシ、右彎曲部及ビ左彎曲部ノ満足ナル結果ヲ得ルコト難シ。下行結腸ハ此兩彎曲間ニ於テ横走シテ弓狀ヲ呈ス。下行結腸ノ經過ハ陰翳ノ一部ハ、互ニ重複セリ。

明ニ現レドモ、S字狀部ハ其腸管疊重セルガ故ニ、陰翳重復シテ之ヲ知ルニ難ク、直腸膨大部ハ著明ニ現ハルナリ。右彎曲部ハ右側肋骨弓部ニアリ、左彎曲部ハ右側ニ比セバ更ニ高ク、往々横隔膜ノ直下ニ位セリ。盲腸陰翳ノ周縁ハ、概シテ平滑ナルモ、上行、横行及ビ下行結腸ニ於テハ、特有ナル大腸隆起ヲ認ム、此腸隆起ハ、經口的食餌攝取ニヨリテ、大腸ヲ充實セバ最モ著明ニ現ハレ、灌腸法ニテハ明ナラズ、隆起ハ大小不同ニシテ、或ハ深ク、或ハ淺ク大腸ヲ絞窄セリ。左右彎曲部ニハ、屢々氣泡ノ存在ヲ見ルコトアリ。

下行結腸ハ上行結腸ニ比セバ、稍ヤ細ク而シテ彎曲部ニハ屢々陰翳ヲ缺ケル小部アリ。大腸ノ局所的關係ハ、生理的既ニ著シキ差違アリ、尙大腸隆起ノ深淺廣狹一樣ナラズ、又大腸ノ位置ハ、體位ノ影響ヲ蒙リ、腸管充實ノ程度ニヨリテ不同ナリ、稀ニハ蟲様突起内ニ、蒼鉛ガ入りテ細キ索状陰翳ヲ現出セルコトアリ。灌腸法ニヨリテハ蒼鉛ハ稀ニばうひん瓣ヲ越テ、空腸ノ末端ニ到來セルコトアリ、此事實ヲ以テ症候的意義アリトスルモノアレドモ、診斷的價値ハ疑ハシ。

大腸ノ運動ノ研究ハ、近年ニ至リテ二三ノ報告アルノミ、腸ノ運動ノれんざん検査ハ、當該研究ニハ重要ナル使命ヲ有スルモノナリ。シユワルツ、ゲーストレ、ブリーケルニヨレバ、大腸ハ絶ヘズ輕キ運動、即チ求心的收縮ト腸隆起ノ擴張トガ、互ニ行ハル、ナリト。

大腸隆起ノ絞窄ハ、淺ク、或ハ深シ、而シテ此兩者ハ、或ハ併發シ、或ハ個々ニ表レテ、大腸ハ眞田帶狀ノ陰翳トナリ、或ハ全ク絞窄セラレタル如キ觀ヲ呈スルコトアリ、又時ニハ、隆起ノ傾斜セルヲ見ルコトアリ。

大腸ノ、所謂小運動ハ、混和攪拌及ビ糞便硬化作用ヲ營ムモノニシテ此他大運動アリ、ホルツクネヒト

#### 大腸運動

始テ之ヲ記載セリ、大腸大運動ニテハ、大腸隆起ハ急ニ展伸シ、腸内容物ハ、衝動的ニ肛門ニ向テ進行セリ、此大運動ノ本態ハ、尙未ダ明ナラズト雖、糞便排泄ト一定ノ關係アリト認メラル、直腸及ビS字狀部ハ、排便ニ際シテ、緊張性收縮ヲ營ムナリ。スチールリン、リーデル、シユワルツ、ベルグマン、レンツバ、大腸ニ於テモ、逆行運動ノ行ハル、ヲ認メシモ、其意義ニハ尙不明ノ點多クシテ、生理的ナリヤ、將タ病的ナリヤハ明カナラズ。

#### 小腸

#### 小腸

十二指腸、空腸及ビ以下ノ小腸管ガ癰著（腹膜炎等）ニヨリテ、位置ヲ異常セルハ、れんざんニテ始テ證明シ得ベシ、小腸ガ腹部ノ下方、或ハ右方、或ハ左方ニ大ナル小腸塊ノ陰翳ヲ發見ス、小腸ノ狭窄ハ、稀ニれんざん検査ニテ陽性ナルコトアリ、殊ニ必要ナルハ、十二指腸狭窄ナリ、小腸深部ノ狭窄ハ、其狭窄ノ上部ニ位セル腸管部ノ著シク擴張シ、屢々氣泡ノ存在ヲ認ムルコトナリ、ホルツクネヒトハ、此場合ニ狭窄蠕動ヲ見タリ、是レ腸ノ內容ヲシテ、狭窄障礙ニ打勝チテ輸送セントセル十二指腸ノ收縮ニ他ナラズ、而シテ狭窄ノ上部ニハ、疲労性擴張ヲ呈スルコト稀ナラズ。

#### 十二指腸潰瘍

十二指腸潰瘍ハ、近來吾人ノ興味ヲ起セシモノニシテ、亞米利加及ビ英國醫家、就中外科醫モニアン及ピマヨーニヨリテ研究ヲ遂グラレタリ。

十二指腸起始部ノ粘膜ハ、胃ノ幽門部ト同一ナルヲ以テ、十二指腸潰瘍ハ解剖的ニハ胃潰瘍ト區別シ難シ。胃ト十二指腸トノ境界ハ、幽門ニシテ、茲ニ幽門靜脈ヲ成生セリ、故ニ英米ノ十二指腸潰瘍トナスマノヲ、獨逸ニ於テハ幽門潰瘍ト診断セルコト稀ナラズ、是レ文献上、米國ニ於テ十二指腸潰瘍ノ多キ所以ナランカ、今日ニ於テハ、潰瘍ノ全部、或ハ其一部分ガ幽門靜脈ノ右側ニアレバ、之ヲ十二指腸潰瘍ト謂ヒ、左側ニ在レバ之ヲ幽門潰瘍ト稱セリ。

十二指腸潰瘍ハ穿孔シ易ク、又大出血ニ陥リ易キ傾向アリ、胃潰瘍ノ如ク婦人ヨリモ、男子ニ多ク、各年齡ニ之ヲ見ルナリ、十二指腸潰瘍ノ診断ニハ、病歴ガ重要ナリ、モニアンハ、患者ノ病歴ニ就キテ、次ノ重要點ヲ指摘セリ。

十二指腸潰瘍ハ、食物攝取後、胃部ニ壓重、膨満ノ感ヲ以テ始マリ、或ハ食物攝取後二乃至四時間ニ至リテ、胃部ニ疼痛ヲ感ジ、或ハ空虚胃ニ於テ疼痛(餓餓状疼痛)ヲ感ズルコトアリ、食物ノ攝取又ハあるかり一劑ノ服用ニヨリテ、此疼痛ヲ緩解スルト共ニ、暖气(瓦斯又ハ苦味ヲ有スル液體)ヲ伴フナリ、疼痛ハ膨満感ト共ニ發シ、漸次増加シ、時ニハ夜間一定ノ時刻ニ於テ、激痛ヲ起セリ、此夜間疼痛ハ食物攝取ニヨリ一時緩解シ得ルヲ以テ、患者ハ菓子又ハ牛乳ヲ枕頭ニ用意シテ臥スルノ習アリ。

疼痛ハ、規則正シク同時刻ニ襲來シ、上腹部ニ限局シ(屢バ臍部ニ)、或ハ右側ニ、或ハ背部ニ向ヒ放散ス、食慾ハ多クハ佳良ニシテ、嘔吐ハ稀ナリ、殊ニ發作ノ周期的反復セルヲ特徴トス、此疼痛發作ハ、寒冷、足部ノ濕潤、過勞、苦悶、惶シキ食事ニヨリテ誘發シ、疼痛ハ冬期ニハ夏期ヨリモ強キコト往々アリテ數年又ハ十年以上持続セリ。



第1436圖

エワルドハ、空虛時疼痛ハ診断上深キ意義ヲ有セザルモ、疼痛ノ周期的反復襲來及ビ食物攝取後三乃至五時間ニ發作スルハ、十二指腸潰瘍ノ特點ニシテ、十二指腸潰瘍ノ出血ハ、胃内ニ存セズシテ常ニ腸管内ニ發見スルモノナリ、其他血管運動神經ノ障碍アルモノハ、十二指腸潰瘍ノ素因タルヲ忘ルベカラズ。ザイフ・アルトハ、右側直腹筋ノ抵抗ハ、十二指腸潰瘍ニ特有ナル症候ニシテ、又十二指腸ニ相當セル部位ニケル疼痛モ、亦主症候ノ一ナリト謂ヘリ。十二指腸潰瘍患者ノ胃液ノ化學的性質ハ、種々多様ナレドモ、多クハ胃液分泌過多(ケンブ等)、過酸性ナリ、稀ニハ常態ナルカ、或ハ酸ノ減少ナルコトアリ。

鑑別診断ヲ要スルモノハ、胃潰瘍、膽囊炎、腎結石、蟲様突起炎、大腸炎等ナリ、而シテ其鑑別ハ至難ナル

ノミナラズ、多クハ上述セル典型的ノ病歴ヲ獲知シ難ク、又十二指腸潰瘍ト何等關係ナク、既述ノ特有徵候ニ酷似セル症候ヲ呈セルコトアリ。其れんごん的所見ニ於テモ、新鮮ナル十二指腸潰瘍ノ未ダ器質

的變化ノ明カラザルモノト、既ニ潰瘍ヲ形成シ隣接臓器ヲモ犯セシモノトノ鑑別像ハ難シ。

十二指腸ノ陰影ハ通常其起始部ガ現出スレドモ、爾餘ノ部分ハ食物ノ通過迅速ナルヲ以テ、之ヲ認識スルコト難シ。

十二指腸潰瘍ノれんごげん的症候ヲ述ブルニハ、先ツ十二指腸ノ位置ノ異常ヲ述ベザル可カラズ。十二指腸潰瘍ノ多クハ、胃ノ下垂ヲ伴フガ故ニ、胃擴張ノ誘因トナレリ。潰瘍ガ周圍ト遮著シテ幽門、十二指腸上部ハ左方ニ偏リ、且ツ舉上セラル。れんごげん診断上必要ナルハ、十二指腸ノ形狀及ビ陰影ノ變化ナリ、既ニ述タルガ如ク、十二指腸ハ幽門ト連續セルモノニシテ、幽門ノ閉鎖セル時ニ於テハ、線状ノ陰翳ヲ呈セルモ、十二指腸ニ潰瘍ノ存在セルヤ、食餌ハ平素ヨリモ長時間茲ニ停滞セリ、是レ潰瘍ニ伴フ瘡壁稀ニハ器質的狭窄アリテ、其通過ヲ妨グナリ(ハウデック)、而シテ常態ニ比セバ、十二指腸經過ノ陰影ハ大ナルコトアリ、ムンクハ、活動寫真検査ニヨリテ十二指腸部ノ糜粥僅進力ノ減弱セルヲ確メ、之ヲ以テ潰瘍ノ一症候トナセリ。十二指腸ハ乾板面ヲ隔ルヲ以テ、其陰翳ハ淡キモノナリ(ビール)、往々十二指腸漏斗部ノ陰翳内ニ、屢々境界ノ硬然タル陰翳缺損部ヲ見ルコトアリ。

胃内容物ノ全ク排出セラレ、或ハ猶少量ノ殘量アリテ、胃底ニ小半月狀ノ陰翳ヲ呈セルトキ、十二指腸起始部ニ蒼鉛ノ離々トシテ充實シ、寫真板上ニ其陰翳ヲ認ム(ハウデック)、十二指腸ノ殘留ヲ確メンニハ、細心ノ注意ヲ要ス。陰翳班ノ胃ノ充實毎ニ、シカモ種々ナル時期ニ於テ現出スレバ、十二指腸潰瘍ノ症候ト見做シ得ベシ、然レドモ胃ノ充實毎ニ、食餌片ガ單ニ十二指腸球部ニ滯ルコトアレバ、是ヲ以テ直ニ潰瘍ノ症候トハ速断スペカラズ。

慢性十二指腸潰瘍ハ、穿孔性潰瘍ノ如クニ、壁龕及ビ憩室ノ膨隆ヲ十二指腸壁ニ現出シ、其上層ニハ屢々氣泡ガ存在セリ、氣泡ハ十二指腸潰瘍ナキモ、往々見ルコトアリ。殊ニ瘡著ノ場合ニ見ルナリ。

胃弛緩症ハ、十二指腸潰瘍ニ併發セルコト稀ナラズ。クロイツフックスハ、經驗上、胃ノ過緊張力ハ、十二指腸潰瘍ノ特有ナル一症候ニシテ、高度ノ胃擴張ハ、寧ロ狭窄ニ關係アルモ、十二指腸潰瘍ノ特有症候トナスニ足ラズ、又十二指腸潰瘍ニ於テハ蠕動運動ハ緩徐ナルヲ説クモノアレドモ、多數ノモノニ於テハ、寧ロ興進セルコト多シト謂ヘリ(ピール、シユミーデン、クロイツフックス)。逆行蠕動ハ、吾人ノ經驗上極メテ稀有ニ屬ス、且ツ潰瘍ニ特有ナルモノニ非ズ、寧ロ幽門又ハ十二指腸狭窄ニ於テ之ヲ見ルコトアリ。

十二指腸潰瘍ニ伴フ固有ナル變化ハ、胃ノ運動力ニシテ、幽門ノ閉鎖ヲ誘起スベキ十二指腸反射機ハ、減弱シ、過酸症又ハ狭窄アルニ拘ラズ(最初ニ於テハ運動力ハ旺盛ニシテ排出迅速ナリト雖)、幽門ノ閉鎖不全ヲ招致スレドモ、猶殘留ノ往々六時間後、或ハ猶長時間モ胃内ニ停滯セリ(クロイツフックス、ハウデック)、確實ナル狭窄ニ基ク場合ヲ除クモ、胃及ビ十二指腸ノ化學的機能ハ、相離ル可ラザル相互關係ノ存セルヲ認ム(ホルツクネヒト、ヘルツ)。即チ糜粥ガ、十二指腸ニ於テあるカリ性脣液ニヨリテ、中和セラルコトガ不完全ナレバ、潰瘍部ハ酸性ノ此糜粥ニヨリテ刺戟セラレ、二次的ニ(多少永續スペキ)幽門痙攣ヲ招致ス、此幽門痙攣ノ時期ハ、食後久シクシテ起レル特有ノ疼痛發作ニ一致スルモノナリ(モニーエル)。斯ノ如キ胃ノ運動狀態(初メニハ、排出迅速ナリ、之ニ續發スル幽門痙攣、及ヒ六時間後ノ殘留)ハ、十二指腸潰瘍ノ診斷上重要ナル徵候ナリ(十二指腸性胃運動力)。殊ニ運動試験ハ幽門潰瘍トノ鑑別診斷ニ必

れんごん診断

八六六

要ナルモノナリ。

尙、十二指腸潰瘍ノれんごん診断上ニ、極メテ必要ナルモノハれんごん觸診ニシテ、透視検査上、疼痛點ノ十二指腸ニ存在セルヲ確ムルニアリ、而シテ此疼痛點ハ、移動性ヲ有シ、十二指腸ノ經過ニ沿ヘリ、れんごん觸診ヲ行フニ、疼痛ハ十二指腸球部ノミナラズ、猶以下ヲ壓スルモ疼痛ヲ訴フモノナリ、換言スレバ、厭痛ノ或程度迄ハ十二指腸ニ沿フテ遊走ス、此所見ハ膽囊炎トノ鑑別診断ノ憑據スル所ナリ。更ニ十二指腸潰瘍ノ診断ニ必要ナル諸症候ヲ摘記スレバ左ノ如シ。

- 一 十二指腸大部分ガ充實持続セバ(狭窄現象、十二指腸ノ運動力缺乏)
- 二 充實缺損ノ殊ニ十二指腸漏斗部ニ在ルトキハ(縫合)
- 三 壁竈在リテ猶ソノ上際ニ氣泡ヲ含有スレバ(穿孔性十二指腸潰瘍)
- 四 胃内容物ノ全タ、或ハ殆ンド全ク排出セラレタル後ニ於テ、猶十二指腸始部ニ殘留ノアル場合(反覆ノ試験ヲ行ヒテ)(壁竈)
- 五 胃ノ右側偏位、殊ニ幽門ガ高位ニアレバ瘻著アリ而テ疼痛點ノ十二指腸ニ在ルコトハ膽囊炎トノ鑑別點ナリ。
- 六 十二指腸ノ經過ニ伴フ壓痛點ノ遊走
- 七 幽門不全閉鎖症ヲ見ルニ拘ラズ、胃ノ運動力ハ減弱セリ(十二指腸性胃運動力クロイツフクス)
- 八 過酸症ナルニ拘ラズ、幽門ノ不全閉鎖アレバ(十二指腸反射機ノ減弱)
- 九 蠕動運動ノ活潑、深刻ニシテ上方ニ走ル逆行蠕動アリ、猶時々幽門ハ開放セラル。十二指腸潰瘍

## 大腸

### 下痢

位置異常

大腸下垂

下痢ニ關スルれんごんの觀察ハ、細心ノ考慮ヲ要ス、前述ノ各症候ハ、十二指腸潰瘍ノ何レノ場合ニモ必然的ニ認メ得可キモノニハ非サレバ、更ニ十二指腸潰瘍ヲ診断スルニ當リテハ、啻ニれんごん症狀ノミニ賴ラズシテ、他ノ臨床的症候病歴ヲ參照シテ診断ヲ下スベキヲ忘ル可ラズ。

大腸

下痢

位置異常

大腸下垂

那、或ハ單ニ液化作用アル鹽類下剤、更ニ兩作用ヲ併有セル比麻子油等ノ作用ヲ透視法ニヨリテ研究シ得ベシ(スチールリン、マイエルベツツ、ゲルハルト)。

大腸ノ位置異常ヲ知ラント欲セバ、宜シク造影剤ヲ混ユル粥狀液ヲ、灌腸法ニヨリテ、大腸内ニ灌入シ、透視検査、或ハ寫真撮影法ニヨリテ検査ヲ行フ可トス、通常大腸ノ位置ハ各人ニヨリテ大差アリ。大腸位置ノ異常ナルモノ、内、必要ナルハ大腸下垂ナリ。是ハ單ニ體質的ノモノナルカ、或ハ二次的病的狀態(羸弱等)ニ於テ現ル一分症トモ見做ス可キモノニシテ、横行結腸ノ輕キ弓狀位置ハ意義アル病的下垂ト認ムルヲ得ズ、斯カル下垂ハ造影剤ノ重力ニヨリテ本來ノ位置ヲ變ゼシムルモノナルカハ尙疑義アリ。

横行結腸ノ左右轉曲部ガ、屢々強度ニ屈曲シ、シカモ著シク下降シテ、恰モ腹部疾患ノ原因ト見做サザルガ如キ場合アリ、脾轉曲ノ著シク屈折シテ、蚯蚓狀ヲ呈シ(バイル氏病)、又横行結腸ハ主トシテ先天的ニ長キコトアリテ、往々踏係ヲ形成セリ。

ひるしゆすぶるんぐ病ハ、れんごげん検査ニヨリテ、

明ニ之ヲ知リ得ルモノナリ。即チ大腸下部ガ著シク膨

満シ、大量ノ液體ヲ容レ、其水平面ニハ氣泡ヲ含有ス、

腸ノ延長及ビ膨満ハ主トシテ S字狀部ニ在ルヲ常

トス、S字狀部ハ著シク彎曲ス、甚シキトキニハ横隔膜

下ニマデ達セルコトアリ。

移動性盲腸

腸管位置異常



腸盲性一にさあビ及性動移

れんごげん診断

八六八

虫様突起ノれんごげん像ハ、偶然ニ認ルノミ、診断上顧慮すべき價値アルモノニハ非ズ。

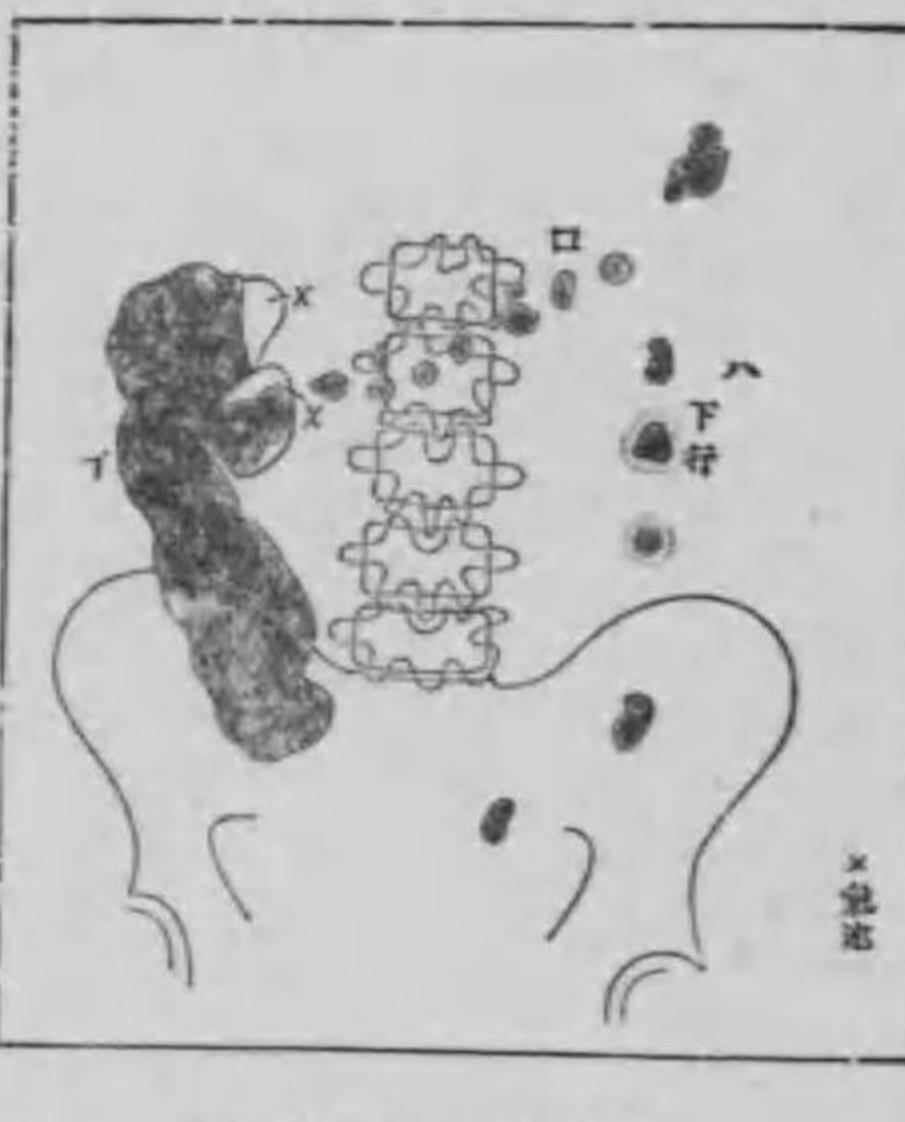
灌腸後ニ於テ、造影剤ノ盲腸ヨリばうひん瓣ヲ通過シテ、空腸ノ末端部ニ達スレバ、即チ、慢性虫様突起炎ノ一症候ナルカ、或ハ其經過ヲ示スモノナリト謂フ者(グレー・デル等)アルモ、自覺的及び他覺的所見ニ微スルニ虫様突起炎ヲ認メザルコトアリ。ムンクハ、嘗テ膝肘位ニ於テ深呼吸ヲ營マシムルニヨリテ、造影剤ノ小腸内ニ進入セルヲ觀察セリ。

慢性便秘ノれんごげん診断ハ左程効價アラズ。

蟲様突起

慢性便秘

## 第六百三十六圖



秘便性一にさあ  
腸結行横(ロ) 腸結行上(イ)  
腸結行下(ハ)

### 慢性便秘ヲ區別スレバ

#### 一 弛緩性便秘

#### 二 痉攣性便秘

#### 三 直腸ニ於ケル排便刺戟ノ減弱ニ由ル便

此等ノ便秘ノれんごげん像ハ特有ナルモノナリ、何レノ場合ニ於テモ蒼鉛食ハ常態ヨリモ長ク腸管内ニ停滞セリ、其他各便秘ニヨリテ特有ノれんごげん像ヲ呈セリ。

弛緩性便秘ニアリテハ、盲腸及ビ上行結腸ノ著シク太キ陰翳ヲ認メ、而テ充實セル盲腸部ハ、れんごげん觸診又ハ患者ノ體位變換ニヨリ、容易ニ移動ス、其他食餌ノ小腸ヨリ、大腸ニ運送スル時間ハ、常態ノモノヨリモ長シ。而シテ盲腸、上行結腸ヨリ順次ノ結腸ヲ充實スルニ、廣キ陰翳ヲ呈セリ、尚腸ノ各部ニハ瓦斯膨満アリ。

慢性痙攣性便秘ニハ、大腸隆起ハ著シク現レ、兎糞様塊狀ニ分タル、而シテ殊ニ上行結腸ニ於テ、往々縱走筋ガ強ク收縮シテ爲ニ著シク狭窄セルヲ見ルベシ。弛緩性便秘ニ反シ、蒼鉛剤ノ小腸ヨリ大腸ニ送出セラル、コト迅速ナリ、且ツ盲腸部ニ滯積セルコト少タ、六乃至十時間ニハ大腸全部ヲ充實ス。

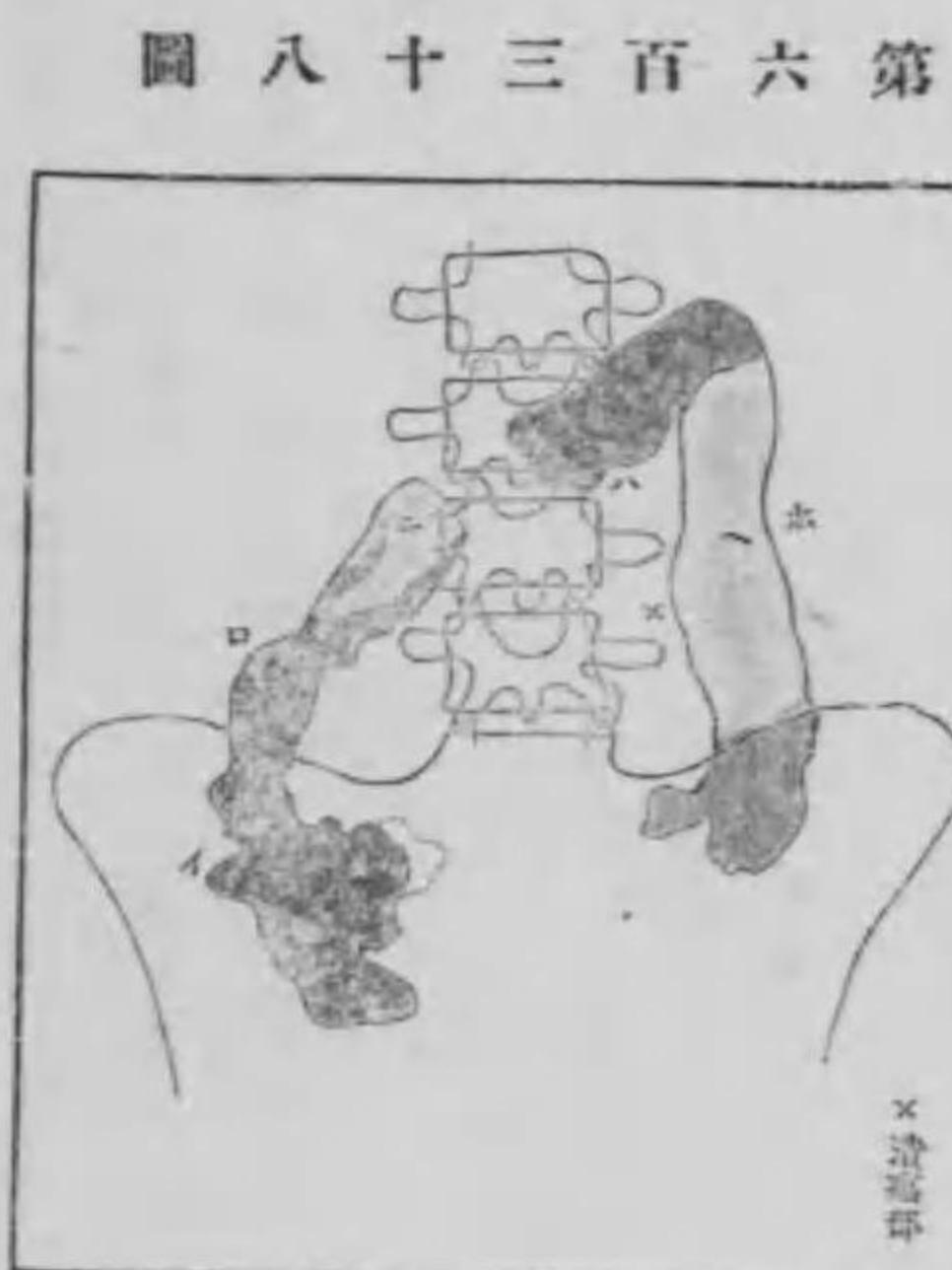
シユワルツ、ホルツクネヒトハ、此現象ヲ以テ、上行結腸ノ運動力興進ニ歸セリ、而シテ本來ノ糞便停滞、

慢性痙攣性便秘

弛緩性便秘

れんごん診断

八七〇



即チ便秘ハ、主トシテ大腸末梢部ニ於ケル分割運動、送出運動ノ障碍ニ由ルモノナリト謂フト雖、未抑制ニ習慣セル人ニ見ルコト多シ、此等ノ人ニアリテハ、徐々ニ排便刺戟ヲ失ヒ、糞便ハ直腸ニ大量ニ停滞セルモ便意ヲ催サズ。其れんごん影像ハ直腸膨大部ニ大陰翳ヲ作レリ。

大腸ノ潰瘍ヲ證明スルハ不能ナリ、ス

チールリンハ、經口的ニ腸ヲ充實セシメテ、潰部陰翳ヲ見タリ、氏ハ又盲腸部ノ結核竈ニハ憩腸ノ下端ヨリ横行結腸ニ至ル間ニ陰影ノ缺損セルヲ特徵ナリト謂ヘリ。微毒性護膜腫、結核性、或ハ其他ノ潰瘍ニ基ク大腸ノ狭窄・れんごん像ハ、亦特有ナルモノナリ、狭窄ノ上部ハ囊狀ニ

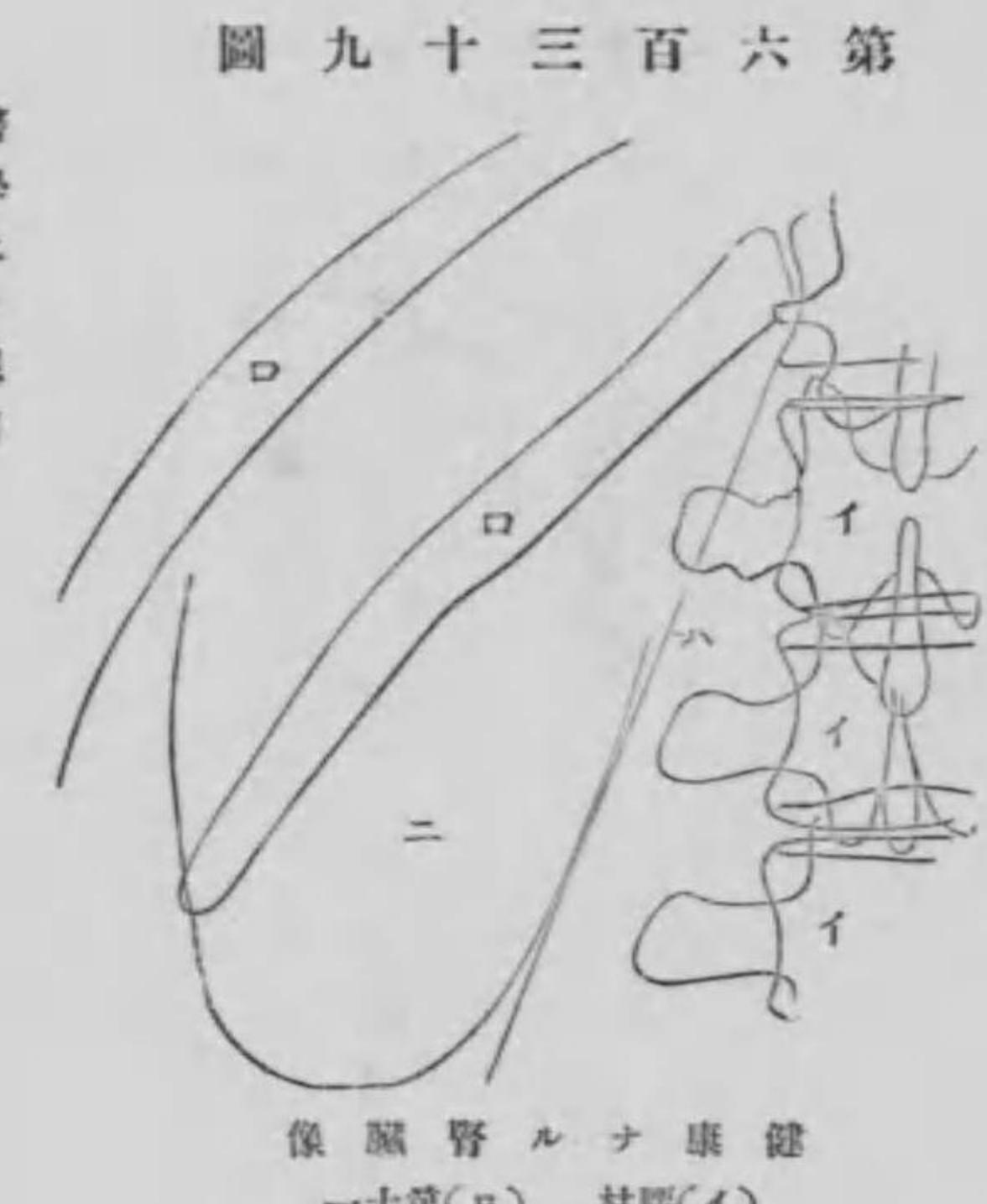
擴張シ、且異型的蠕動運動ヲ呈セリ。大腸狭窄ヲ見ルハ比較的稀ナリ。

大腸ノ悪性腫瘍ノれんごん早期診断法ハ、未ダ十分ナラズ。度々反覆セル寫真撮影ニヨリテ、ソノ都度腸管陰翳ノ周縁ガ不規則ナルガ如キ陰影ヲ見レバ、寧ロ腫瘍ノ陽性所見トス可シ、陰翳缺損ハ大新生物ノアルヲ知ルモノナリ。

### 第六十七章 泌尿器系ノれんごん検査

んざげん検査

見げん腎臓ノれんごん



れんごん寫真乾板上ニハ、腎臓ハ僅ニ下三分ノ一ノ周縲ヲ現出ス、中等軟性管球ニテ撮影ス可シ、脊椎、各突起、肋骨等ノ構造ノ微ニ明瞭ニ現ル程度ヲ可トス、第十胸椎ノ棘状突起ヨリ起リ、外下方ニ走レル三角形ノ淡キ陰影ハ大腰筋ナリ、而シテ腎臓ノ陰影ハ、外方ニ凸側ヲ向ケ、上三分ノ二ハ第十一及第十二肋骨ノ陰翳ニヨリテ蔽覆

セラレ、下端ハ大腰筋ノ陰影ト相隣接セリ、腎ノ長軸ハ第十胸椎ノ下端ヨリ内方ヨリ外方ニ斜走シ、下部ノ陰翳ハ上部ニ比セバ明瞭ナリ、腎孟ハ截痕状ヲ呈シ、寫真乾板ニ暗タ表ル、腎門ニ對スル突起陰影ト區別シ得ベシ。

右側腎臓ノ陰影ハ多クハ肝臓ニヨリテ蔽覆セラル、ヲ常トス、而シテ熟達セル技術ニ由ルモ、其上部ノ陰影ヲ求メ難シ、腎臓ノ病的状態(例ヘバ腎石)ヲ検査センニハ、解剖的位置ヲ準據トシテ撮影スペシ。腎臓ノれんさげん検査ノ最モ多ク應用セラルルハ腎結石ノ診断又ハ其疑診ノ場合ニシテ、腎結石ノ所在部位、數、大小、形狀等ヲ知リ得ベシ、腎石ノ陰影ノ現出ハ、結石ノ化學的性質ニ關與セリ。純尿酸鹽結石、磷酸結石等ハれ線ヲ透過セシムルコト大ナルヲ以テ、多クハれんさげん検査ニヨリテ發見スルコト難シ。磷酸結石ハ最モ證明シ易シ(伊藤)。凡テ結石ノ證明ハ、之ヲ包裹セル周圍ノ物質、身體軟部ノれんさげん線吸收率ガ結石ノれんさげん線吸收力ニ比シ低キモノ程明瞭ナリ。



化學的性質、又ハ撮影技術ノ困難ナル場合、例ヘバ肥滿セル者ニテバ、往々臨床上

ニハ腎石ノ存在(疝痛、出血等)ニ、十分ナル疑診アルモ、れんさげん検査ノ結果ハ、陰性ニ終ルコトアリ、キーンベック、イムメルマン、アルベルス、シンベルヒ等ハれんさげん所見ノ陰性ニシテ手術ニヨリテ腎石タルヲ證明セラレタル、誤診ノモノニ一%ニ過ギザリキ、藤浪、南部ハ結石ノれんさげん診断ノ陽性ナリシモノニシテ、手術的ニ發見セザリシモノニ一%ニシテ又れんさげん診断ノ陰性ニシテ、手性的ニ證明セラレタル誤診ハ、三%ナリ、是等ハ何レモ肥滿ナリシ人、結石ノ小(米粒大)ナリシモノ、及ビ尿酸鹽類ノモノナリキ。

乾板上ニ於ケル陰性所見ハ、一般ニ左程困難ナラザルモ、陽性所見ニ對スル判定ニハ、細心ノ注意ヲ要スルモノナリ、往々ニシテ、乾板ニ附著セル汚點ヲ腎石ノ陰翳ト誤認スル如キ失態アルヲ以テ、疑ハシキ場合ハ、再三撮影ヲ反覆スルヲ可トス。其他誤認ヲ招クベキ原因ハ、血管壁、淋巴腺、肋骨等ノ石灰沈著セル場合、糞石、其他腸内ノ異常内容物等ガ管結石陰翳ノ如ク現出スルコトアリ。

腎結石ノ形狀ハ、種々ニシテ、或ハ少ク境界ノ不明瞭ナルモノアリ、或ハ大ニシテ境界分明セルモノアリテ一定ノ形ヲ有セズ、又腎石々腎孟アレバ、其陰影ハ腎孟或ハ腎盃ノ形ヲ呈ス。

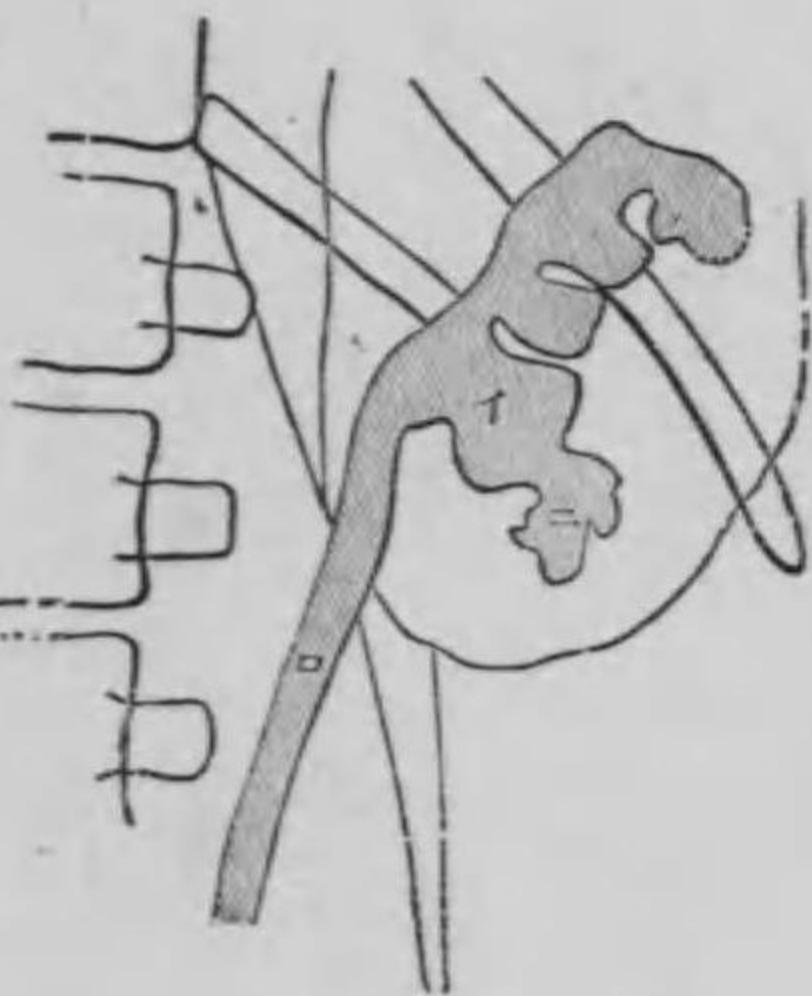
輸尿管結石ハ、腎石ト同一方法ニヨリテ證明シ得ベシ、唯管球ヲ輸尿管ノ經過ニ從ヒ、腎臓ヨリモ稍下方ニ置クヲ可トス、輸尿管結石ノ存在ハ、概シテ稀ニシテ、且小ナルガタメニ、ソヲ發見シ難キコトモアリ、ヘラシ、デートレンハ輸尿管結石ノ三〇乃至四〇%ヲれんさげん検査ニ於テ證明シ得タリト。輸尿管結石ノ診断ハ、腎結石ヨリモ一層誤認ノ原因多シ、デートレンハ疑ハシキ場合ニハ、結石ノ所在ヲ知ル爲ニ、輸尿管かて一てるヲ插入シテ、れんさげん撮影ヲ行フベキヲ主張セリ。輸尿管結石所在ノ好部位

ハ、多クハ膀胱開口部ナリ。

肾臓ノ増大(グレー・デル、チートレン)、腫瘍、腎臓水腫(ヘニッショ)モ、亦れんごん的寫真ニテ證明シ  
得ヘシ。  
(脛孟撮影法)

腎臓ノ増大(グレー・デル、チートレン)、腫瘍、腎臓水腫(ヘニッショ)モ、亦れんごん的寫真ニテ證明シ  
得ヘシ。

第六百四十一圖



像入注る一ごろらこノ核結腎

腎孟摄影ニヨリテ、腎臓ノ位置異常、水腫ヲ知ルノミナラズ、時トシテハ更ニ詳細ナル診斷的所見ヲ得  
ルコトアリ、就中腎臓腎孟、尿道ニ於ケル解剖的變化ヲこらるごーるノ陰翳ノ大小ニヨリテ、推断スルヲ  
得ベシ。又はニヨリテ、陳舊性結核(乾酪變性、石灰  
變性等)ヲ證明シ、其他腎臓ノ囊腫、先天性畸形、惡  
性腫瘍ヲモ證明シ得ベシ、サレドモ此腎孟摄影法  
ハ、診斷上價値多キモノナレドモこらるごーる注  
入ニ注意セザレバ、危險ヲ醸スコトアリ、一定ノ要  
約ノ下ニ行ハザル可ラズ、凡テノ他ノ診斷的方法  
ノ無効ニ終レル場合ニ行フヘキモノナリ。

腎孟炎ニ於ケル巨大白色腫ヲ、れんごん的ニ  
診斷セント試ミラレタルモノアレドモ、臨床上ニ

ハ何等意義ヲ有セザルモノナリ。

膀胱結石ノれんごん検査ハ、之ヲ膀胱鏡検査ニ比セバ、其陰性ナルコト多シ。是一ニハ、膀胱結石ハ  
れ線ノ透過力大ナル尿酸結石タルコトニ多キト、他ニハ結石ノ位置ノ撮影ニ不適當ナルコトノ多キニ職  
由ス、且ツ石ノ陰翳ハ、骨盤ノ陰影ニ蔽覆セラル、ヲ以テ不確實タルヲ免レズ、然レトモ膀胱結石ノ存在  
ヲ明ニ證明シ得ル場合モ決シテ専カラズ、れんごん検査ハ、患者ニ無害無痛ニ行ハル、ニ反シ、膀胱鏡  
検査ハ平易ニ行ヒ得ベキ方法ニアラザルヲ以テ、先づれんごん検査ヲ行ヒ、ソノ結果ノ不確實ニ終レル  
時ニ於テ、膀胱鏡検査ヲ行フヲ可トス。若シ豫メ膀胱内ニ酸素或ハ空氣ヲ送入スレバ容易ニ結石ヲ發見  
シ得ベシ。

# 索引

A

あむべあ  
あむべあ回数  
あくちにうむ  
あすさらうる螢光板  
あざれなりん  
あくにちす  
あちそん病  
エラーライン  
エ線  
エ線ノ到着距離  
電抵遮光筒装置  
暗室用光源

防禦設備  
べくれる線  
ベーツ硬度計  
べのあ硬度計  
ベツクノ注入波  
梅指  
分割放射  
バサン氏結節  
鼻硬腫  
母斑  
ばんち病  
ばせどう病  
敵毒  
敵毒性大動脈炎  
膀胱  
膀胱結核  
膀胱結石  
部分的氣胸  
部分的肺氣腫  
瀰漫性進行性結核

媒電體  
ばるこ  
ほーぜん弧燈  
分極作用  
微粒子線  
微粒子線ノ速度  
微光管  
微光管ヲ用ユル法  
β線  
米國型透視裝置

B

電氣分解  
電氣ノ極位  
電氣抵抗  
電氣發動機  
電氣振動  
電氣振动ノ電波長及ビ振動數  
電氣振动ノ減衰  
電氣振動ノ強度  
電氣漏洩  
電位  
電位計  
（象限）電位計  
電場  
電場内ノ電位  
電力線  
電離  
電波  
電波ノ波形  
電波ノ發生方法  
電弧  
電纜  
（高壓用）電纜  
導體  
導體ノ導體  
導體ノ電位  
導磁率  
第二次線  
（内空ノ）導體  
第一次線  
第二次陰極線  
第一次回極  
第一次指示  
（鉛）斷續器

電氣力  
電氣  
電氣容量  
電壓降下  
電壓  
電池  
二電極石

C

防禦設備  
べくれる線  
ベーツ硬度計  
べのあ硬度計  
ベツクノ注入波  
梅指  
分割放射  
バサン氏結節  
鼻硬腫  
母斑  
ばんち病  
ばせどう病  
敵毒  
敵毒性大動脈炎  
膀胱  
膀胱結核  
膀胱結石  
部分的氣胸  
部分的肺氣腫  
瀰漫性進行性結核

媒電體  
ばるこ  
ほーぜん弧燈  
分極作用  
微粒子線  
微粒子線ノ速度  
微光管  
微光管ヲ用ユル法  
β線  
米國型透視裝置

D

電氣分解  
電氣ノ極位  
電氣抵抗  
電氣發動機  
電氣振動  
電氣振动ノ電波長及ビ振動數  
電氣振动ノ減衰  
電氣振動ノ強度  
電氣漏洩  
電位  
電位計  
（象限）電位計  
電場  
電場内ノ電位  
電力線  
電離  
電波  
電波ノ波形  
電波ノ發生方法  
電弧  
電纜  
（高壓用）電纜  
導體  
導體ノ導體  
導體ノ電位  
導磁率  
第二次線  
（内空ノ）導體  
第一次線  
第二次陰極線  
第一次回極  
第一次指示  
（鉛）斷續器

防禦設備  
べくれる線  
ベーツ硬度計  
べのあ硬度計  
ベツクノ注入波  
梅指  
分割放射  
バサン氏結節  
鼻硬腫  
母斑  
ばんち病  
ばせどう病  
敵毒  
敵毒性大動脈炎  
膀胱  
膀胱結核  
膀胱結石  
部分的氣胸  
部分的肺氣腫  
瀰漫性進行性結核

媒電體  
ばるこ  
ほーぜん弧燈  
分極作用  
微粒子線  
微粒子線ノ速度  
微光管  
微光管ヲ用ユル法  
β線  
米國型透視裝置

索

引

五

六

七

八

九

十

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

(通電水銀) 断續器	元九
(瓦斯水銀) 断續器	二〇三
(電解式) 断續器	二〇六
(うふ一れる) 断續器	二〇八
(じもん) 断續器	二〇九
(通電流絶無) 断續器	二一〇
(交流用瓦斯水銀) 断續器	二一〇
(定期) 断續器	二一〇
断續器ノ必要條件	二一〇
同調曲線	二一〇
だるそむばーる電流	二一〇
であるみー電流	二一〇
であるみー装置	二一〇
ぢすらんくそーる	二一〇
大動脈辦膜病	二一〇
大動脈辦膜症	二一〇
大動脈ノ病的變化	二一〇
大動脈硬化症	二一〇
大理石斑紋様陰影	二一〇
大腸	二一〇
大腸隆起	二一〇
大腸運動	二一〇
大脳ノ位置異常	二一〇
大脳下垂	二一〇
大腸疾患	二一〇
E	二二七
永久磁石	二二七
えまなちおん	二二七
えまなちおんノ平衡量	二二七
えまなちおんノ放射性沈降物	二二七
えまらちおんノ配布率	二二七
ゑくらん	二二七
E放射量	二二七
遠隔撮影法	二二七
圓形充脹	二二七
嚙下運動	二二七
F	二三七
原子量吸収率	二三七
原子塊説	二三七
瓦斯ノ固有X線ノ吸収	二三七
瓦斯ノ微粒子線吸収	二三七
瓦斯水銀断續器	二三七
γ線	二三七
減幅振動	二三七
減力	二三七
硝子ノ性質	二三七
硝子管	二三七
逆起電流	二三七
逆電流絶無断續器	二三七
逆電流	二三七
G	二四七
ガレカツチイノ方法	二四七
普通時間撮影	二四七
普通寫眞ト肺腫瘍トノ鑑別	二四七
蠕動運動	二四七
蠕動機	二四七
婦人心臓	二四七
婦人科疾患	二四七
複合乾板撮影	二四七
腹膜結核	二四七
腹背位放射方向	二四七
げん寫眞トノ接合	二四七

元方一枚包	現像主業	現像波ノ溫度	現像波ノ處方	顛面放射	魚鱗癩	偏性白血病	外科疾患	癌腫	癌腫	眼球ノ保護	眼科疾患	眼瞼上皮腫	眼瞼及ビ眼窓腫瘍	月經過多、月經不順	牛角型	牛形心	下痢	北極	(透昇)變壓器	並行板蓄電器	ヘンリ	H
五四五	五六六	五六七	五六八	五六九	五六一零	五六二	五六三	五六四	五六五	五六六	五六七	五六八	五六九	五六一零	五六二	五六三	五六四	五六五	五六六	五六七	五六八	五六九
五六六	五六七	五六八	五六九	五六一零	五六二	五六三	五六四	五六五	五六六	五六七	五六八	五六九	五六一零	五六二	五六三	五六四	五六五	五六六	五六七	五六八	五六九	五六一零
五六七	五六八	五六九	五六一零	五六二	五六三	五六四	五六五	五六六	五六七	五六八	五六九	五六一零	五六二	五六三	五六四	五六五	五六六	五六七	五六八	五六九	五六一零	五六一
五六一零	五六二	五六三	五六四	五六五	五六六	五六七	五六八	五六九	五六一零	五六二	五六三	五六四	五六五	五六六	五六七	五六八	五六九	五六一零	五六二	五六三	五六四	五六五

(閉磁路式) 緩脈器	一七二
火花放電	一七三
火花法	一七四
火花放電ノ原理	一七五
火花間隙	一七六
飽和電流	一七七
非固有X線	一七八
反射現象論	一七八
反射陰極線	一七八
反應小體	一七八
放射性物質ト放射線	一七八
放射性物質	一七八
放射性物質ノ嬗變系統	一七八
放射量ノ測定	一七八
放射線強度ノ測定	一七八
放射線分解器	一七八
放射量計	一七八
(直接測定) 放射量計	一七八
放射方向	一七八
(背腹位、腰背位) 放射方向	一七八
(右左位、左右位) 放射方向	一七八
放射面ト管球位置トノ關係	一七八
放射面ト管球位置トノ關係	一七八
半價層	一七八
半價板	一七八
保護服裝	一七八
汎用管球支持脚	一七八
皮膚疣狀結構	一七八
皮膚病	一七八
皮膚結構	一七八
皮膚放射單位量	一七八
皮相作用	一七八
補力	一七八
發熱及ビ發疹	一七八
補助陽極	一七八
發電機法	一七八
配電盤ニ取付タル各器具	一七八
配電盤ノ種類	一七八
平衡狀態	一七八
配布率	一七八
疲衰半減期	一七八
表面放射	一七八
脾	一七八
ひるしそするんぐ病	一七八
白血病	一七八
自癪	一七八
(鶴性) 白血病	一七八
肺脇ノ撮影	一七八
肺尖撮影	一七八
肺尖	一七八
肺尖検査	一七八
肺ノ透視検査順序	一七八
肺ノれんさげん像	一七八
肺炎	一七八
肺尖	一七八
肺炎	一七八
肺脇	一七八
肺氣腫	一七八
肺脳腫瘍	一七八
(部分的) 肺氣腫	一七八
肺氣腫	一七八
肺脳腫瘍	一七八
肺脳肉腫	一七八
肺脳癌	一七八
肺門結核	一七八
肺包蟲囊	一七八
肺門陰影	一七八
肺結核	一七八
木邦人ノ心臓實大測定數	一七八
脂肪沈著	一七八
波動性憩室	一七八
一時ノ磁石	一七八
一次回線	一七八
一周期	一七八
一周波	一七八
一次電流	一七八
一X單位量	一七八
一ヘリオ單位量	一七八
陰極	一七八
陰極部	一七八
陰電氣	一七八
七三	一七八
七四	一七八
七五	一七八
七六	一七八
七七	一七八
七八	一七八
七九	一七八
七一〇	一七八
七一一	一七八
七一二	一七八
七一三	一七八
七一四	一七八
七一五	一七八
七一六	一七八
七一七	一七八
七一八	一七八
七一九	一七八
七二〇	一七八
七二一	一七八
七二二	一七八
七二三	一七八
七二四	一七八
七二五	一七八
七二六	一七八
七二七	一七八
七二八	一七八
七二九	一七八
七三〇	一七八
七三一	一七八
七三二	一七八
七三三	一七八
七三四	一七八
七三五	一七八
七三六	一七八
七三七	一七八
七三八	一七八
七三九	一七八
七三一〇	一七八
七三一一	一七八
七三一二	一七八
七三一三	一七八
七三一四	一七八
七三一五	一七八
七三一六	一七八
七三一七	一七八
七三一八	一七八
七三一九	一七八
七三二〇	一七八
七三二一	一七八
七三二二	一七八
七三二三	一七八
七三二四	一七八
七三二五	一七八
七三二六	一七八
七三二七	一七八
七三二八	一七八
七三二九	一七八
七三三〇	一七八
七三三一	一七八
七三三二	一七八
七三三三	一七八
七三三四	一七八
七三三五	一七八
七三三六	一七八
七三三七	一七八
七三三八	一七八
七三三九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八
七三三一二	一七八
七三三一三	一七八
七三三一四	一七八
七三三一五	一七八
七三三一六	一七八
七三三一七	一七八
七三三一八	一七八
七三三一九	一七八
七三三一〇	一七八
七三三一一	一七八

いおんノ寝合

いわんニヨル測定法

いおん作用

いおん作用ノ強サ

いおんのめーてる

いんてんじーぶ

れふおるむ装置

いんてんじーてる

I線

インメルマン及ビシュツノ法

胃腸用造影剤

胃及ビ腸管

胃ノ検査

胃ノ充実感詮

胃壁ノ器質的變化

胃潰瘍ト心臓

胃運動性脳

胃ノ形狀

胃ノ高サ

胃ノ部分名稱

胃ノ傾斜角

胃ノ緊張力

胃ノ運動能力

胃ノ運動機動

胃ノ病的變化

胃下垂症

(體質性)胃下垂症

胃弛緩

胃擴張

胃ノ分泌機能障碍

胃潰瘍

胃潰瘍ト心臓

胃運動性脳

胃ノ充實缺損

胃壁ノ器質的變化

胃潰瘍ト心臓

胃運動性脳

胃ノ充實感詮

胃壁ノ器質的變化

胃潰瘍

胃運動性脳

胃ノ充實缺損

胃壁ノ器質的變化

胃潰瘍

胃運動性脳

胃ノ充實感詮

胃壁ノ器質的變化

胃潰瘍

胃運動性脳

胃ノ充實缺損

胃壁ノ器質的變化

## 索引

管球支持脚	毛
管球支持脚ノ形態	胸椎
(汎用)管球支持脚	胸骨
管球架	胸骨下甲状腺腫
迴轉水銀斷續器	胸膜腫
開磁路式變壓器	肝臟
壁ノ色合	肩胛
器械ノ配置	骨盤
紅斑量	肩胛骨側面撮影
紅斑性苔癬	骨及ビ闊筋結核
紅斑性蕩瘡	骨盤炎
(ホルツネヒト)	急性細胞
間接測定法	急性れんざげん皮膚炎
こんざらすらん	急絶位心臓
こらるごーる波注入	近時ノ硬放射法
格子形遮光装置	黄疸
紙袋	蟹足腫
口腔内撮影	血管腫
口腔外撮影	關節炎
下顎歯牙ノ撮影	氣管支炎
頸椎	氣管支擴張
頸部側面撮影	氣管支擴張性空洞
頸部淋巴腺結核	れんざげん線
喉頭ノ撮影	れんざげん線ノ生物學的作用
胸部	れんざげん管球
P	れんざげん管球ノ作用
はろにうむ	れんざげん管球ノ作用
びろ煮沸管球	れんざげん管球ノ作用
R	れんざげん管球ノ作用
0	れんざげん管球ノ作用
おーも	れんざげん管球ノ作用
おーぞ變壓器	れんざげん管球ノ作用
おしろすこーぶ	れんざげん管球ノ作用
おるこすこーぶ	れんざげん管球ノ作用
おるさすべくそら	れんざげん管球ノ作用
おらぢおめーてる	れんざげん管球ノ作用
オーランノ法則	れんざげん管球ノ作用
横隔膜ト放射方向ノ關係	れんざげん管球ノ作用
構造心臓	れんざげん管球ノ作用
大山蒸ノ方法	れんざげん管球ノ作用
四面ノ放射	れんざげん管球ノ作用
度	れんざげん管球ノ作用
第二度	れんざげん管球ノ作用
第三度	れんざげん管球ノ作用
第四度	れんざげん管球ノ作用
第五度	れんざげん管球ノ作用
第六度	れんざげん管球ノ作用
第七度	れんざげん管球ノ作用
第八度	れんざげん管球ノ作用
第九度	れんざげん管球ノ作用
第十度	れんざげん管球ノ作用
第十一度	れんざげん管球ノ作用
第十二度	れんざげん管球ノ作用
第十三度	れんざげん管球ノ作用
第十四度	れんざげん管球ノ作用
第十五度	れんざげん管球ノ作用
第十六度	れんざげん管球ノ作用
第十七度	れんざげん管球ノ作用
第十八度	れんざげん管球ノ作用
第十九度	れんざげん管球ノ作用
第二十度	れんざげん管球ノ作用
第二十一度	れんざげん管球ノ作用
第二十二度	れんざげん管球ノ作用
第二十三度	れんざげん管球ノ作用
第二十四度	れんざげん管球ノ作用
第二十五度	れんざげん管球ノ作用
第二十六度	れんざげん管球ノ作用
第二十七度	れんざげん管球ノ作用
第二十八度	れんざげん管球ノ作用
第二十九度	れんざげん管球ノ作用
第三十度	れんざげん管球ノ作用
第三十一度	れんざげん管球ノ作用
第三十二度	れんざげん管球ノ作用
第三十三度	れんざげん管球ノ作用
第三十四度	れんざげん管球ノ作用
第三十五度	れんざげん管球ノ作用
第三十六度	れんざげん管球ノ作用
第三十七度	れんざげん管球ノ作用
第三十八度	れんざげん管球ノ作用
第三十九度	れんざげん管球ノ作用
第四十度	れんざげん管球ノ作用
第四十一度	れんざげん管球ノ作用
第四十二度	れんざげん管球ノ作用
第四十三度	れんざげん管球ノ作用
第四十四度	れんざげん管球ノ作用
第四十五度	れんざげん管球ノ作用
第四十六度	れんざげん管球ノ作用
第四十七度	れんざげん管球ノ作用
第四十八度	れんざげん管球ノ作用
第四十九度	れんざげん管球ノ作用
第五十度	れんざげん管球ノ作用
第五十一度	れんざげん管球ノ作用
第五十二度	れんざげん管球ノ作用
第五十三度	れんざげん管球ノ作用
第五十四度	れんざげん管球ノ作用
第五十五度	れんざげん管球ノ作用
第五十六度	れんざげん管球ノ作用
第五十七度	れんざげん管球ノ作用
第五十八度	れんざげん管球ノ作用
第五十九度	れんざげん管球ノ作用
第六十度	れんざげん管球ノ作用
第六十一度	れんざげん管球ノ作用
第六十二度	れんざげん管球ノ作用
第六十三度	れんざげん管球ノ作用
第六十四度	れんざげん管球ノ作用
第六十五度	れんざげん管球ノ作用
第六十六度	れんざげん管球ノ作用
第六十七度	れんざげん管球ノ作用
第六十八度	れんざげん管球ノ作用
第六十九度	れんざげん管球ノ作用
第七十度	れんざげん管球ノ作用
第七十一度	れんざげん管球ノ作用
第七十二度	れんざげん管球ノ作用
第七十三度	れんざげん管球ノ作用
第七十四度	れんざげん管球ノ作用
第七十五度	れんざげん管球ノ作用
第七十六度	れんざげん管球ノ作用
第七十七度	れんざげん管球ノ作用
第七十八度	れんざげん管球ノ作用
第七十九度	れんざげん管球ノ作用
第八十度	れんざげん管球ノ作用
第八十一度	れんざげん管球ノ作用
第八十二度	れんざげん管球ノ作用
第八十三度	れんざげん管球ノ作用
第八十四度	れんざげん管球ノ作用
第八十五度	れんざげん管球ノ作用
第八十六度	れんざげん管球ノ作用
第八十七度	れんざげん管球ノ作用
第八十八度	れんざげん管球ノ作用
第八十九度	れんざげん管球ノ作用
第九十度	れんざげん管球ノ作用
第九十一度	れんざげん管球ノ作用
第九十二度	れんざげん管球ノ作用
第九十三度	れんざげん管球ノ作用
第九十四度	れんざげん管球ノ作用
第九十五度	れんざげん管球ノ作用
第九十六度	れんざげん管球ノ作用
第九十七度	れんざげん管球ノ作用
第九十八度	れんざげん管球ノ作用
第九十九度	れんざげん管球ノ作用
第七	れんざげん管球ノ作用

## 索引

象限電位計	三二
接觸起電力	三一
相互感應	三一
振動電路	三一
振動電路ノ周期	三一
振動同線自然振動數	三一
振幅	三一
振動數	三一
振動電流	三一
振動電流ノ變成	三一
消極劑	三一
真空放電	三一
真空管法	三一
質量吸入係數	三一
攝影吸入	三一
散亂入線	三一
亂線X線ノ偏り	三一
周波數	三一
瞬間火花間隙ノ原理	三一
瞬間撮影	三一
瞬間撮影時計	三一
瞬滅火花間隙ノ特徵	三一
水冷管球	三一
水冷却装置	三一
水銀びき断續器	三一

## 八

手拳ト心臓トノ比較	四三
手拳握ノ測り方	四三
手拳ノ脛ノ測り方	四三
砂囊	四三
眞體線	四三
洗盤	四三
研究	四三
水洗	三三
煮沸管球	三三
焦點	三三
焦點ノ大サ	三三
焦點ノ移動	三三
焦點ノ小ナル場合	三三
焦點ノ銳鈍	三三
シユワルツノ胃液酸度ノ測定	三三
シユミットノ法	三三
シユワルツノ簡易法	三三
シユワルツノ胃液酸度ノ測定	三三
しんめりーれんせんげん裝置	三三
深部治療用裝置	三三
深部放射	三三
深部治療用裝置	三三
寫眞乾板觀察鏡	三三
寫眞用絕對硬度計	三三
集電板	三三
遮光板	三三
遮光衝立	三三
遮光裝置	三三
寫眞暗室	三三
色彩沈著	三三
色彩性乾皮症	三三
すびんてるめーてる	三三

## 七

側面透視(撮影)	四〇
斜位透視方向	四〇
斜位透視檢查	四〇
心臓測定上ノ割報	四〇
心臓ノ横徑、進程	四〇
心臓ノ鋸傾角	四〇
心臓撮影	四〇
心臓診斷	四〇
心臓陰影ノ形狀	四〇
心臓ノ位置異常	四〇
心臓ノ機能及ビ搏動作用	四〇
心臓ト横隔膜トノ關係	四〇
心筋ノ諸疾患	四〇
心瓣炎	四〇
整形れんせんげん寫眞	四〇
矢狀位放射撮影	四〇
最終類椎	四〇
整骨及顎骨	四〇
整骨側面撮影	四〇
脊柱位置異常	四〇
脊髓空洞症	四〇
腰骨肥大症	四〇
齒牙及顎骨	四〇
椎柱下部	四〇
椎骨	四〇
腰蓋關節	四〇
足部	四〇
潜伏期	四〇

## 六

手拳ト心臓トノ比較	四一
手拳握ノ測り方	四一
手拳ノ脛ノ測り方	四一
砂囊	四一
眞體線	四一
洗盤	四一
研究	四一
水洗	三二
煮沸管球	三二
焦點	三二
焦點ノ大サ	三二
焦點ノ移動	三二
焦點ノ小ナル場合	三二
シユワルツノ胃液酸度ノ測定	三二
シユミットノ法	三二
シユワルツノ簡易法	三二
シユワルツノ胃液酸度ノ測定	三二
しんめりーれんせんげん裝置	三二
深部治療用裝置	三二
深部放射	三二
深部治療用裝置	三二
寫眞乾板觀察鏡	三二
寫眞用絕對硬度計	三二
集電板	三二
遮光板	三二
遮光衝立	三二
遮光裝置	三二
寫眞暗室	三二
色彩沈著	三二
色彩性乾皮症	三二
すびんてるめーてる	三二

## 五

斜位透視(撮影)	四〇
斜位透視方向	四〇
斜位透視檢查	四〇
心臓測定上ノ割報	四〇
心臓ノ横徑、進程	四〇
心臓ノ鋸傾角	四〇
心臓撮影	四〇
心臓診斷	四〇
心臓陰影ノ形狀	四〇
心臓ノ位置異常	四〇
心臓ノ機能及ビ搏動作用	四〇
心臓ト横隔膜トノ關係	四〇
心筋ノ諸疾患	四〇
心瓣炎	四〇
整形れんせんげん寫眞	四〇
矢狀位放射撮影	四〇
最終類椎	四〇
整骨及顎骨	四〇
整骨側面撮影	四〇
脊柱位置異常	四〇
脊髓空洞症	四〇
腰骨肥大症	四〇
齒牙及顎骨	四〇
椎柱下部	四〇
椎骨	四〇
腰蓋關節	四〇
足部	四〇
潜伏期	四〇

## 四

斜位透視(撮影)	四〇
斜位透視方向	四〇
斜位透視檢查	四〇
心臓測定上ノ割報	四〇
心臓ノ横徑、進程	四〇
心臓ノ鋸傾角	四〇
心臓撮影	四〇
心臓診斷	四〇
心臓陰影ノ形狀	四〇
心臓ノ位置異常	四〇
心臓ノ機能及ビ搏動作用	四〇
心臓ト横隔膜トノ關係	四〇
心筋ノ諸疾患	四〇
心瓣炎	四〇
整形れんせんげん寫眞	四〇
矢狀位放射撮影	四〇
最終類椎	四〇
整骨及顎骨	四〇
整骨側面撮影	四〇
脊柱位置異常	四〇
脊髓空洞症	四〇
腰骨肥大症	四〇
齒牙及顎骨	四〇
椎柱下部	四〇
椎骨	四〇
腰蓋關節	四〇
足部	四〇
潜伏期	四〇

## 三

斜位透視(撮影)	四〇
斜位透視方向	四〇
斜位透視檢查	四〇
心臓測定上ノ割報	四〇
心臓ノ横徑、進程	四〇
心臓ノ鋸傾角	四〇
心臓撮影	四〇
心臓診斷	四〇
心臓陰影ノ形狀	四〇
心臓ノ位置異常	四〇
心臓ノ機能及ビ搏動作用	四〇
心臓ト横隔膜トノ關係	四〇
心筋ノ諸疾患	四〇
心瓣炎	四〇
整形れんせんげん寫眞	四〇
矢狀位放射撮影	四〇
最終類椎	四〇
整骨及顎骨	四〇
整骨側面撮影	四〇
脊柱位置異常	四〇
脊髓空洞症	四〇
腰骨肥大症	四〇
齒牙及顎骨	四〇
椎柱下部	四〇
椎骨	四〇
腰蓋關節	四〇
足部	四〇
潜伏期	四〇

## 二

斜位透視(撮影)	四〇
斜位透視方向	四〇
斜位透視檢查	四〇
心臓測定上ノ割報	四〇
心臓ノ横徑、進程	四〇
心臓ノ鋸傾角	四〇
心臓撮影	四〇
心臓診斷	四〇
心臓陰影ノ形狀	四〇
心臓ノ位置異常	四〇
心臓ノ機能及ビ搏動作用	四〇
心臓ト横隔膜トノ關係	四〇
心筋ノ諸疾患	四〇
心瓣炎	四〇
整形れんせんげん寫眞	四〇
矢狀位放射撮影	四〇
最終類椎	四〇
整骨及顎骨	四〇
整骨側面撮影	四〇
脊柱位置異常	四〇
脊髓空洞症	四〇
腰骨肥大症	四〇
齒牙及顎骨	四〇
椎柱下部	四〇
椎骨	四〇
腰蓋關節	四〇
足部	四〇
潜伏期	四〇

## 一

斜位透視(撮影)	四〇
斜位透視方向	四〇
斜位透視檢查	四〇
心臓測定上ノ割報	四〇
心臓ノ横徑、進程	四〇
心臓ノ鋸傾角	四〇
心臓撮影	四〇
心臓診斷	四〇
心臓陰影ノ形狀	四〇
心臓ノ位置異常	四〇

# 發兌元

東京市本郷區龍岡町三十二番地  
電話下谷四六番振替口座東京三六番

南山堂書店

複製不許  
著者藤浪剛  
正價拾四圓  
印 刷 者 加藤木幹  
文 吉 太  
印 刷 所 東京市本郷區龍岡町三十二番地  
會社合資



大正三年二月一日第一版印刷  
大正三年二月五日第一版發行  
大正九年三月一日第二版印刷  
大正九年三月三日第二版發行  
大正十一年二月十三日第三版發行

レントゲン學與附  
正價拾四圓



	索引	一〇
全	X線ノ本性	抑制管
合三	X線ノ性能	誘導電流
七二	X線ノ寫眞作用	輸送管
八六	X線ノ電離作用	輸尿管結石
九〇	X線ノ化學作用	よしとふおるむ法
九一	X線ノ脫水作用	右左位放射方向
九二	X線ノ透過作用	腰椎側面撮影
九三	X線ノ醫學上ノ作用	前頭後部放射撮影
九四	X線ノふれるぎ	前頭反應或ハ早發反應
九五	X線ノ錫サノ測定法	前頭反應ト眞反應トノ關係
九六	X線ノ硬度	增感紙取扱
九七	X線ノ硬度ト硬度トノ分佈	增感紙ヲ求ムル時ノ注意
九八	X線すべくさる	增感紙ノ保存
九九	X線ノ干涉	增感紙ノ壽命
一〇〇	X線發生裝置	增感紙ノ應用範圍
一〇一	(單極)X線發生裝置	增感性天疱瘡
一〇二	X乾板	前頭後部放射撮影
一〇三	陽電氣	前頭反應或ハ早發反應
一〇四	陽極	前頭反應ト眞反應トノ關係
一〇五	陽極線	象皮病
一〇六	陽光柱	葉問助膜炎ノ濁出波
一〇七	陽光層	幽門部
一〇八	横ノ質量	幽門賣
一〇九	有瓦斯管球	幽門痙攣
一一〇		絶縁體
一一一		絶縁ス
一一二		絕對硬度計
一一三		造影劑
一一四		(胃腸用)造影劑
一一五		增感紙
一一六		索引終

肆書捌賣\*

東京市木郷區春木町 同 同春木町二丁目  
同 同湯島切通坂町 同 同  
同 同龍岡町 同 同  
芝區愛宕町 同 同  
日本橋區通二丁目 同 同  
神田區表神保町 同 同  
通新石町 同 同  
大阪市東區博効町 同 同  
西區江戸堀 同 同  
京都市寺町御池南 同 同  
丸太町通川端 同 同  
丸太町通 同 同

名古屋市中區榮町 同 中區老松町  
同 中區橫三藏町 仙臺市國分町  
仙臺市大町 仙臺市國分町  
仙臺市大町 新潟市古町  
新潟市古町 金澤市片町  
金澤市片町 同 廣坂通  
同 廣坂通 同 同  
岡山市内山下 同 東中山下  
福岡市博多 熊本市新二丁目  
同 船場町 長崎市引地町  
長崎市引地町 鹿兒島市仲町  
鹿兒島市仲町 千葉市市場  
千葉市市場 同 同

60  
別冊  
341-

終

